

多気北畠氏遺跡（第39次）
小 田 地 区（第6次）
発掘調査報告
～三重県津市美杉町下多気～

2024（令和6）年3月

三重県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、令和3年度に実施した通常砂防事業こも谷川に伴う多気北畠氏遺跡（第39次）小田地区（第6次）の発掘調査報告書である。
- 2 調査地は、三重県津市美杉町下多気に所在する。
- 3 本遺跡の調査は、三重県教育委員会が三重県県土整備部から依頼を受け発掘調査を実施した。発掘調査及び整理作業の経費は、三重県県土整備部から執行委任を受けた。
- 4 発掘調査期間は、令和3（2021）年4月26日から同年8月25日までである。
- 5 発掘調査面積は、712m²である。
- 6 調査および整理作業・報告書作成の体制は、以下のとおりである。
調査主体 三重県教育委員会
[現地調査] 令和3年度
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課 中村法道
発掘調査業務委託 株式会社島田組
[整理作業] 令和4・5年度
整理担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課 小濱学・中村法道
自然科学分析委託 株式会社パレオ・ラボ
- 7 当報告書の作成事務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が担当し、本書の執筆は以下のとおりで、文責は文中に記した。編集は小濱が担当し、出土遺物の写真撮影は中村が行った。
I：小濱 II：小濱 III：小濱 IV：1 小濱、2 中村 V：株式会社パレオ・ラボ VI：1・3 小濱、2 中村
- 8 現地における発掘調査や整理作業、当報告書の作成にあたっては、地元の方々をはじめ、下記の方々等にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝したい。（敬称略、五十音順）
岡田憲一 長田友也 田部剛士 津市教育委員会 村上昇 矢野健一 山田猛
- 9 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにて保管している。遺物実測図番号は、土器・土製品を001から、石器・石製品を501からとした。

凡 例

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1:25,000数値地図（「伊勢奥津」相当）、三重県共有デジタル図などの地図類を用いている。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て使用している（令和5年4月6日付 三総合地第1号）。
- 2 本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第VI座標系の座標北で示した。
- 3 標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。
- 4 本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。
SZ：落ち込み・不明遺構 Pit：柱穴
- 5 土色の表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に拠った。
- 6 遺物実測図の縮尺は基本的に土器等1:2、石器等2:3とした。それ以外の縮尺の場合は、別途明記した。
- 7 註は各章の文末に付し、参考文献も同様に記した。
- 8 写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

本文目次

I	前言	1
II	位置と環境	2
III	遺構	
1	基本層序	5
2	遺構	5
IV	遺物	
1	土器等	9
2	石器・石製品	55
V	自然科学分析	
1	土器付着炭化物の放射性炭素年代測定	99
2	土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析	103
VI	結語	
1	出土縄文土器群の検討	106
2	出土縄文石器・石製品の検討	118
3	総括	122

挿図目次

第 I-1 図	範囲確認調査位置図……………	1	第IV-36図	SZ1出土土器実測図34 ……	49
第 II-1 図	調査区位置・地形図及び小地区割…	2	第IV-37図	SZ1出土土器実測図35 ……	50
第 II-2 図	大・中地区割図……………	3	第IV-38図	SZ1出土土器実測図36 ……	51
第 II-3 図	遺跡位置図……………	4	第IV-39図	SZ1出土土器実測図37 ……	52
第 III-1 図	1 区土層断面図……………	6	第IV-40図	SZ1出土土器実測図38及び排土出土遺物 実測図……………	53
第 III-2 図	2, 3 区土層断面図 ……	7	第IV-41図	包含層及び攪乱出土遺物実測図…	54
第 III-3 図	調査区平面図……………	8	第IV-42図	SZ1出土石器実測図 1 ……	55
第 III-4 図	SZ1土層断面図 ……	9	第IV-43図	SZ1出土石鏃分類図 ……	55
第IV-1 図	縄文土器分類(案) 1 ……	11	第IV-44図	SZ1出土石器実測図 2 ……	56
第IV-2 図	縄文土器分類(案) 2 ……	12	第IV-45図	SZ1出土石器実測図 3 ……	58
第IV-3 図	SZ1出土土器実測図 1 ……	15	第IV-46図	SZ1出土石器実測図 4 ……	59
第IV-4 図	SZ1出土土器実測図 2 ……	16	第IV-47図	SZ1出土石器実測図 5 ……	60
第IV-5 図	SZ1出土土器実測図 3 ……	17	第IV-48図	SZ1出土石器実測図 6 ……	61
第IV-6 図	SZ1出土土器実測図 4 ……	18	第IV-49図	SZ1出土石器実測図 7 ……	62
第IV-7 図	SZ1出土土器実測図 5 ……	19	第IV-50図	SZ1出土石器実測図 8 ……	63
第IV-8 図	SZ1出土土器実測図 6 ……	20	第IV-51図	SZ1出土石器実測図 9 ……	64
第IV-9 図	SZ1出土土器実測図 7 ……	22	第IV-52図	SZ1出土石器実測図10 ……	65
第IV-10 図	SZ1出土土器実測図 8 ……	23	第IV-53図	SZ1出土石器実測図11 ……	67
第IV-11 図	SZ1出土土器実測図 9 ……	24	第IV-54図	SZ1出土石器実測図12 ……	68
第IV-12 図	SZ1出土土器実測図10 ……	25	第IV-55図	SZ1出土石器実測図13 ……	69
第IV-13 図	SZ1出土土器実測図11 ……	26	第IV-56図	SZ1出土石器実測図14 ……	70
第IV-14 図	SZ1出土土器実測図12 ……	27	第IV-57図	SZ1出土石器実測図15及び石製品実測図 ……………	71
第IV-15 図	SZ1出土土器実測図13 ……	28	第V-1 図	試料No. 1～6 ……	100
第IV-16 図	SZ1出土土器実測図14 ……	29	第V-2 図	暦年較正結果……………	102
第IV-17 図	SZ1出土土器実測図15 ……	30	第V-3 図	試料採取箇所……………	104
第IV-18 図	SZ1出土土器実測図16 ……	31	第V-4 図	炭素・窒素安定同位体比……………	105
第IV-19 図	SZ1出土土器実測図17 ……	32	第V-5 図	炭素安定同位体比とC/N比の関係 ……	105
第IV-20 図	SZ1出土土器実測図18 ……	33	第VI-1 図	I～VI類の割合……………	106
第IV-21 図	SZ1出土土器実測図19 ……	34	第VI-2 図	I～VI類の分類数……………	106
第IV-22 図	SZ1出土土器実測図20 ……	35	第VI-3 図	分類別の縄文施文の割合……………	106
第IV-23 図	SZ1出土土器実測図21 ……	36	第VI-4 図	部位別の縄文施文の有無と割合…	108
第IV-24 図	SZ1出土土器実測図22 ……	37	第VI-5 図	口縁部形態の変遷と各部位の名称…	117
第IV-25 図	SZ1出土土器実測図23 ……	38	第VI-6 図	撚糸文系土器と縄文系土器の関連性 ……………	118
第IV-26 図	SZ1出土土器実測図24 ……	39	第VI-7 図	土器群の変遷概念図 ……	118
第IV-27 図	SZ1出土土器実測図25 ……	40	第VI-8 図	多気北畠氏39次出土土器の変遷(案) 1 ……………	154
第IV-28 図	SZ1出土土器実測図26 ……	41	第VI-9 図	多気北畠氏39次出土土器の変遷(案) 2 ……………	155
第IV-29 図	SZ1出土土器実測図27 ……	42	第VI-10 図	縄文時代早期前半の魚形鏃 ……	120
第IV-30 図	SZ1出土土器実測図28 ……	43	第VI-11 図	石器の組成……………	121
第IV-31 図	SZ1出土土器実測図29 ……	44			
第IV-32 図	SZ1出土土器実測図30 ……	45			
第IV-33 図	SZ1出土土器実測図31 ……	46			
第IV-34 図	SZ1出土土器実測図32 ……	47			
第IV-35 図	SZ1出土土器実測図33 ……	48			

表目次

第IV-1表	縄文土器分類一覧表……………	14	第IV-17表	土器等観察表16……………	89
第IV-2表	土器等観察表1……………	74	第IV-18表	土器等観察表17……………	90
第IV-3表	土器等観察表2……………	75	第IV-19表	土器等観察表18……………	91
第IV-4表	土器等観察表3……………	76	第IV-20表	土器等観察表19……………	92
第IV-5表	土器等観察表4……………	77	第IV-21表	石器及び石製品観察表1……………	93
第IV-6表	土器等観察表5……………	78	第IV-22表	石器及び石製品観察表2……………	94
第IV-7表	土器等観察表6……………	79	第IV-23表	石器及び石製品観察表3……………	95
第IV-8表	土器等観察表7……………	80	第IV-24表	石器及び石製品観察表4……………	96
第IV-9表	土器等観察表8……………	81	第IV-25表	石器及び石製品観察表5……………	97
第IV-10表	土器等観察表9……………	82	第IV-26表	石器及び石製品観察表6……………	98
第IV-11表	土器等観察表10……………	83	第V-1表	測定試料および処理……………	99
第IV-12表	土器等観察表11……………	84	第V-2表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果……………	101
第IV-13表	土器等観察表12……………	85	第V-3表	試料情報および結果一覧表……………	103
第IV-14表	土器等観察表13……………	86	第VI-1表	部位別の縄文と撚糸文の縄の方向……………	109
第IV-15表	土器等観察表14……………	87	第VI-2表	分類の土器型式への対応……………	116
第IV-16表	土器等観察表15……………	88			

写真図版目次

写真図版1	1区調査前状況、1区調査前状況……………	125	写真図版13	出土遺物7……………	137
写真図版2	2・3区調査前状況、2・3区調査前状況……………	126	写真図版14	出土遺物8……………	138
写真図版3	1区調査区全景、1区調査区中央全景……………	127	写真図版15	出土遺物9……………	139
写真図版4	1区調査区南全景、2・3区調査区北全景……………	128	写真図版16	出土遺物10……………	140
写真図版5	2・3区調査区南全景、SZ1全体……………	129	写真図版17	出土遺物11……………	141
写真図版6	SZ1掘削状況、SZ1掘削状況……………	130	写真図版18	出土遺物12……………	142
写真図版7	出土遺物1……………	131	写真図版19	出土遺物13……………	143
写真図版8	出土遺物2……………	132	写真図版20	出土遺物14……………	144
写真図版9	出土遺物3……………	133	写真図版21	出土遺物15……………	145
写真図版10	出土遺物4……………	134	写真図版22	出土遺物16……………	146
写真図版11	出土遺物5……………	135	写真図版23	出土遺物17……………	147
写真図版12	出土遺物6……………	136	写真図版24	出土遺物18……………	148
			写真図版25	出土遺物19……………	149
			写真図版26	出土遺物20……………	150
			写真図版27	出土遺物21……………	151
			写真図版28	出土遺物22……………	152
			写真図版29	出土遺物23……………	153

I 前 言

1 調査に至る経緯と経過

(1) 経緯

津市美杉町小田において、令和2年度に砂防対策事業が計画された。これは、地区内の砂防対策を目的としたものである。工事施工箇所のうち埋蔵文化財包蔵地内は、まず範囲確認調査を行い、記録保存を行う調査対象範囲を定めた。

(2) 経過

発掘調査期間は、令和3(2021)年4月26日から8月25日までである。現地での調査の経過は以下の調査日誌抄のとおりである。遺構実測図作成及び写真撮影は、調査の進捗に合わせて適宜行っている。

<調査日誌抄>

- 5月6日 調査前写真撮影、現況確認。
- 5月14日 調査開始。
- 5月26日 範囲確認調査T1～T5、終了(重機掘削)。
- 6月3日 3区表土の重機掘削継続。
- 6月10日 3区人力による掘削、2区表土の重機掘削継続。
- 6月14日 2区表土掘削継続。遺構の確認とともに。
- 6月23日 2区「落ち込み」の範囲を検出、人力による掘削。多くの押型文土器が出土。
- 7月6日 2区「落ち込み」の掘削を継続。
- 7月15日 2区「落ち込み」の掘削を継続。
- 7月19日 1区表土の重機掘削。
- 7月20日 1区表土掘削継続。
- 8月4日 1区表土掘削終了。
- 8月5日 1区人力による掘削。2,3区埋戻し。
- 8月24日 1区埋戻し。
- 8月25日 調査終了。

(3) 文化財保護法にかかる諸手続

・三重県埋蔵文化財保護条例第48条第1項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」(県教育長あて三重県知事通知)

令和2年8月21日付 津建第468号

・文化財保護法第100号第2号「埋蔵文化財の発見・認定について」(津南警察署長あて県教育委員会教育長通知)

令和3年11月1日付 教委第12-4411号

(4) 普及公開

現地説明会開催は、新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため控えることになった。そのため、動画「多気北畠氏遺跡(第39次)小田地区(第6次)リモート発掘調査成果報告会」をWeb上で公開した。

2 調査の方法

(1) 調査区の設定

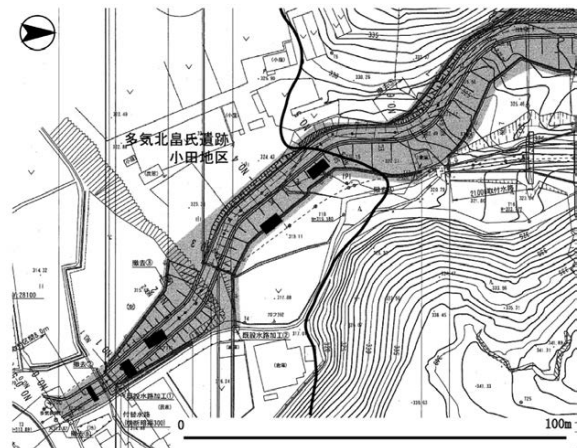
調査区については、工事範囲内で、現状の変更が避けられない部分を設定した。また、多気北畠氏遺跡は遺跡範囲が広大であり、国史跡を含むことから、遺跡全体に統一した地区割を津市教育委員会が設定しており、世界測地系(ITRF、GRS-80)による座標値を基本に東西1,000m、南北1,000mの大地区を設定し、多気を中心にしてA～W区を設定した。大地区毎に東西100m、南北100mの1～100の中地区、さらに中地区毎に東西4m、南北4mの小地区(グリッド)を設定し、西から東へ算用数字、北から南にアルファベットを付与した。なお、地区名称は大・中地区と小地区を組み合わせ使用(例：K38-G2)した。今回の調査についてもそれに則った。

(2) 表土掘削、遺構検出・掘削

表土及び遺構検出面上まで、重機による掘削を行った。その後、人力で遺構検出と掘削を行った。

(3) 記録・図化

記録及び図化は、遺構検出状況・土層の堆積状況・



第I-1図 範囲確認調査位置図(1:2,000)

遺構の掘削や遺物出土状況等を把握するため、略測図・土層断面図・遺構平面図を適宜作成した。遺構平面図は縮尺1:100での平板測量、土層断面は手ばかりによる縮尺1:20の図面を作成した。

(4) 出土遺物の整理

出土遺物は、埋蔵文化財センターに搬入後、洗浄・注記・接合を行った。その後、実測可能遺物を選別し、人の手による実測を行い、精査の後、発掘調査報告書の文章や版下作成等を各担当により行った。

(小濱 学)

II 位置と環境

1 位置と地形

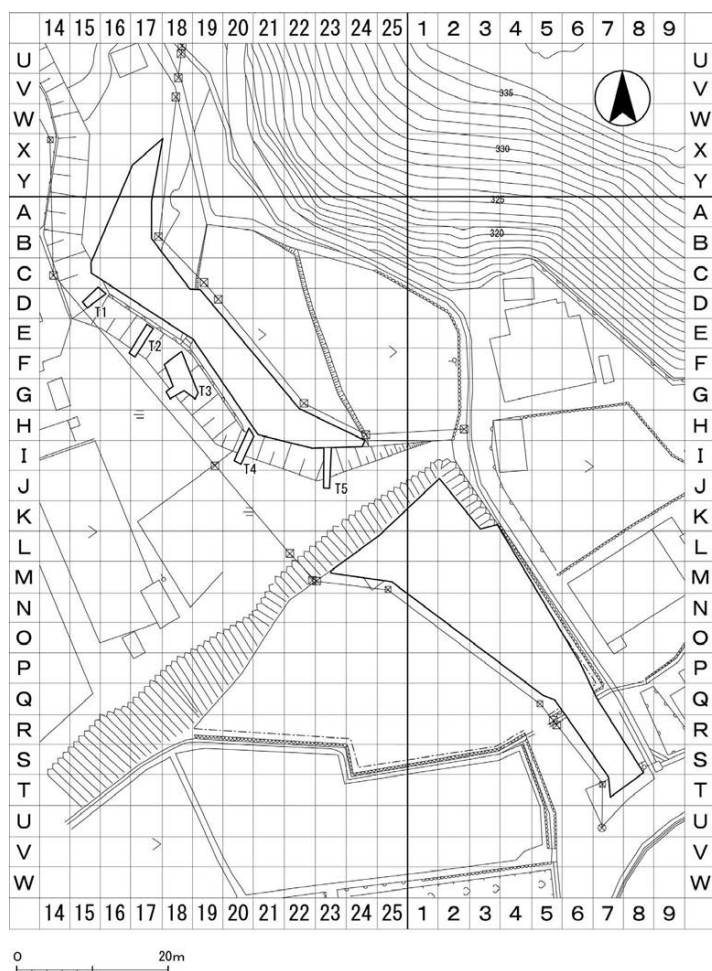
多気北畠氏遺跡は、三重県津市美杉町上多気・下多気に所在し、雲出川の支流である八手俣川上流の小盆地(南北約3,000m・東西最大約400m)に位置している。調査対象地である多気北畠氏遺跡(第39次)・小田地区(第6次)(1)は、津市美杉町下多気の小田地区に所在し、遺跡の北端部にあたり、標高約310～325mの谷及び段丘端に立地している。比津峠に向かう県道登り口にも近い。

また、調査対象地の南西方向に、北畠氏館跡や霧

山城跡等、北畠氏関連の遺跡群が所在している。

2 歴史的環境

今回の調査は、多気北畠氏関連の遺構や遺物は、ごく少量にとどまり、一方で範囲確認調査で押型文土器が出土する等、縄文時代の遺構や遺物の存在が予想された。実際、縄文時代草創期末から早期の遺物が多く出土した。そこで、ここでは縄文時代の環境について、既存の調査や資料をもとに概観していきたい。多気北畠氏関連の環境については、既存の



<各地区の中・小地区>

1 区

G21 K25 L23 L24 L25 M23 M24 M25 N25
G22 J1 J2 K1 K2 K3 K4 L1 L2 L3 L4 M1 M2
M3 M4 M5 N1 N2 N3 N4 N5 O2 O3 O4 O5
O6 P3 P4 P5 P6 Q4 Q5 Q6 Q7 R6 R7 S6
S7 S8 T7 T8

2・3 区

G11 X17 Y16 Y17
G21 A16 A17 B15 B16 B17 C15 C16 C17 C18
D16 D17 D18 D19 E17 E18 E19 E20 F19
F20 F21 G19 G20 G21 G22 H20 H21 H22
H23 H24 I21 I22 I23 I24

T1 区

G21 D15 D16

T2 区

G21 E17 F16 F17

T3 区

G21 F18 G18 G19

T4 区

G21 H20 I20

T5 区

G21 I23 J23

第II-1図 調査区位置・地形図及び小地区割(1:1,000)

報告書等（参考文献を参照）に譲る。

八手俣川流域の旧石器時代はよく分かっていない。縄文時代については、調査対象地下流の下之川富田遺跡(2)で早期前半頃のネガティブな押型文土器が採集されており八手俣川流域におけるヒトの活動初現といわれている。野登瀬B遺跡(3)では後期の土器が出土しており、上流部の土井沖遺跡(4)で後期の遺構・遺物が確認されている。土井沖遺跡では竪穴住居跡が確認されている。

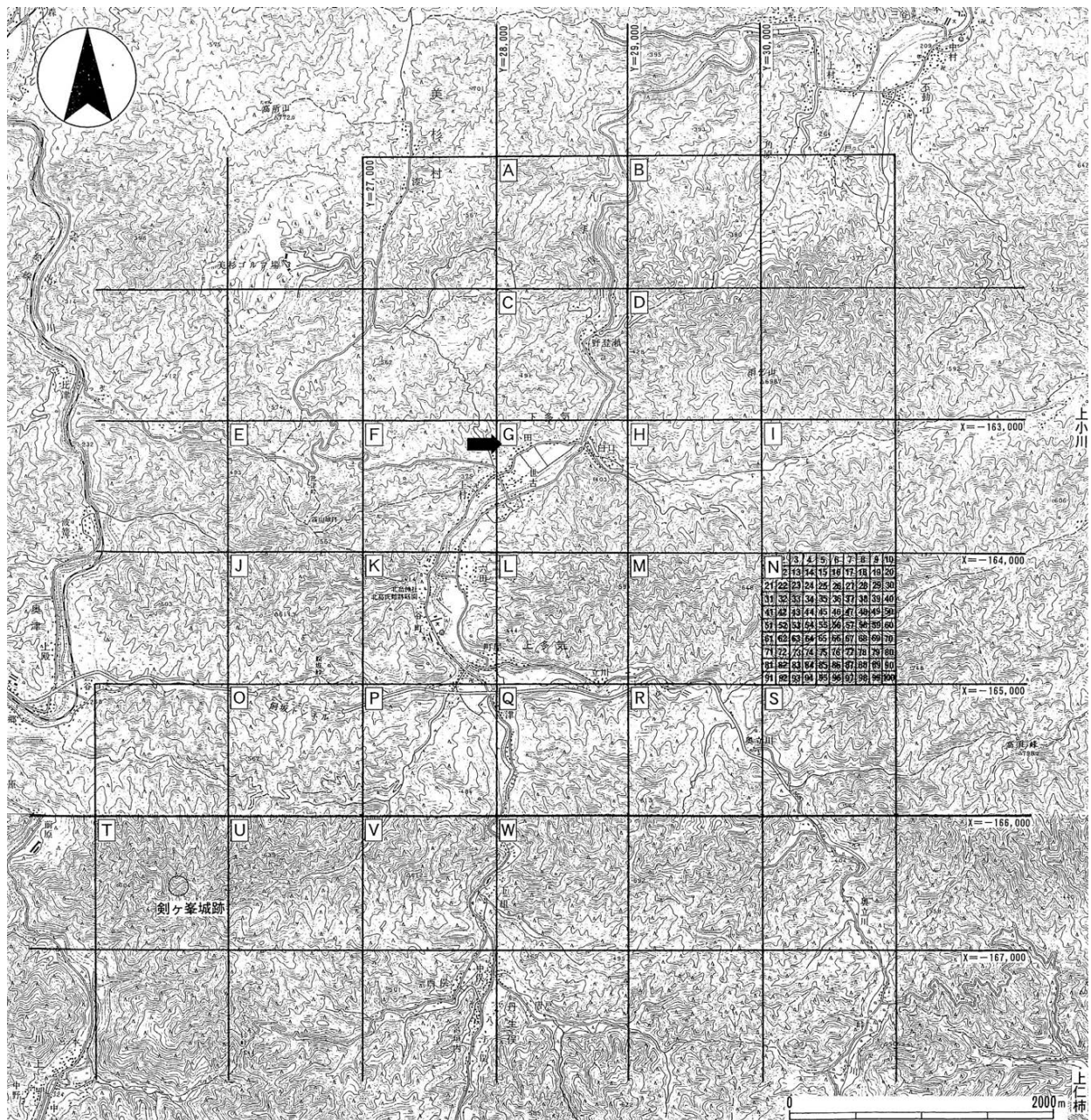
今回の調査により、当地域での縄文時代のヒトの

活動を確認できる遺跡が、1ヶ所増えて4遺跡となった¹⁾。当地域での縄文時代の様相をより詳細に把握できるようになったといえよう。今後の情報の増加に期待したい。

(小濱 学)

註

- 1) 三重県 2005『三重県史 資料編考古1』において、「上羽遺跡(じょうはいせき)」の掲載がある。調査対象地の直上の段丘に所在するものである。



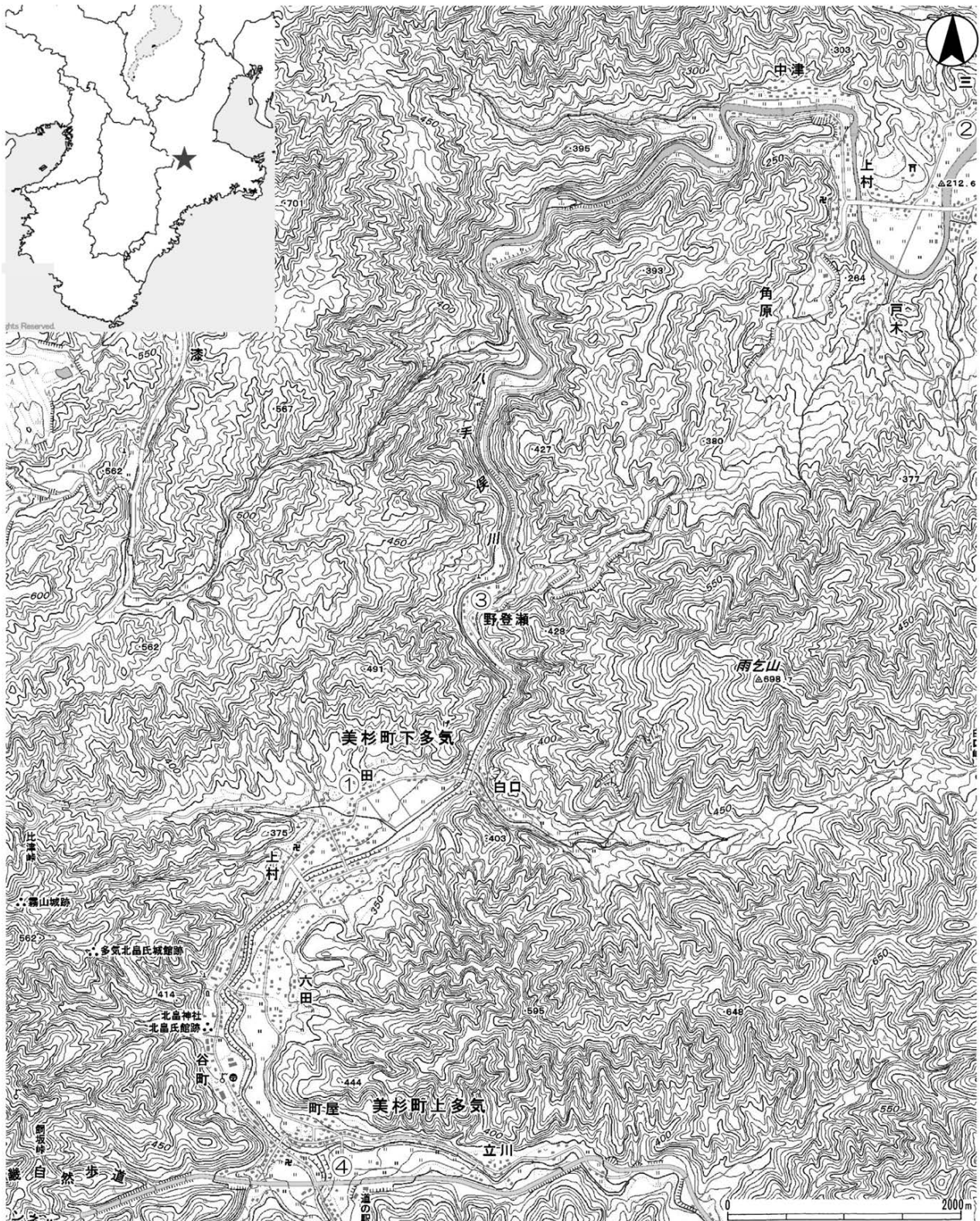
※津市教育委員会2007『多気北畠氏遺跡第28次発掘調査報告—北畠氏館跡 10—』掲載の図2を加筆修正のうえ転載

第Ⅱ-2図 大・中地区割図(1:50,000)

参考文献

三重県埋蔵文化財センター 1993 『多気遺跡群発掘調査報告』
 皇學館大学考古学研究会編 1995 『美杉村の遺跡』
 三重県埋蔵文化財センター 1998 『下之川富田』
 美杉村教育委員会 2003 『多気北畠氏遺跡発掘調査概報』*刊行
 当時

三重県 2005 『三重県史 資料編考古1』
 津市教育委員会 2007 『多気北畠氏遺跡第28次発掘調査報告 -北
 畠氏館跡10-』
 三重県埋蔵文化財センター 2013 『野登瀬B遺跡発掘調査報告』



第Ⅱ-3図 遺跡位置図(1:50,000)

Ⅲ 遺 構

1 基本層序

調査区は、上下2ヶ所に分かれており、調査前の低いところでの標高が約314.5m、高いところでの標高が約321.0mと、約6.5mの比高差があった。調査時には、下段を1区、上段を2・3区として調査を行った。なお、2・3区は連続しており、物理的に区切っているわけではない。

1区は、表土の直下から、調査全体で現代の土地造成等によるカクランを受けた土層が続いていることが、調査を進めていくと判明した。現代のゴミなどが、最下層からも出てくる状況であった。そのため、全てを掘削せずに土層を確認する部分だけにとどめた。一部でオリーブ褐色細粒砂～極粗粒砂(第Ⅲ-1図, 130)の遺構検出面と考えられる層を確認したが、明確な遺構は確認できなかった。また、現代から中近世にかけて遺物を、掘削の際に確認することができた。

2・3区は、表土直下あるいは表土以下6層というように、地点より遺構検出面を確認するまでの土層の状況に変化がみられる。現在の谷地形に沿った南北方向と後述するSZ1等の東西方向の堆積と浸食の繰り返しが現代に至るまであり、このような状況が現出されたのであろうか。現地表面から0.5～1.5m下に、遺構検出面である褐色シルト～極粗粒砂(第Ⅲ-2図, 228)と暗灰黄色細粒砂～極粗粒砂(第Ⅲ-2図, 229)を確認した。SZ1は、この検出面を切り込んでいた。

また、範囲確認調査として、T1～T5の5ヶ所の調査を行ったものの、遺構、遺物については確認できなかった。

2 遺構

北畠氏との関連あるいはその活動があった時期の遺構は、調査区内での確認には至らなかった。

縄文時代

SZ1

上段の2・3区で確認した。調査時は、落ち込みとされていたものである。当初は、縄文土器が出土した

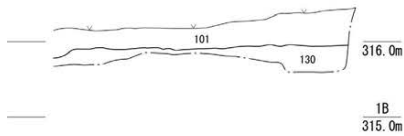
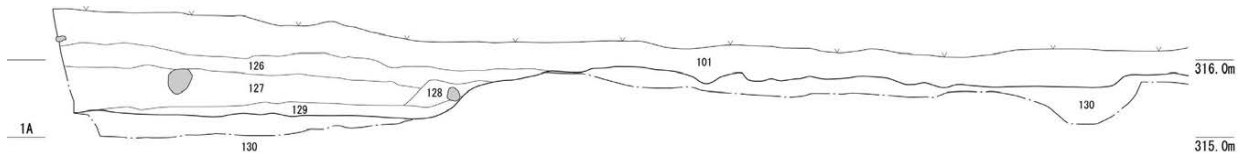
ため縄文包含層としていたが、最終的には落ち込みとして把握をした。調査区をほぼ東西に横断するもので、南北約11～12m、東西約6m、深さ1.0～1.3mを調査区内で確認した。底部の標高から、西から東へ緩やかに傾斜しており、東側に延びていくものと思われる。調査区西側に、比高差約4mの段丘がある。その段丘端が崖状になっており、その崖状の部分の侵食や崩落もこの遺構の埋没等に影響したものといえよう。

調査区西側では、表土以下に、にぶい黄褐色バイラン土(第Ⅲ-4図, 231)、オリーブ褐色風化による花崗岩細礫(第Ⅲ-4図, 232)、黒褐色シルト～極粗粒砂(第Ⅲ-4図, 233)、暗オリーブ褐色シルト～極粗粒砂(第Ⅲ-4図, 234)、暗灰黄色シルト～極粗粒砂(第Ⅲ-4図, 219)、オリーブ褐色極細粒砂～極粗粒砂(第Ⅲ-4図, 236)、オリーブ褐色細粒砂～極粗粒砂を含むバイラン土(第Ⅲ-4図, 237)、黄灰色シルト～極粗粒砂(第Ⅲ-4図, 222)、灰オリーブ色細粒砂～極粗粒砂(第Ⅲ-4図, 239)、暗灰黄色細粒砂～極粗粒砂(第Ⅲ-4図, 240)、オリーブ褐色細粒砂～極粗粒砂(第Ⅲ-4図, 226)の土層を確認した。これらは、暗灰黄色細粒砂～極粗粒砂の遺構検出面(第Ⅲ-4図, 229)を切り込んだ状況となっている。

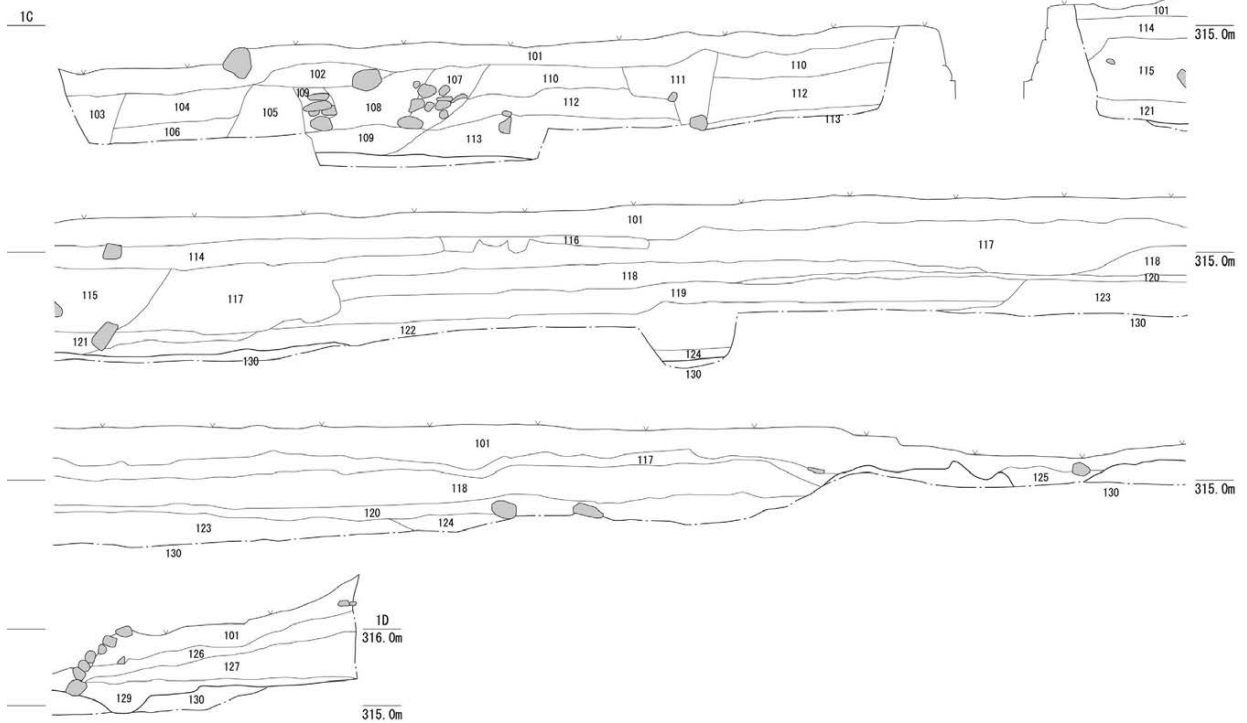
その埋土からは、縄文時代草創期末から早期後半までの遺物群が出土した。出土土器の観察から、ローリングを受けていないようであり、当時の人々が土器の投棄を行った、あるいは一部の地形の崩落があったことが窺える。この遺物については、調査時点で、埋土の検討や分層をしたうえでの取り上げを行ったわけではない。そのため、層位による時期差を把握するには至らなかった。その状況を踏まえつつ、出土した縄文土器・石器群の報告については、IVにおいて行う。

中世以降

北畠氏との関連あるいはその活動があった時期の遺構は、調査区内での確認には至らず、当該時期の少量の遺物出土にとどまった。(小濱 学)



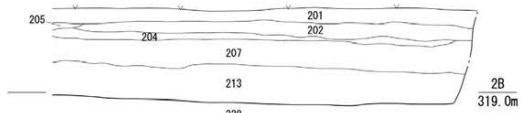
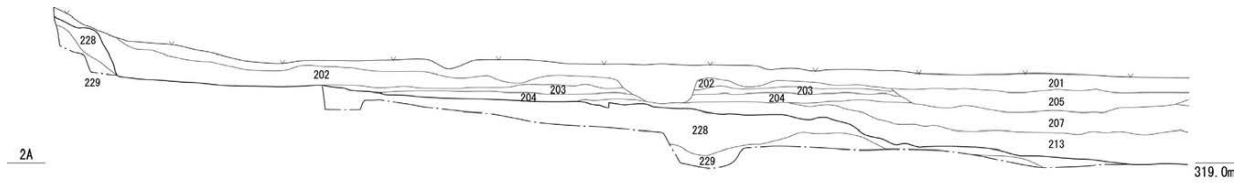
- 101 表土
- 102 カクラン
- 103 カクラン
- 104 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～径2mm以下の礫と2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂～極粗粒砂との互層 カクランか
- 105 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径5mm～20mm以下の礫を微量含
- 106 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～径50mm以下の礫
- 107 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 黄褐色ブロックを微量含 近代以降の水路跡か
- 108 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径50～100mm以下の礫を含 近代以降の水路跡か
- 109 2.5Y4/1 黄灰色 極細粒砂～極粗粒砂 径200mm以下の礫を多量含 近代以降の水路跡か



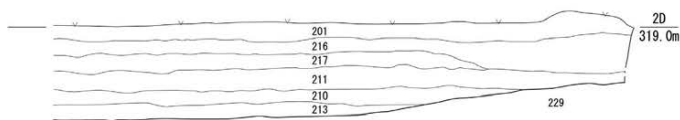
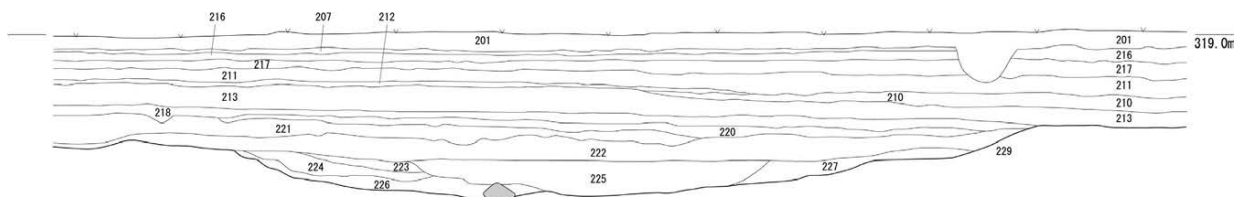
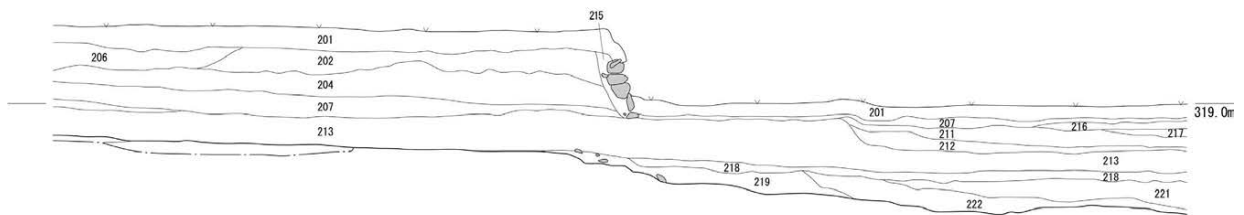
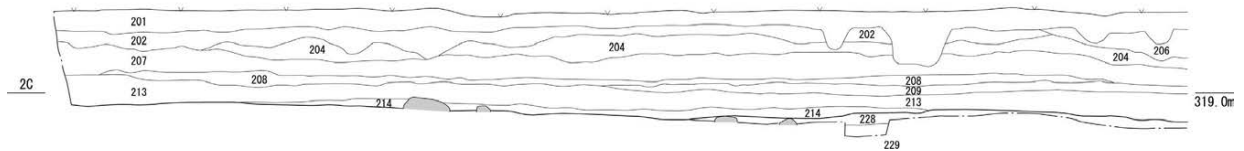
- 110 2.5Y4/3 オリーブ褐色 カクランか？細粒砂～極粗粒砂 2.5Y6/6明黄褐色ブロックを多量含 カクランか
- 111 カクラン
- 112 2.5Y5/1 黄灰色 細粒砂～極粗粒砂 粘性有
- 113 5Y4/1 灰色 シルト～粗粒砂 下位に鉄分沈着 粘性有
- 114 カクラン
- 115 カクラン
- 116 カクラン、現代の礫
- 117 カクラン
- 118 2.5Y4/4 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径5～100mm以下の礫を含まイラン土を少量含 粘性有
- 119 2.5Y4/3 オリーブ褐色 極細粒砂～極粗粒砂
- 120 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂 径3～200mm以下の礫を多量含 バイラン土を含
- 121 N4/ 灰色 シルト～粗粒砂 粘性強
- 122 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂 径10mmから300mmの礫を含 10mm以下が多い 粘性有
- 123 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト～極粗粒砂 径5～50mmの礫を含 粘性強
- 124 2.5Y4/4 オリーブ褐色 細粒砂～径5mmの礫、2.5Y4/1黄灰色細粒砂～極粗粒砂を斑状に含
- 125 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径50mm以下の礫を微量含
- 126 10YR3/4 暗褐色 細粒砂～極粗粒砂 しまりが無い
- 127 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂～極粗粒砂 バイラン土を含
- 128 2.5Y4/6 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 バイラン土を多量含
- 129 2.5Y4/4 オリーブ褐色 極細粒砂～細粒砂 バイラン土を少量含
- 130 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径5～50mm以下の礫を含、遺構検出面



第Ⅲ-1図 1区土層断面図(1:100)

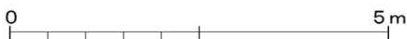


- 201 表土
- 202 2.5Y4/4 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径50mm以下の礫を微量含
- 203 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂
- 204 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂 径50mm以下の礫を多量含
- 205 2.5Y5/3 黄褐色 細粒砂～極粗粒砂 径50mm以下の礫を微量含
- 206 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂
- 207 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径50mm以下の礫を微量含
粘性有
- 208 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂
- 209 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト～粗粒砂 粘性強
- 210 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径5mm以下の礫を少量含
- 211 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径5mm以下の礫を少量含
粘性有

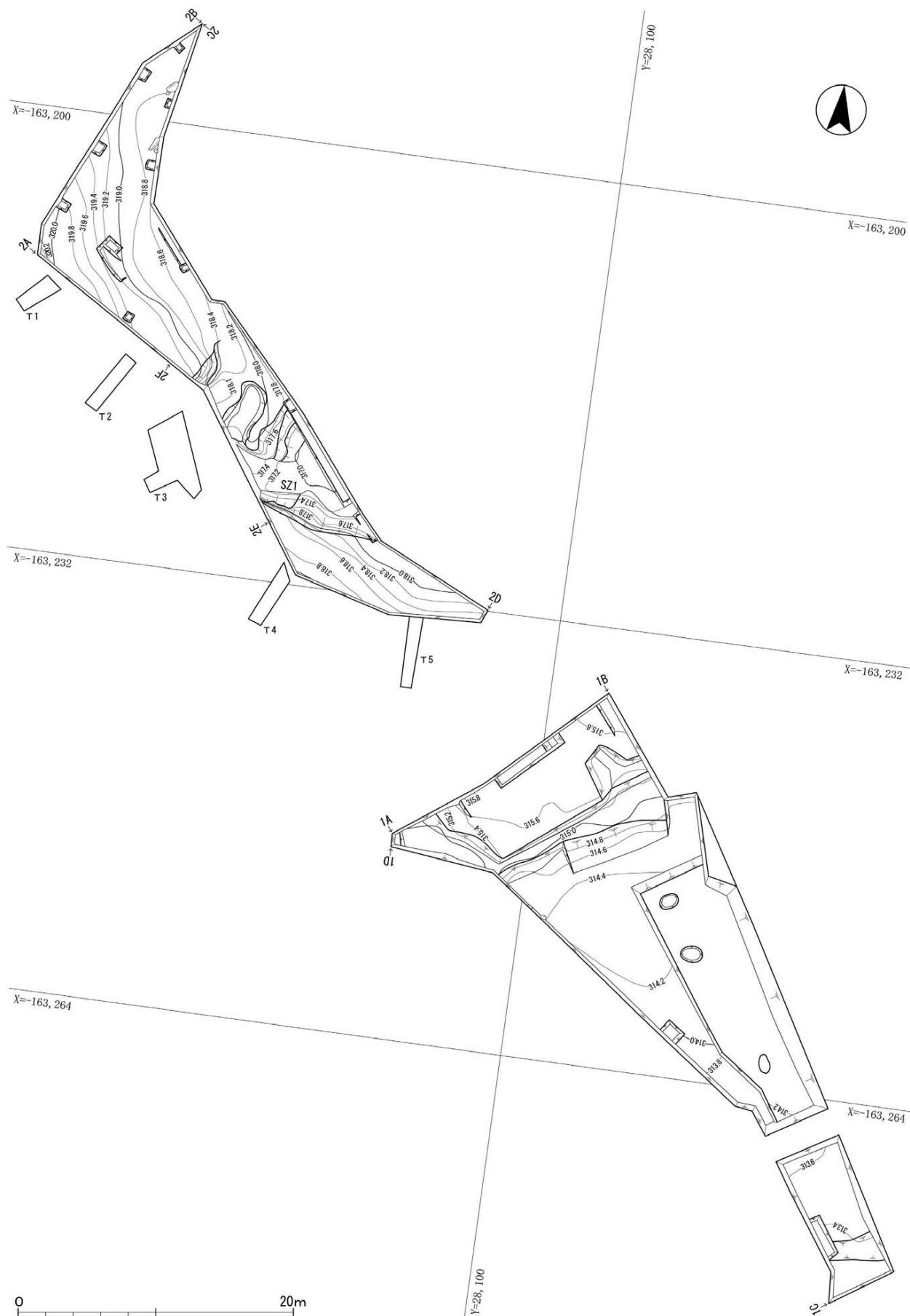


- 212 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂～中粒砂
- 213 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト～極粗粒砂 径100mm以下の礫を微量含
粘性強
- 214 2.5Y3/2 黒褐色 シルト～極粗粒砂 径200mm以下の礫を微量含 粘性強
- 215 2.5Y4/1 黄灰色 細粒砂～径3mm以下の礫を多量含 鉄分を少量含
- 216 2.5Y4/4 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 粘性有
- 217 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 粘性有
- 218 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂 鉄分を微量含 粘性有
- 219 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト～極粗粒砂 径200mm以下の礫を微量含 粘性強
- 220 2.5Y4/1 黄灰色 シルト～極粗粒砂 径50mm以下の礫を極微量含 鉄分・炭化物を微量含 粘性強

- 221 10YR5/4 にぶい黄褐色 細粒砂～極粗粒砂 径5mm以下の礫を多量含 鉄分を微量含
- 222 2.5Y4/1 黄灰色 シルト～極粗粒砂 径100mm以下の礫を微量含 鉄分を少量含 粘性強
- 223 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 2.5Y4/3 オリーブ褐色ブロックを少量含 粘性有
- 224 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径300mm以下の礫を多量含
- 225 10YR4/4 褐色 極細粒砂～粗粒砂 粘性強
- 226 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径5mm以下の花崗岩礫を多量含
- 227 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト～極粗粒砂 2.5Y4/1 黄灰色シルトを多量含
- 228 10YR4/4 褐色 シルト～極粗粒砂 径50mm以下の礫を多量含 鉄分を少量含 粘性強 遺構検出面
- 229 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂 径5mm以下の礫を多量含 しまり有遺構検出面



第Ⅲ-2図 2,3区土層断面図(1:100)



第Ⅲ-3図 調査区平面図(1:400)

IV 遺物

1 土器等

(1) 縄文時代

ここでは、発掘調査時に得られたSZ1出土の縄文土器を主に取り扱う。なお、前述のように調査時に厳密な層位での取り上げを行ったものではなく、埋土に中近世の遺物を含むため、ここでは土器そのものの特徴や型式等により分類し報告する。口縁部、特徴的な大破片を含め図化掲載した資料は529点となる。

a 縄文土器群の分類

本遺跡の出土縄文土器は、大鼻式期前後から縄文縄文時代早期後半までの近畿地方の各型式等が認められる。今回の調査で確認された縄文土器には、撚糸文系土器、縄文系土器、押型文系土器、無文系土器がみられ、I類からIX類までの分類を行った¹⁾。以下に、これらを列記したい。なお、土器等観察表にはI類のa1は「I a1」と表記し、以後はI a1類と呼称、表記するものとする。また、各分類文末の数字については、図版に表記している土器等の報告番号である。また、土器の部位は、概念を第VI-5図に示している。

I類

撚糸文系土器として把握したものである。器形は、

少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、ゆるやかな曲線を描く体部、尖底の底部となるものである。器厚はやや厚めで、土器内面には指圧痕が残る。当該地域においては、型式名が明らかとなっていないので、これらの所属時期は便宜上、撚糸文系土器期としたい。

a1 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのように下向きの剣先状の側面圧痕、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。1

a2 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に縄文と撚糸文の重なり、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。2,3

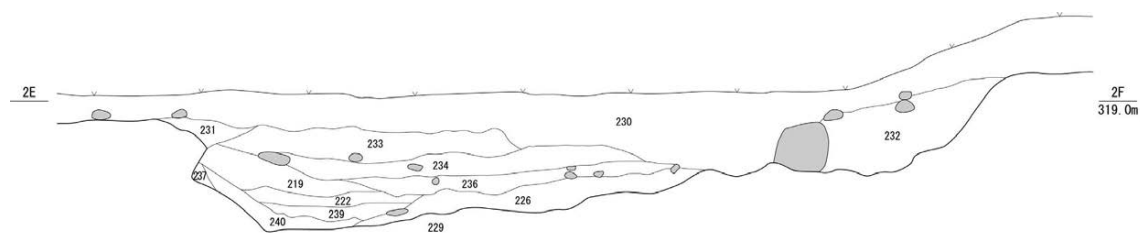
a3 口唇部に縄文、口縁部以下の外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。4,5

b1 口唇部に撚糸文、口縁部外面に撚糸文、口縁部と頸部を区画するかのような横方向に2段の側面圧痕、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に撚糸文が施されたもの。6

b2 口唇部に撚糸文、口縁部以下の外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に撚糸文が施されたもの。

7,8,9

c1 口縁部以下の外面に撚糸文が施されたもの。



- 230 表土 擁壁工事の際のカクラン
- 231 10YR5/4 にぶい黄褐色 バイラン土
- 232 2.5Y4/3 オリーブ褐色 風化による花崗岩細礫を多量含
- 233 2.5Y3/2 黒褐色 シルト～極粗粒砂 径5mm以下の礫を微量含 黄褐色ブロックを微量含 炭化物を極微量含 粘性有
- 234 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト～極粗粒砂 径10mm以下の礫を含 粘性有
- 219 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト～極粗粒砂 径200mm以下の礫を微量含 粘性強
- 236 2.5Y4/4 オリーブ褐色 極細粒砂～極粗粒砂 径200mm以下の礫を微量含 粘性強
- 237 2.5Y4/4 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂を含むバイラン土

- 222 2.5Y4/1 黄灰色 シルト～極粗粒砂 径100mm以下の礫を微量含 鉄分を少量含 粘性強
- 239 5Y4/2 灰オリーブ色 細粒砂～極粗粒砂 径10mm以下の礫を多量含 下に鉄分を多量沈着
- 240 2.5Y5/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂 径30mm以下の礫を多量含 下に鉄分を少量沈着
- 226 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～極粗粒砂 径5mm以下の花崗岩礫を多量含
- 229 2.5Y4/2 暗灰黄色 細粒砂～極粗粒砂 径5mm以下の礫を多量含 しまり有 遺構検出



第III-4図 SZ1土層断面図(1:100)

10, 11

d1 外面に縄文、撚糸文が施された体部片。

12, 17

d2 外面に撚糸文が施された体部片。13～16, 18～62

e1 外面に撚糸文が施された底部片。63

II類

縄文系土器として把握したものである。器形は、少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものである。器厚はやや厚めで、土器内面には指圧痕が残る。口縁部の外面と内面の最上部に縄文がみられる表裏縄文土器もこの中に含まれる。ここでは、縄文系土器期としておく。この段階の詳細については、VIであらためて述べたいと思う。

a1 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのように横方向に複数段の側面圧痕、体部外面に縄文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。64, 66～71

a2 口唇部に縄文、口縁部以下の外面に縄文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。65, 72～77

b1 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような横方向に複数段の側面圧痕、体部外面に縄文が施されたもの。78, 79

b2 口唇部に縄文、口縁部以下の外面に縄文が施されたものである。80, 81

c1 口縁部から体部にかけての外面に、上向きの剣先状の側面圧痕、側面圧痕以下に縄文が施されたもの。82

d1 頸部外面に横位の側面圧痕、以下縄文が施されたもの。83～86

e1 体部外面に単節及び複節の縄文が施されたもの。87～131

f1 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような横方向に複数段の側面圧痕、体部外面に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。132, 133

f2 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような半弧状をつなぎ合わせたかのような剣先状の側面圧痕、体部外面に枝回転文が施文されると思われる、口縁部内面の最上部に縄文が

施されたもの。134

f3 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に横方向に複数段の側面圧痕、横位の側面圧痕直下の体部外面まで縄文、以下に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。135～138, 141

f4 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部以下に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。139, 142～145

f5 口唇部に縄文、口縁部以下の外面に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの。140

f6 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に横方向に複数段の側面圧痕、側面圧痕直下の体部外面まで縄文、以下に枝回転文が施されたもの。146～148

g1 体部外面に縄文、枝回転文が施されたもの。

149, 151, 156

g2 体部外面に枝回転文が施されたもの。

150, 152～155, 157

III類

広義の意味での押型文系土器、大鼻式²⁾期の範疇として把握したものである。器形は、口唇部が肥厚し大きく外反する口縁部、口縁部下部から頸部にかけて屈曲し、直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものである。土器内面はなめらかな状況を呈しており、縄文施文等は確認できない。

a1 肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面に縄文（押圧も含む）、口縁下部から頸部にかけて複数段の側面圧痕、体部には枝回転文が施されるもの。

158, 159, 176, 177

a2 肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文、羽状の押圧縄文、体部には枝回転文が施されるもの。

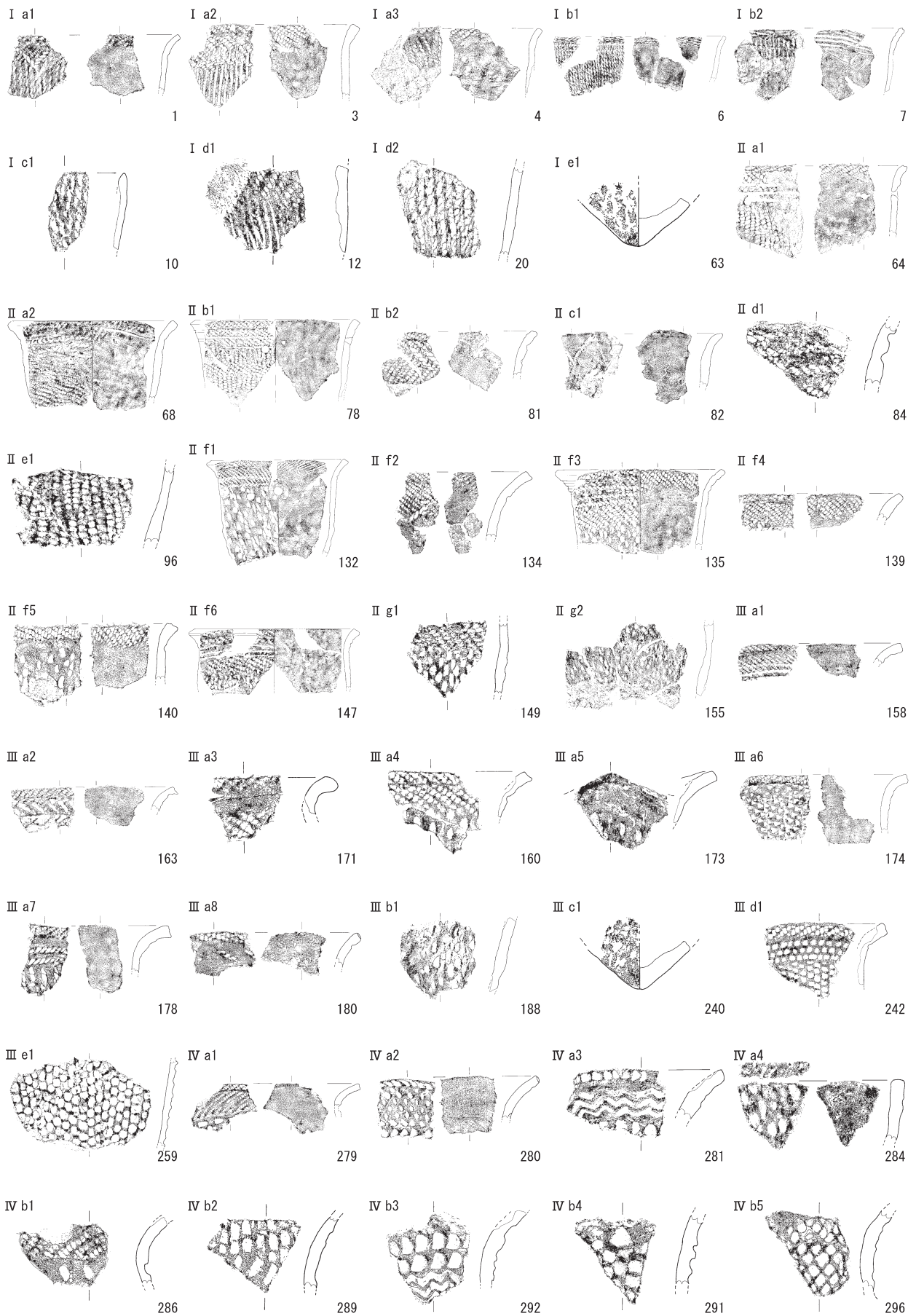
161, 163～166, 168, 170

a3 口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文、体部には枝回転文が施されるもの。171

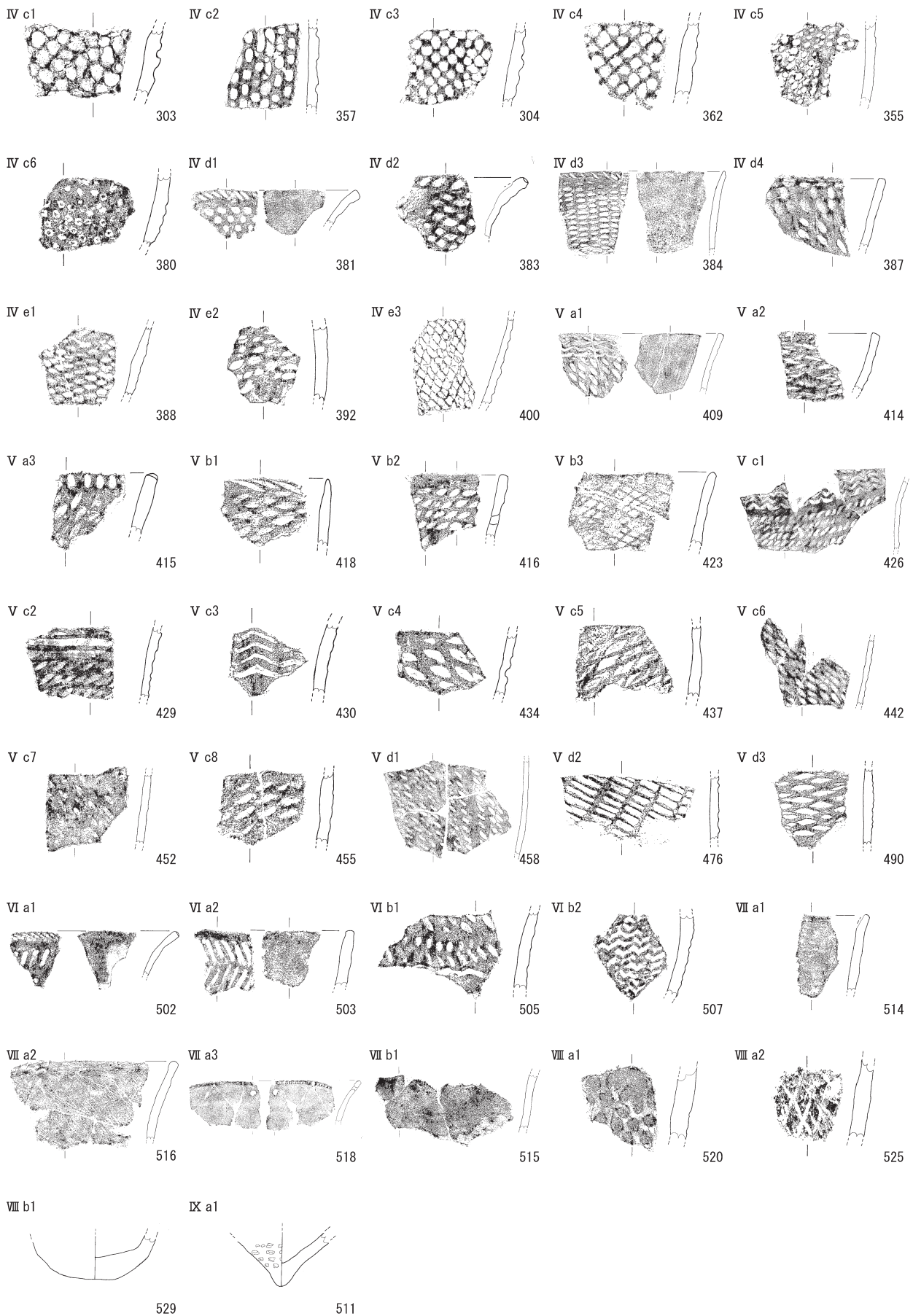
a4 肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文、体部には枝回転文が施されるもの。160, 162, 167, 169, 172, 181, 182, 184

a5 波状口縁、口縁部以下に枝回転文が施されたもの。173

a6 肥厚する口唇部に縄文、口縁部以下の外面に枝



第IV-1図 縄文土器分類(案)1 * 縮尺不同



第IV-2図 縄文土器分類(案)2 * 縮尺不同

回転文が施されるもの。174, 175, 183

a7 肥厚する口唇部に縄文、口縁部から頸部にかけて複数段の側面圧痕、体部には押圧縄文、枝回転文が施されたもの。178, 179

a8 肥厚する口唇部に縄文、口縁部から頸部にかけて斜めの側面圧痕、体部には枝回転文が施されたもの。180

b1 体部に枝回転文が施され、器厚は少し薄くなるもの。185～239

c1 外面に枝回転文がほどこされた尖底の底部片である。240, 241

d1 肥厚する口唇部に縄文、口縁部以下の外面にネガティブな市松文が施されたもの。242～251

e1 体部外面に大振りの市松文が施されたもの。

252～278

IV類

押型文系土器、大川式³⁾期の範疇として把握したものである。器形は、外反する口縁部、口縁部下部から頸部にかけて屈曲し、直線に近い緩やかな曲線を描く体部、尖底の底部となるものである。土器内面はなめらかな状況を呈しており、施文等はない。口縁部の外反が緩やかになるものも含まれる。

a1 口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に刺突文、体部には市松文が施されるであろうもの。279

a2 口唇部にキザミ、口縁部外面に市松文、頸部に刺突文、体部には市松文が施されるであろうもの。280, 282, 283

a3 口唇部にキザミ、口縁部外面に山形文、頸部に刺突文、体部には市松文が施されるであろうもの。

281

a4 口唇部にキザミ、口縁部外面に刺突文、頸部以下に市松文が施されるであろうもの。284, 285

b1 頸部から体部のもので、外面に縄文・市松文、以下に刺突文が施されたもの。286～288

b2 頸部から体部にかけての破片で、頸部外面に格子目文、体部に刺突文が施されたものである。289

b3 頸部から体部にかけての破片で、頸部外面に刺突文、体部に山形文が施されたものである。292

b4 頸部から体部にかけての破片で、外面に刺突文、体部に市松文が施されたものである。

290, 291, 293, 294, 297

b5 頸部から体部にかけての破片で、頸部外面に市松文が施されたものである。295, 296, 298～300

c1 体部片で外面にネガティブな市松文が施されたもの。301～303, 305～321, 323～349, 351～353

c2 体部片で外面にネガティブなひとつの文様が小さい市松文が施されたもの。356～361, 363, 364

c3 体部片で外面にネガティブな格子目文が施されたもの。304, 322, 350

c4 体部片で外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文が施されたもの。362, 365～379

c5 体部片で外面に刺突文が施されたもの。354, 355

c6 体部片で外面に植物を原体とした刺突文が施されたもの。380

d1 口唇部にキザミ、少し外反する口縁部外面に市松文が施されるもの。381, 382

d2 口唇部にキザミ、少し外反する口縁部外面に格子目文が施されるもの。383

d3 口唇部にキザミ、やや外反する口縁部以下の外面に楕円状の格子目文が施されたもの。384

d4 口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部以下の外面に、上から浅い刺突、ネガティブな楕円文が施されたもの。385～387

e1 体部片で外面にネガティブな楕円に近い市松文が施されたもの。器厚は薄い。388～390

e2 体部片で外面にネガティブな楕円状の押型文が施されたもの。器厚は薄い。施文の重複したものも含む。391～399

e3 体部片で外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文が施されたもの。400～407

V類

押型文系土器、神宮寺式⁴⁾期の範疇として把握したものである。器形は、直線的に外傾する口縁部、以下直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものである。土器内面はなめらかな状況を呈しており、施文等はない。器厚は薄くなる。

a1 口唇部にキザミ、少し外傾する口縁部外面に、上から山形文、疎らにネガティブな楕円文が施されたもの。器厚は薄い。408～413

a2 直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな細い楕円文が施されたもの。器厚は薄い。414

a3 口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文が施されたもの。器厚は薄い。415

b1 口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文が施されたもの。器厚はより薄い。417～419

b2 直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文が施されたもの。器厚はより薄いもの。416, 420～422

b3 直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな斜傾する格子目文が施されたもの。器厚はより薄いもの。423

c1 体部片で外面に、ネガティブな山形文・楕円文が施されたもの。器厚は薄い。

424～428

c2 体部片で外面に、ネガティブな横位の直線文・楕円文が施されたもの。器厚は薄い。429

c3 体部片で外面に、ネガティブな山形文が施されたもの。器厚は薄い。430

c4 体部片で外面に、ネガティブな楕円文が施されたもの。器厚は薄い。431～435

c5 体部片で外面に、ネガティブな斜傾する格子目文が施されたもの。器厚は薄い。436, 437

c6 体部片で外面に、ネガティブな楕円文が施され、文様の間隔も狭く、斜格子に近いものである。器厚は薄い。438～451

c7 体部片で外面にネガティブな楕円文が浅く施文されたもの。器厚は薄い。452, 453

分類	報告番号	分類	報告番号		
I a1	1	IVb3	292		
I a2	2, 3	IVb4	290, 291, 293, 294, 297		
I a3	4, 5	IVb5	295, 296, 298, 299, 300		
I b1	6	IVc1	301, 302, 303, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 351, 352, 353		
I b2	7, 8, 9				
I c1	10, 11				
I d1	12, 17				
I d2	13, 14, 15, 16, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62	IVe2	356, 357, 358, 359, 360, 361, 363, 364		
		IVc3	304, 322, 350		
		IVc4	362, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379		
		IVc5	354, 355		
I e1	63	IVc6	380		
II a1	64, 66, 67, 68, 69, 70, 71	IVd1	381, 382		
II a2	65, 72, 73, 74, 75, 76, 77	IVd2	383		
II b1	78, 79	IVd3	384		
II b2	80, 81	IVd4	385, 386, 387		
II c1	82	IVe1	388, 389, 390		
II d1	83, 84, 85, 86	IVe2	391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399		
II e1	87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131	IVe3	400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407		
		V a1	408, 409, 410, 411, 412, 413		
		V a2	414		
II f1	132, 133	V a3	415		
II f2	134	V b1	417, 418, 419		
II f3	135, 136, 137, 138, 141	V b2	416, 420, 421, 422		
II f4	139, 142, 143, 144, 145	V b3	423		
II f5	140	V c1	424, 425, 426, 427, 428		
II f6	146, 147, 148	V c2	429		
II g1	149, 151, 156	V c3	430		
II g2	150, 152, 153, 154, 155, 157	V c4	431, 432, 433, 434, 435		
III a1	158, 159, 176, 177	V c5	436, 437		
		V c6	438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451		
III a2	161, 163, 164, 165, 166, 168, 170	V c7	452, 453		
III a3	171	V c8	454, 455, 456, 457		
III a4	160, 162, 167, 169, 172, 181, 182, 184	V d1	458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475		
III a5	173				
III a6	174, 175, 183				
III a7	178, 179				
III a8	180				
III b1	185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239			V d3	482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501
				VI a1	502, 504
				VI a2	503
III c1	240, 241	VI b1	505		
III d1	242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251	VI b2	506, 507, 508, 509		
III e1	252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278	VII a1	514		
		VII a2	516		
		VII a3	517, 518		
IV a1	279	VIII b1	515		
IV a2	280, 282, 283	VII a1	519, 520, 521, 522, 523, 524		
IV a3	281	VII a2	525, 526, 527		
IV a4	284, 285	VIII b1	528, 529		
IV b1	286, 287, 288	IX a1	510, 511, 512, 513		
IV b2	289				

第IV-1表 縄文土器分類一覧表

c8 体部片で土器にネガティブな前段階より細長い楕円文が浅く施文されたもの。器厚は薄い。454～457

d1 体部片で外面に、ネガティブな少し細長くなった楕円文が浅く施され、文様の間隔が疎らになったもの。器厚はより薄い。458～475

d2 体部片で外面に、ネガティブな細長くなった格子目文が施されたもの。器厚はより薄い。476～481

d3 体部片で外面に、ネガティブなより細長くなった格子目文が施されたもの。文様は直線に近い。器厚はより薄い。482～501

VI類

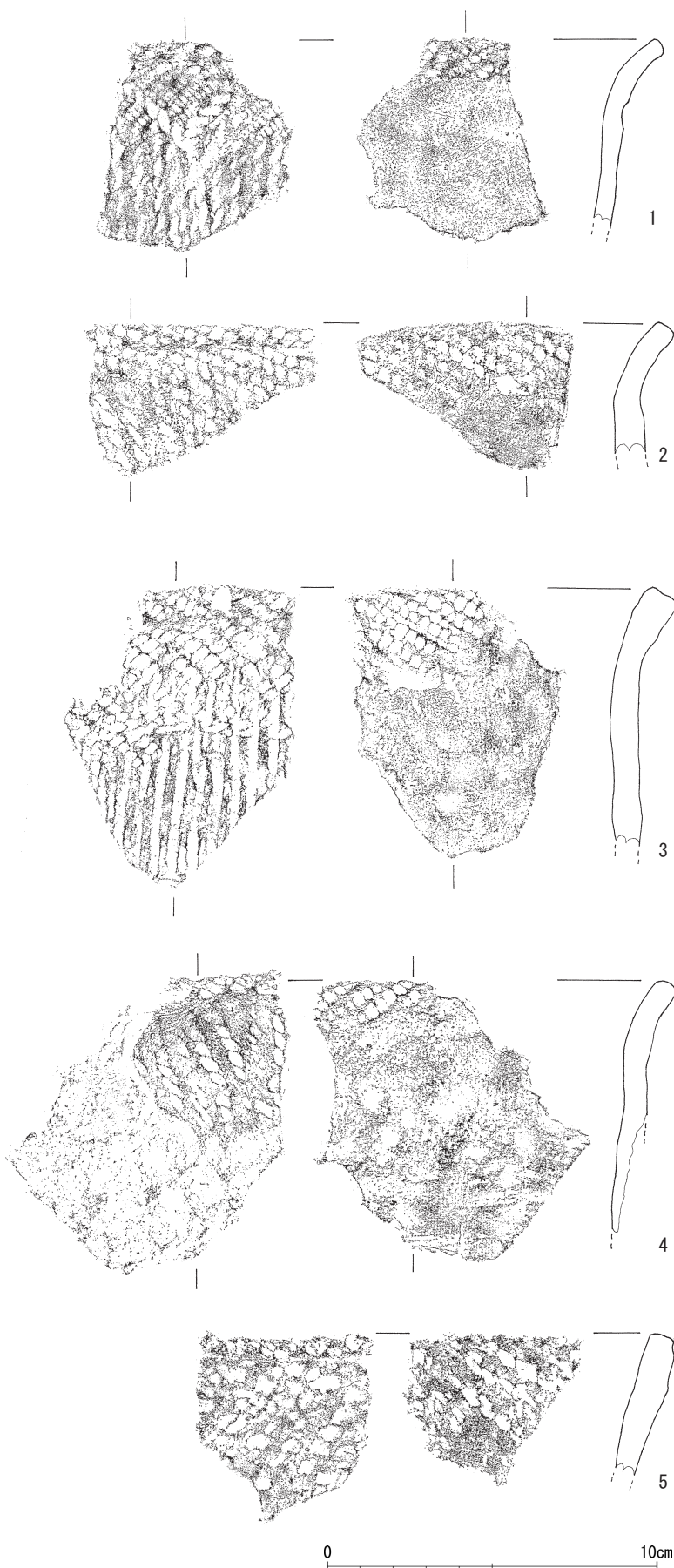
押型文系土器、神並上層式⁵⁾期のもので把握したものである。器形は、直線的に少し外傾する口縁部、以下直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものである。土器内面はなめらかな状況を呈しており、施文等はない。器厚は薄くなる。器厚はより薄いものとなる。

a1 口唇部にキザミがみられ、口縁部により細長い楕円文が施されたもの。器厚はより薄い。502, 504

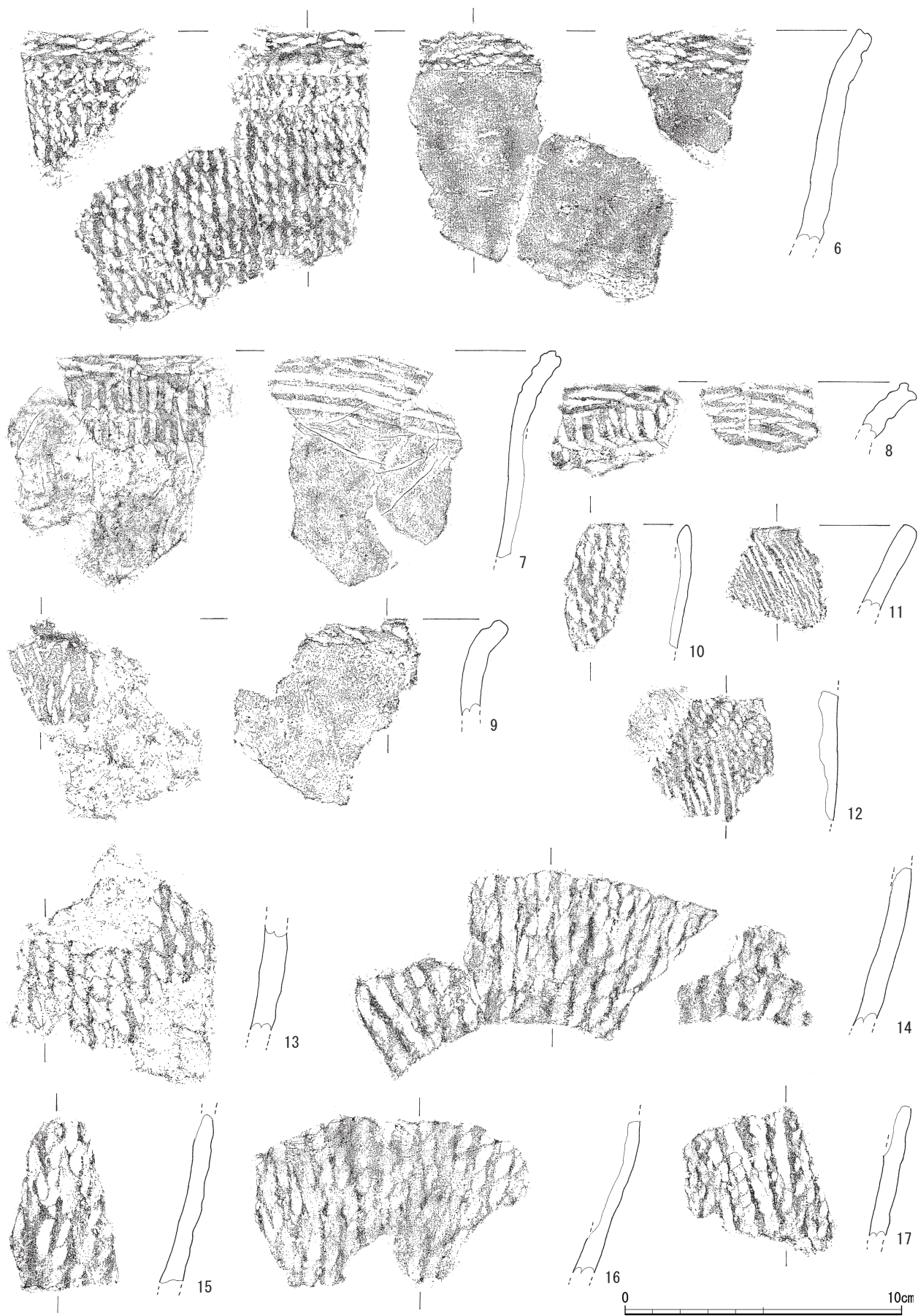
a2 口縁部により細長い楕円文が矢羽根状に施されたもの。器厚はより薄い。503

b1 体部片で外面に、山形文、ネガティブな斜傾した楕円文が矢羽根状に施されもの。器厚はより薄い。505

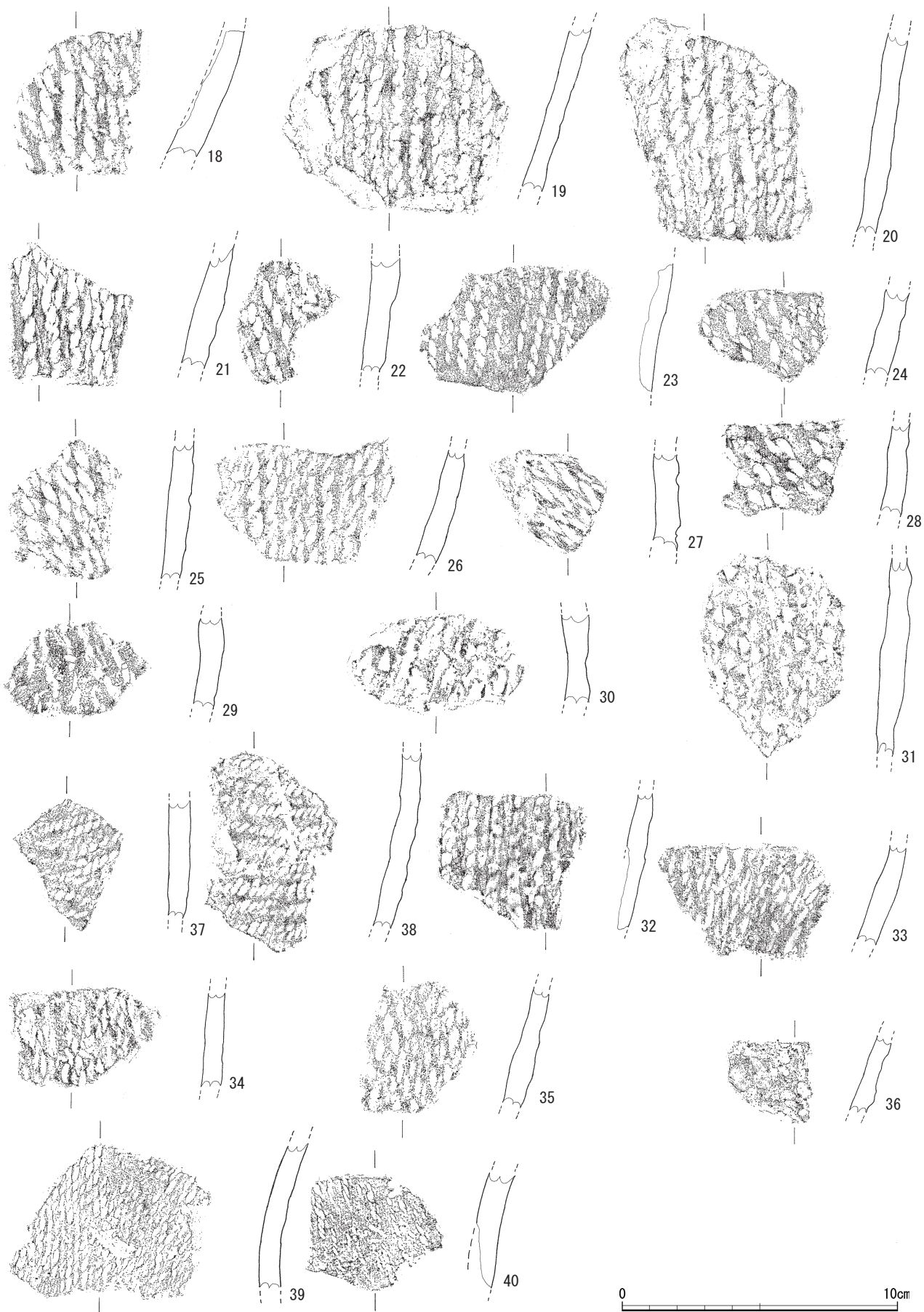
b2 体部片で外面に、細かな山形文が施されもの。器厚はより薄い。506～509



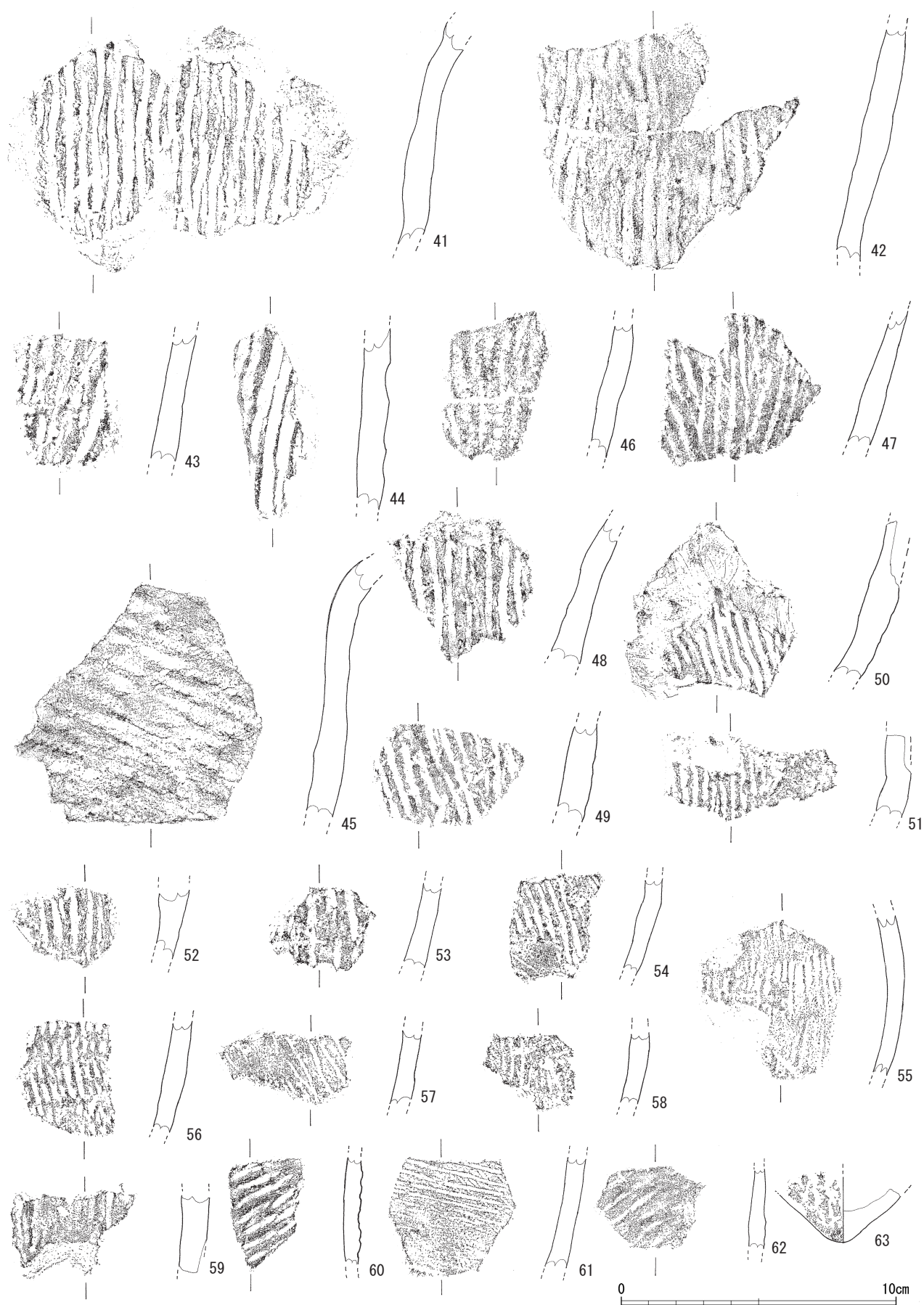
第IV-3図 SZ1出土土器実測図1(1:2)



第IV-4图 SZ1出土土器实测图2(1:2)



第IV-5图 SZ1出土土器实测图3(1:2)



第IV-6图 SZ1出土土器实测图4(1:2)

VII類

無文様の土器、押型文期のものか。器形は、口縁部が少し外傾し、頸部で少し屈曲するものである。

- a1 内外面、無文様のもの。514
- a2 外面に条線状のものがみられるもの。516
- a3 口縁部内面の最上部にキザミ、それ以外は無文様のもの。517, 518
- b1 体部片で、内外面、無文様のもの。515

部から頸部かけて外面には縄文が施され、直立気味になる頸部以下に絡条体による撚糸文が施されている。なお、口縁部外面には弧状の縄文圧痕がみられる。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、

VIII類

押型文系土器で、高山寺式⁶⁾併行と考えられるもの。器形は口縁部から体部かけて直線的で、底部は丸底となるものである。

- a1 体部片で、外面にポジティブな市松文が施されたもの。器厚は非常に厚い。519～524
- a2 体部片で、外面に細い網目状文が施されたもの。器厚は非常に厚い。525～527
- b1 底部片で丸底となるもの。528, 529

IX類

押型文系土器期の底部片で、所属時期が判然としないものである。

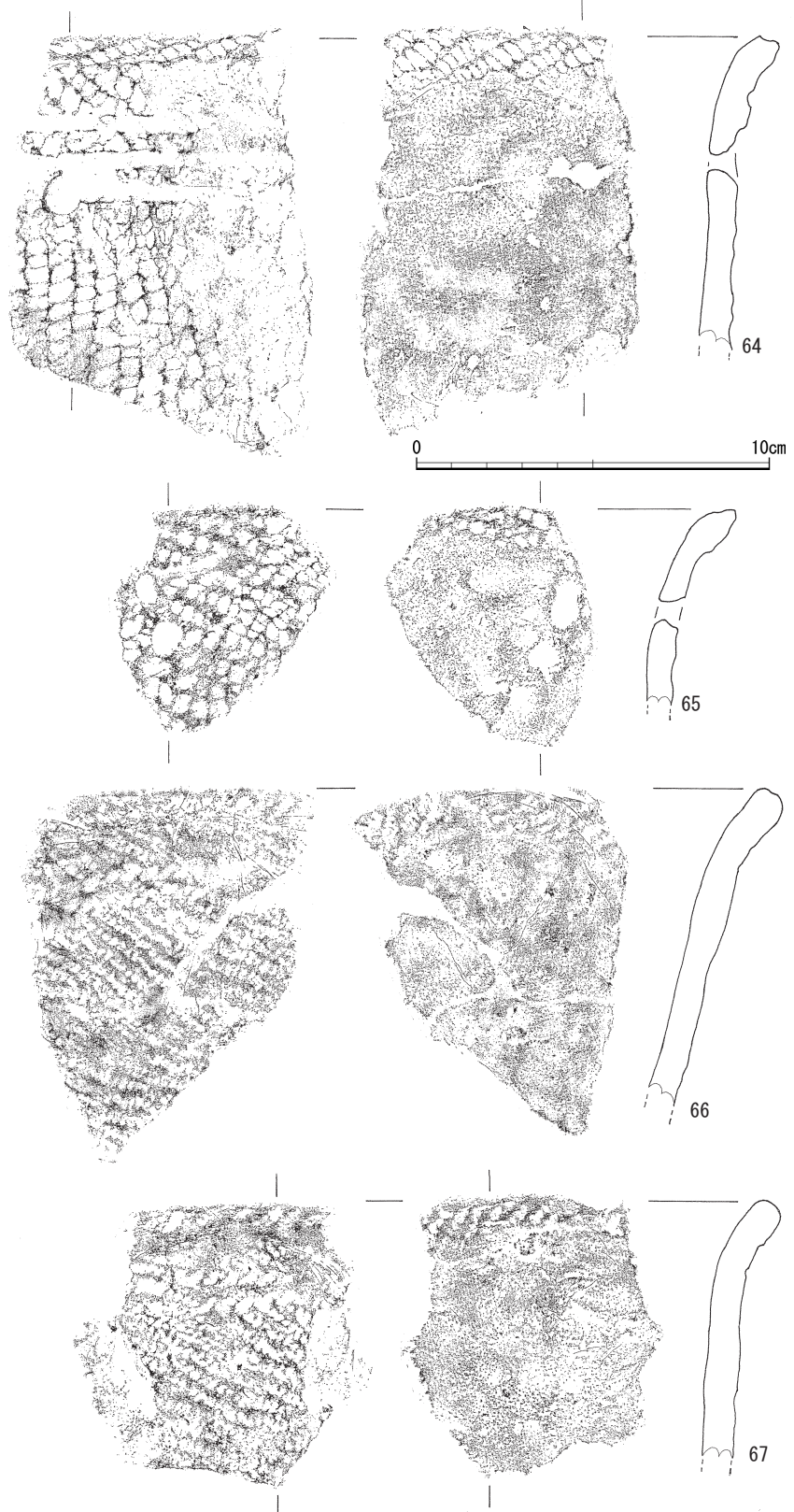
- a1 外面に押型文が施され、尖底となるもの。510～513

これら土器分類の一覧は第IV-1表のとおりである。

b 出土した土器等

SZ1出土遺物

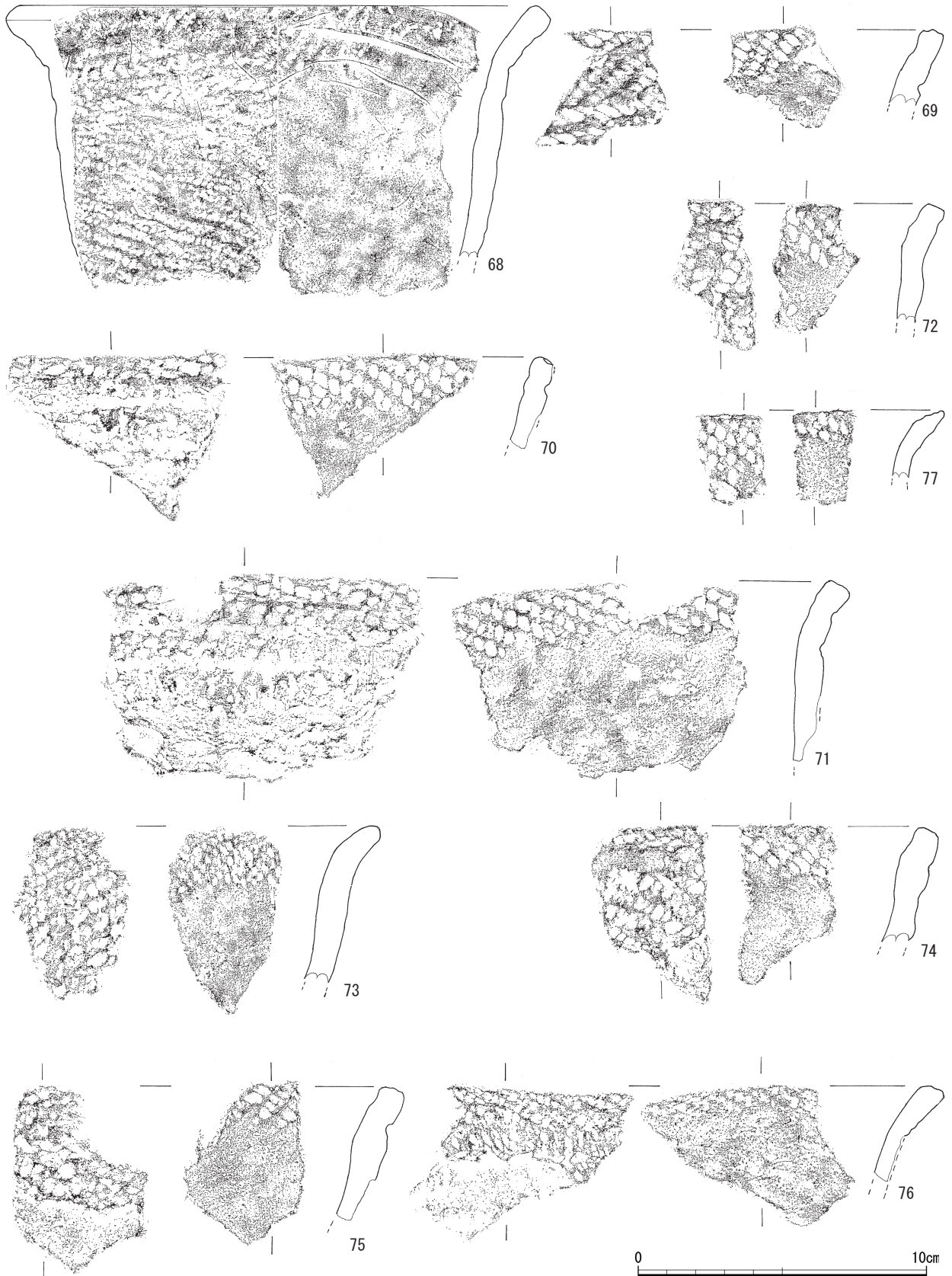
1～11は撚糸文が土器内外面あるいは外面に施されている口縁部片で、頸部、体部上部まで含むものもある。器厚は厚めである。1は、口唇部に縄文が施されている。少し外傾する口縁



第IV-7図 SZ1出土土器実測図5(1:2)

口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。2は、口唇部に縄文が施され、少し外傾する短い口縁部から頸部にかけて

て外面にも縄文が施され、その直下から絡条体による撚糸文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と



第IV-8図 SZ1出土土器実測図6(1:2)

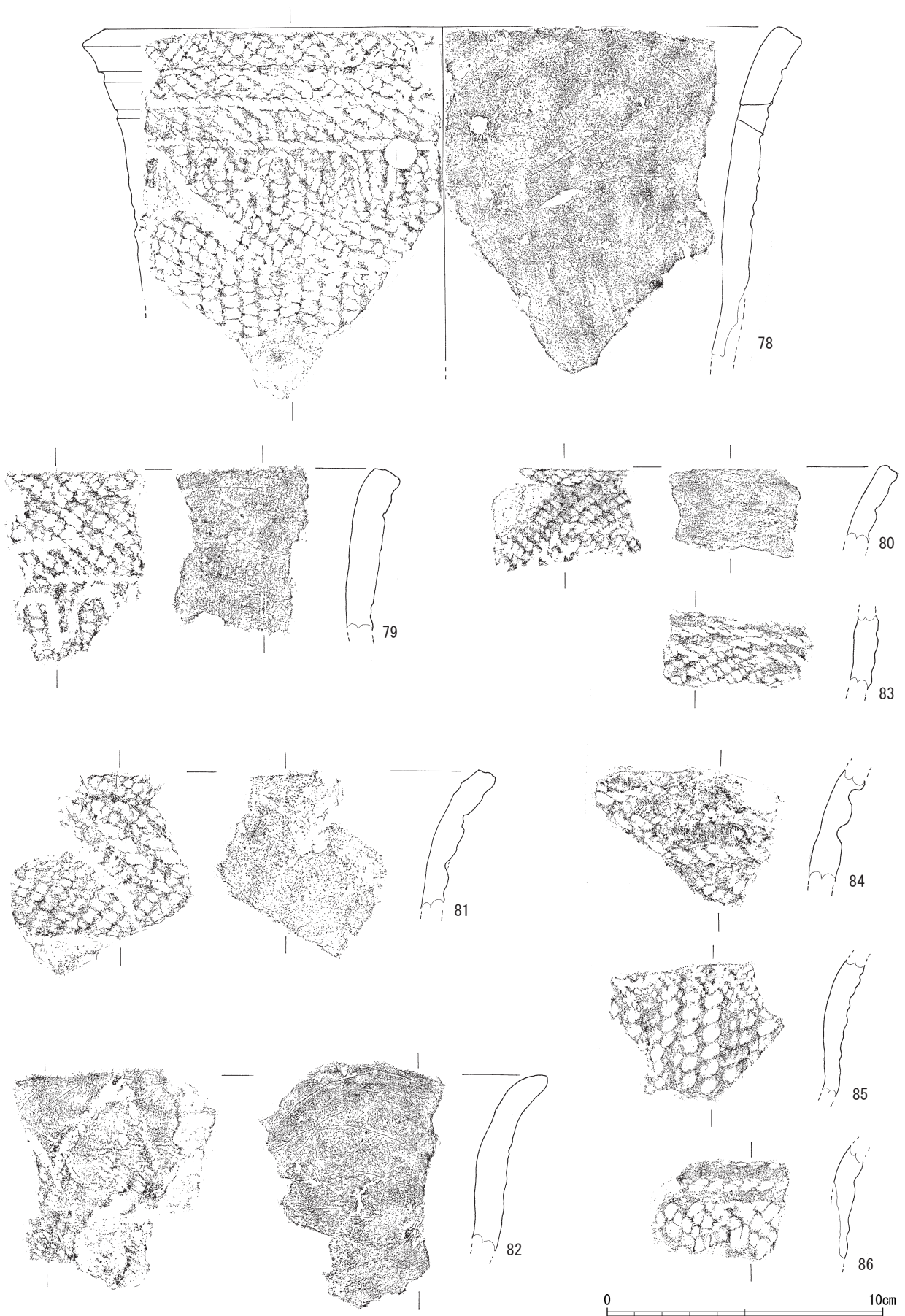
考えられる。また、内面には指圧痕がみられる。3は、口唇部に縄文が施され、少し外傾する短い口縁部から頸部にかけての外面には縄文が施されている。直立気味になる頸部以下に絡条体による撚糸文が施されている。縄文と撚糸文が重なる部分もある。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体を使用していないようである。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。4は、口唇部に縄文が施されている。少し外傾する口縁部から頸部にかけて外面には絡条体による撚糸文が施されている。外面の文様が施された部分が、大きく、薄く剥落している。これは、施文の際に、器面へ水を含ませ、表面を軟化させた後に施文するため、このような事象が起きたのであろう。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体の使用が考えられる。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。5は、口唇部に撚糸文が押圧されている。直線的に外傾する口縁部外面に絡条体による撚糸文が施され、口縁部内面の最上部にも絡条体による撚糸文が施されている。6は、口唇部に押圧による撚糸文が施され、若干外傾する口縁部外面には2条の縄文原体押圧による側面圧痕がみられる。口縁以下に、撚糸文が全体的に施されている。口縁部内面の最上部に撚糸文が施されており、口縁部以下の内面には指圧痕が明瞭に残る。7は、口唇部に押圧による撚糸文が施され、若干外傾する口縁部、頸部、体部にかけて、撚糸文が全体的に施されている。外面の文様が施された部分が、大きく、薄く剥落している。口縁部内面の最上部に撚糸文が施されており、口縁部以下の内面には指圧痕が明瞭に残る。8は、口唇部に押圧による撚糸文が施され、若干外傾する口縁部から頸部にかけて、撚糸文が施されている。口縁部内面の最上部にも撚糸文が施されている。9は、若干外傾する口縁部から頸部にかけて、撚糸文が全体的に施されている。文様が施された部分が、大きく、薄く剥落している。口縁部内面の最上部に撚糸文が施されている。10は、直線的な口縁部外面に、撚糸文が全体的に施されている。内面が、大きく、薄く剥落している。11は、直線的な口縁部、頸部にかけて、非常に細い縄の撚糸文が全体的に施されている。これらについては、撚糸文系土器期に属する

ものといえる。

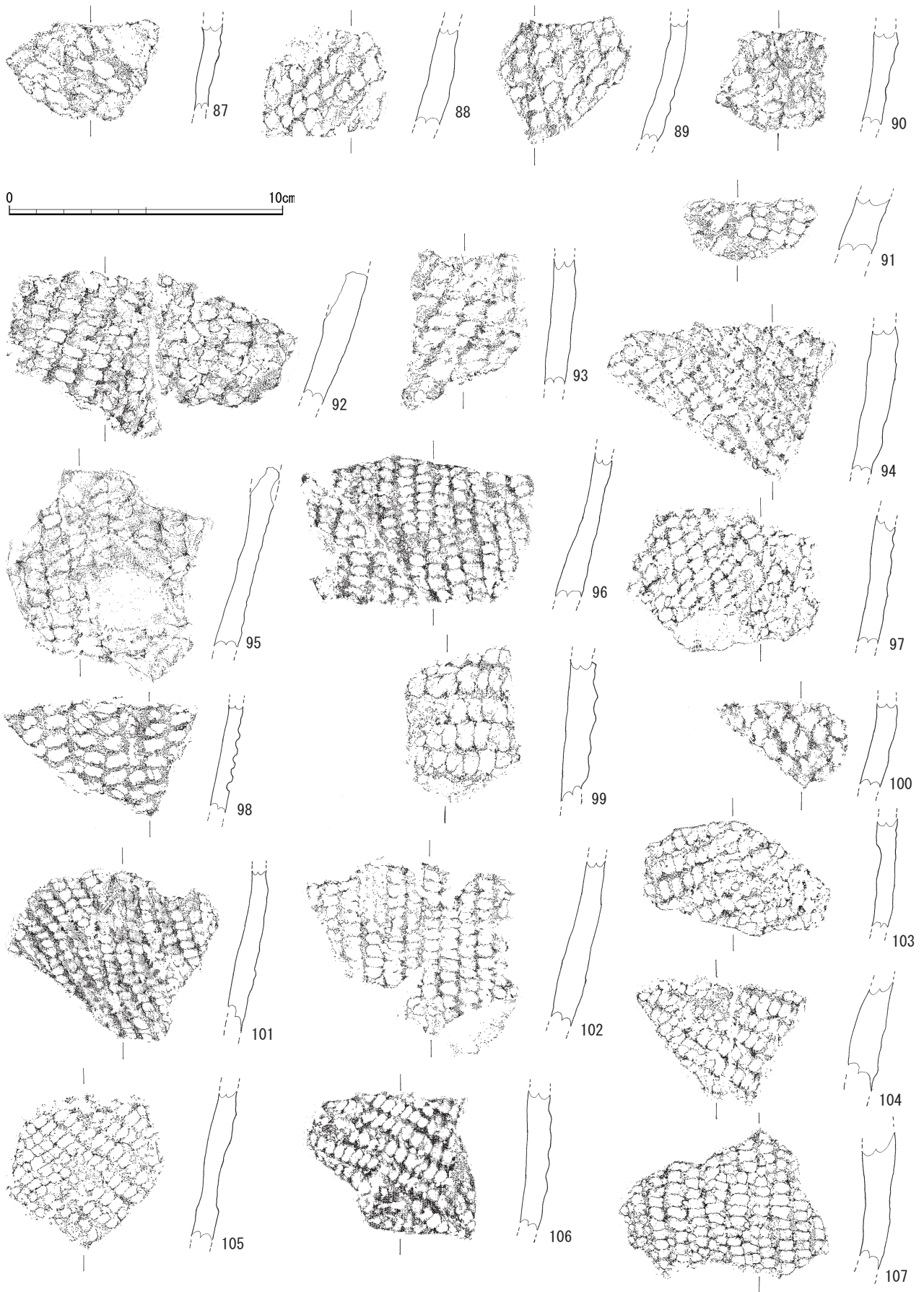
12～62は撚糸文が土器外面に施されている体部片である。12は、外面に口縁部から続く縄文と、縄文施文以下には撚糸文が施されている。文様の施された部分が、薄く剥落している。13は、外面に絡条体による撚糸文が施されている。文様の施された部分が、大きく、薄く剥落している。14～17は、外面に太い縄を使用した絡条体による撚糸文が施されている。内面は指圧痕及びナデがみられる。18～29は、外面に細い縄を使用した絡条体による撚糸文が施されている。内面は指圧痕及びナデがみられる。19は、文様の施された部分が、大きく、薄く剥落している。30～33は、撚糸文の施文が重なったものであろう。内面は指圧痕及びナデがみられる。34～36は、土器外面の全部に撚糸文が施されたものと思われる。内面は指圧痕及びナデがみられる。37から40は、土器外面に非常に細い縄を使用した撚糸文が施されたものと思われる。内面は指圧痕及びナデがみられる。41から44は、土器外面にやや太い縄、無節縄文による撚糸文が施されているものといえよう。内面は指圧痕及びナデがみられる。45は、撚糸文施文後に、軽く器面をナデたものであろうか。内面は指圧痕及びナデがみられる。46は、土器外面にやや細い縄、無節縄文による撚糸文が施されているものといえよう。内面は指圧痕及びナデがみられる。47～53は、やや細い縄、無節縄文による撚糸文が施されているといえよう。内面は指圧痕及びナデがみられる。54～62は、土器外面に非常に細い縄、無節縄文による撚糸文が施されているものであろう。内面は指圧痕及びナデがみられる。これらについては、撚糸文系土器期に属するものといえる。

63は、尖底の底部片である。外面に絡条体による細い撚糸文がみられる。これらについては、撚糸文系土器期に属するものといえる。

64～77は土器外面、内面口縁部最上部に縄文が施されている口縁部片である。いわゆる表裏縄文土器と呼称されている一群である。64は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には複節の太い縄文が施されている。外傾と直立する部分の境界付近に3段の側面圧痕が横方向に施されている。側面圧痕の最下部には焼成後穿孔が1ヶ



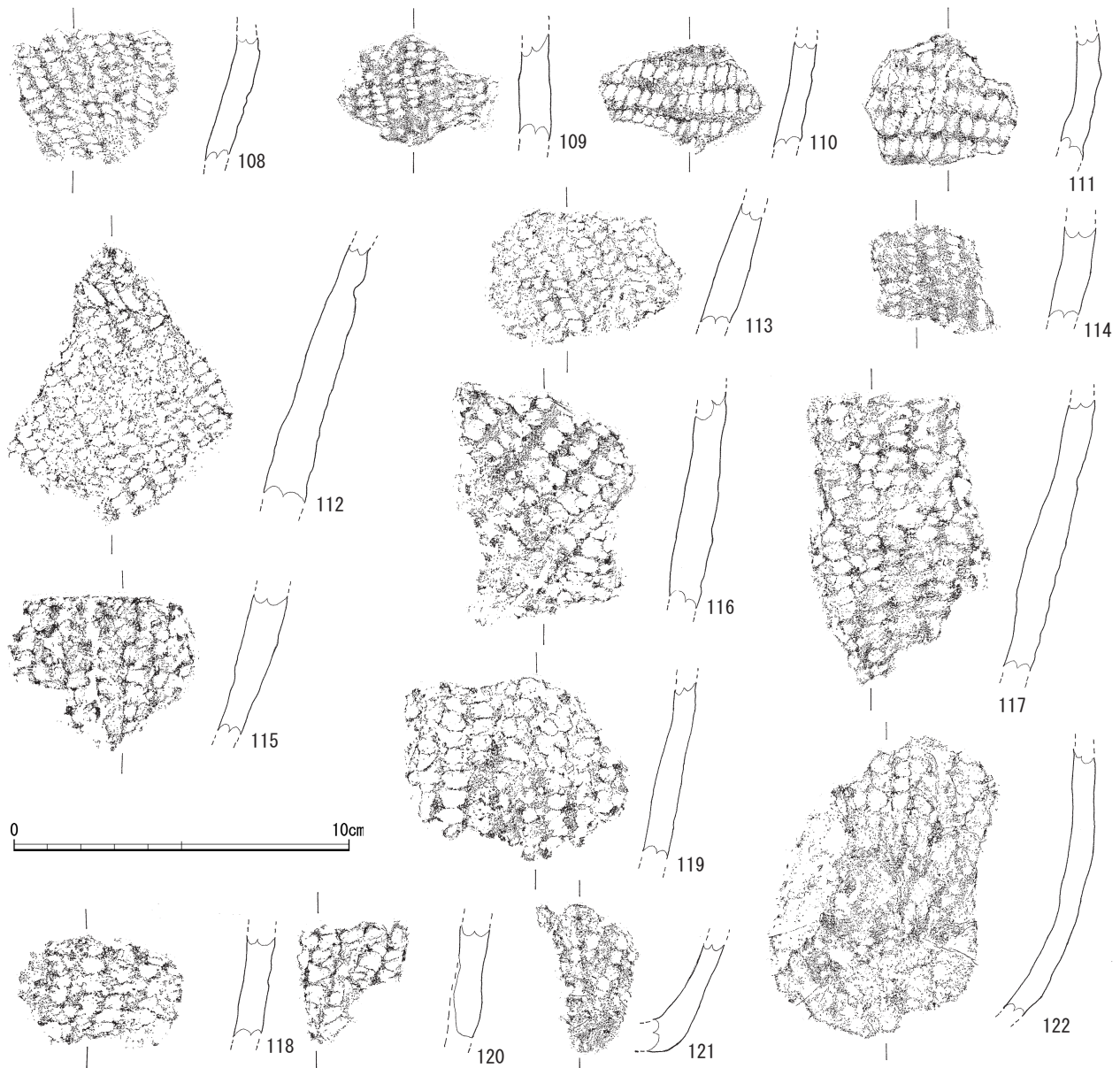
第IV-9图 SZ1出土土器实测图7(1:2)



第IV-10图 SZ1出土土器实测图8(1:2)

所みられる。口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。外面に施された縄文原体とは縄の条の太さが違うようである。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。栗津湖底遺跡においても同様の太い縄文が施されたものが存在している⁷⁾。65は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味である。口縁部以下の外面には縄文が施されている。屈曲部分には焼成後穿孔が2ヶ所みられる。うちそがれたような口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されている。縄文原体と同じ原体と考えられる。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。66は、口縁部が少し外傾し、以下は直立

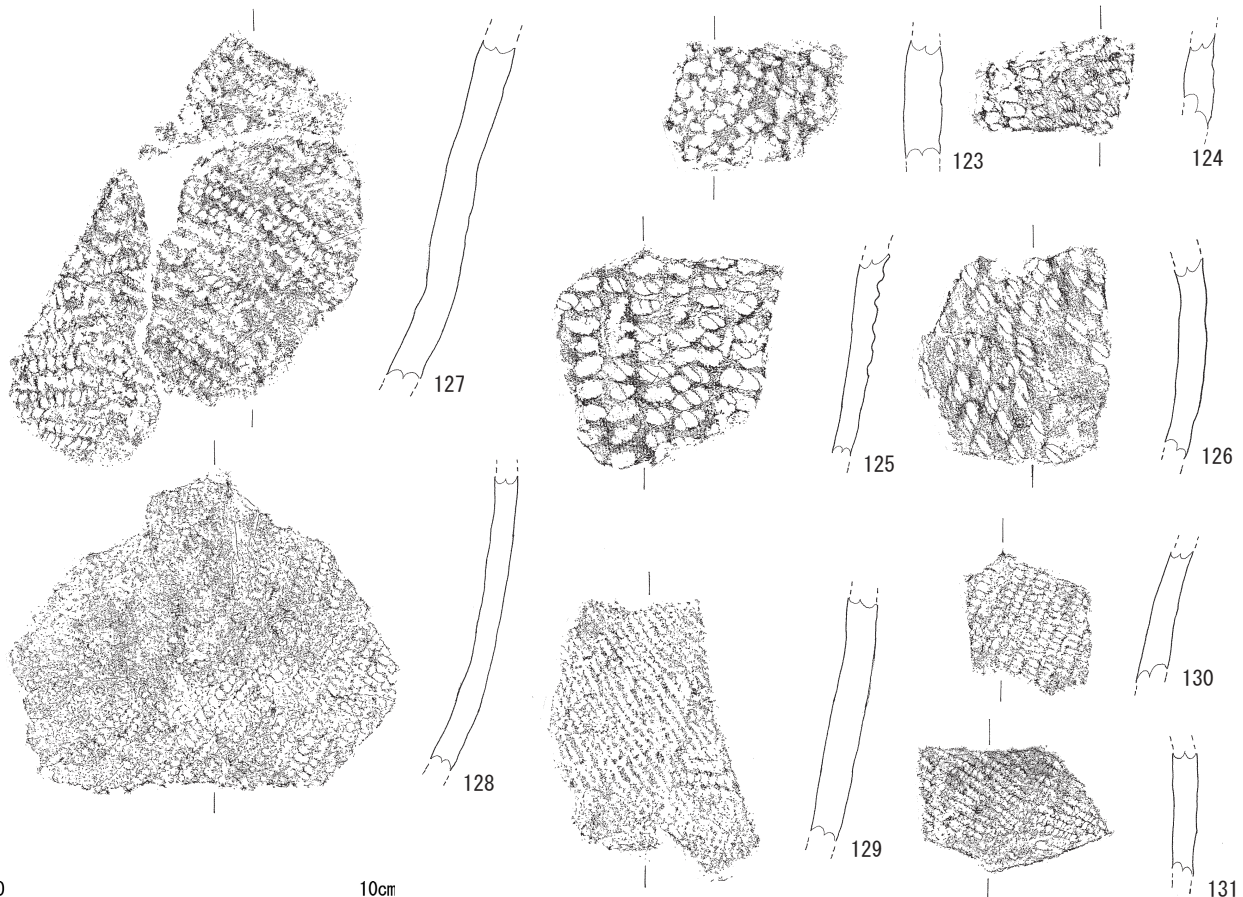
気味となる。口縁部以下の外面には細い縄文、口縁部の境界に2段の側面圧痕が横方向に施されている。口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。施文が浅かったのだろうか、文様自体が非常に見づらい。また、内面には指圧痕が残る。67は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には細い縄文、口縁部の境界に2段の側面圧痕が横方向に施されている。口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。施文が浅かったのだろうか、文様自体の確認が難しい。また、内面には指圧痕が残る。



第IV-11図 SZ1出土土器実測図9(1:2)

68は、口縁部が少し外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には細い縄文、口縁部の境界に2条の側面圧痕が横方向に施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部の縄文原体と同じ原体と考えられる。施文が浅かったのだろうか、文様自体が非常に見づらい。また、内面には指圧痕が残る。69は、口縁部以下の外面には縄文、2段の横位の側面圧痕が横方向に施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口縁部内面の最上部にも縄文が施されている。70は、口縁部以下の外面には縄文、2段の横位の側面圧痕が横方向に施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口縁部内面の最上部にも縄文が施されている。71は、口縁部以下の外面には縄文、2段の側面圧痕が横方向に施されている。外面下部の文様については剥離により確認することはできない。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口縁部内面最上部に縄文が施され、縄文以下に指圧痕がみられる。72は、口縁部以下の外面には縄文が施されている。少

し厚めの口唇部には縄文が施されており、口唇部直下の口縁部上端内面に縄文が施されている。73は、若干外反する短い口縁部以下の外面には縄文が施され、少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口唇部直下の口縁部上端内面に縄文が施されている。内面の縄文以下には指圧痕が明瞭に残る。74は、外傾する口縁部外面には縄文が施され、口唇部にも縄文が施されている。また、口縁部内面の最上部には縄文が施されている。75は、外傾する口縁部外面には縄文が施されているが、下部は剥離により確認ができない。少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口縁部内面の最上部にも縄文が施されている。76は、口縁部の外面には縄文が施されているが、下部は剥離により確認ができない。若干外傾する少し厚めの口唇部には縄文が施されており、口唇部直下の口縁部内面最上部に縄文が施されている。これらは表裏縄文土器と呼称されているものである。77は、短い口縁部が少し外反し、外面には縄文が施されている。口唇部は形成されていないが、断面がうちそぎ状となる口縁部内面最上部に縄文が

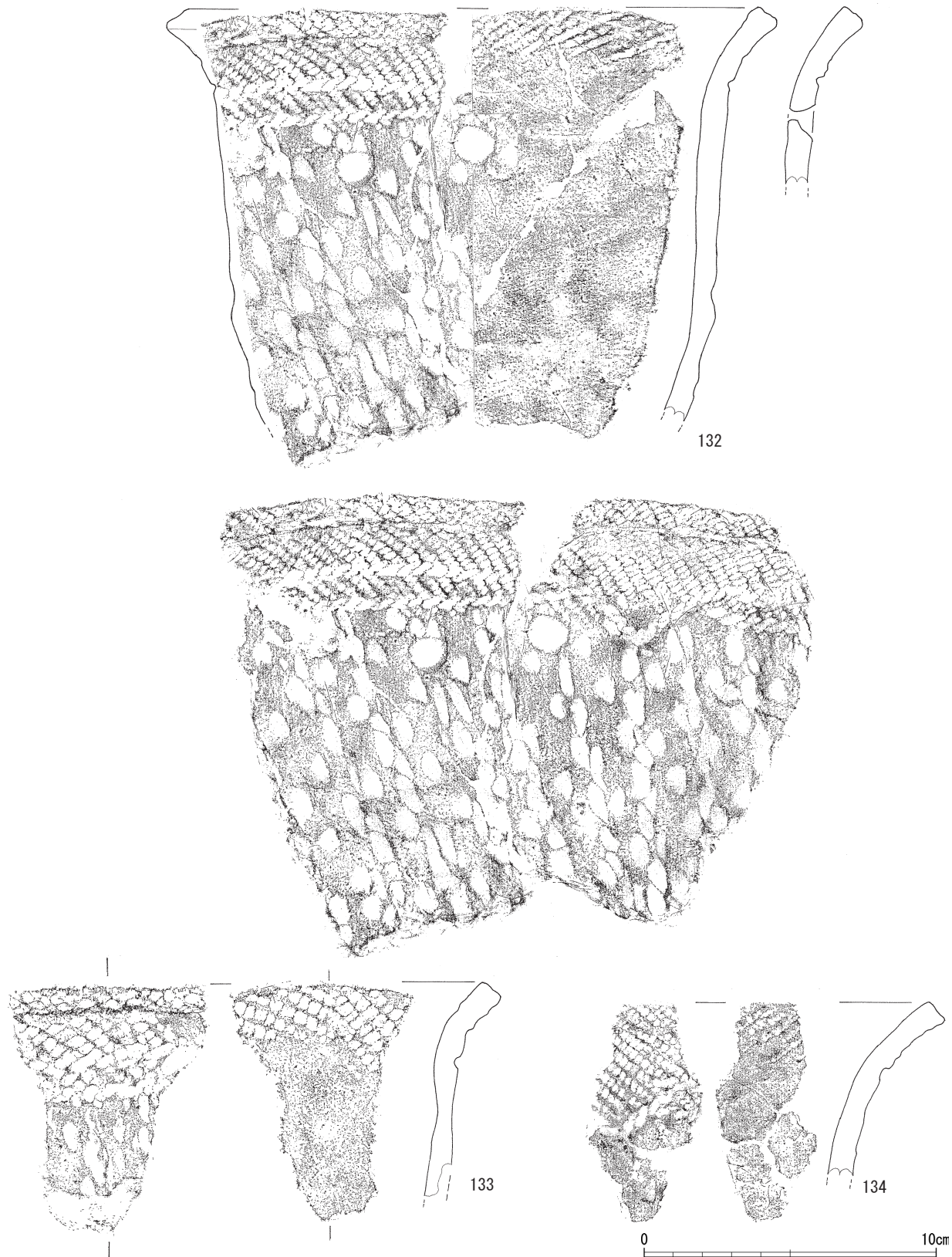


第IV-12図 SZ1出土土器実測図10(1:2)

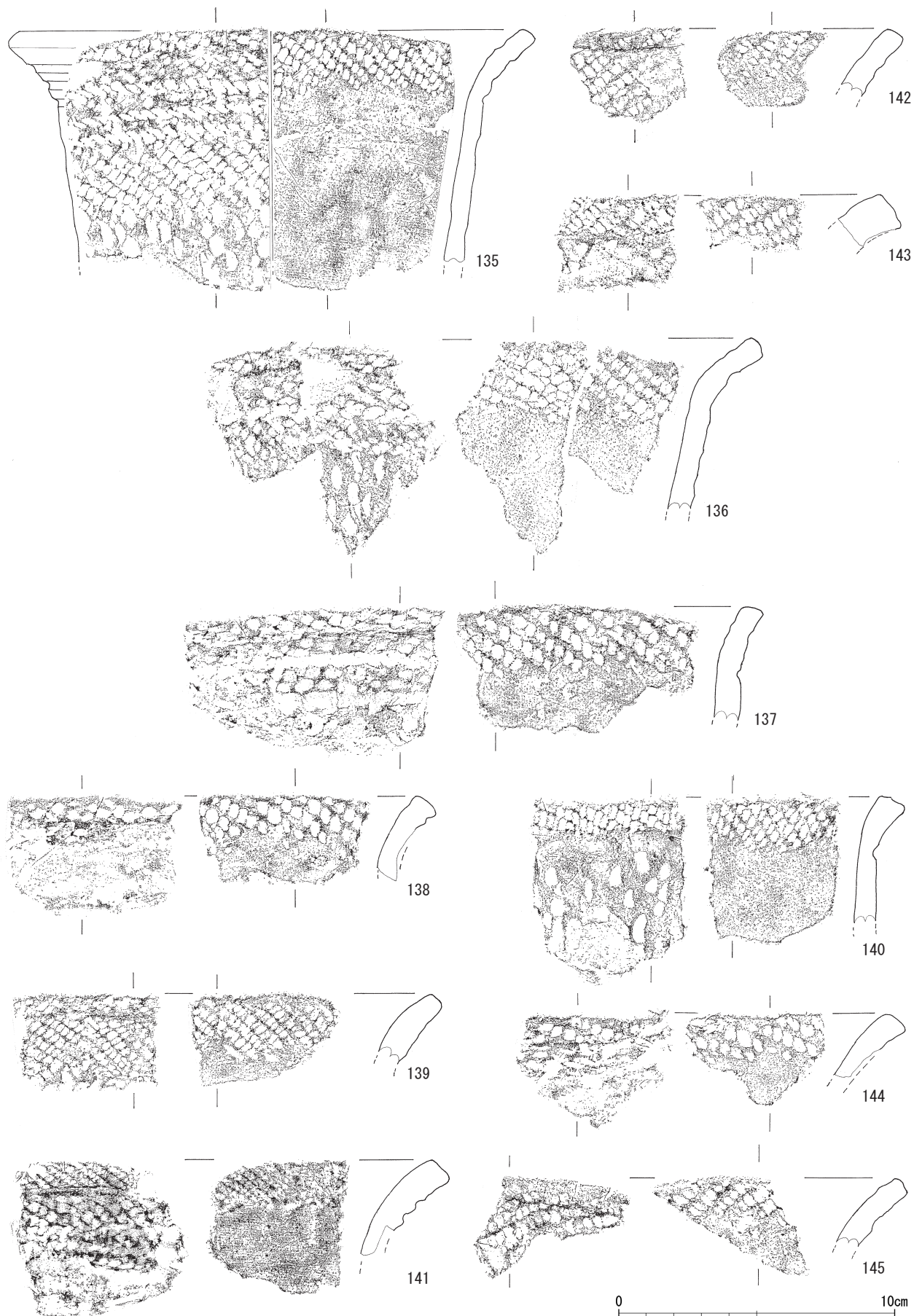
施されている。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

78～82は、前述の64～77と文様構成、器形は同様

であるが、土器内面に縄文が施されていない口縁部片である。器厚は厚めである。78は、口縁部が若干外傾し、以下は直立気味となる。口縁部外面は縄文、



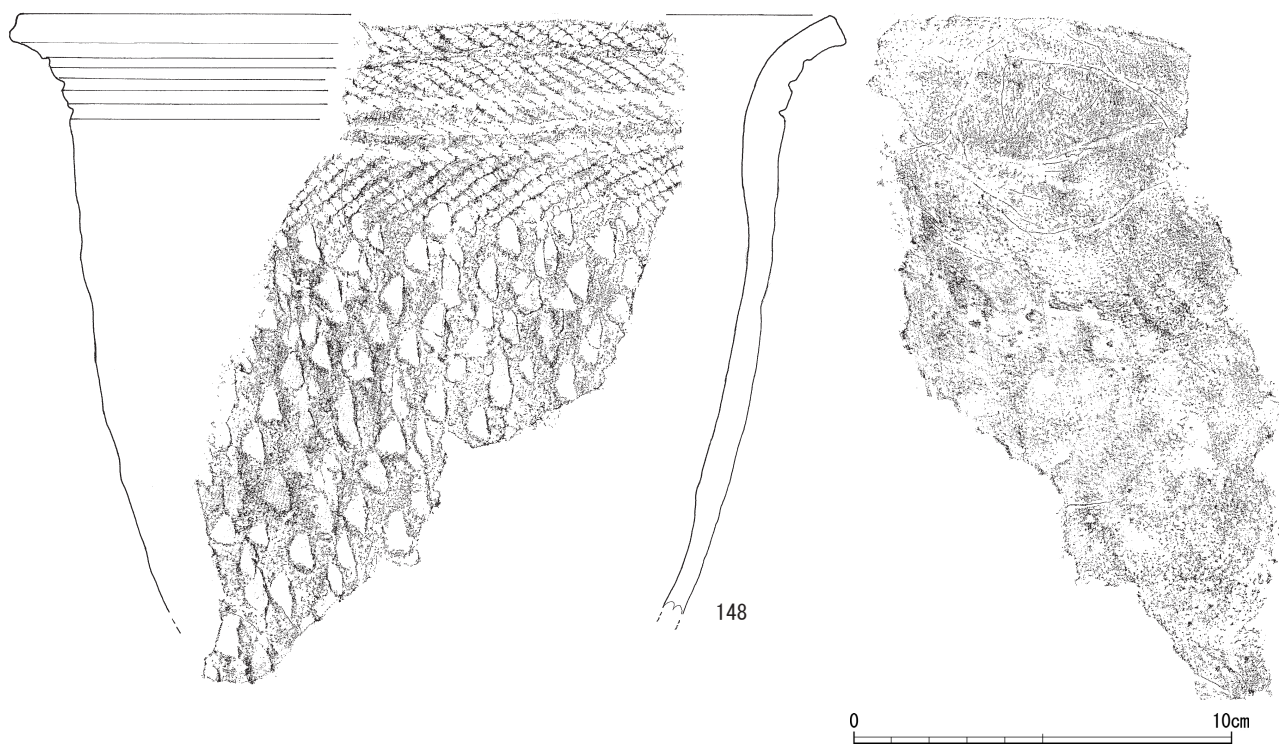
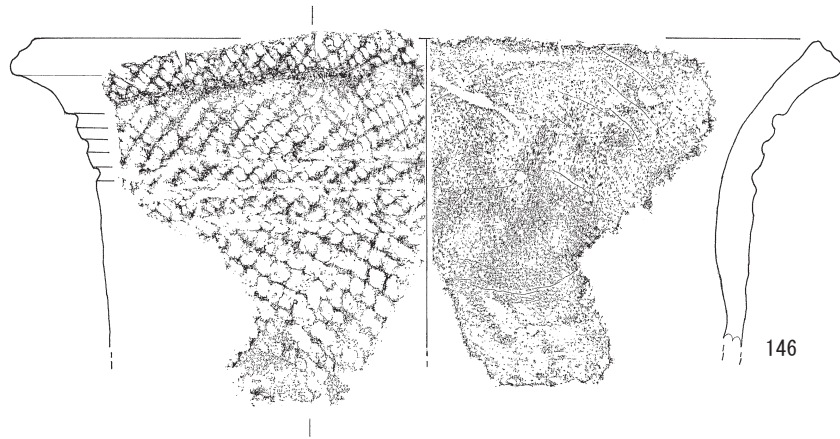
第IV-13図 SZ1出土土器実測図11(1:2)



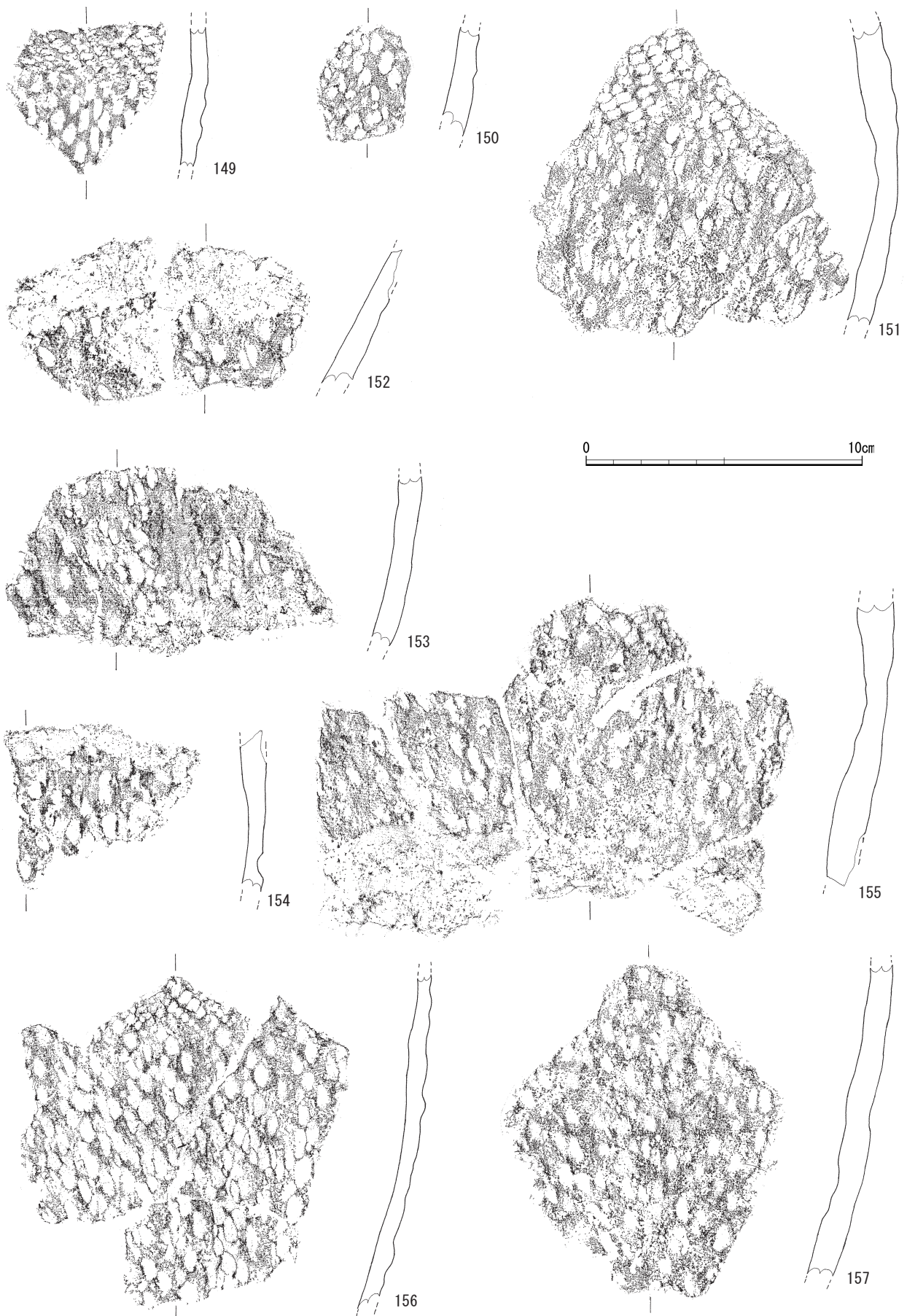
第IV-14图 SZ1出土土器实测图12(1:2)

口縁部以下の外面にも縄文が施されている。外傾する口縁部と直立気味の頸部以下の境界には2段の側面圧痕が横方向に施されている。その側面圧痕最下部と重複する形で半弧状に連続する縄文原体による

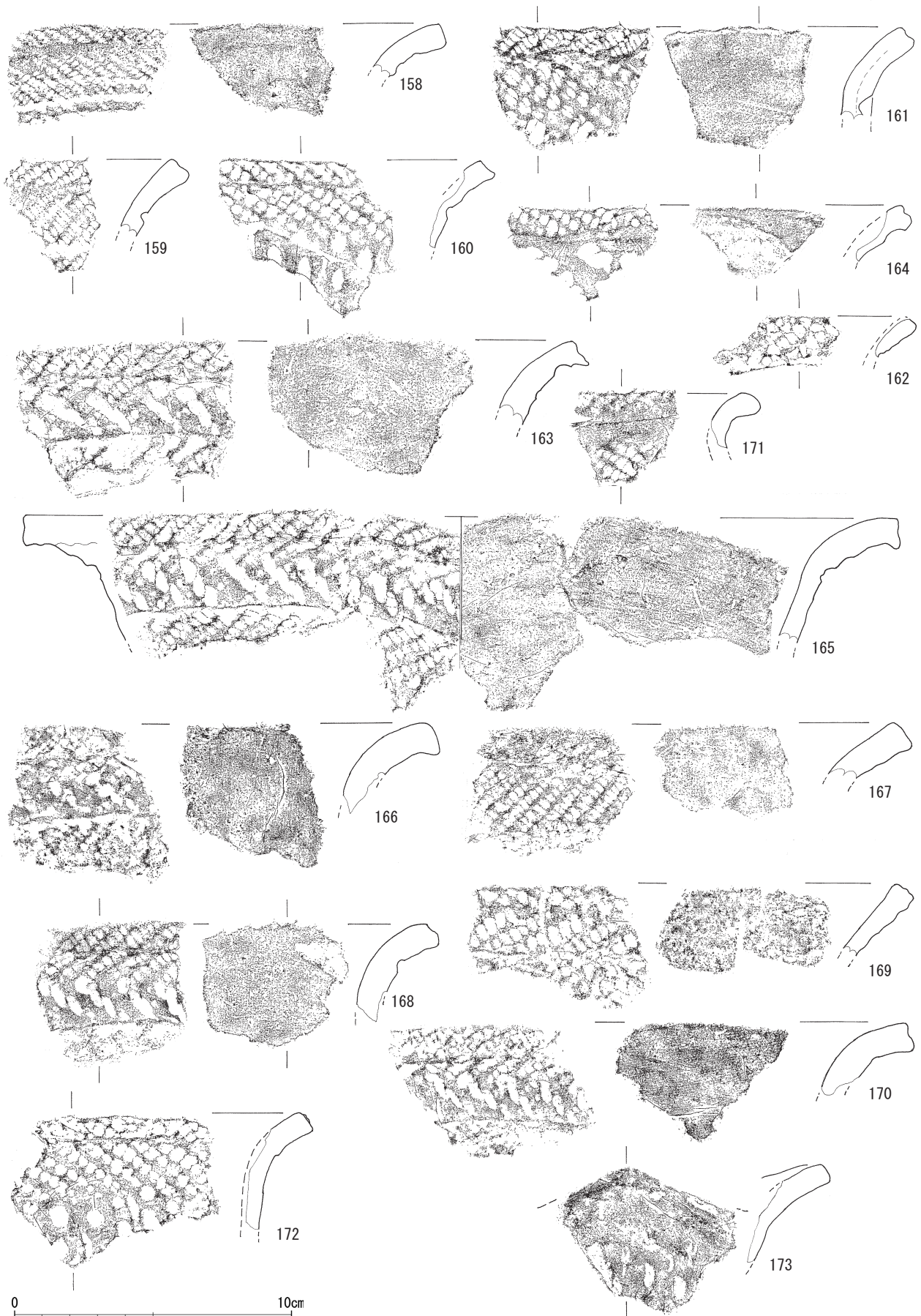
圧痕がみられる。その側面圧痕に重複する形で焼成後穿孔が1ヶ所みられる。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。側面圧痕の縄文原体と同じものである。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。



第IV-15図 SZ1出土土器実測図13(1:2)



第IV-16图 SZ1出土土器实测图14(1:2)

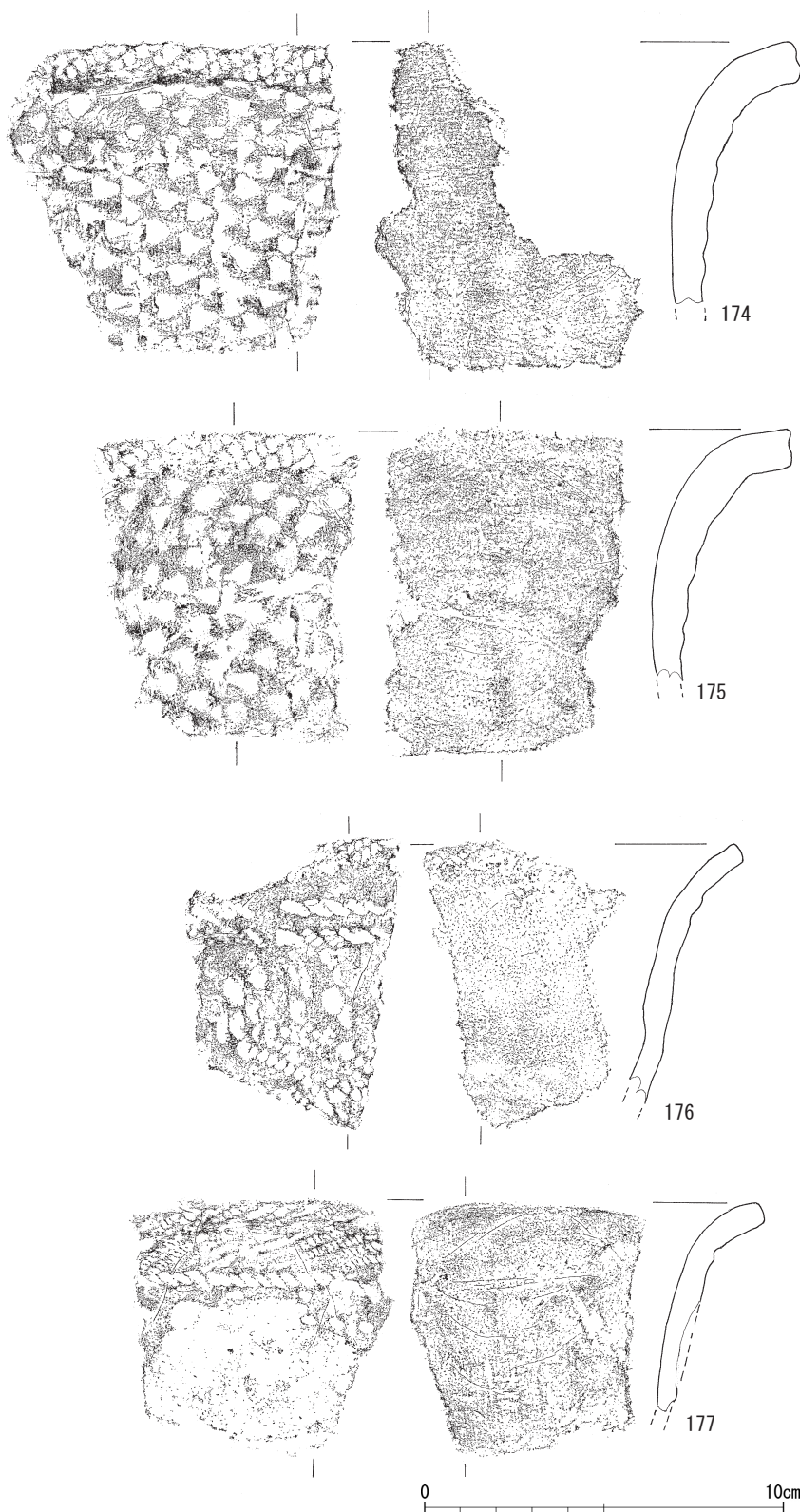


第IV-17图 SZ1出土土器实测图15(1:2)

半弧状に連続する圧痕については、周辺地域では出土例がないため、位置づけが難しい。79は、口縁部が若干外傾し、口縁部外面は縄文、口縁部以下の外面にも縄文が施されている。外傾する口縁部と直立気味の体部の境界には2段の側面圧痕が横方向に施されている。その側面圧痕最下部と重複する形で半弧状に連続する縄文原体による圧痕がみられる。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。側面圧痕の縄文原体と同じものであろうか。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。80は、口縁部は若干外傾し、外面には縄文が施されている。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。81は、外傾する口縁部外面には縄文が施され、縄文原体が違う押圧もみられる。内面には調査時に掘削の道具が当たって破損して判然としないが、縄文の施文はないと思われる。口縁部以下の内面には指圧痕が残る。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。82は、口縁部は少し外反する。口縁部外面は、無文部があり、その下に縄文原体による半弧状の圧痕がみられ、その圧痕以下に縄文が施されている。口唇部は形成されていない。このような文様構成は、当遺跡ではあまりないものではあるが、ひとまずこの一群に含めておきたい。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

83～86は、土器外面に横方向に側面圧痕や縄文が施され、内面には指圧痕及びナデがみられる頸部付近のものである。器厚は厚めである。83は、土器外面には縄文が施されており、割れ

た部分には縄文がみられる。側面圧痕と考えてよいだろう。84は、土器外面に横方向に側面圧痕が2段、以下に縄文が施されている体部片である。縄文原体は複節のものといえよう。85は、土器外面には、口縁部に近い方が細かく、それ以下に太い縄文が施さ



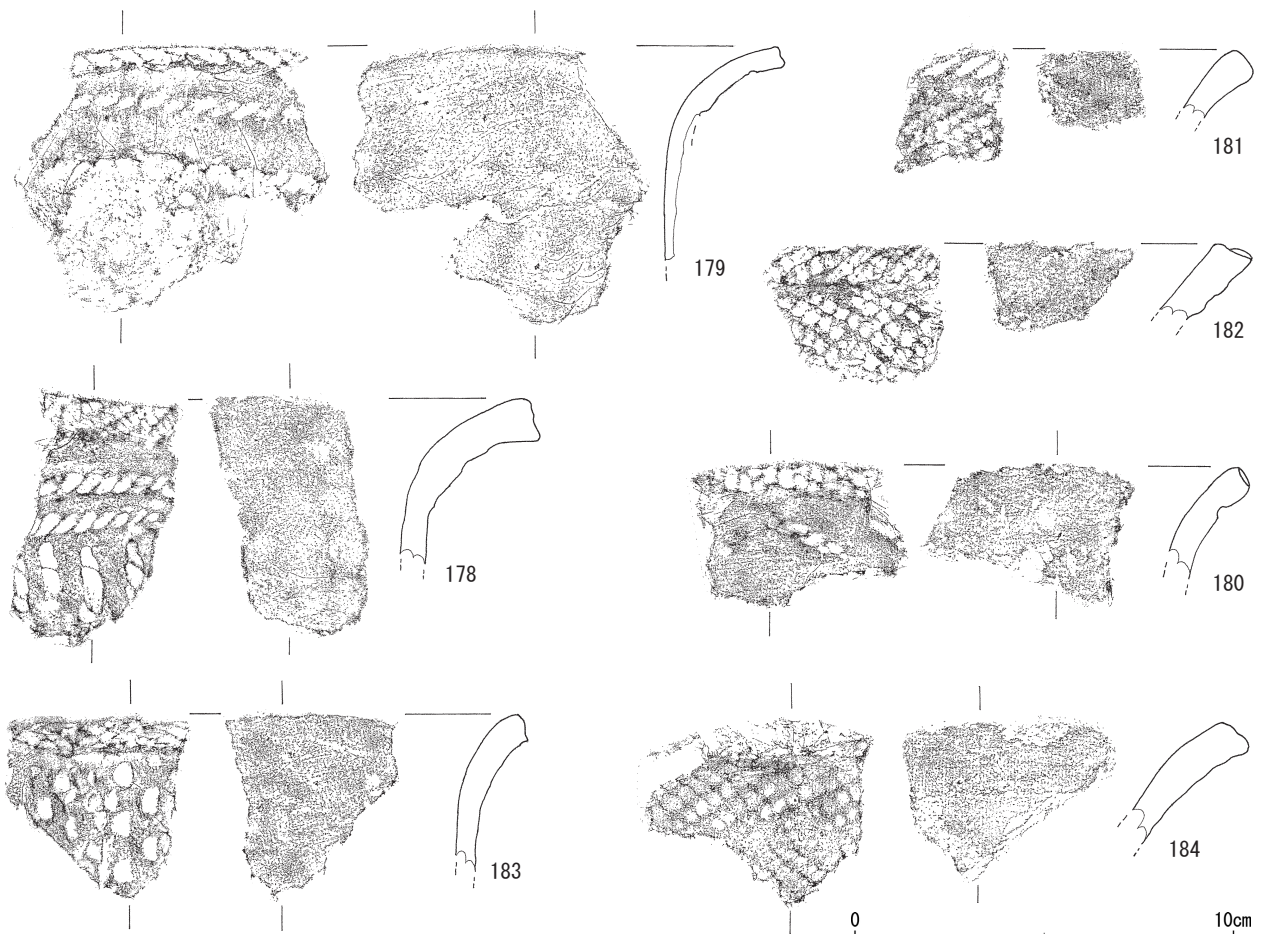
第IV-18図 SZ1出土土器実測図16(1:2)

れている。86は、口縁部直下付近のものといえる。外面には、横方向に側面圧痕が1段施され、以下には縄文が施されている。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

87～131は、土器外面に縄文が施され、内面には指圧痕及びナデがみられる体部片である。87は、土器外面の全部に縄文が施されている。このための縄文原体は単節縄文と考えられる。88は、土器外面の全部に縄文が施されている。縄文原体としては、複節縄文といえ、太くなっている。89～97は、土器外面の全部に縄文が施されている。太い縄文原体で単節縄文といえよう。90は、土器外面の全部に縄文が施されている。三重県射原垣内遺跡において同様の土器が出土している⁹⁾。96は、縄文原体を器面に軽く転がしながら断続的に押圧する半置半転であろうか⁹⁾。98は、土器外面の全部に縄文が施されている。縄文原体が複節縄文で、太いものである。99・100は、土器外面の全部に縄文が施されている。太い縄文原体で単節縄文といえよう。101～122は、土器外

面の全部に縄文が施されている。細い縄文原体で単節縄文と思われる。117は、三重県坂倉遺跡で類似の土器が出土している¹⁰⁾。121・122は、底部付近のものといえよう。123・124は、土器外面の全部に縄文が施されている。細い縄文原体であるが複節縄文による施文であろうか。129～131は、土器外面の全部に縄文が施されている。より細い無節縄文の原体により施文がなされている。128は、室谷下層式といった多縄文系に連なるものか¹¹⁾。129は、大川式期や神宮寺式期にはあまりないものである。131は、室谷下層式期の範疇のものと思われる。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

132～145は、口縁部から頸部にかけての外表面、口縁部内面の最上部に縄文が施されている口縁部片で、頸部以下は主に枝回転文となる。口縁部内外面に縄文施文が集約されている。132は、少し厚めの口唇部に縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が2条みられる。2段の側面

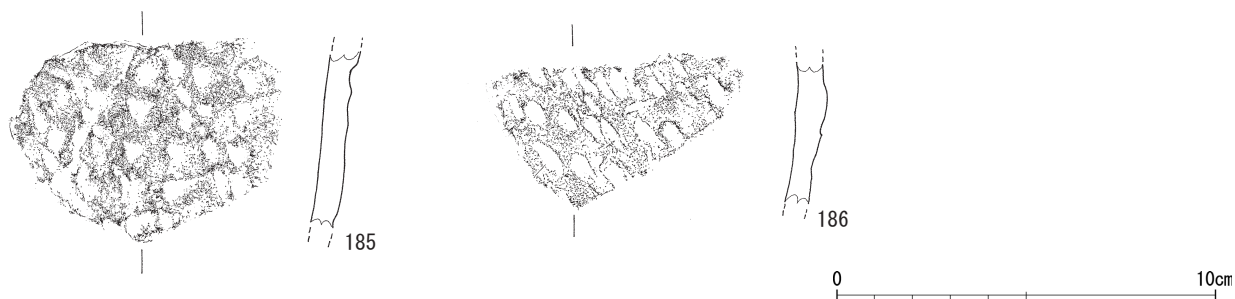


第IV-19図 SZ1出土土器実測図17(1:2)

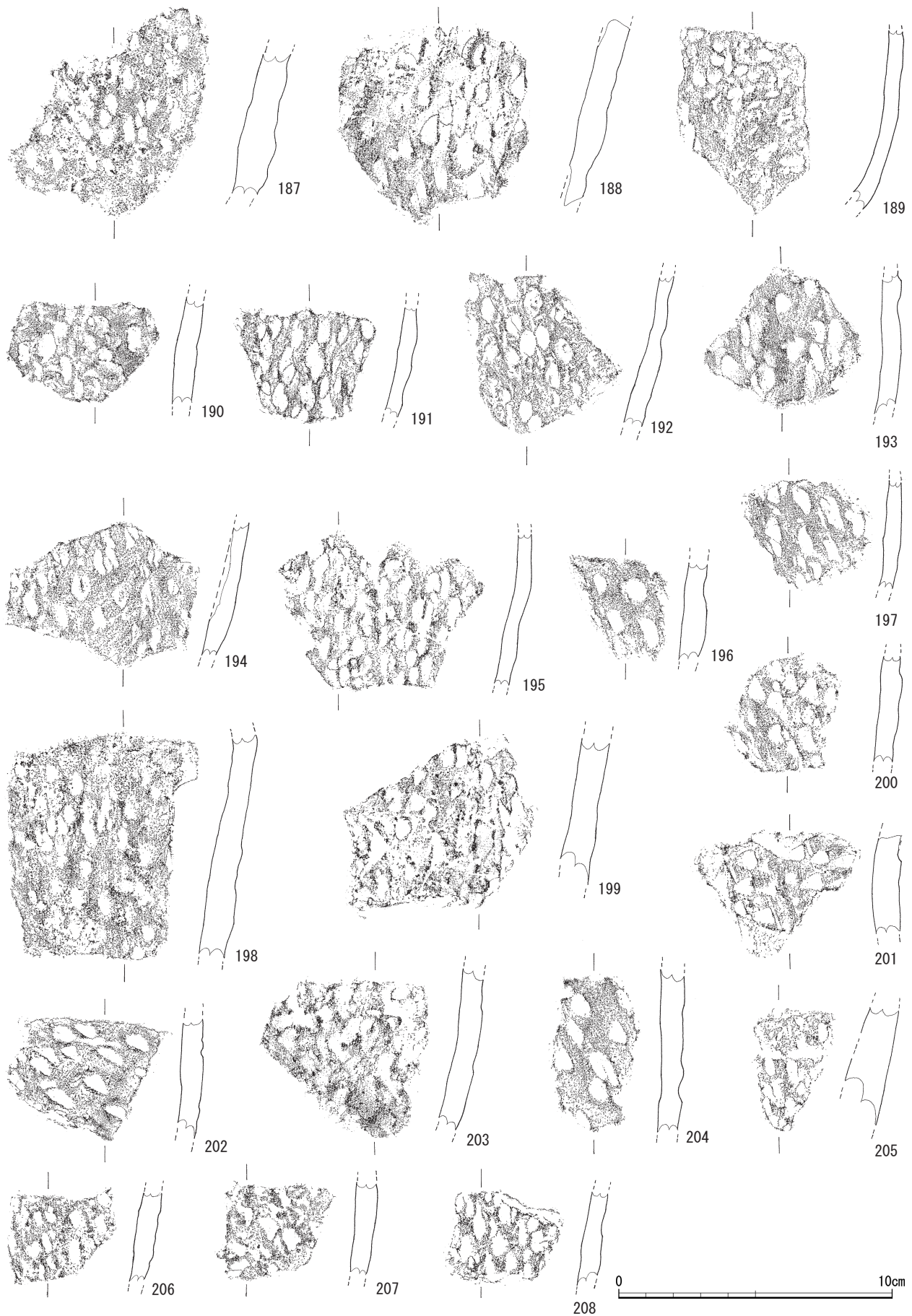
圧痕を区画するかのようにより半弧状になる圧痕が施されている。残存破片から類推すると弧状の端が合流するものは2ないし4単位となるのではないだろうか。側面圧痕より下には全体的に枝回転文が施されている。また、側面圧痕直下に焼成後穿孔が2ヶ所確認できる。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。133は、少し厚めの口唇部に縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が2段みられる。側面圧痕より下には全体的に枝回転文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。

134は、少し厚めの口唇部に縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施されている。縄文施文部を区画するかのようにより半弧状になる132と同様の圧痕が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。132～134では縄文と枝回転文の施文の境界が明瞭なことがわかる。135は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が3段みられる。側面圧痕より下の体部上半まで縄文がみられる。それ以下には全体的に枝回転文が施されている。また、口縁部内面の最上部に縄文が施されている。136は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が2

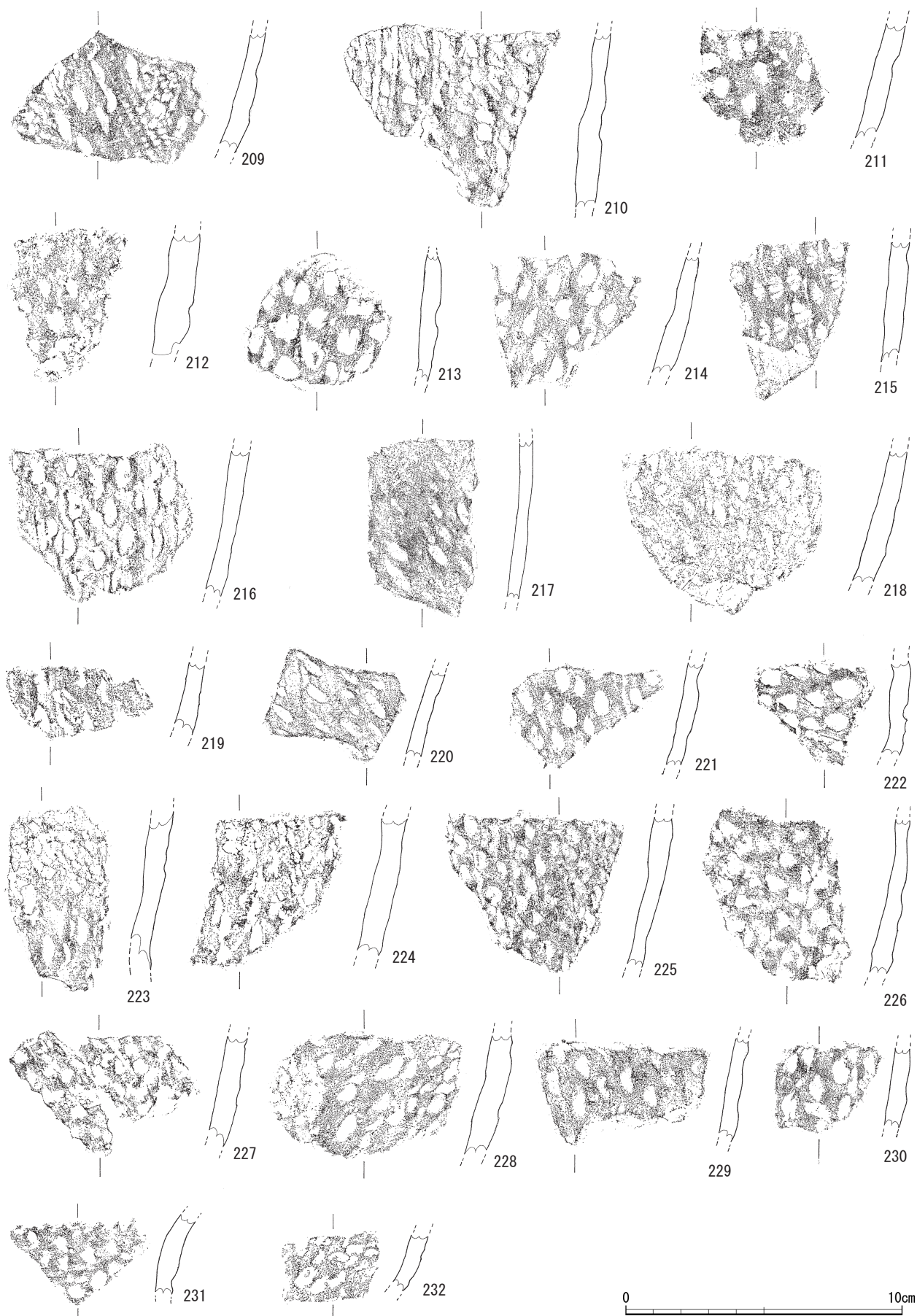
段みられる。側面圧痕より下には全体的に枝回転文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。135・136では縄文と枝回転文の施文の境界が曖昧になっていることがわかる。137は、口唇部直下が若干外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には縄文、外傾と直立する部分の境界付近に横方向の側面圧痕が3段施されている。その側面圧痕下にも縄文が施され、最下部に枝回転文がみられる。少し肥厚する口唇部には縄文が施されている。側面圧痕の縄文原体と同じものであろうか。また、内面の口縁部最上部にも縄文が施されている。138は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施されている。それより下は施文部分が剥落している。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。139は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、頸部付近に縄文原体による横方向の側面圧痕が1段みられる。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。140は、口唇部直下が若干外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には枝回転文がみられる。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。また、内面の口縁部にも縄文が施されている。141は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外反する口縁部外面に縄文が施され、頸部付近に縄文原体による横方向の側面圧痕が2段みられる。それより下は施文部分が剥落している。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。142は、少し厚めの口唇部には縄文が施され



第IV-20図 SZ1出土土器実測図18(1:2)



第IV-21图 SZ1出土土器实测图19(1:2)



第IV-22图 SZ1出土土器实测图20(1:2)

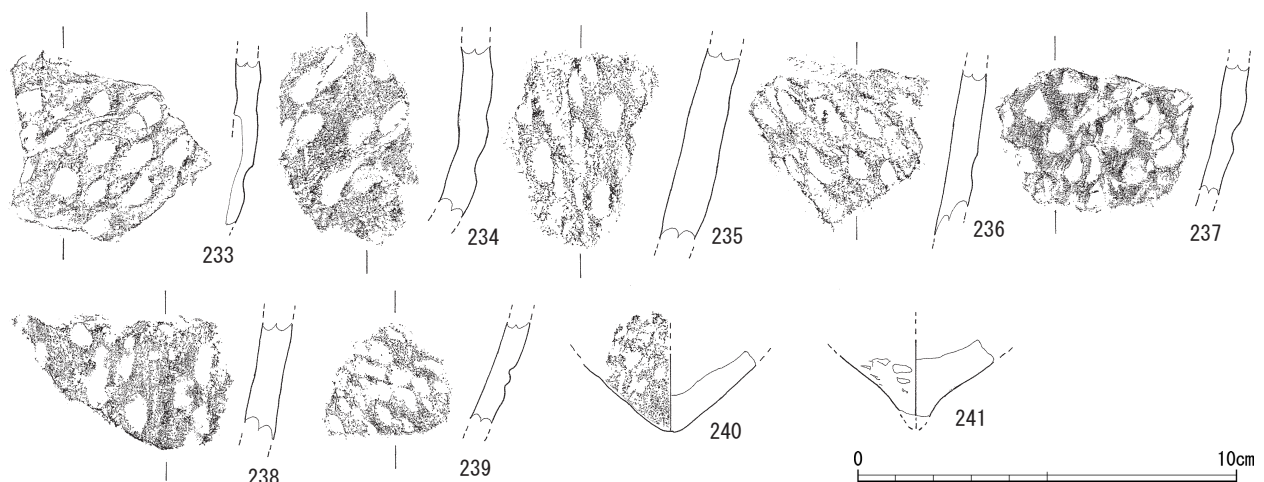
ている。やや外反する口縁部外面に縄文が施されている。それより下は施文部分が剥落している。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。143は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外反する口縁部外面に縄文が施されている。それより下は施文部分が剥落している。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。144は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外反する口縁部外面に縄文が施されている。それより下は施文部分が剥落している。内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。145は、口唇部に縄文が施されている。少し外反する口縁部外面に縄文が施されている。口縁部内面の最上部に縄文が施されており、口唇部に施文の縄文原体と同じ原体と考えられる。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

146～148は、土器外面の縄文と枝回転文との境界が曖昧で、口縁部内面に縄文施文がみられないものである。146は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が3段みられる。側面圧痕より下に縄文が施され、以下に全体的に三角形の枝回転文が施されている。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。147は、口唇部直下がやや外傾し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には縄文、外傾と直立する部分の境界に横方向の側面圧痕

痕が3段施されている。その側面圧痕下にも縄文が施され、最下部に枝回転文がみられる。少し厚めの口唇部には縄文が施されている。側面圧痕の縄文原体と同じものであろうか。また、内面には指圧痕が明瞭に残る。148は、少し厚めの口唇部には縄文が施されている。やや外傾する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が3段みられる。側面圧痕より下に縄文が施され、以下に全体的に三角形の枝回転文が施されている。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

149～157は体部片で、土器内面は指圧痕とナデで、古い様相がみられるものである。149・151・156は、土器外面に枝回転文が施された体部片である。土器外面に縄文、以下に枝回転文が施されている。一部に縄文が施されている。土器内面には施文がない。150・152～155・157は、土器外面に枝回転文が施された体部片である。これらは、縄文系土器期のものといえよう。

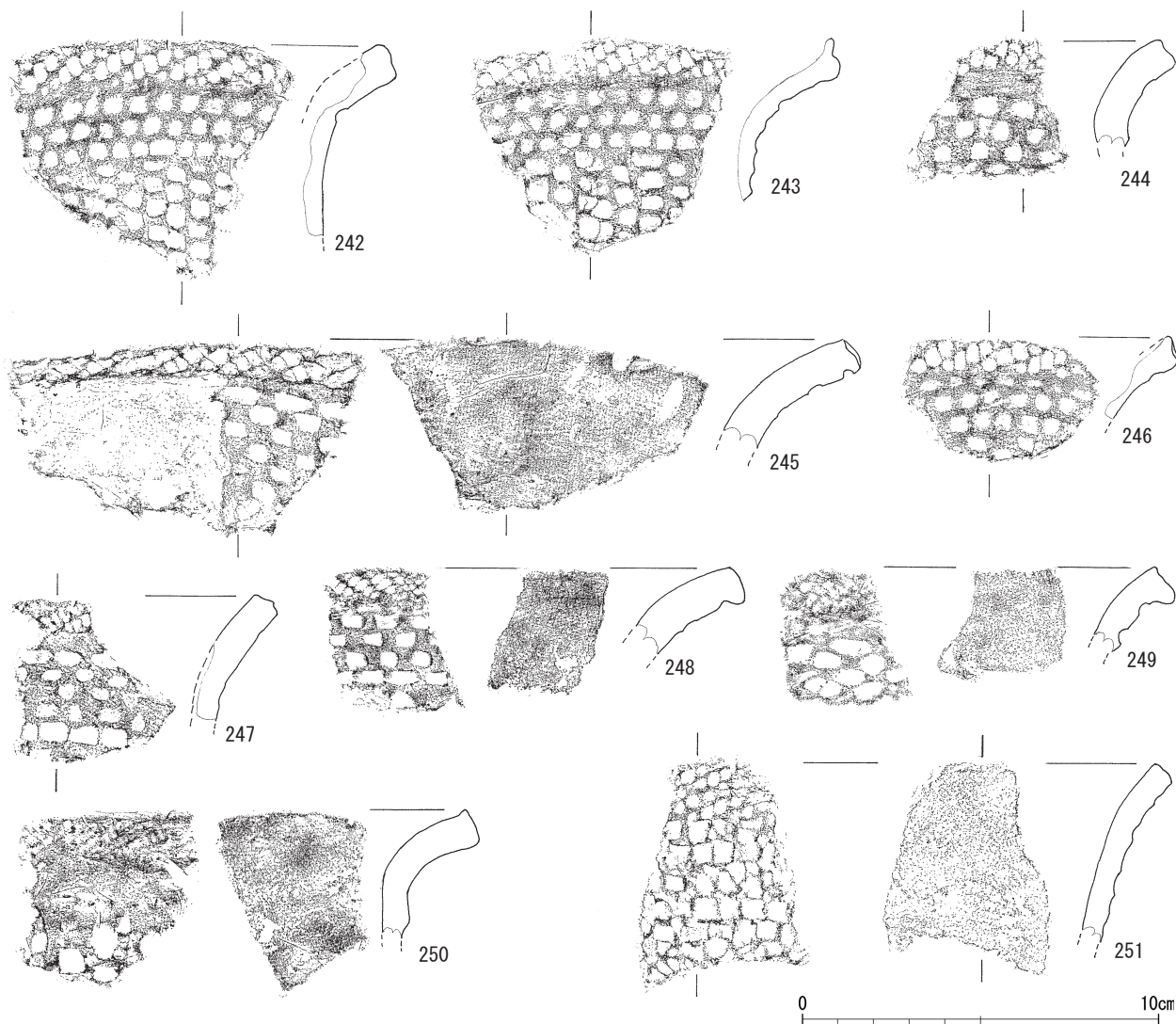
158～184は、外反する口縁部から頸部にかけての破片で、一部は体部上半まで残るものもある。土器外面には縄文や枝回転文等が施され、内面はきれいにナデられなめらかかといってよいものである。158は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が2段みられる。側面圧痕より下にも縄文が施されているようである。159は、肥厚する口唇部には縄文が施



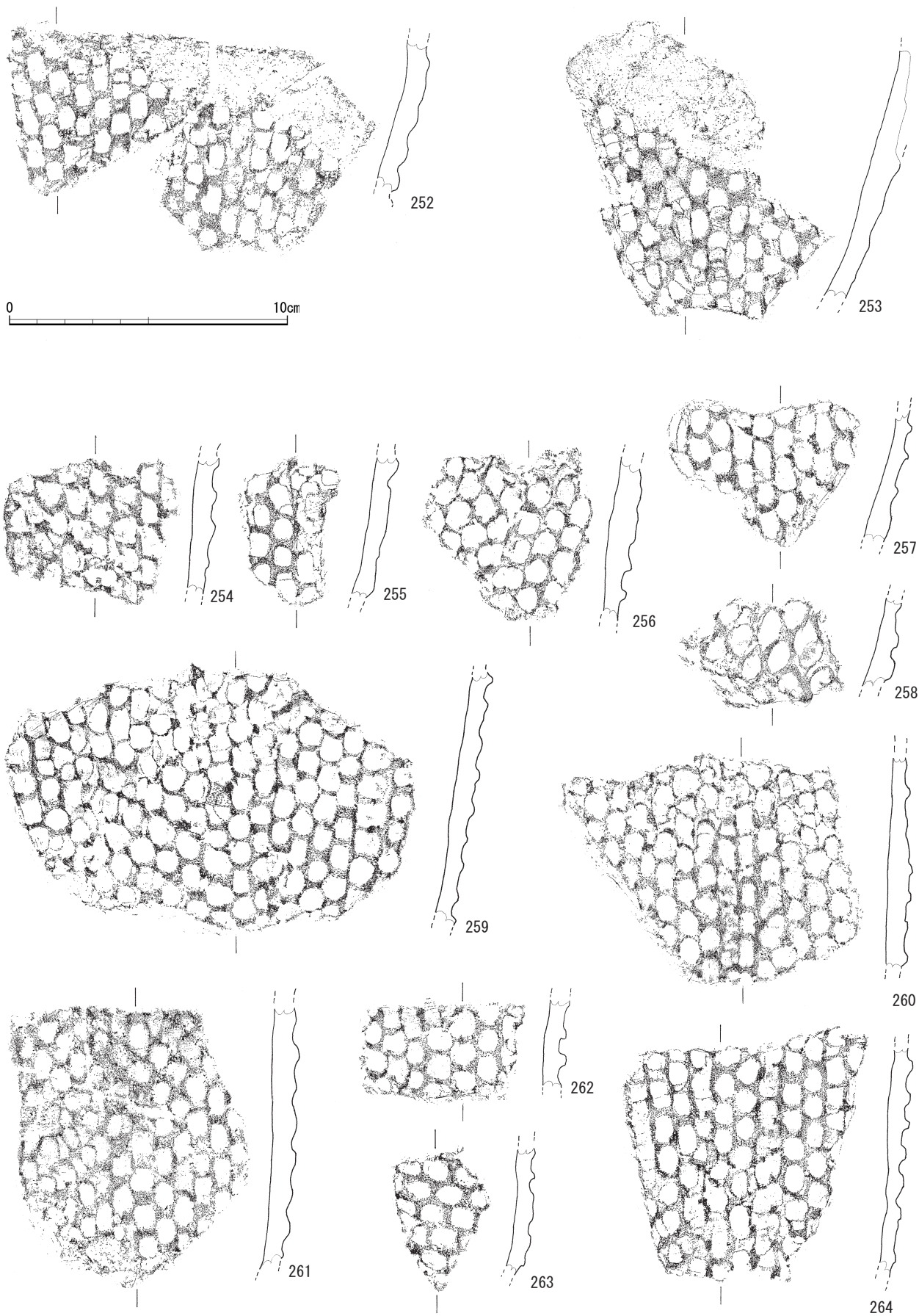
第IV-23図 SZ1出土土器実測図21(1:2)

されている。外反する口縁部外面に縄文が施され、縄文原体による側面圧痕1段がかすかに確認できる。160は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施され、それ以下に枝回転文がみられる。内面は表面が大きく剥落している。161は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による圧痕がみられる。単節縄文といえよう。162は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施されている。内面は剥落している。163・165・166・168・170は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施されている。縄文原体端の押圧が羽状となっている。164は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文原体端の押圧がみられる。167・

169は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面に縄文が施されている。171は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する短い口縁部外面に縄文が施されている。口唇部下は無文であろうか。172は、肥厚する口唇部に縄文が施され、外反する口縁部外面には上から縄文、頸部以下には枝回転文がみられる。土器内面には施文がなされていない。173は、少し外反する口縁部外面にはネガティブな押型文が施されている。枝回転文であろうか。波状口縁となるようである。174は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面、口唇部直下に扇様の枝回転文が施されている。しなる枝によるものであろうか。内面には指圧痕が残る。器厚が厚い。175は、口唇部直下が外反し、以下は直立気味となる。口縁部以下の外面には枝回転文がみられる。しなる枝により施文され



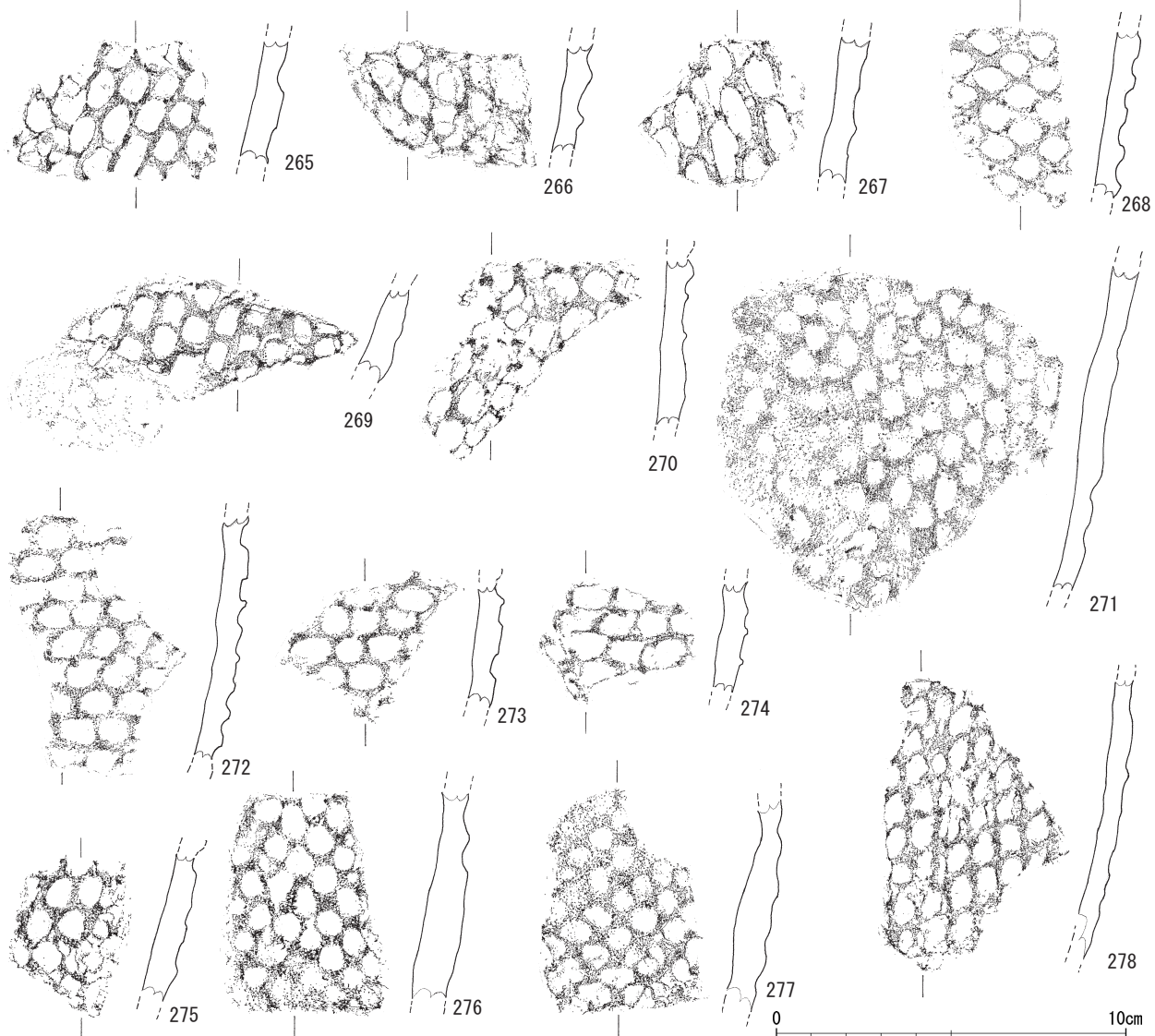
第IV-24図 SZ1出土土器実測図22(1:2)



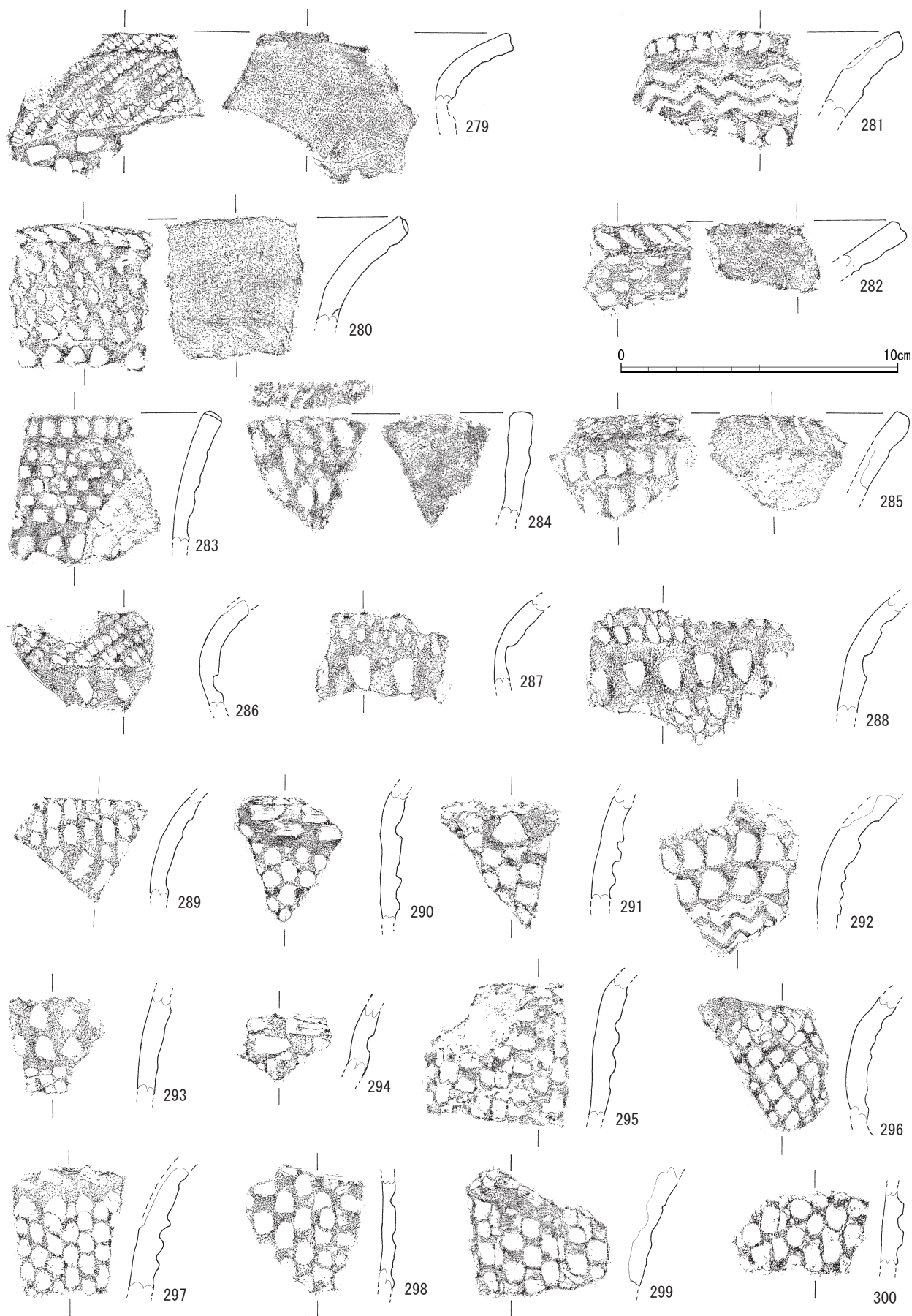
第IV-25图 SZ1出土土器实测图23(1:2)

ていたのだろう。角頭状の口唇部には縄文が施されている。また、内面には指圧痕がみられる。器厚が厚い。176は、口唇部には縄文が施されている。少し外反する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が2段みられる。側面圧痕より下に縄文が施され、以下に枝回転文が施されている。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。177は、口唇部には縄文が施されている。少し外反する口縁部外面に縄文が施され、直立気味になる口縁部から頸部に縄文原体による横方向の側面圧痕が2段みられる。側面圧痕より下は施文部分が薄く剥落している。ここには枝回転文が施されているものといえよう。また、口縁部より下の内面には指圧痕が明瞭に残る。178は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。

外反する口縁部外面、口唇部直下に縄文原体による側面圧痕が2段施されており、以下には縄文原体端による押圧、枝回転文がみられる。内面には指圧痕が残っている。179は、少し肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面、口唇部直下に縄文原体による横方向の側面圧痕が2段施され、圧痕間の間隔が広い。2段目の圧痕の下は表面が薄く大きく剥落している。内面には指圧痕が残っている。180は、少し肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面には縄文原体端による押圧がみられる。181・182は、少し肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面には縄文がみられる。183は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面、口唇部直下に枝回転文が施されている。内面には指圧痕が残る。



第IV-26図 SZ1出土土器実測図24(1:2)

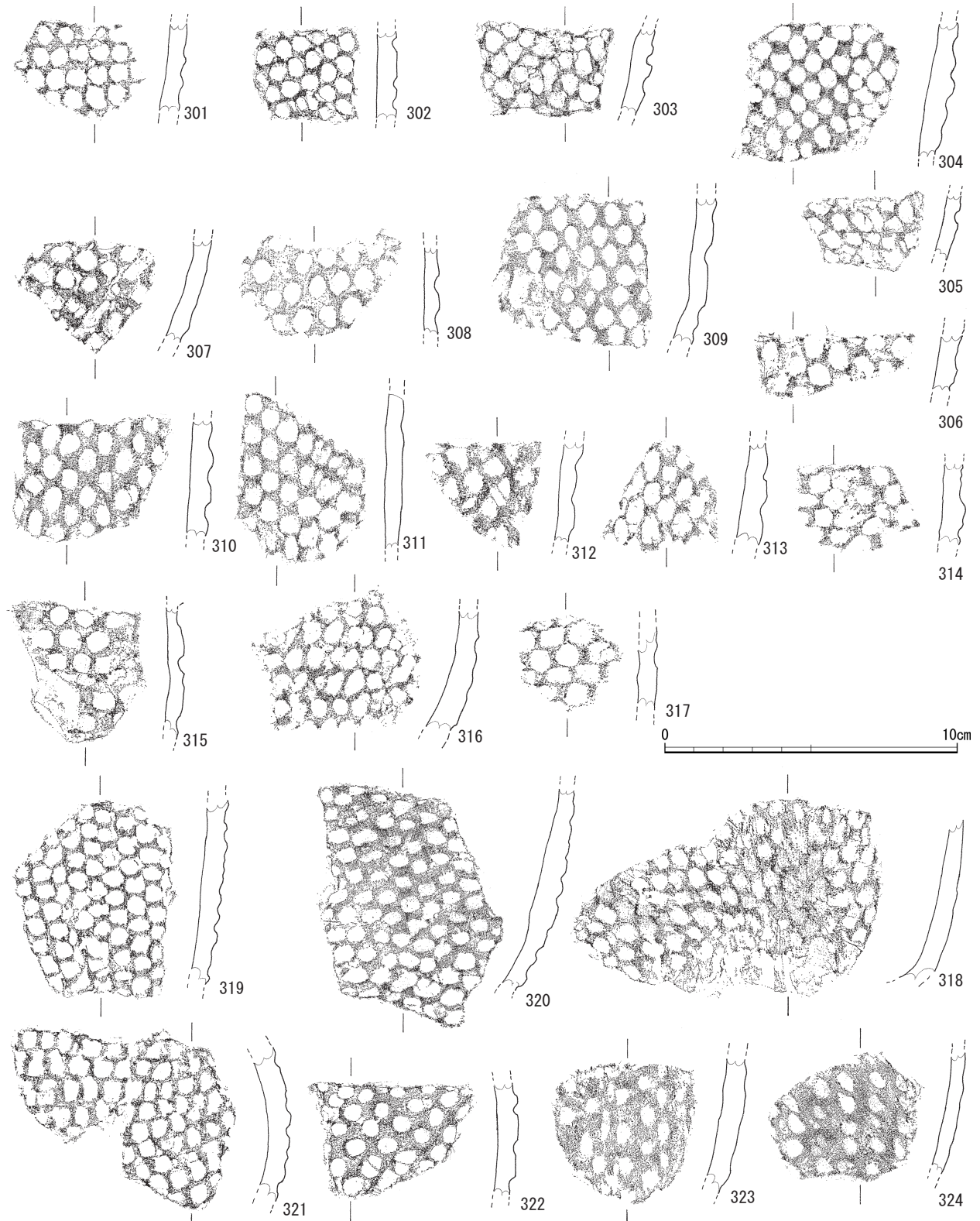


第IV-27图 SZ1出土土器实测图25(1:2)

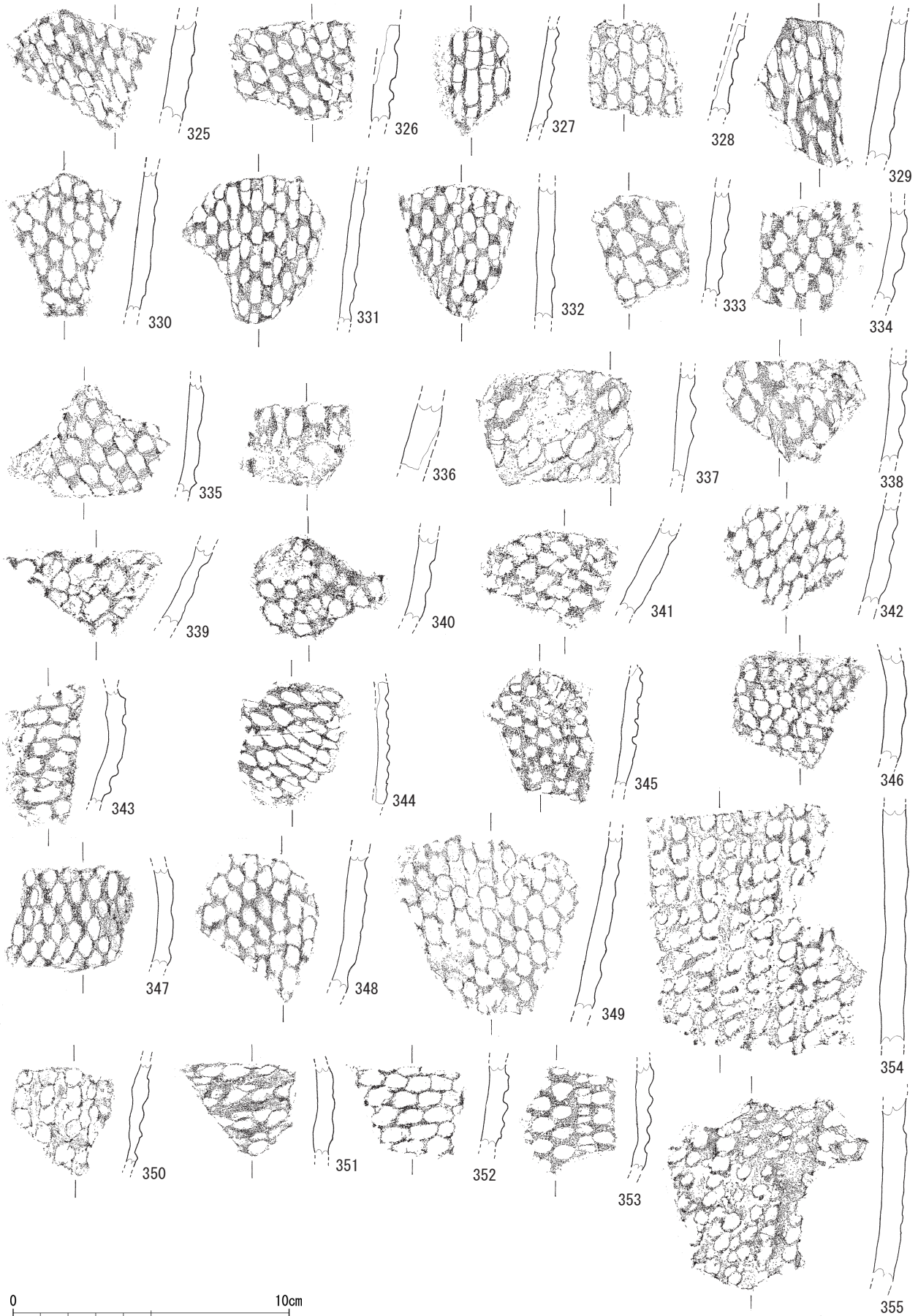
184は、肥厚する口唇部には縄文が施されている。
外反する口縁部外面に、羽状の縄文が施されている。
これらは大鼻式期のものといえる。

185～239は体部片である。土器内面には指圧痕や
ナデがみられる。185・186は、土器外面に枝回転文

が施されている。187～239は、土器外面に枝回転文
が施されている。施文の重複が一部にみられる。209
は一部縄文が施されているものか。240・241は、土
器外面に枝回転文が施され、施文の重複がみられる
尖底の底部片である。これらは大鼻式期のものと



第IV-28図 SZ1出土土器実測図26(1:2)

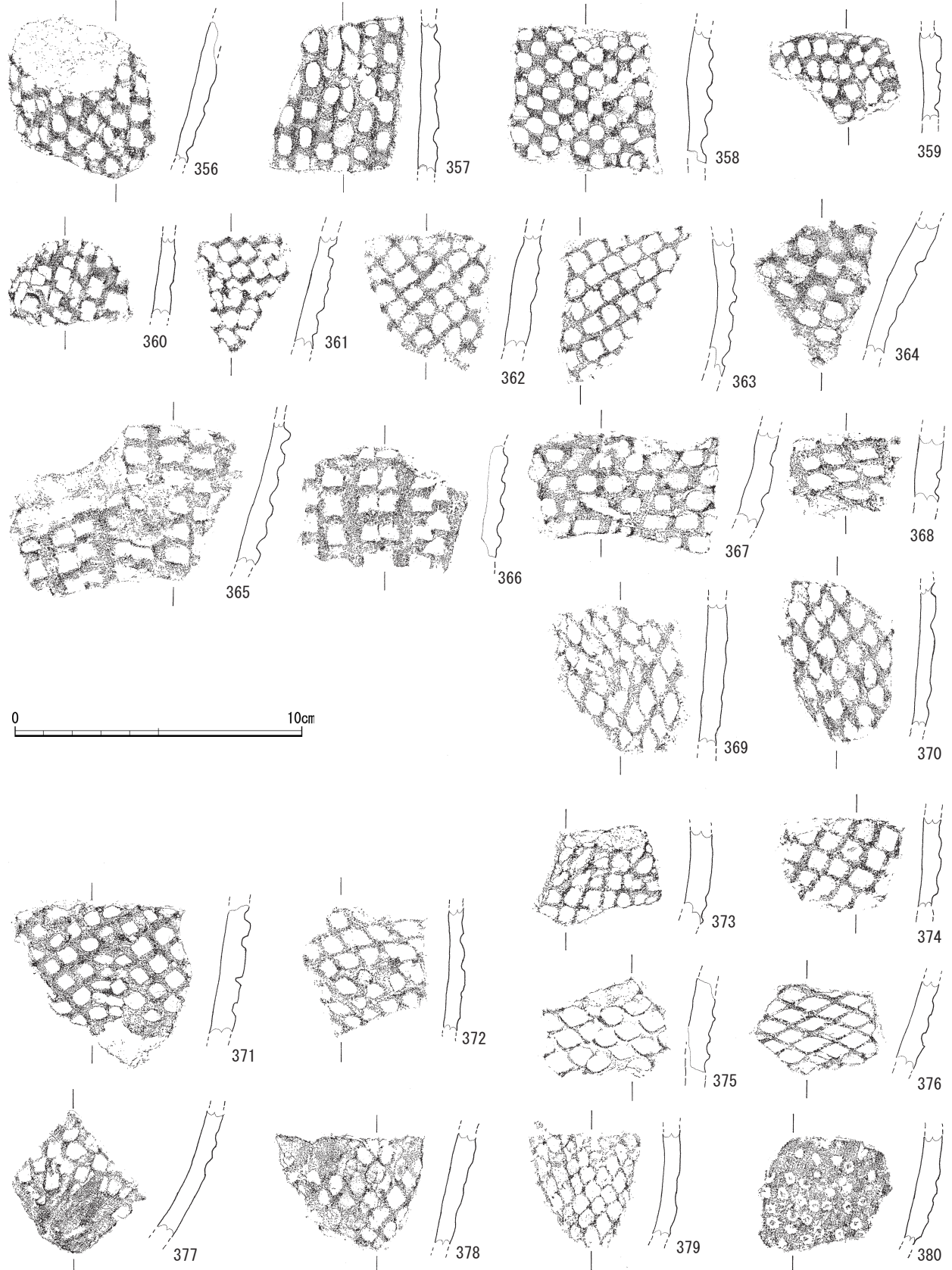


第IV-29图 SZ1出土土器实测图27(1:2)

いえる。

242～251は口縁部片である。242～249は、口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面にネ

ガティブな市松文が施されている。土器内面には施文がなされていない。242・243は、土器内面は薄く大きく剥落している。245は、土器外面の過半が薄



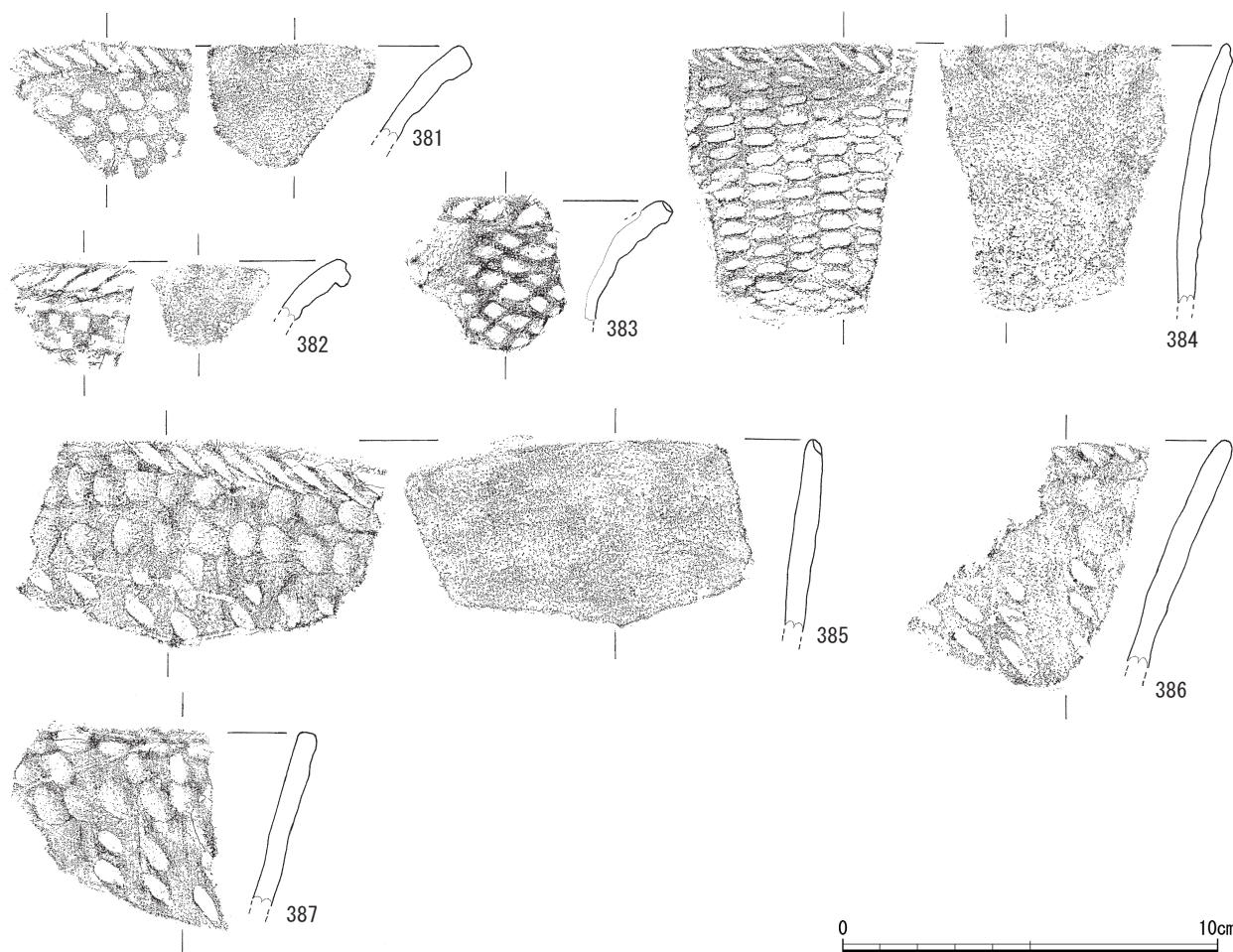
第IV-30図 SZ1出土土器実測図28(1:2)

く大きく剥落している。250は、口唇部には縄文が施されている。外反する口縁部外面は無文帯がみられ、その下にネガティブな市松文が施されている。土器内面には施文がなされていない。251は、口唇部には縄文が施されている。直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな市松文が施されているが、施文の重複がみられるのではないだろうか。土器内面には施文がなされていない。これらは大鼻式期のものといえる。

252～278は体部片である。252・253は、土器外面にネガティブな市松文が施されている。施文自体は深い。1つの文様が大振りなものである。器厚は厚めである。外面上部の施文部分が大きく薄く剥落している。254～274は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深い。1つの文様が大振りなものである。器厚は厚めである。269は、外面下部の施文部分が大きく薄く剥落している。275～277は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深

めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。278は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。文様間の間隔があるもので市松文以外のものともいえそうだ。器厚は厚めである。これらは大鼻式期のものといえる。

279～285は口縁部片で、土器内面はきれいにナデられている。279は、口唇部に縄文が施され、外反する口縁部外面には上から縄文、刺突文がみられる。土器内面には施文がなされていない。280は、口唇部にはキザミが施されている。外反する口縁部外面にネガティブな市松文が施され、これらの中には刺突文の一部がみられる。281は、口唇部にキザミ、外反する口縁部外面に、上から山形文、疎らに楕円形のネガティブな押型文が施されている。282は、口唇部にはキザミが施されている。外反する口縁部外面にネガティブな市松文が施されている。283は、口唇部にはキザミが施されている。直線的に外傾す



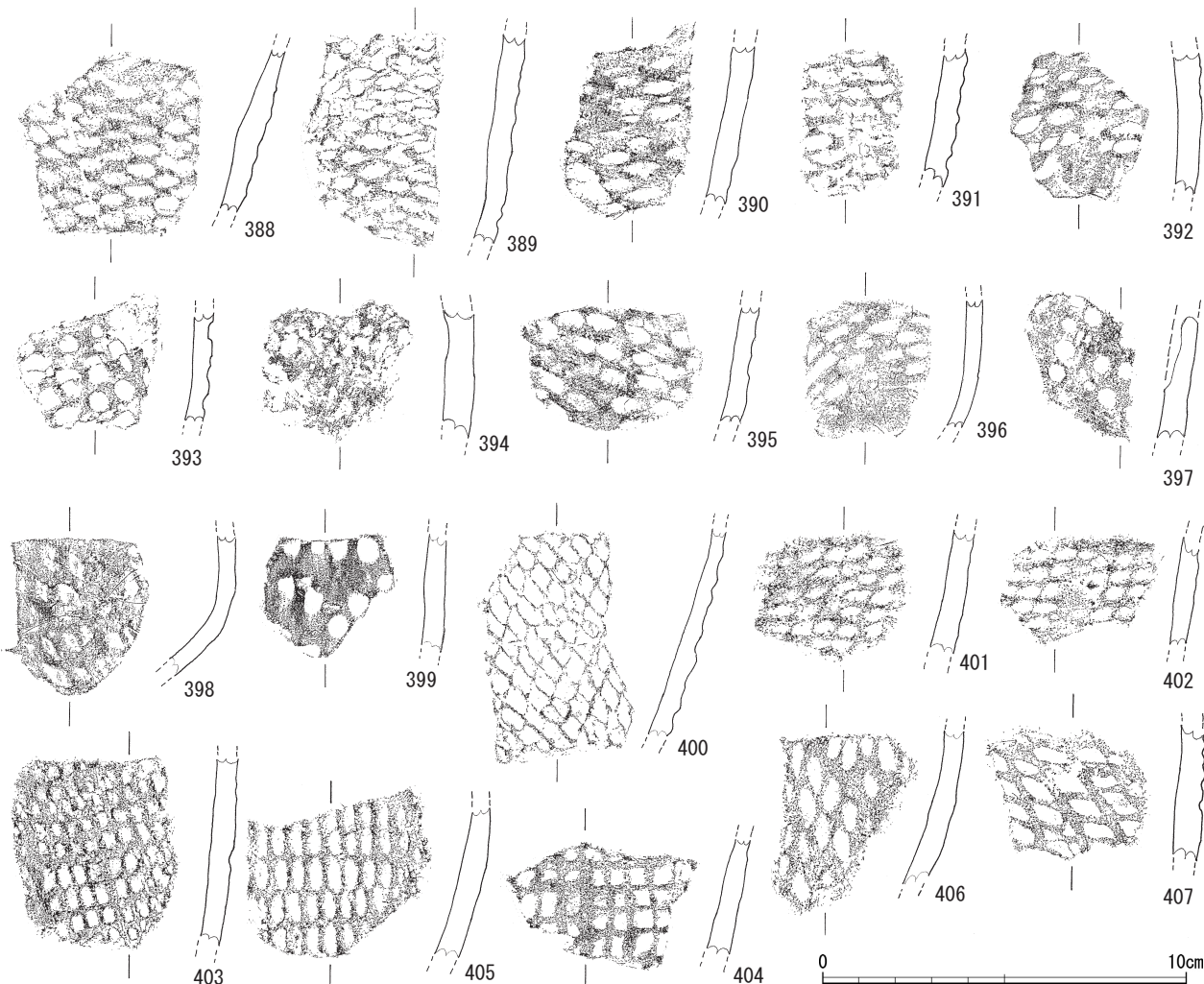
第IV-31図 SZ1出土土器実測図29(1:2)

る口縁部外面にネガティブな市松文が施され、頸部下部には刺突がみられる。284は、口唇部にはキザミが施されている。外傾する口縁部外面にネガティブな市松文が施されている。285は、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面には浅い刺突が施されている。

286~300は口縁部下、頸部から体部にかけての破片である。口縁部下端の屈曲部分である。286は、外反する口縁部以下の外面に縄文、縄文原体端の刺突が施されている。287・288は、外反する口縁部以下の外面に市松文、押型文原体による刺突文が施されている。289は、土器外面の上からネガティブな格子目文、刺突文が施されている。290・291は、土器外面に、上から押型文原体の刺突、市松文が施されている。292は、土器外面に、上から押型文原体端の刺突、山形文が施されている。口縁部下端の屈曲部分である。293は、土器外面に押型文原体端の

刺突、市松文が施されている。294は、土器外面に押型文原体端の刺突文が施されている。295は、土器外面に市松文が施されたものである。2つの文様帯が近接したものであろうか。296は、土器外面に市松文が施されたものである。298~300は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深い。1つの文様が大振りなものである。器厚は厚めである。297は土器外面に、上から刺突文、市松文がみられる。これらは大川式期のものといえる。

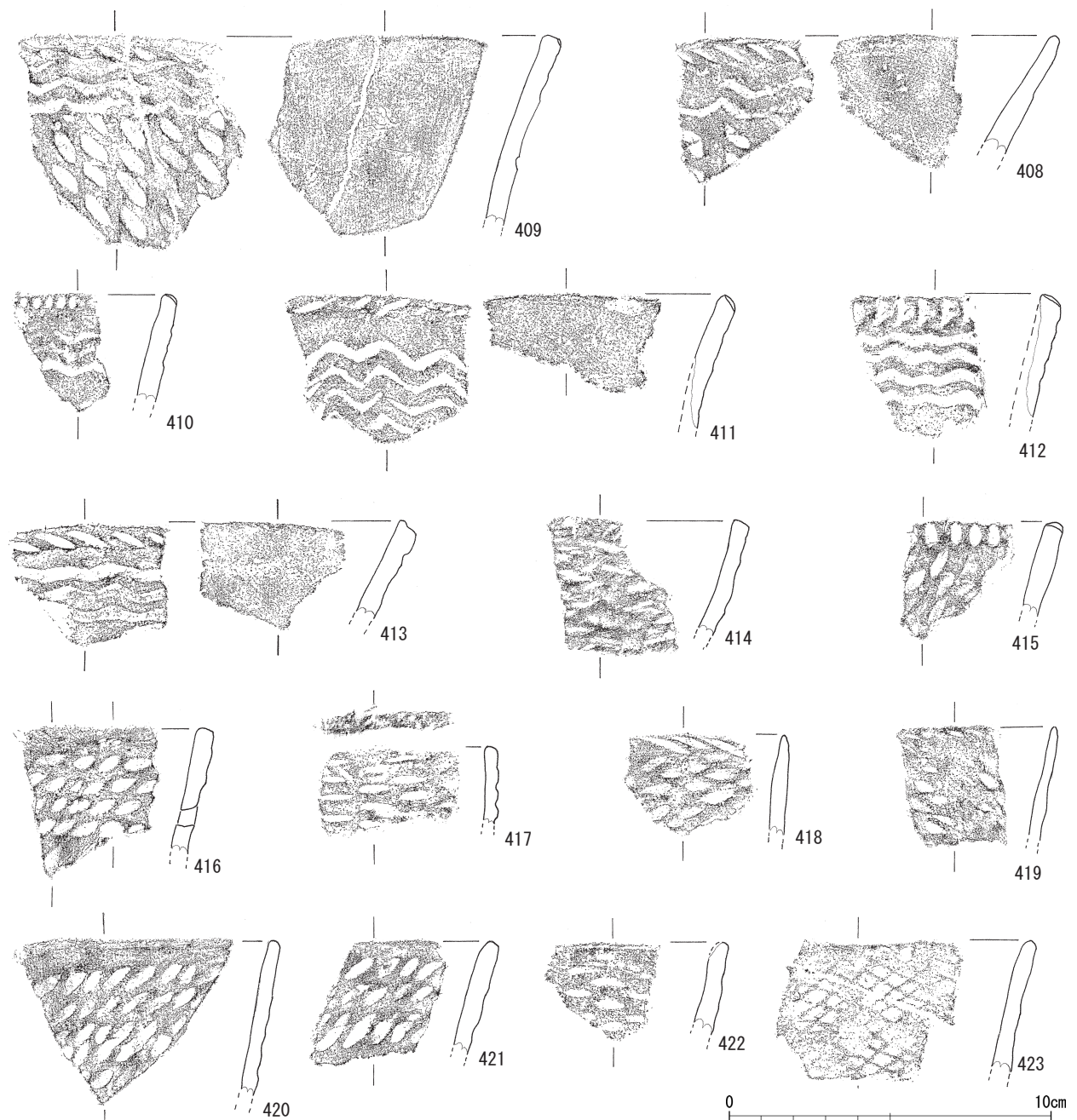
301~380は体部片である。301は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。302・303は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。304は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。



第IV-32図 SZ1出土土器実測図30(1:2)

305～321は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。318は、底部に近い部分である。322は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。文様間の間隔がある。323・324は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。文様間の間隔がある。325～349、352・353は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小

さなものである。器厚は厚めである。350は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。351は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。施文が重複したものか。354・355は、刺突が施されている。押型文原体によるものであろうか。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。押型文の完成形を模倣したものか。356～361、363・364は、ネガティブな市松文が施されている。施文自体は深めで、1



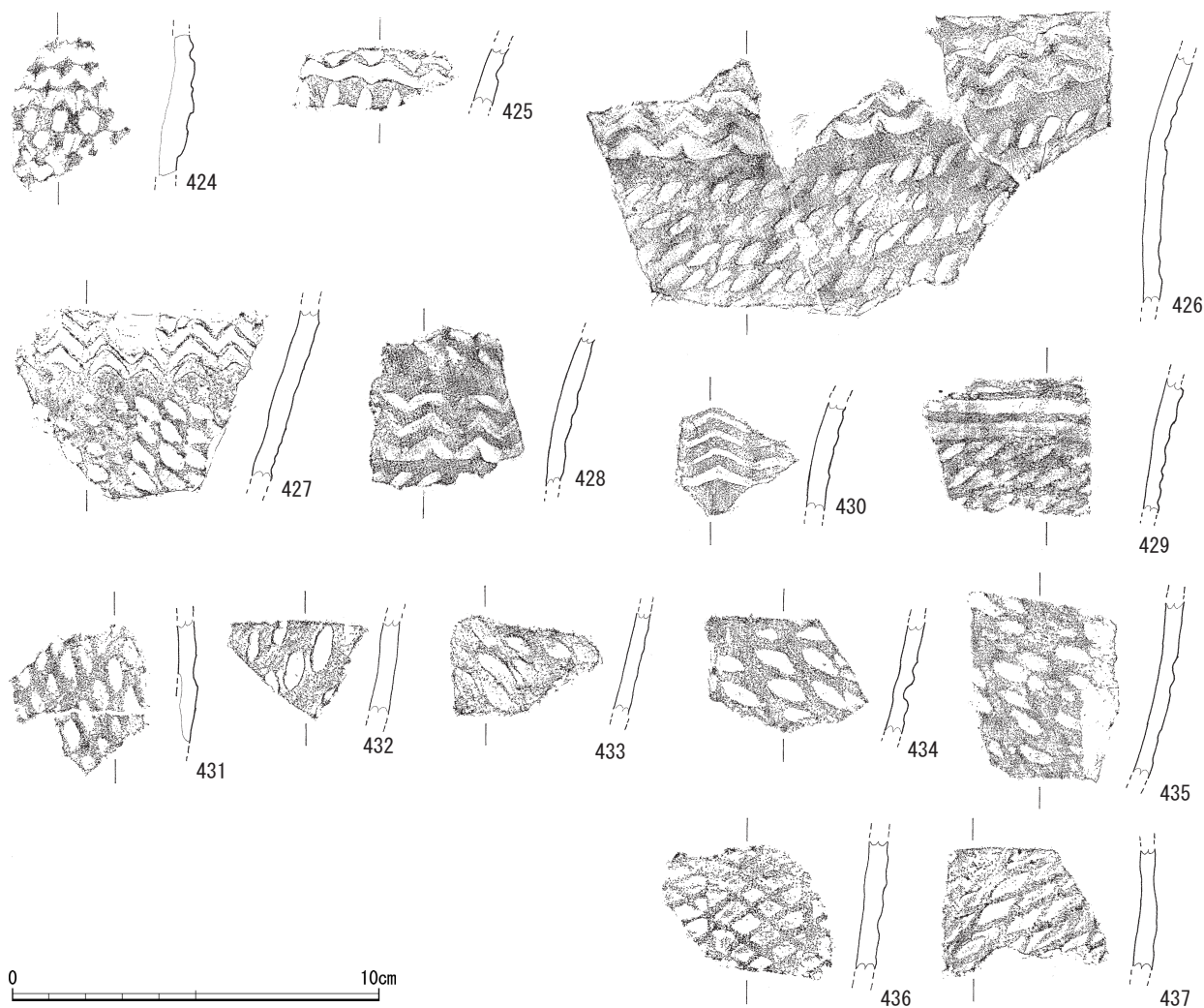
第IV-33図 SZ1出土土器実測図31(1:2)

つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。362は、ネガティブな格子目文が施されている。施文自体は深めで、1つの文様が少し小さなものである。器厚は厚めである。365～379は、ネガティブな格子目文が施されている。377は底部に近い。380は、外面に細い植物の中空となった茎の部分で刺突したものであろうか。これらは大川式期のものといえる。

381～387は外反が緩やかになり、より直線的な様相を示す口縁部片である。381・382は、口唇部にはキザミが施されている。少し外反する口縁部外面にネガティブな市松文が施されている。383は、口唇部にはキザミが施されている。外反する口縁部外面にネガティブな格子目文が施されている。文様は斜傾気味となっている。384は、口唇部にキザミ、外反する口縁部外面にはネガティブな楕円状の格子目

文が施されている。385～387は、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面から頸部外面にかけて、上から浅い刺突文、疎らにネガティブな楕円文が施されている。387は、三重県射原垣内遺跡においても同様のものが出土している¹²⁾。これらは大川式期のものといえる。

388～407は体部片で、器厚は薄い。388は、土器外面にネガティブな楕円に近い市松文が施されている。389・390は、土器外面にネガティブな楕円に近い市松文が施されている。施文が重複したものか。391は、土器外面に楕円状のネガティブな押型文が施されている。392～399は、土器外面に楕円状のネガティブな押型文が施されている。施文が重複したものか。400～407は、土器外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文が施されている。405は楕円状になっている。これらは大川式期のものといえる。

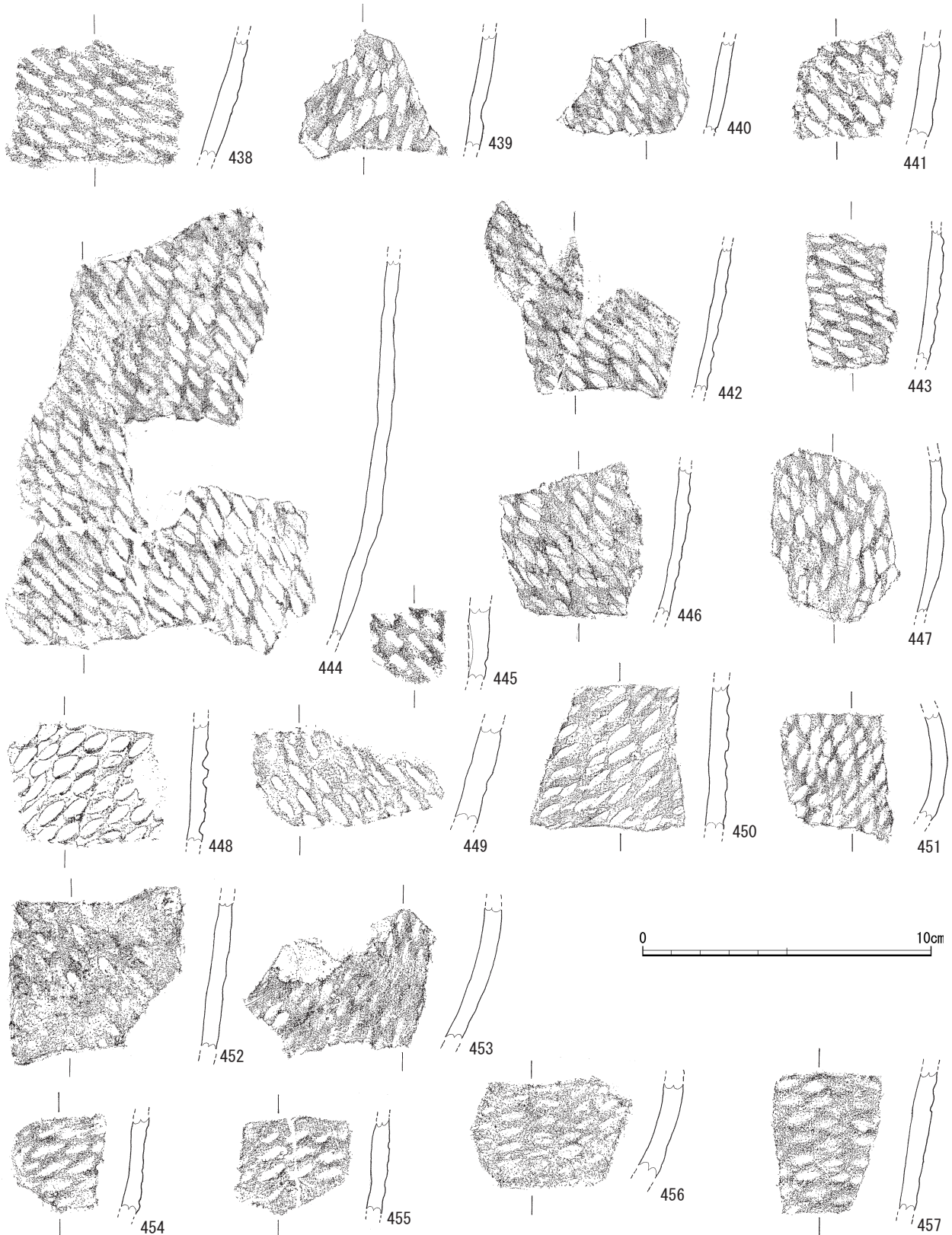


第IV-34図 SZ1出土土器実測図32(1:2)

408～423は口縁部片である。器厚は薄くなる。408～413は口唇部にキザミ、少し外傾する口縁部外面に、上から山形文、疎らにネガティブな楕円文が施されている。414は、直線的に外傾する口縁部外面

に、ネガティブな細い楕円文が施されている。415は口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな細い楕円文が施されている。

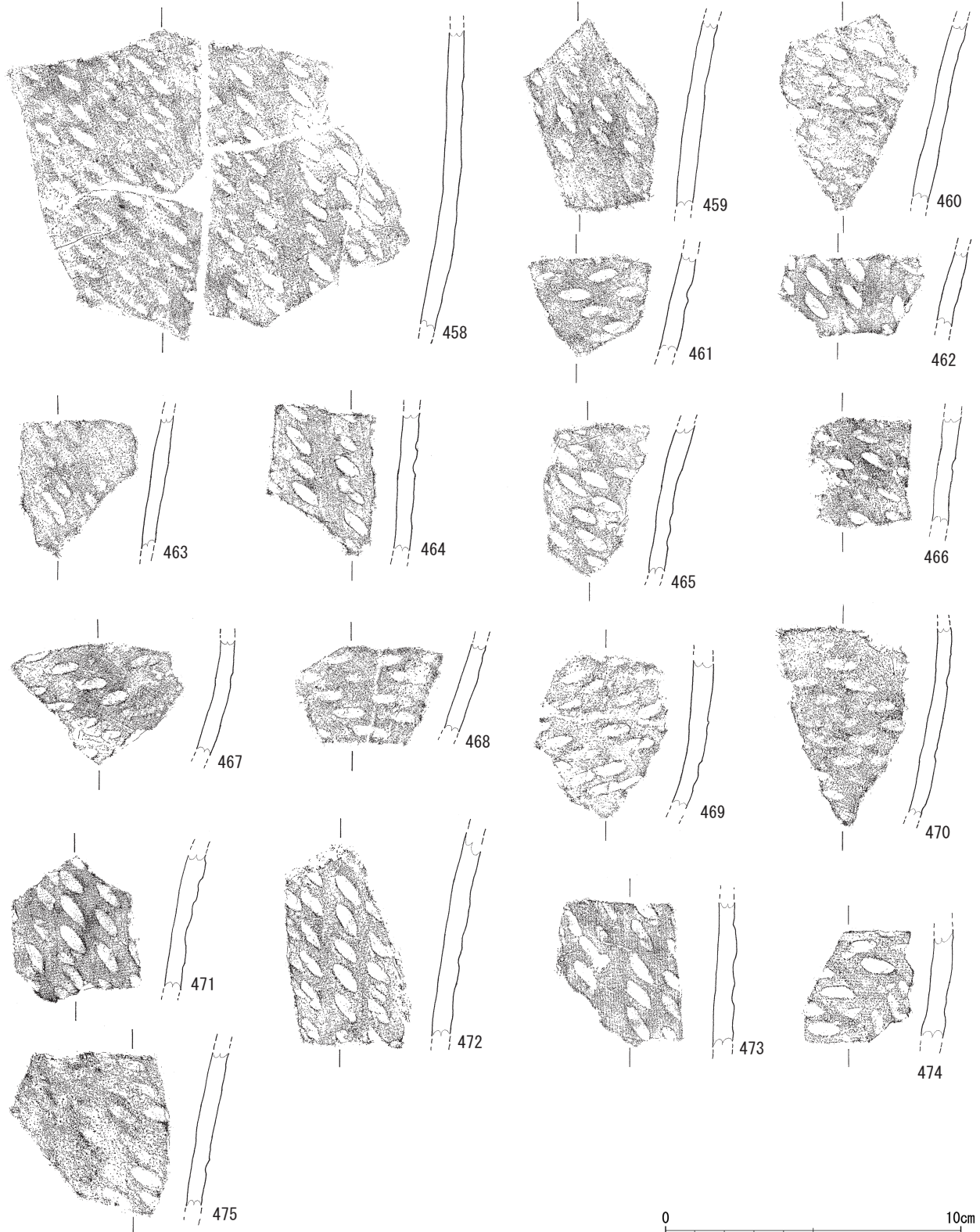
416・420・421は直線的に外傾する口縁部外面に、



第IV-35図 SZ1出土土器実測図33(1:2)

少し疎らに斜傾したネガティブな楕円文が施されている。417・418は口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな横に細長い楕円文が施されている。419は口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面に、疎らなネガティブな楕円文が

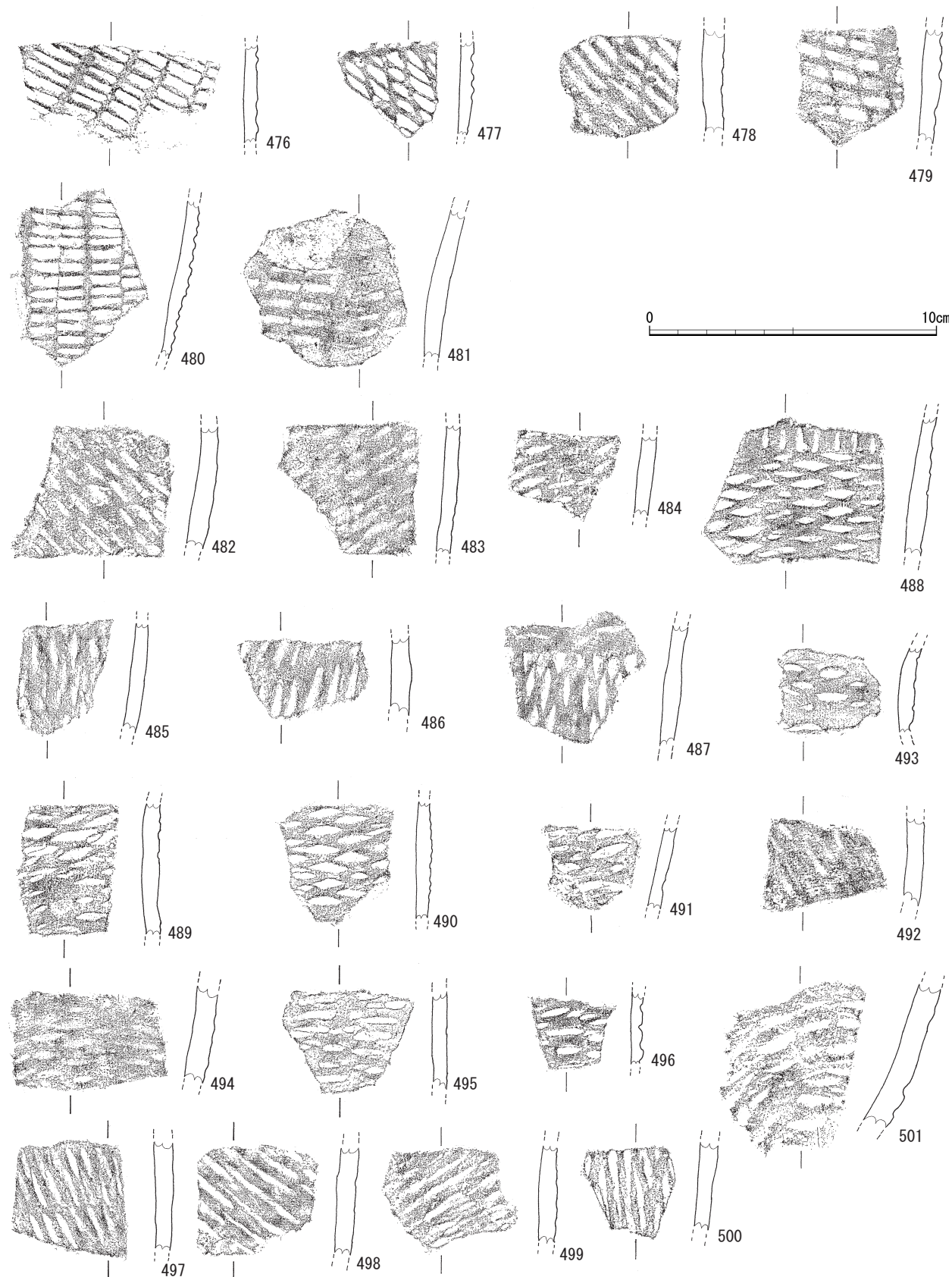
施されている。422は、直線的に外傾する口縁部外面に、ネガティブな横に細長い楕円文が施されている。423は直線的に外傾する口縁部外面に、格子目文が施されている。文様は斜傾化している。これらは神宮寺式期のものといえる。



第IV-36図 SZ1出土土器実測図34(1:2)

424～457は体部片である。器厚は薄めである。424は、土器外面には上から山形文、市松文が施されている。425～428は土器外面には上から山形文、斜傾

する楕円文が施されている。429は、頸部外面には横位の直線文、以下斜傾した楕円文が施されている。430は、土器外面にネガティブな山形文が施された



第IV-37図 SZ1出土土器実測図35(1:2)

破片である。文様の間隔は狭い。431～435は、土器外面にネガティブな楕円文が施されている。文様自体は、浅く施文される。文様の間隔が疎らな状況である。436・437は、土器外面に格子目文が施されている。文様は斜傾している。438～451は、土器外面にネガティブな楕円文が施されている。文様の間隔も狭いものである。斜格子に近いものである。452・453は、土器外面にネガティブな楕円文が施されている。浅く施文されている。454～457は、土器外面にネガティブな少し細長い楕円文が施されている。浅く施文されている。これらは神宮寺式期のものといえる。

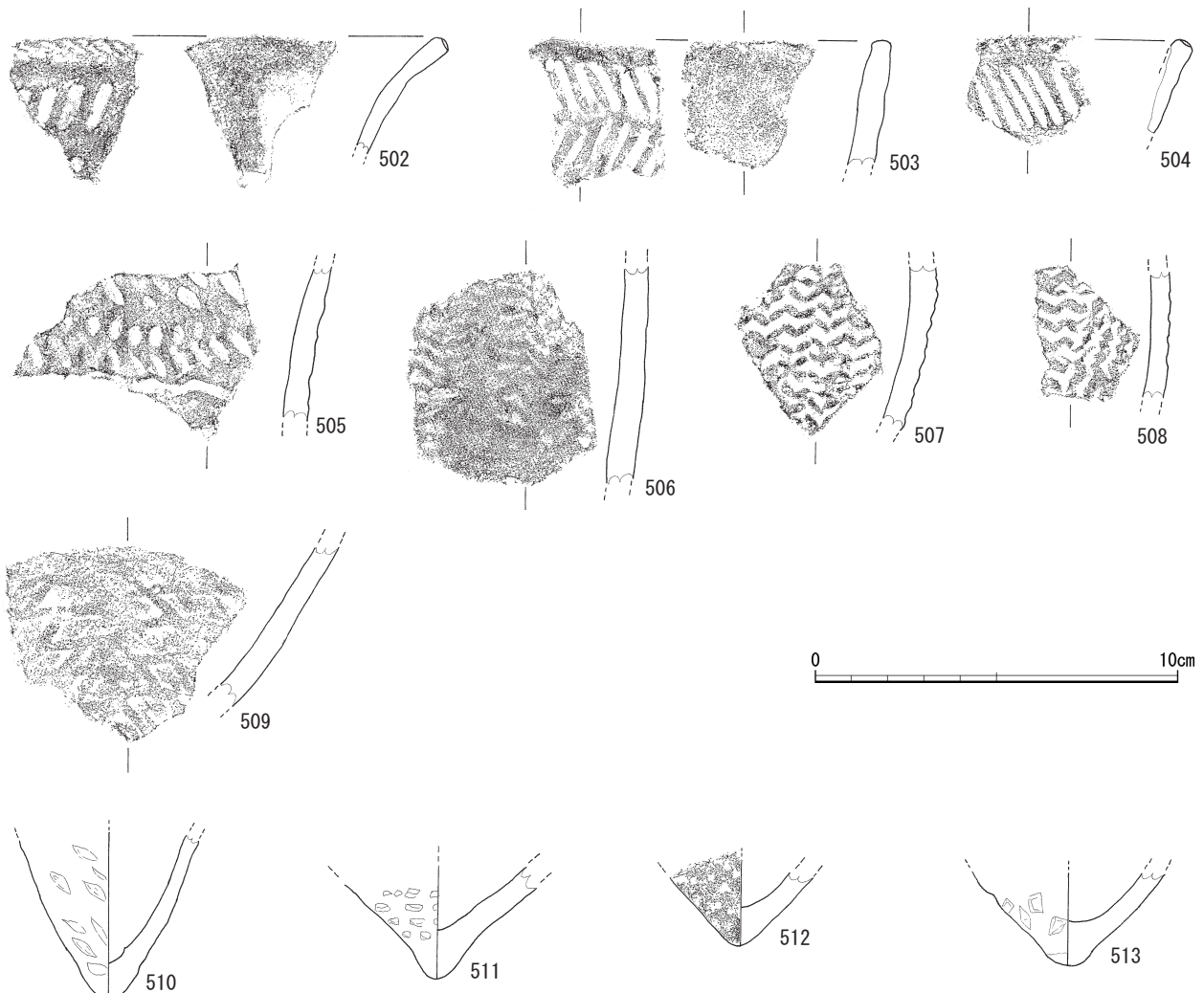
458～501は、体部片であり、一部は器厚が薄い。458～475は土器外面にネガティブなより細長い楕円文が施されている。文様自体は、浅く施文される。文様の間隔が疎らな状況である。これらは神宮寺式期のものといえる。

476～481は土器外面にネガティブなより細長い格

子目文が施されている。文様の間隔は狭くなっている。482～491は、土器外面に細長い格子目文が施されている。浅く施文されている。492～501は土器外面に細長い直線状の押型文が施されている。格子目文の一種か。浅く施文されている。これらは神宮寺式期のものといえる。

502～504は口縁部片である。502は土器外面に長い楕円文が施されている。口唇部にキザミがみられる。503・504は土器外面に長い楕円文が施されている。長い楕円文が矢羽根状になっている。これらは神並上層式期のものといえる。

505～509は体部片である。505は土器外面に山形文、斜傾した楕円文が矢羽根状に施されている。施文は浅い。506～509は土器外面にネガティブな細かな山形文が施されている。文様間の間隔は狭い。507は静岡県若宮遺跡に類例がみられる¹³⁾。これらは神並上層式期のものといえる。



第IV-38図 SZ1出土土器実測図36(1:2)

510～513は尖底となっている底部片である。文様が判然としない。押型文土器期の範疇といえよう。

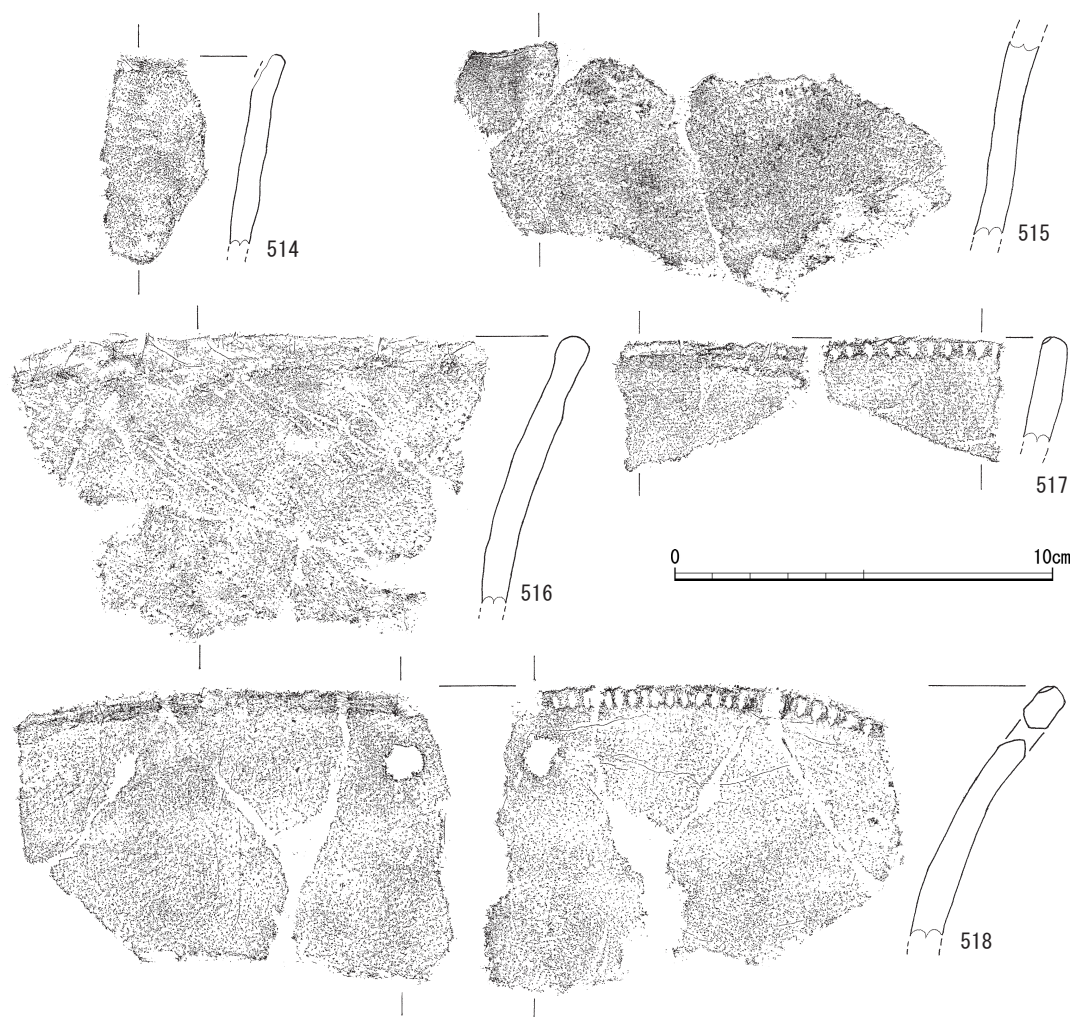
514は、無文様の口縁部片である。515は、無文様の体部片である。縄文を回転施文後にナデ消し、平滑にしたものか。516は、無文様の口縁部片である。縄文を回転施文後ナデ消し平滑にしたものか。なお、土器外面には細い条線状のものがみられる。517は、無文様の口縁部片である。口唇部内側にキザミが施されている。518は、無文様の口縁部片である。縄文を回転施文後ナデ消し平滑にしたものか。口唇部内側にキザミが施されている。焼成後の穿孔が1ヶ所確認できる。これらは、大鼻式期や大川式期においてあまり類例がない。ここでは、押型文土器期に位置づけておく。

519は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。520は、

土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。521は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。522は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。523は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。524は、土器外面にポジティブな市松文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。525～527は、土器外面に細い直線の網目状文が施されている体部片である。器厚が非常に厚い。528は、丸底の底部片である。木葉痕が残る。529は、丸底の底部片である。文様等は確認できない。これらは概ね高山寺式⁴⁾併行のものと思われる。

排土出土遺物

530は、芯棒を入れた痕が残る土製品である。土



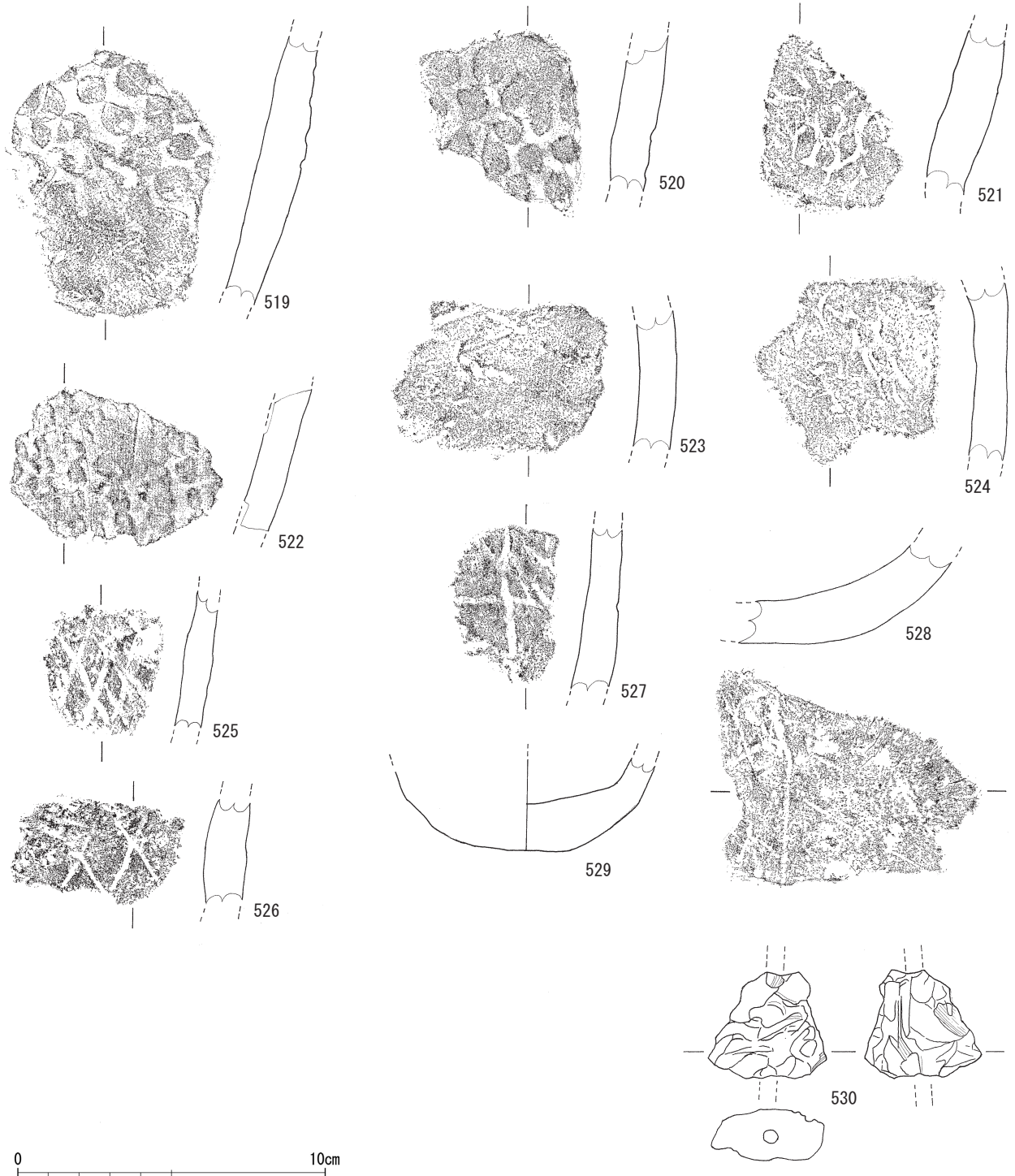
第IV-39図 SZ1出土土器実測図37(1:2)

偶の可能性もある。押型文期のものであろうか。

(2) 中世以降

当該期の包含層、攪乱、表採を一括して報告する。531は、攪乱からの出土である。口縁部が大きく外反する土師器焙烙である。江戸時代のものといえよう。532は、包含層からの出土である。瓦器碗の口縁部小片である。土器内面には暗文が残る。鎌倉時代のもと思われる。533は、包含層からの出土で

ある。陶器碗の底部片である。低い貼り付け高台が残る。いわゆる山茶碗である。鎌倉時代のものであろう。534は、攪乱からの出土である。陶器鉢の底部片である。貼り付け高台が残る。江戸時代のものであろうか。535は、攪乱からの出土である。陶器皿である。口縁部に釉がみられる。江戸時代のものであろうか。536は、攪乱からの出土である。陶器染付碗である。江戸時代のものであろうか。537は、



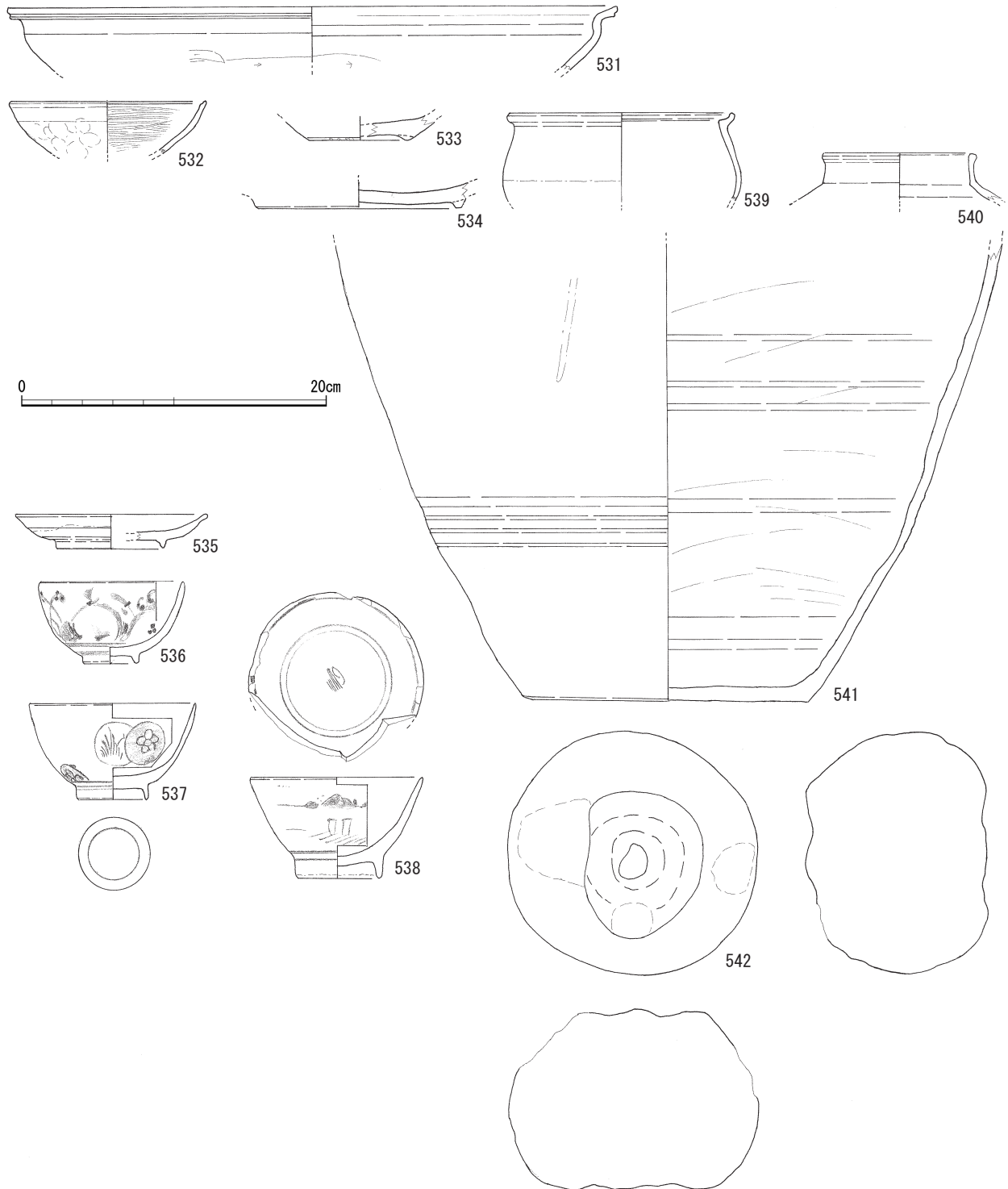
0 10cm

第IV-40図 SZ1出土土器実測図38及び排土出土遺物実測図(1:2)

攪乱からの出土である。磁器染付碗である。江戸時代のものであろうか。538は、磁器染付碗である。江戸時代のものであろうか。539は、包含層からの出土である。陶器鍋の口縁部片である。江戸時代のものであろうか。540は、攪乱からの出土である。

陶器壺か。541は、施釉陶器甕の体部から底部にかけてのものである。江戸時代のものであろうか。542は、表採資料である。五輪塔の水輪部分で一部表面が欠損している。戦国期以降か。

(小濱 学)



第IV-41図 包含層及び攪乱出土遺物実測図(1:4)

2 石器・石製品

(1) 石器

石器は土器と同様、遺構からの出土はなく、二次堆積であるSZ1から出土したものである。埋土の篩掛けは行っていない。出土総数は173点である。器種別内訳¹⁵⁾は、尖頭器2点、石鏃29点、石鏃未製品8点、石錐3点、削器22点、二次加工痕有剥片(RF)12点、使用痕有剥片(UF)16点、楔形石器38点、石核2点、打製石斧1点、礫核石器(礫器)7点、礫素材の削器2点、礫素材の楔形石器1点、磨石21点、敲石4点、石皿3点、台石2点である。この他に、小型剥片や碎片も多数出土した。

a 尖頭器(543・544)

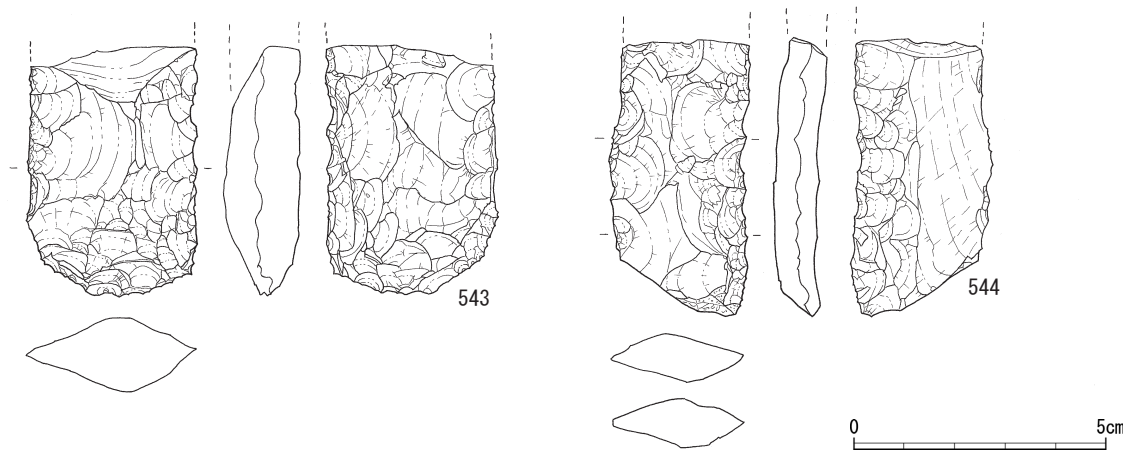
2点出土した。543は尖頭器の中央部から基部とみられ先端部を欠失する。平面形は両側縁が直線的でほぼ平行、基部は丸みを帯びるものの窄まらない。折損面の形状から刺突具と推定し本器種とした。残存長4.9cmで大半を欠失するが、完形であれば長大なものと推測する。剥離が深く両面に施され、断面

は菱形で厚い。階段状剥離が多く残り、調整加工は全体的に粗い。544は中央部のみ残存し、先端部基部ともに欠失する。平面形は左右非対称で一方の側縁がほぼ直線状であるのに対し、もう一方は緩やかな弧状を呈する。また、両面に剥離が深く施され、菱形の断面となる。腹面の片側は節理面を残し未調整であることから尖頭器の未製品と考えられる。いずれも押型文前半期の範疇として捉える。2点ともにサヌカイト製である。






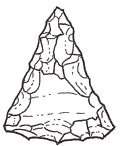
b 石鏃(545~581)

未製品も含めた37点が出土し、すべて図示した。以下のとおりに分類する。凹基無茎式を1類として、主に側縁の形態に注目しa~eと細分した¹⁶⁾。平基無茎式を2類とした。

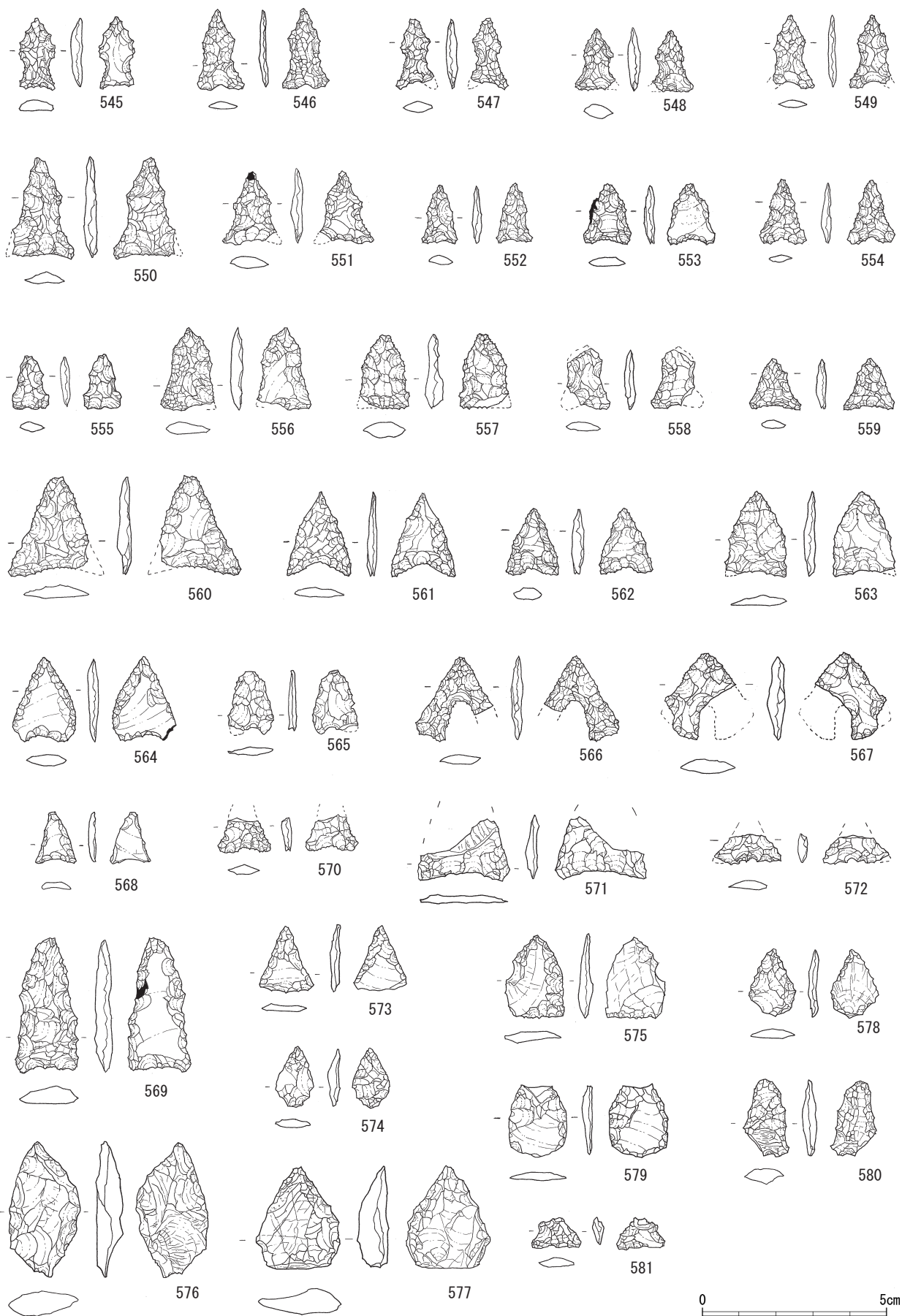
1a類(545~558) 側縁を凹線状に凹ませ五角形となるもの。いわゆる「五角形鏃」や「魚形鏃」などと呼称され早期前半の大鼻式・大川式期に特有な形状のもの。14点出土した。脚幅が辺縁上部屈折点の幅より狭いものは545のみで、その他は脚幅の方が広



第IV-42図 SZ1出土石器実測図1(2:3)

1 a 類	1 b 類	1 c 類	1 d 類	1 e 類	2 類
 545	 559	 561	 566	 569	 573

第IV-43図 SZ1出土石鏃分類図



第IV-44图 SZ1出土石器实测图2(2:3)

い。側縁の凹みが強いものは545～551で、弱いものは552～557と個体差がみられる。また、基部の挟りは概して浅い。558は先端部と片脚部を欠失しているため全体形が明確ではないが本類と考えた。546や547のように剥離調整が深く施され、中央に稜線をもつものが基本となるが、545や553、558のように一次剥離面を残し浅い剥離調整のものもある。すべてサヌカイト製である。

1b類(559・560) 側縁が内側に浅く彎曲するもの。2点出土した。2点ともほぼ正三角形で基部の挟りが浅く脚部が尖り、草創期から大川式期に盛行する三角鏃に近い形状である。560は全長2.7cmと比較的大きく腹面に一次剥離面を残す。いずれもサヌカイト製である。

1c類(561～565) 側縁が外側に彎曲するもの。5点出土した。側縁の彎曲や基部の挟りの度合いにより脚部の形状が異なる。基部の挟りが比較的深い561は脚部が細く尖るのに対して、基部の挟りが浅い562や563は脚部が尖るが太い。また、564の側縁は脚部付近で彎曲の度合いが大きいため脚部が丸い。565は先端部や脚部の欠失により平面形が不明確である。561・563は腹面に、562・564は両面に一次剥離面を残す。すべてサヌカイト製である。

1d類(566・567) 側縁は直線的で、基部の中央のみが深く挟られ、幅のある角ばった脚部となるもの。いわゆる「鋏形鏃」と呼称されるもの。2点出土した。566は全長の約半分が脚部となる長脚で、丁寧な剥離調整が施されている。567は破線復元で示すような脚部と推測し、566よりも太い脚部となろう。いずれもサヌカイト製である。

1e類(568・569) 側縁が左右非対称のもの。2点出土した。569は全長3.7cmを測り、石鏃の中では最長となる。腹面は一次剥離面を大きく残し未製品の可能性もある。568は両面に一次剥離面を残す。いずれもサヌカイト製である。

その他(570～572) 凹基無茎式であるが、大半を欠失し全形が不明なもの。3点出土し、すべてサヌカイト製である。

2類(573) 平基無茎式のもの。1点出土した。平面は左右対称で整い、基部は若干外側に彎曲するが、平基の範疇とした。両面に一次剥離面を残し、未製

品の可能性がある。サヌカイト製である。

石鏃未製品(574～581) 剥片に二次調整が施されたものの内、製品には至らないが石鏃と推定するものを未製品とした。8点出土した。575や578・579は一次剥離面を多く残し薄い。576は先端部が尖るものの調整は不十分で、基部の作出がなく厚い。577は先端部が左右対称であるものの厚さが均一ではなく、基部の調整とともに不十分である。577はチャート製で、それ以外はサヌカイト製である。

c 石錐(582～584)

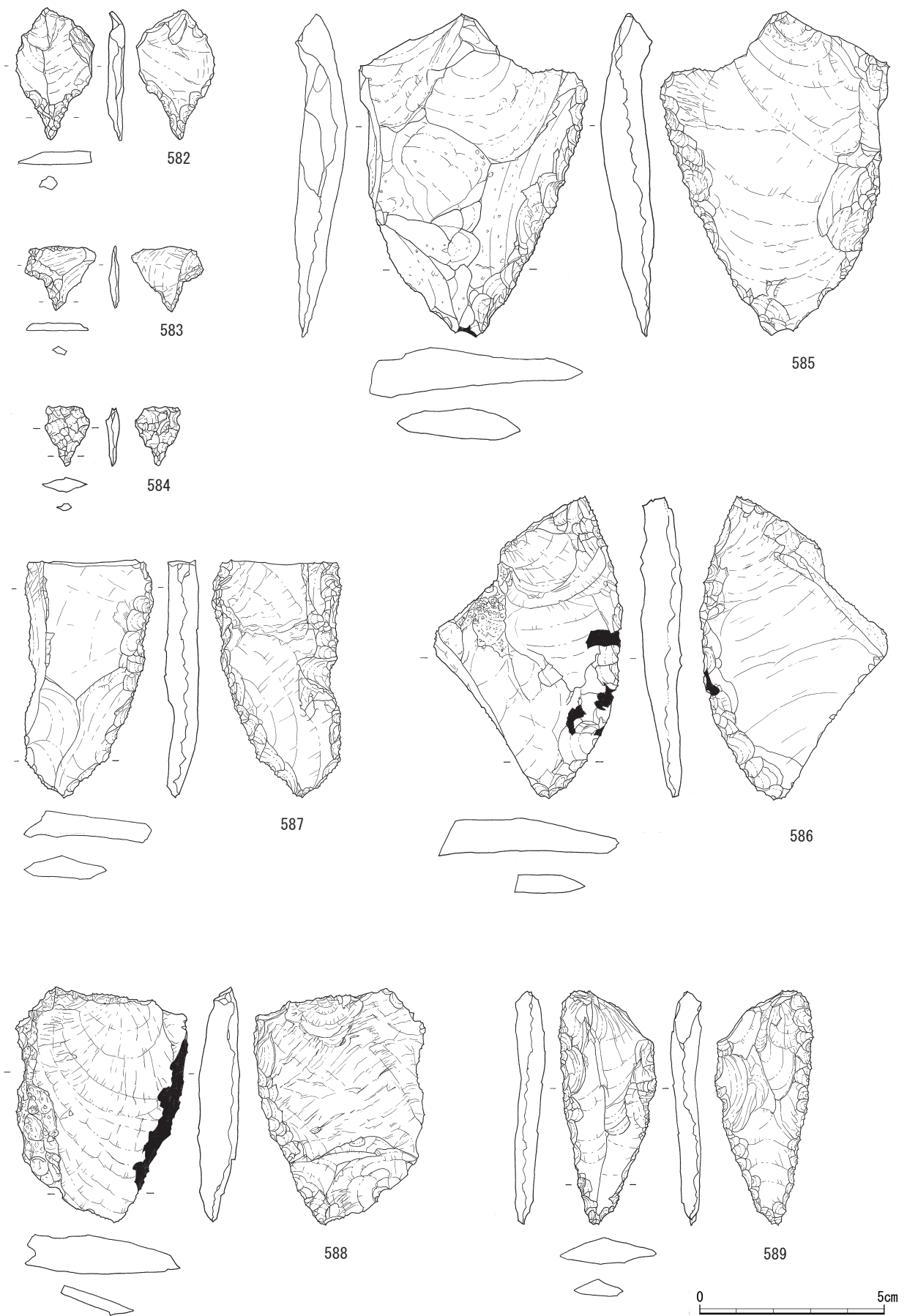
3点出土し、すべて図示した。582や583は素材剥片を横位に用いられている。582は刃部を丁寧な両面調整により作出し、剥片の大半をつまみ部として残している。石材は香川県金山産のサヌカイトとみられる。583は薄い剥片を素材とするもので、尖る側縁をそのまま利用し僅かな調整により刃部を作出している。584は剥片の両面全体に調整が施され、刃部はほぼ左右対称形となる。石鏃の可能性があるが、整う刃部の形状から石錐と考えた。583や584はサヌカイト製で二上山産のものとみられる。

d 削器(585～606)

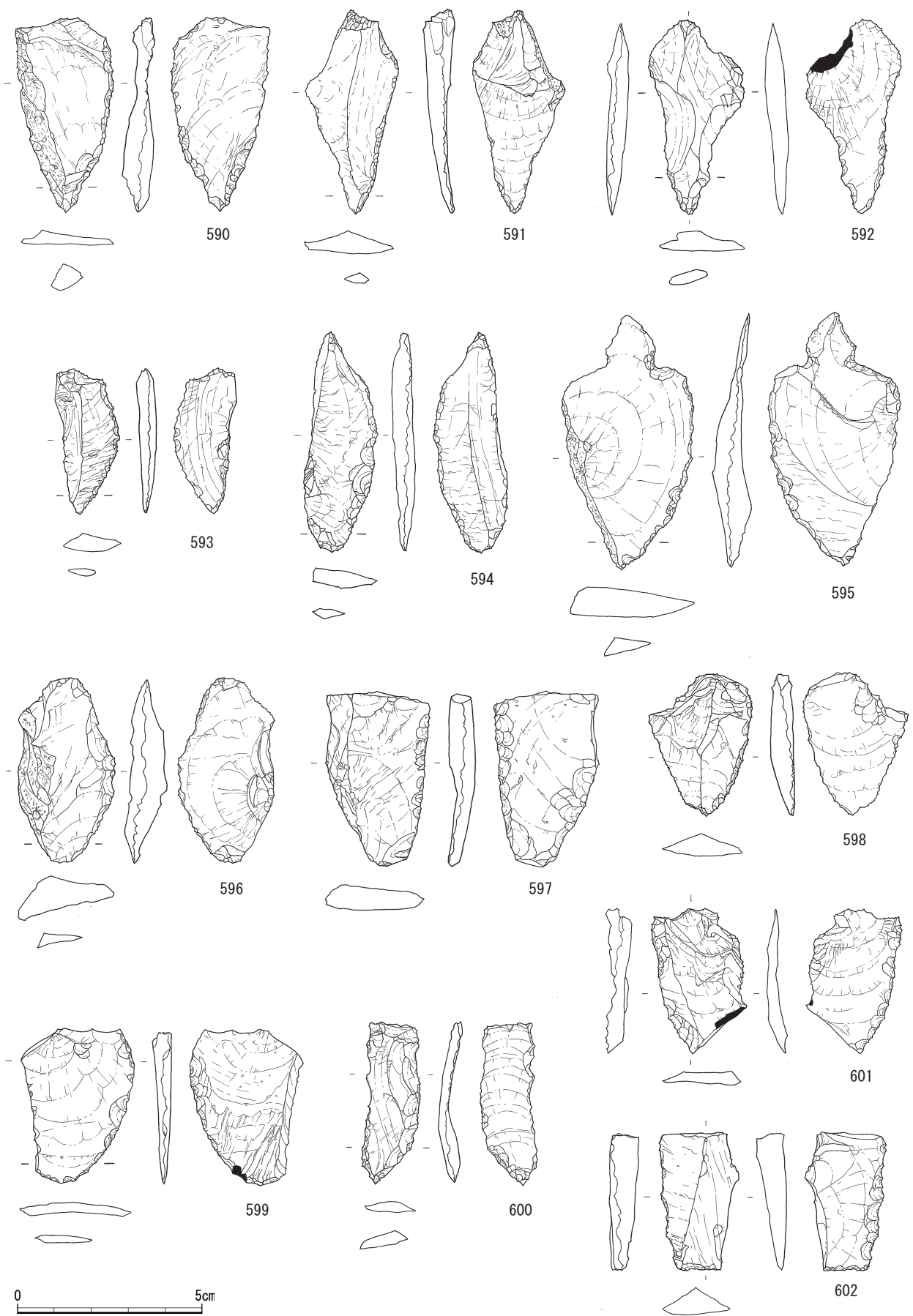
22点出土し、すべて図示した。素材剥片の厚いものや薄いものがあり、用途は全て同じとはいえないが、連続する剥離調整により長さのある刃部をもつことから削器の範疇としてとらえた。以下のとおりに分類する。

1類(585～588) 素材剥片が厚く、刃部の角度が比較的急なもの。585は最も大型の剥片が用いられたもので、片側縁に両面からの剥離調整が施されて刃部を形成している。586・588は自然面打面の剥片を素材とし、586は弧状の側縁に両面調整の刃部をもつ。588は片側縁に刃部がみられるものの表面は新欠失により不明な点が残る。587は片側縁に刃部をもち、両面からの丁寧な剥離調整が施される。また、上位両側縁に潰れた剥離がみられ、楔形石器を素材とした可能性がある。

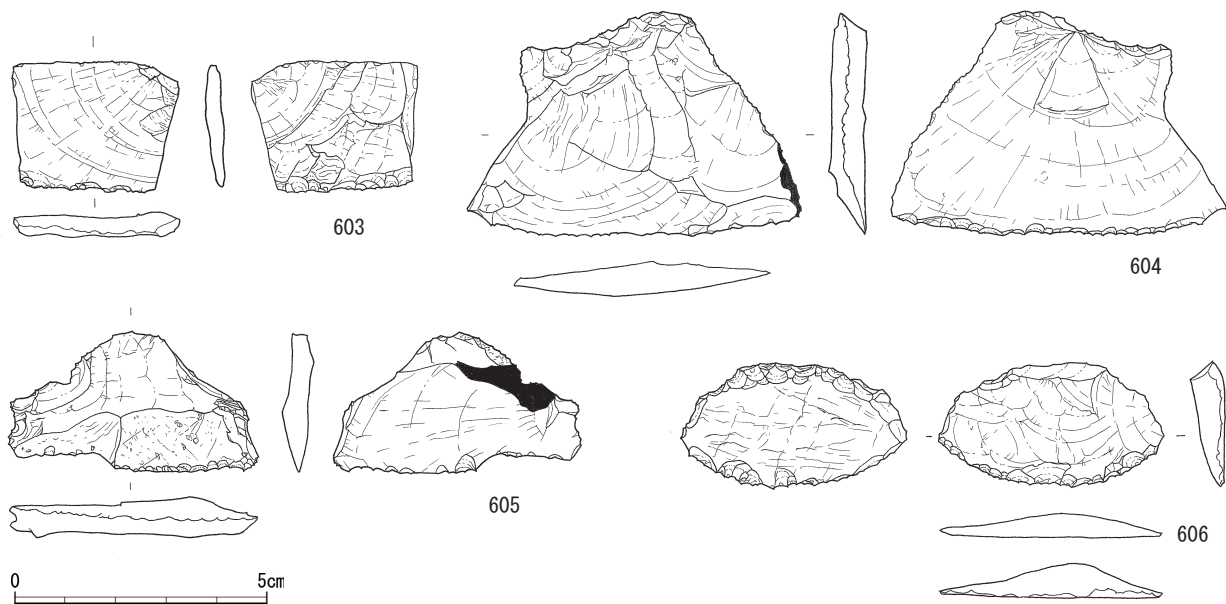
2類(589～600) 素材剥片が薄く平面形は概ね細長く、側縁は窄まり交点があるもの。刃部の角度は比較的緩やかであるため鋭く、剥離調整は微細なものや極微細なものがある。その中で589～594の6点はドリルとしての機能も有する可能性がある。589は



第IV-45图 SZ1出土石器实测图3(2:3)



第IV-46图 SZ1出土石器实测图4(2:3)



第IV-47図 SZ1出土石器実測図5(2:3)

縦に細長い剥片を素材とし、両側縁に両面調整による刃部をもつ。尖る下端部がドリルの機能部としての可能性がある。590は自然面打面の剥片を素材とし、片側縁に連続した微細な剥離調整による刃部をもつ。また、下端部は意図的に尖らせたような剥離調整があるため、ドリルの機能部の可能性がある。591は自然面打面の縦長剥片を素材とし、片側縁に極微細な剥離調整による刃部をもつ。また、下端部はドリルとして使用可能な形状である。592も591と形状が類似し削器とドリルの併用の可能性がある。593は本器種では最小の横長剥片を素材とし、片面からの剥離調整による刃部を両側縁にもつ。また、下端部が尖る形状である。594は片側縁に弧状の刃部をもつ。裏面は微細な剥離調整が連続するが、表面は疎らである。また、上端部が尖る剥片を素材としていてドリルとして使用されたような摩滅が認められる。595は自然面打面の横長剥片を素材とし、薄い片側縁に両面からの微細な剥離調整による弧状の刃部をもつ。上部のつまみ状に見える部位周辺にも二次加工が施されているが、それを意図的に作出しているかは不明である。596は自然面打面の横長剥片を素材とし、腹面側から背面側に向かって剥離調整が施され、片面調整の刃部をもつ。597は全体的に風化が進み、剥離調整が不鮮明であるが、片側縁に両面からの剥離調整による刃部をもつ。また、刃部と反対側の側縁に階段状の剥離が認められ上面

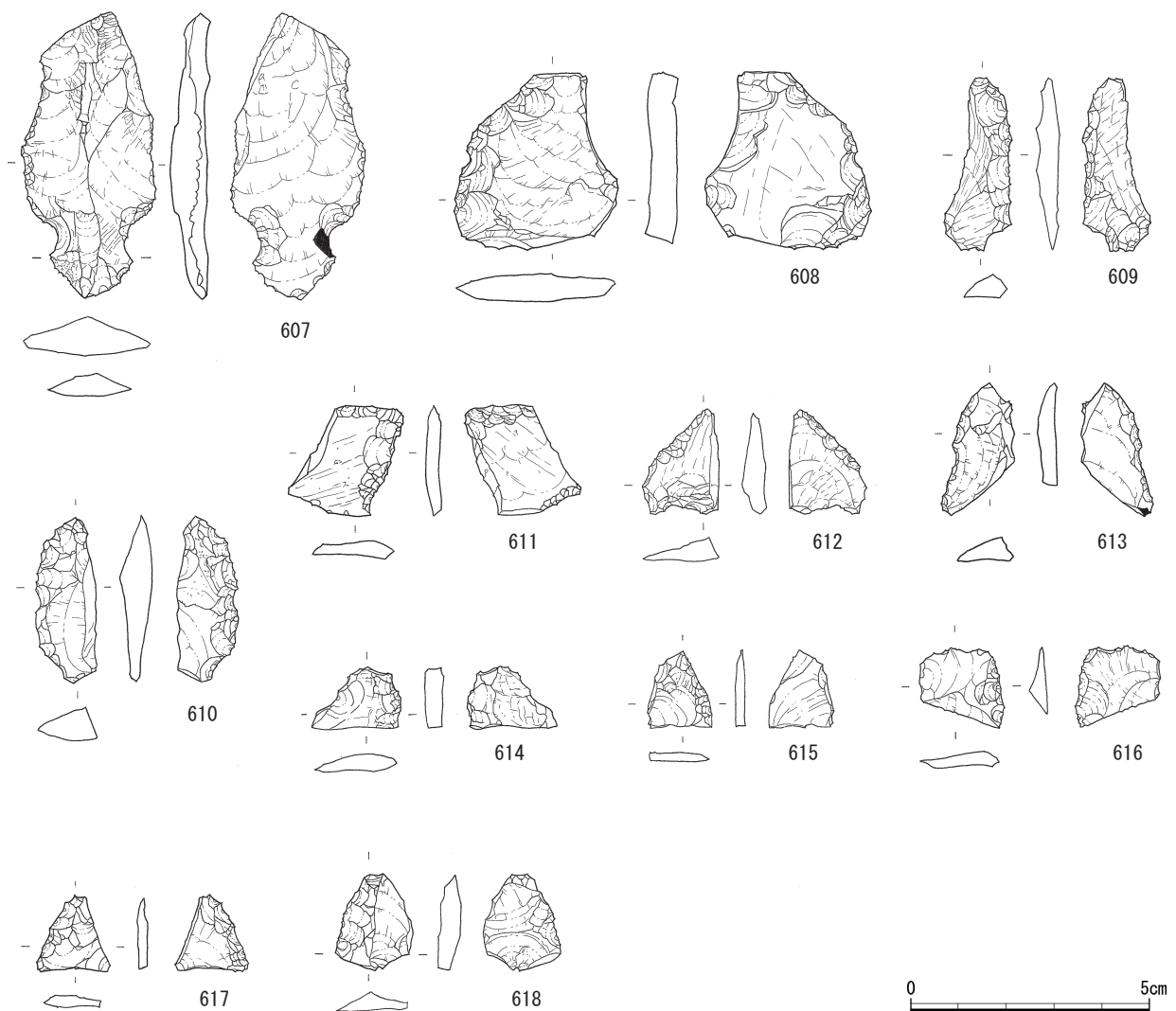
が両極打法による剪断面となり、楔形石器を素材としている。598・599は片側縁に極微細な片面調整の刃部をもつ。600は側縁に階段状剥離が認められ、楔形石器を素材とする。

3類(601~603) 楔形石器を素材とし、平面形は不定形および、四角形のもの。601・602は片側縁に背面からの剥離調整による片面調整の刃部をもつ。603は自然面打面の剥片を素材とし、極微細な剥離調整による刃部をもつ。

4類(604~606) その他、横長剥片等を素材とするもの。604は大型の横長剥片を素材とし、背面からの極微細な剥離調整による片面調整の刃部をもつ。605は背面に自然面を残し、腹面からの微細な剥離調整による片面調整の刃部をもつ。606は横長の剥片を素材とし、平面形はアーモンド形である。片面調整の刃部を背面では上部に、腹面では下部にそれぞれもち、表裏合わせると刃部がおよそ一周する個体である。22点すべてサヌカイト製である。

e 二次加工痕有剥片(RF)(607~618)

剥片素材の周縁に二次加工が施された石器のうち、定型的な器種として認識できないものを二次加工痕有剥片(RF)とした。12点出土し、すべて図示した。607は縦長剥片を素材とし、下部両側縁に概ね左右対称の抉りを施しつまみ状に作出している。また、片側縁には微細な剥離調整がみられ、削器とも考えられるが、つまみ状の部位を有する特異な形状であ



第IV-48図 SZ1出土石器実測図6(2:3)

り器種が特定できないことからRFとした。608は自然面打面の剥片を素材とし、側縁に粗い剥離が施される。小型の剥片である609～618は、片面および両面に剥離調整が施されるものの、部分的な範囲にとどまる。剥片の大きさや厚み、調整の様子から、石鏃の製作を意図していたものが含まれると考えられよう。全てサヌカイト製である。

f 使用痕有剥片 (UF) (619～634)

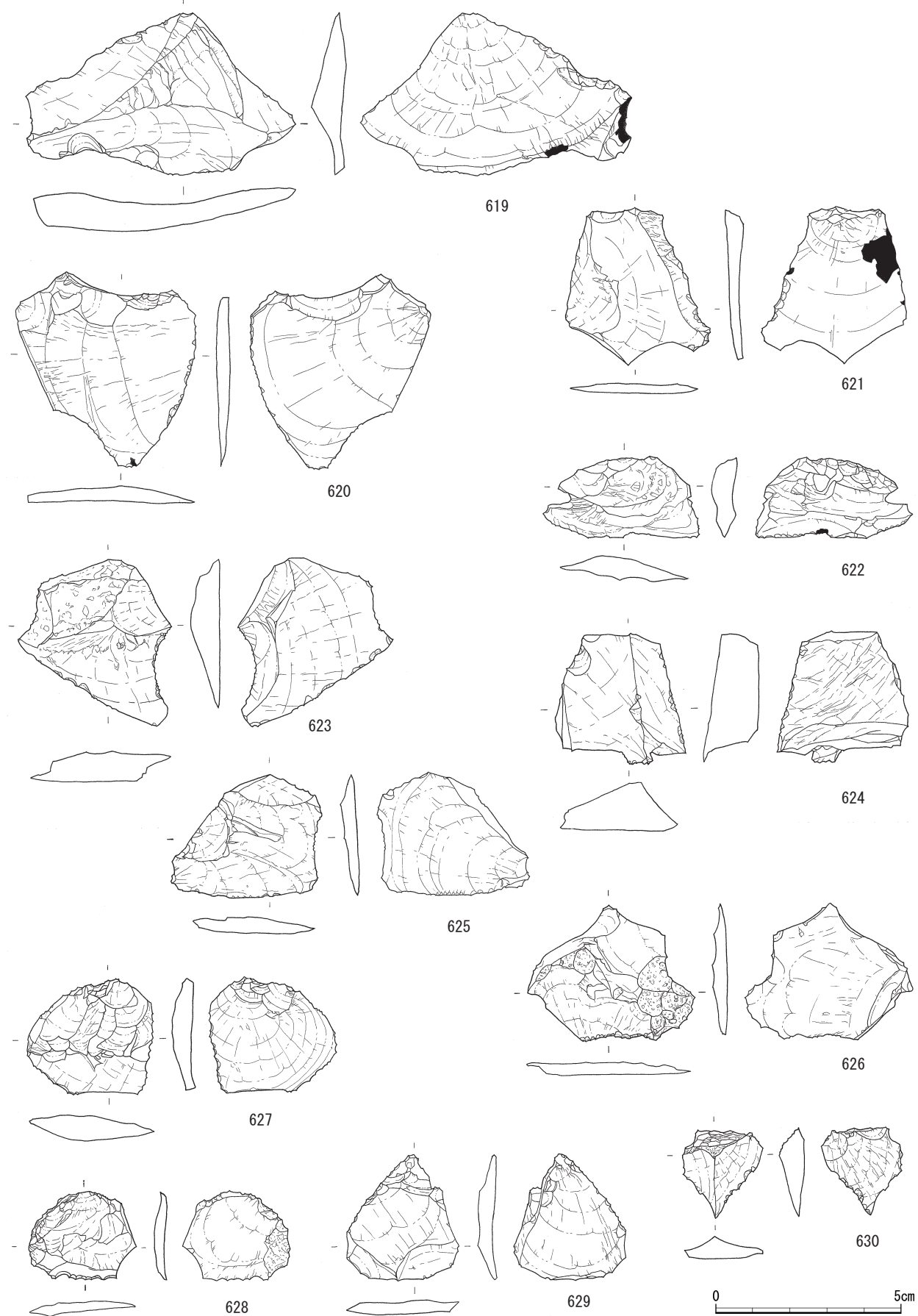
鋭い縁辺をもつ剥片が、二次加工を施されることなくそのまま使用された結果、刃こぼれをおこしたと考えられるものを使用痕有剥片(UF)とした。16点出土し、すべて図示した。素材剥片の形状に定型はなく、側縁や末端側など鋭い縁辺を選び使用している。619は最も大きな剥片を素材とし、横長剥片の片側縁に微細な剥離痕跡がみられる。623・626・628・

633は自然面を残す剥片を素材としていて、623は二側縁に微細な剥離痕跡を有する。また633は剥片端部の形状が細長く尖りドリルとして使用された様な摩滅が認められる。すべてサヌカイト製である。

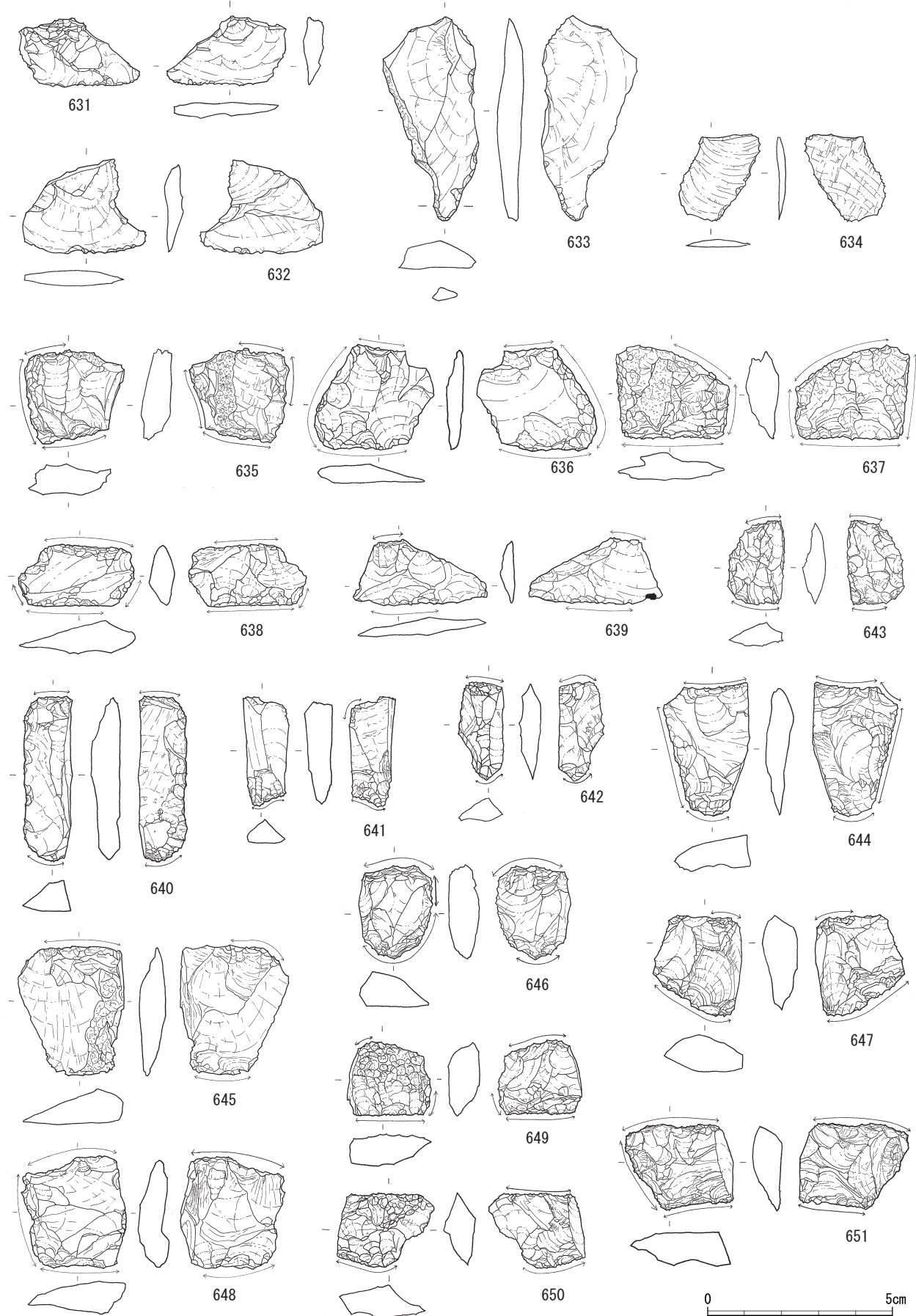
g 楔形石器 (635～672)

38点出土し、すべて図示した。少なくとも対向する側縁2辺に両極打法による顕著な潰れ(階段状の剥離)をもつものを本器種とした¹⁷⁾。出土した剥片石器の中で最も多くの割合を示し、以下のとおりに分類する。

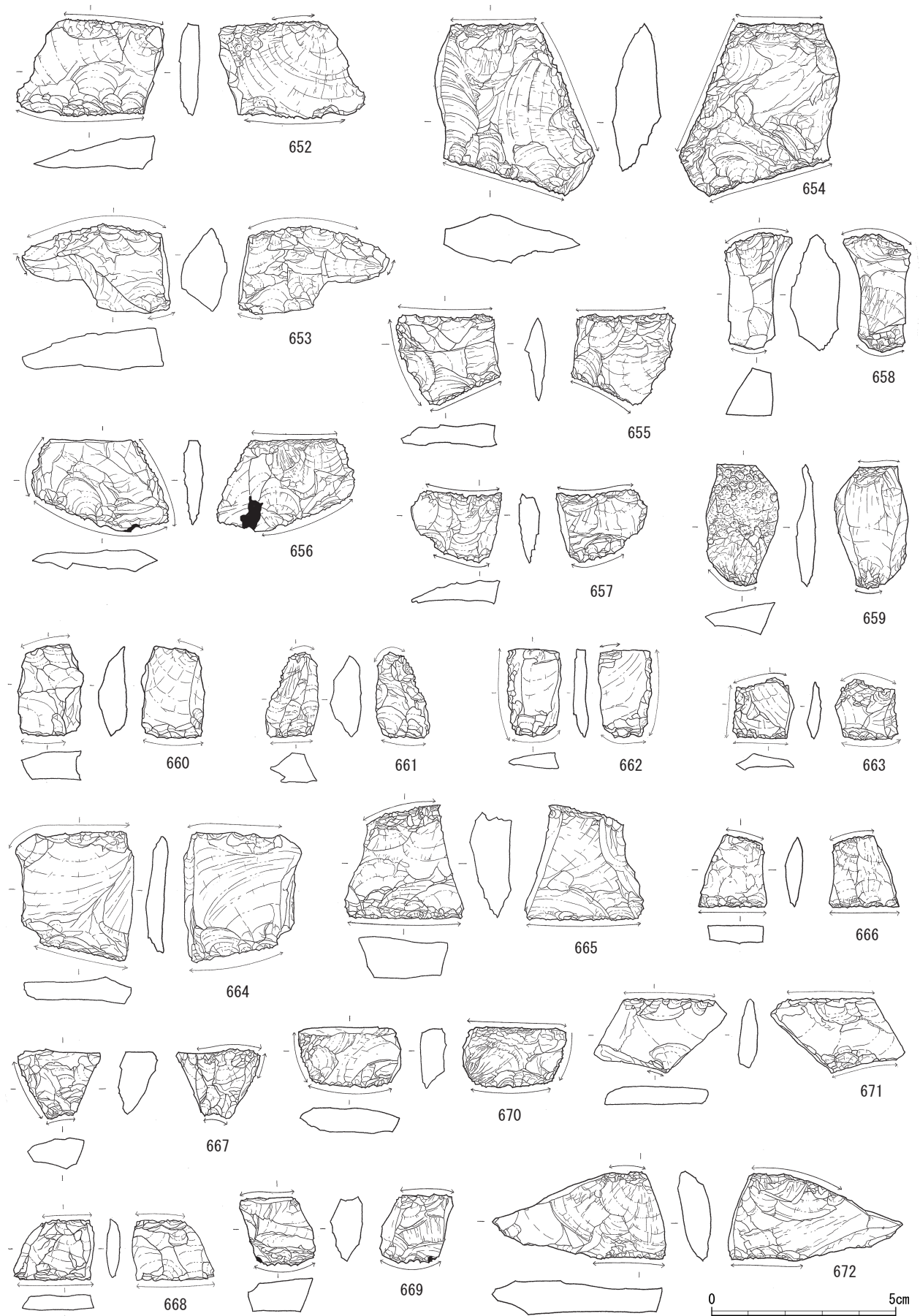
1類 (635～639) 剪断面が認められないもの。5点出土した。635・636はおおよそ長さと同幅で、637～639は横に長い。635・637は自然面を残す剥片を素材とし、4辺に潰れをもつ。638・639は上下に対向する側縁が平行し、潰れをもつ。すべてサヌカイト製である。



第IV-49图 SZ1出土石器实测图7(2:3)



第IV-50图 SZ1出土石器实测图8(2:3)



第IV-51图 SZ1出土石器实测图9(2:3)

ト製である。

2類(640~657) 剪断面が1面認められるもの。18点出土した。640~647は縦に長く、648・649はおよそ正方形、650~657は横に長い。640・642・645・648・650・652・657は上下側縁に潰れをもち、645・650・652は自然面を僅かに残す。641は下側縁に潰れをもち、対向する上側縁は欠失する。643・647は上下側縁に潰れをもち側縁は平行しない。644・646・649・651・653・655・656は上下側縁および、剪断面に対向する側縁にも潰れをもち。649は自然面を僅かに残す。653の断面は厚くレンズ状であり、剪断面に対向する側縁は打撃によるためか大きく欠失する。654は最も大きいサイズを測り、3側縁に潰れをもちそれぞれが平行しない。すべてサヌカイト製である。

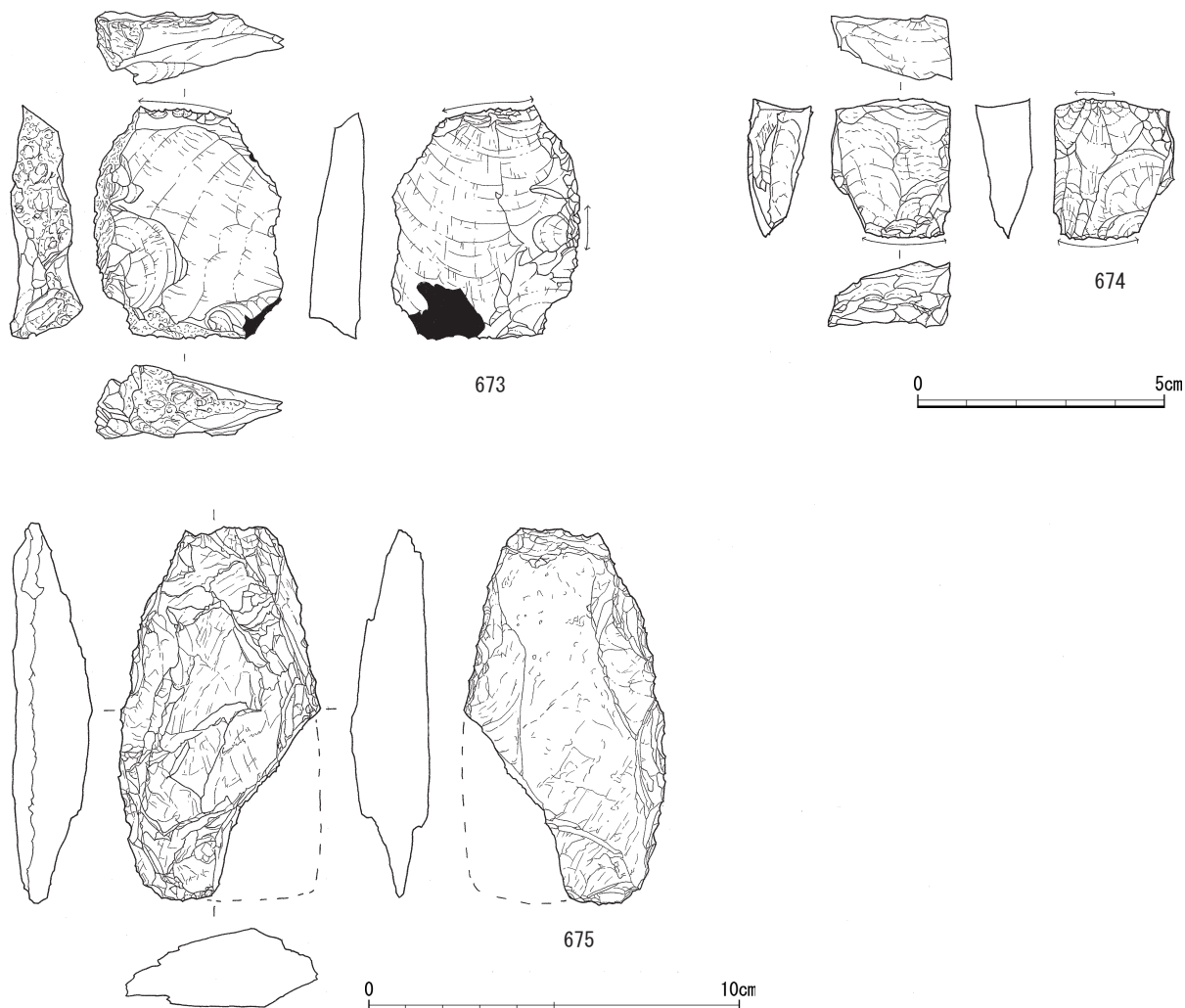
3類(658~671) 剪断面が2面認められるもの。14点出土した。剪断面が対向するもの(658~661・663~

666・668・669・672)や、隣り合うもの(662・667・670・671)がある。平面形では658~662は縦に長く、663・664はおよそ正方形、665~668は台形、669は菱形、670・671は横に長い。剪断面が対向するものうち658・659・661・665は部分的に自然面を残す。また、658や665は最終剥離面がネガティブな剪断面となり、石核の要素を持つ。663はチャート製でその他はサヌカイト製である。

4類(672) 剪断面が3面認められるもの。1点出土した。672の平面形は横に長く、左側に剪断面を2面持ち、略三角形を呈する。サヌカイト製である。

h 石核(673・674)

2点出土し、すべて図示した。2点ともに、両極打法により剥片が取られた残核である。673は自然面を有し、上端に潰れをもち。また、打面については、背面(表面)では右側にあるのに対して、腹面



第IV-52図 SZ1出土石器実測図10(2:3 *675, 1:2)

(裏面)では上側となり、表裏で90度転移している。

674は上下端に潰れをもつ。右側面の風化の度合いが他の面より古く、二重風化(パティナ)とみられる。右側面の形成は旧石器頃に及ぶ可能性がある。いずれもサヌカイト製である。

i 剥片・碎片

剥片・碎片はおおよそ数百点にもおおよび多量に出土しているが図示できなかつた。15点がチャート製の剥片で、その他はすべてサヌカイト製である。

j 打製石斧(675)

1点出土し、図示した。675は泥質片岩を石材とし、刃部の1/2ほどを欠失する。基部から刃部にかけて凸線状に膨らむ剥離調整を施し、裏面の調整は疎らで素材面を大きく残す。

k 礫核石器(礫器)(676~682)

7点出土し、すべて図示した。676は平面が略三角形の自然礫がそのまま使用されたと考えられ、頂点側が基部で底辺側が刃部と推定する。使用により刃部が大きく弾け潰れている。677は扁平な隅丸方形の自然礫を素材とし、下端に片面調整で凹状の刃部をもつ。678は素材の自然礫が剥離により大きく変形し、原形をとどめない。下端に片面調整で凹状の刃部をもつ。679は厚みのある自然礫を素材とし、表側から裏側への片面調整の刃部と、裏側から表側への片面調整の刃部の両方をもつ。両刃部の交点は尖るが意図したものかどうかは計れない。680・681は厚い自然礫の縁辺に片面調整の刃部をもち、刃部が器体のおよそ半分を占める。刃部の形成は少なくとも2回以上の剥離によるものと考えられ、刃部の縁辺が角度をもち山形に尖る形状になる。680と681は素材の規模や剥離調整が類似する。682は自然礫の縁辺に5つの片面調整の刃部をもち、刃部は器体のおよそ全範囲にわたる。素材礫の裏面は剥離により失われ、礫の表面のみが残る結果となる。すべて斑レイ岩製である¹⁸⁾。

l 礫素材の削器(683・684)

2点出土し、すべて図示した。683・684は自然礫から剥離された剥片を素材とし、片側縁に刃部をもつ。683の刃部は片面調整によるもので、684の刃部は両面調整によるものである。すべて斑レイ岩製である。

m 礫素材の楔形石器(685)

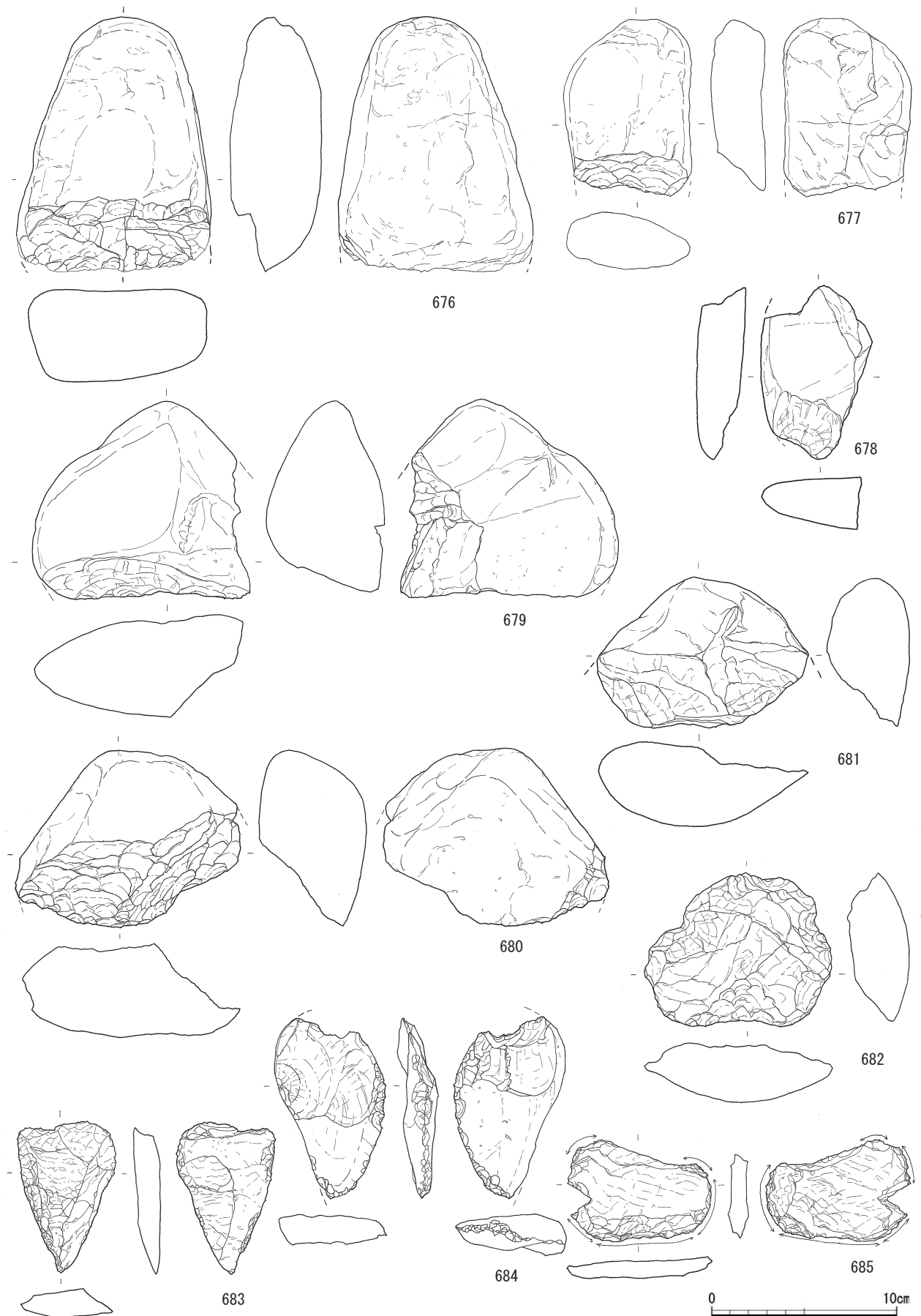
1点出土し、図示した。自然礫から剥離された剥片を素材とし、対向する上下の側縁に、階段状に剥離した潰れをもつ。左側縁の切れ込み状の剥離は意図的な加工ではないと思われる。斑レイ岩製である。

n 磨石(686~706)

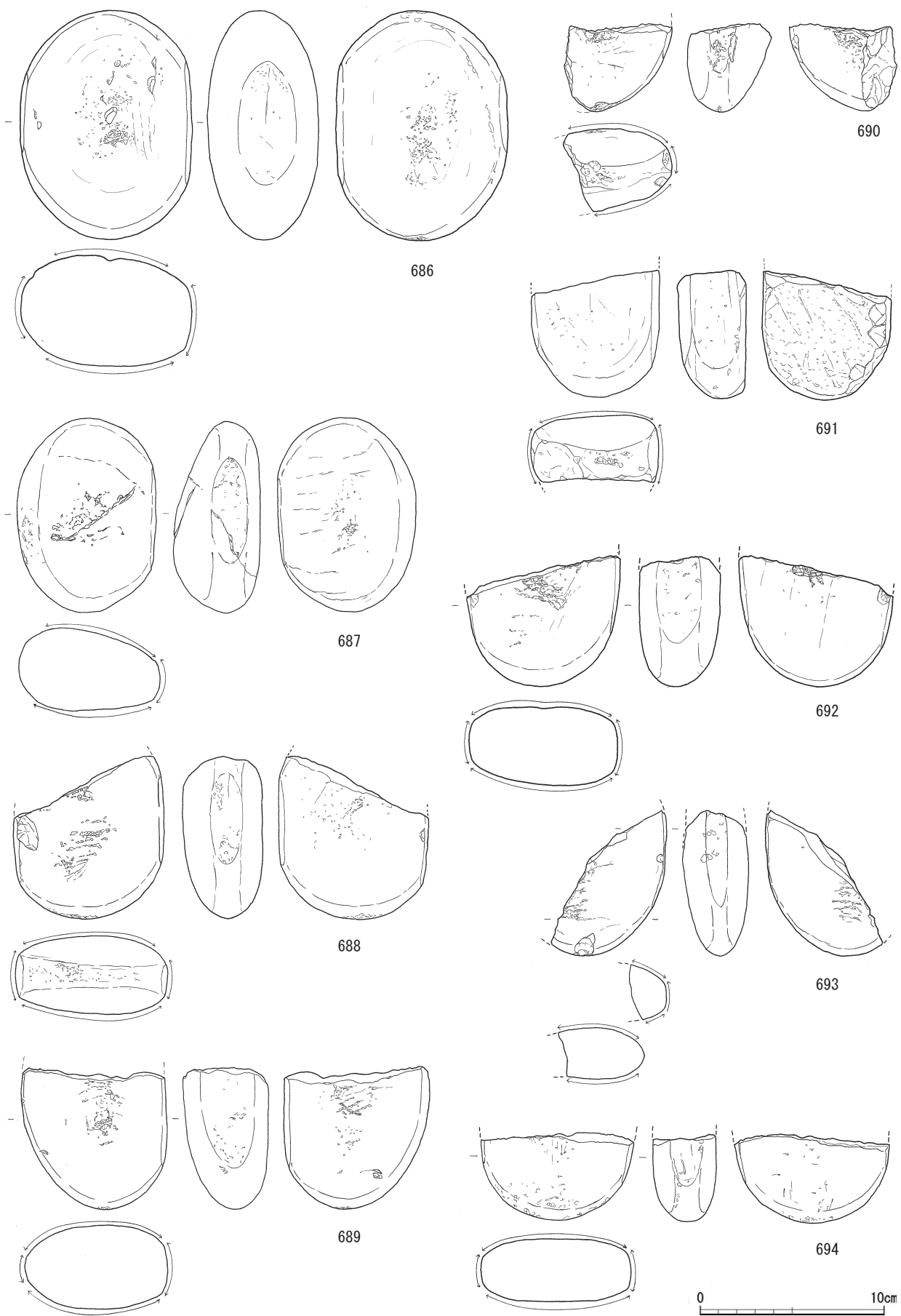
21点出土し、すべて図示した。比較的扁平で平面が楕円形の整った自然礫を使用し、素材の側縁に角ばった磨面が明瞭に形成され、早期前半にみられる「石鹼形」と称するものや、平面が円形や円に近い楕円形の自然礫を使用し、表面や側縁に磨痕が認められるものがある¹⁹⁾。686~698が石鹼形である。686は表裏面および両側縁に磨痕が認められ、両側縁は稜を伴う磨面となる。完形であり典型的なものといえよう。また、表裏面中央には微細な敲打痕が確認できる。687は表裏面および片側面に磨痕が、各面中央に微細な敲打痕が認められる。完形である。688・689・692・694・695・698は両側縁に磨面をもち、表裏面を含め各面に磨痕が見られる。また、表裏面など複数個所に微細な敲打痕が認められる。698は扁平とはいえないものの対向する側縁の磨面が平行で整うことから石鹼形の範疇とした。690・691・693・696・697は対向する側縁の磨面や裏面等、大きく欠失するが各面に磨痕跡が認められることから、石鹼形と想定する。696は赤変し被熱の可能性もある。また表面には敲打痕が大きく残る。699・701は片側縁のみが磨面となる。700・702~705は表面または表裏面に磨痕が認められる。700は表面や下端側縁に敲打痕が大きくみられ敲石と併用する。また、702は表裏面中央に微細な敲打痕が集中する。705は丸い形状で裏面に敲打痕が大きく残る。706は表面の平滑な範囲に磨痕が認められる。素材は比較的大型な礫と推定でき、石皿の可能性もあろう。石材は、696・705は花崗岩、706は斑レイ岩、その他は砂岩である。

o 敲石(707~710)

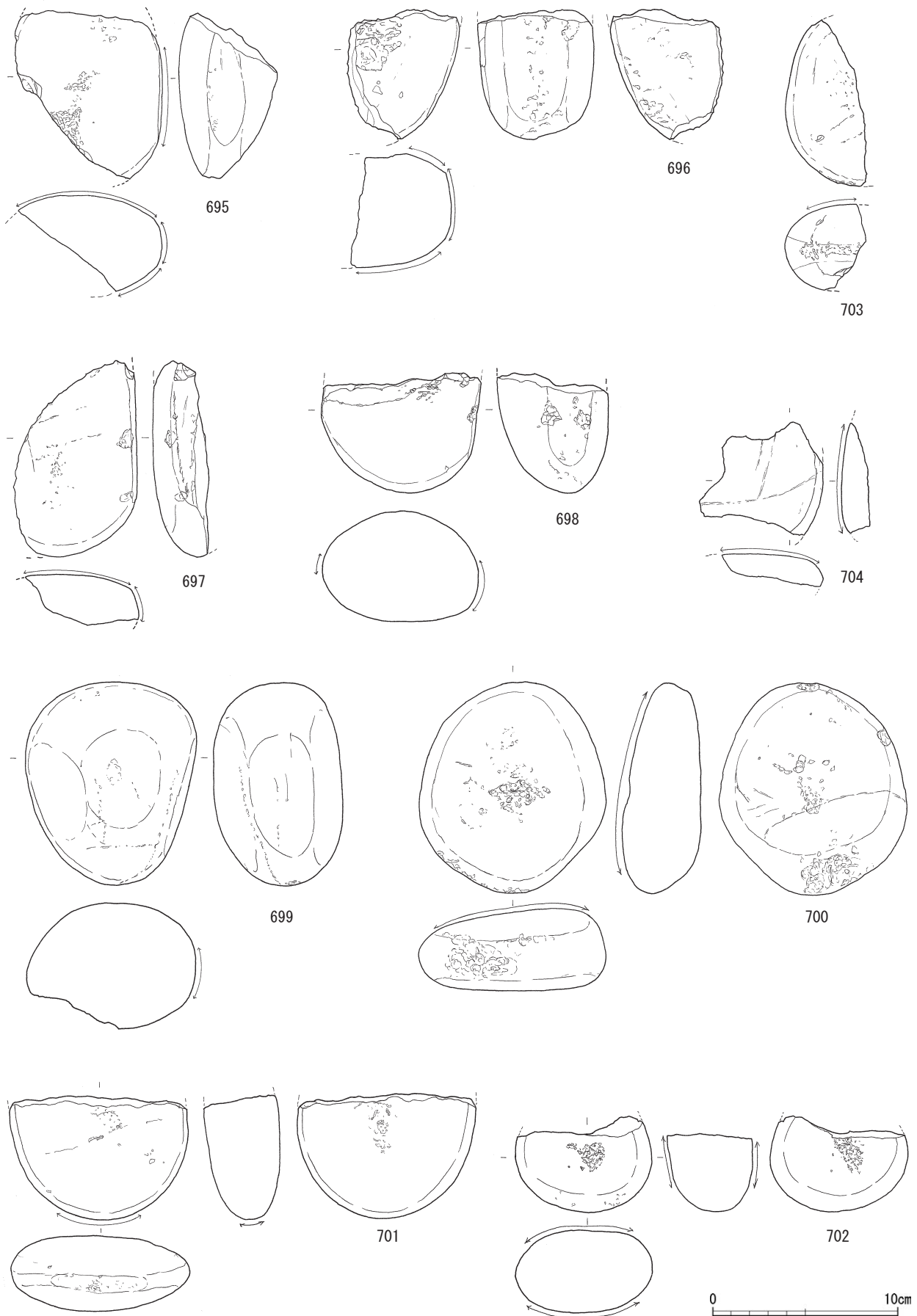
4点出土し、すべて図示した。磨痕がなく、敲打痕のみ明瞭に認められるものを敲石とした。素材となる自然礫の形状は棒状や不定形のものなど様々である。707は扁平な棒状の素材を使用し、表面中央よりやや上部に線状の敲打痕が横位に5~6本ほど



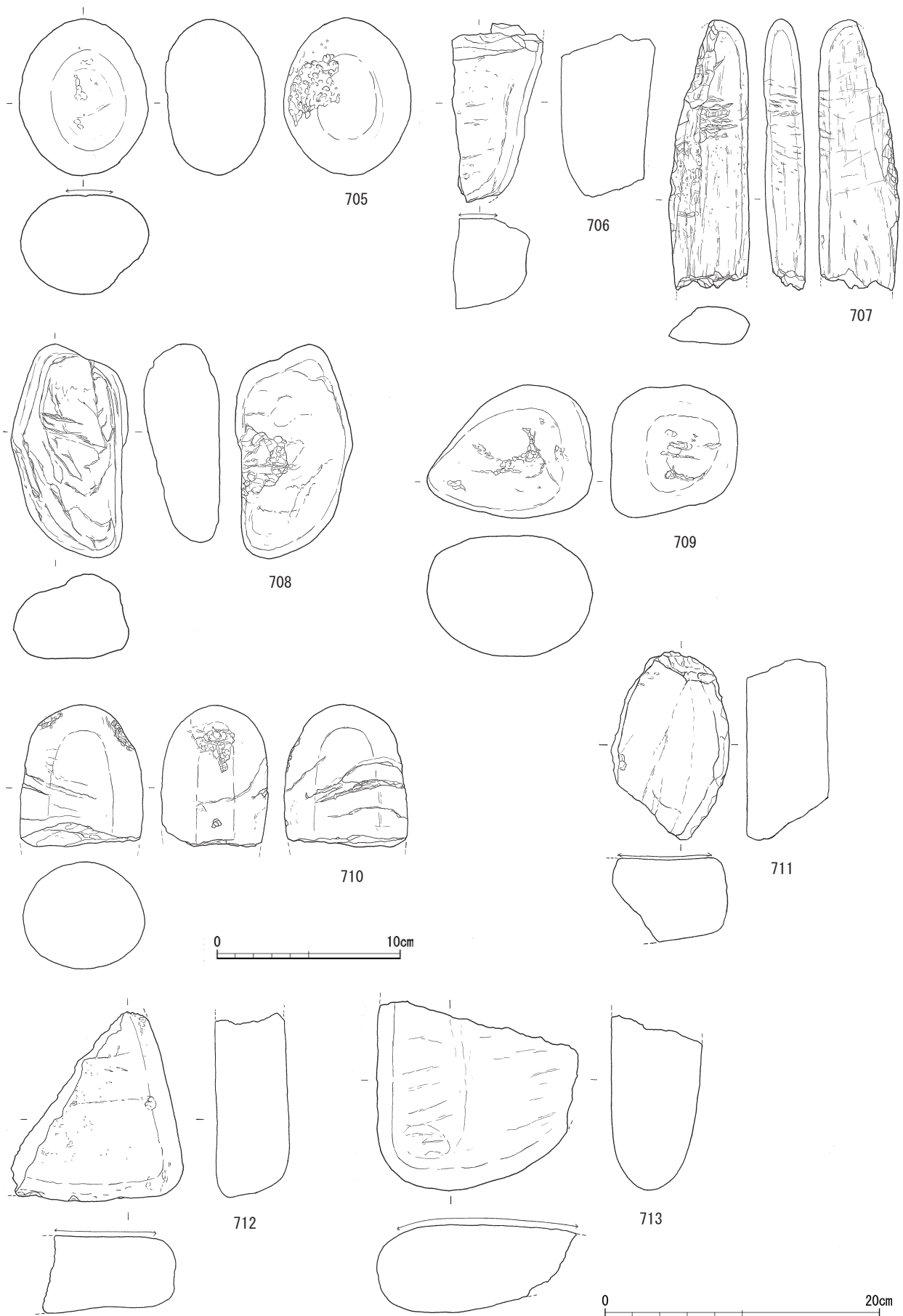
第IV-53图 SZ1出土石器实测图11(1:3)



第IV-54图 SZ1出土石器实测图12(1:3)



第IV-55图 SZ1出土石器实测图13(1:3)



第IV-56图 SZ1出土石器实测图14(1:3 * 711, 712, 713, 1:4)

集中する。敲打痕の形状から、楔によるものと推測する。708は細長く不定形な礫を使用し、表面中央から上部にかけて、楔によると推測する線状の敲打痕が斜位に4～5本ほど認められる。また裏面中央左側には線状を含む敲打痕が集中する。709は拳大で厚みのある不定形な礫を使用し、表面および一側面に敲打痕が認められる。710は円柱状で先端部が丸い礫を使用し、先端部に2ヶ所、敲打痕が認められる。また、中央部には器体を半周するほどの線状の亀裂が認められる。敲打によるものかは不明である。石材は、707は緑泥片岩、708・709は斑レイ岩、710は花崗岩である。

p 石皿(711～713)

3点出土し、すべて図示した。磨石よりも大型の自然礫を使用し、磨面をもち、片手で持ち上げて作業をするよりは置いて作業する受け側のものを石皿とした。711・712は扁平な自然礫を使用し、表面に

は広範囲に及ぶ磨痕が認められ僅かに凹んでいる。713は平滑な表面に顕著な磨痕が認められる。礫の表面と裏面は平行ではなく右側に窄まる形状を呈する。石材はすべて斑レイ岩である。

q 台石(714・715)

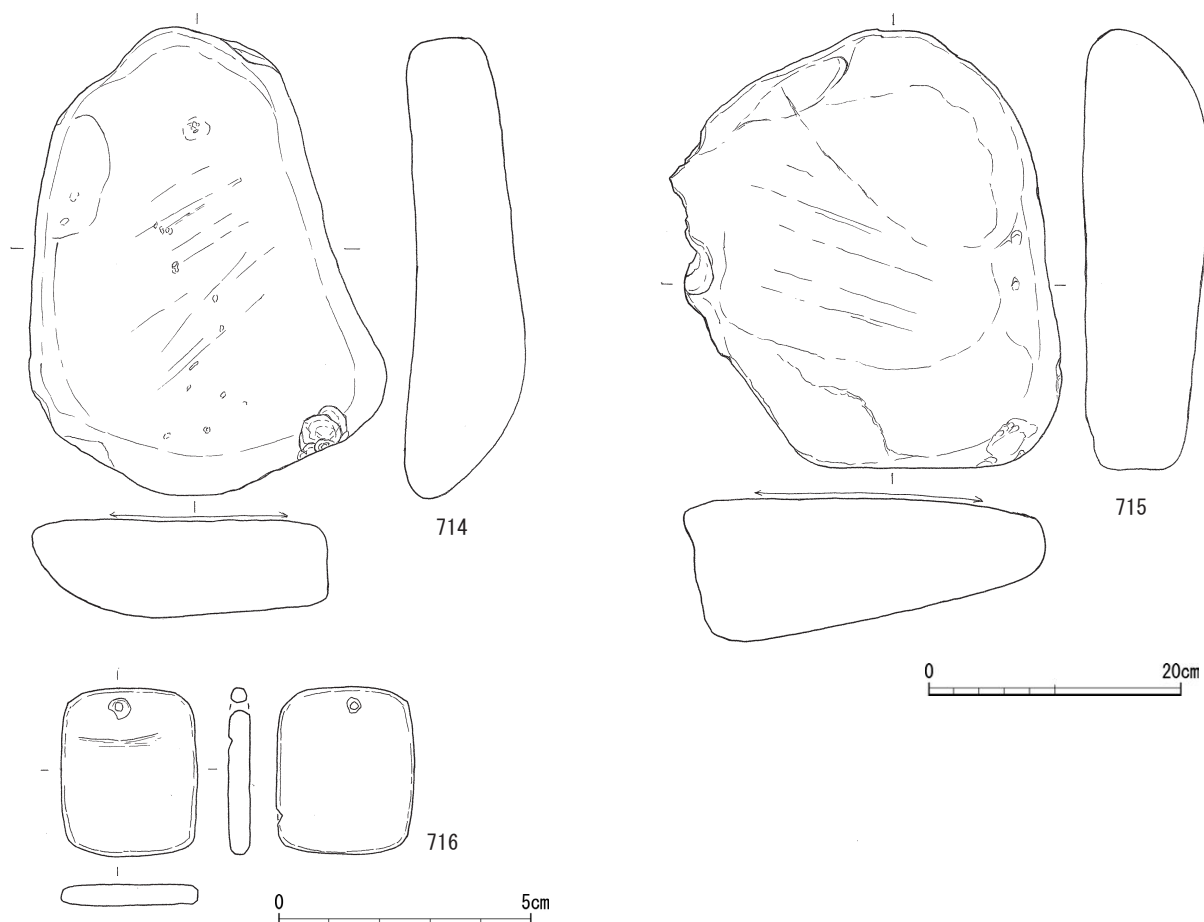
2点出土し、すべて図示した。石皿よりも大型の自然礫を使用し、磨面などの作業面をもち、地面に据え置くと推測するものを台石とした。714・715ともに扁平な礫を使用し、表面の広範囲に磨痕が認められる。714は表面中央が僅かに凹む。石材はすべて斑レイ岩である。

(2) 石製品

石製品は土器や石器と同様、SZ1から出土したものである。1点出土し、図示した。

石製品(垂飾)(716)

716は長さ3.3cm、幅2.7cm、厚さ0.4cmを測り、平面は隅丸方形で上下端および側縁は外側に僅かに膨



第IV-57図 SZ1出土石器実測図15及び石製品実測図(1:6 *716, 2:3)

らむ。上部中央やや左側に穿孔をもつ。孔は表裏からの穿つによるもので、径は外側が0.4cmで中心部は窄まり0.15cmを測る。穿孔の下には、長さ1.5cmほどで下側に弧状の線刻がみられる。石材は砂岩で、薄く割った剥片を使用したと考えられ、表面を平滑

註

1) 関西縄文文化研究会三重例会(2022年11月20日開催)において、A~J類の10に分ける仮の土器分類・案を示した。その分類と例会での意見交換を参考に、整理を進めてきた。当報告において、I~IX類に大別し、87に細分をした。これをもって正式なものとした。

2) 以下の文献に詳細が述べられている。この文献より後年に、研究を深化させているが、本報告ではこの文献を基にして考察をしている。

山田 猛 1988 「押型文土器の型式学的再検討-三重県下の前半期を中心として」『三重県史研究4』三重県あわせて、

矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社も参考としている。

3) 以下の文献を基に報告を進めている。

矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

4) 註3) 文献を基に報告を進めている。

5) 註3) 文献を基に報告を進めている。

6) 以下の文献を基に報告を進めている。

矢野健一 2008 「押型文土器(高山寺式・穂谷式)」『総覧 縄文土器』アムプロモーション

7) 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1999 『粟津湖底遺跡自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ)』、三重県埋蔵文化財センター 1993 『研究紀要2』を参考とした。

にしてさらに厚さを均一に整えている。平面は4隅を丸く加工した左右対称形であり、丁寧な作りである。石製品の規模や穿孔のある形状から、首などにぶら下げる装飾品、垂飾と推定する。

(中村法道)

8) 松阪市教育委員会 1980 『射原垣内遺跡発掘調査概報』と註3) 文献を基にしている。

9) 豊橋市美術・博物館 村上昇氏のご教示をえた。

10) 以下の文献で確認をした。

山田 猛 2022 『坂倉遺跡-縄文・弥生時代編-』三重県埋蔵文化財センター

11) 以下の文献を基に、報告を進めている。

宮崎朝雄 2008 「尖底回転縄文土器(室谷上層系・表裏縄文系土器)」『総覧 縄文土器』アムプロモーション

谷口康浩 2008 「多縄文系土器」『総覧 縄文土器』アムプロモーション

12) 立命館大学 矢野健一氏からご教示をえた。

13) 富士宮市教育委員会 1983 『若宮遺跡 西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書22』による。

14) 註6) 文献と同じ。

15) 石器器種の同定について、田部剛士氏にご教示を頂いた。

16) 石鏃の分類については、以下の文献を参考にした。

奈良県立橿原考古学研究所『鶴山遺跡-縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書-』2006

17) 楔形石器や後述する石核、礫素材の楔形石器の実測図において、階段状剥離の範囲を両端矢印線で示した。

18) 礫石器および石製品の石材について、松田順一郎氏にご教示を頂いた。

19) 磨石や後述する石皿や台石の実測図において、磨痕の範囲を両端矢印線で示した。

参考文献

坂下町教育委員会 1974『柁の湖遺跡調査報告書 岐阜県恵那郡坂下町』 *刊行当時

松阪市教育委員会 1980『射原垣内遺跡発掘調査概報』

山添村教育委員会 1989『奈良県山辺郡山添村 大川遺跡 縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター 1990『西出遺跡・井之広遺跡』

立教学院三の原遺跡調査団 1991『静岡県伊東市 三の原遺跡』

二上山博物館 1992『よみがえる二上山の3つの石』

松澤 修「栗津遺跡の縄文早期の土器について」 1993『研究紀要2』 三重県埋蔵文化財センター

矢野健一 1993「押型文土器の起源と変遷に関する新視点」『研究紀要2』 三重県埋蔵文化財センター

山田 猛 1993「大鼻式・大川式の再検討」『研究紀要2』 三重県埋蔵文化財センター

三重県埋蔵文化財センター 1993『多気遺跡群発掘調査報告』

三重県埋蔵文化財センター 1994『大鼻遺跡-本文編-』

宮崎朝雄・金子直行 1995「回転文様系土器群の研究-表裏縄文系・撚糸文系・室谷上層系・押型文系土器群の関係-」『日本考古学 第2号』 日本考古学協会

上松町教育委員会・木曾郡町村会 1995『お宮の森裏遺跡 一般国道19号上松バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター 1998『鴻ノ木遺跡(下層編)』

縄文時代文化研究会 1999『縄文時代 10』

矢野健一 1999「出土土器に関する考察」『栗津湖底遺跡自然流路(栗津湖底遺跡Ⅲ)』 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1999『栗津湖底遺跡自然流路(栗津湖底遺跡Ⅲ)』

三重県埋蔵文化財センター 2002『研究紀要 第11号-特集 三重の縄文時代-』

奈良県立橿原考古学研究所 2002『桐山和田遺跡』

三重県 2005『三重県史 資料編 考古1』

奈良県教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所 2006『鶴山遺跡-縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書-』

原田昌幸 2008「撚糸文系土器」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

中島 宏 2008「押型文系土器(沢式・樋沢式・細久保式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

兵頭 勲 2008「押型文系土器(黄島式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

三重県埋蔵文化財センター 2014『野添大辻遺跡(第1次)発掘調査報告』

岡田憲一 2014「大鼻式成立覚書」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題 発表要旨集・研究論文集』 東海縄文研究会

守屋豊人 2014「大川式土器に見られる主要類型の展開とその理解」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題 発表要旨集・研究論文集』 東海縄文研究会

村上 昇 2014「愛知県を中心とする草創期末から早期前葉にかけての土器編年」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』 東海縄文研究会

山田猛 2014「大川式について」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』 東海縄文研究会

関西縄文文化研究会 2015『第16回関西縄文文化研究会研究集会 縄文研究と美術・縄文時代の装身具 発表要旨・資料集』

矢野健一 2016『土器編年にみる西日本の縄文社会』 同成社

岡本東三 2017『縄紋時代早期 押型紋土器広域編年研究』 雄山閣

中村法道 2022「I 多気北畠氏遺跡第39次調査の概要」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

小濱学 2022「II 多気北畠氏遺跡第39次調査の縄文土器」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

田部剛士 2022「III 大鼻式前後の石器群」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

山田猛 2023『平等と定住の縄文社会』 同成社

縄文時代文化研究会 2023『縄文時代 34』

報告番号	測定番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考	
1	085-01	G21	G20	SZ1 I a1	縄文土器	深鉢	縄文LR押	縄文LR	縄文LR	燃糸L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ		やや密砂粒含	良	にふい楊 灰楊	7.5YR6/3 7.5YR5/2	
2	008-05	G21	F20	SZ1 I a2	縄文土器	深鉢	縄文LR押	縄文LR	縄文LR	燃糸R	ナデ				やや密、砂粒含	良	にふい黄橙、 黒楊、黒楊	10YR7/3, 7.5YR 3/2, 7.5YR6/2	
3	009-02	G21	F20	SZ1 I a2	縄文土器	深鉢	縄文LR押	縄文LR	縄文LR	燃糸R	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ		やや密、砂粒含	良	にふい楊	7.5YR6/3	
4	008-04	G21	F19	SZ1 I a3	縄文土器	深鉢	縄文LR押	燃糸R	縄文LR	燃糸R	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ		やや粗、砂粒含	良	にふい楊 灰黄楊	7.5YR6/3 10YR5/2	
5	045-06	G21	F19	SZ1 I a3	縄文土器	深鉢	縄文LR押	燃糸L	燃糸L						密 微砂粒含	良	黒楊 にふい楊	10YR3/2 7.5YR7/4	
6	001-02	G21	G20	SZ1 I b1	縄文土器	深鉢	燃糸LR押	燃糸LR押	燃糸LR	燃糸LR	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ		やや密	良	にふい楊	7.5YR5/3	
7	011-01	G21	G20	SZ1 I b2	縄文土器	深鉢	燃糸無節押引	燃糸無節押引	燃糸無節押引	燃糸LR	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ		密、砂粒含	良	にふい楊	7.5YR5/3	
8	011-02	G21	G20	SZ1 I b2	縄文土器	深鉢	燃糸無節押引	燃糸無節押引	燃糸無節押引						密、砂粒含	良	灰楊	7.5YR5/2	
9	016-01	G21	E19	SZ1 I b2	縄文土器	深鉢	燃糸L	燃糸L	燃糸L	刺離	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ		密、砂粒含	良	にふい黄橙 灰黄楊	10YR6/3 10YR4/2	
10	071-06	G21	G20	SZ1 I c1	縄文土器	深鉢	ナデ	燃糸R	燃糸R	燃糸R	刺離				やや密	良	にふい楊	7.5YR6/4	
11	031-02	G21	F20	SZ1 I c1	縄文土器	深鉢	ナデ	燃糸R	燃糸R	燃糸R	刺離				密、砂粒含	良	灰黄楊	10YR5/2	
12	033-03	G21	F20	SZ1 I d1	縄文土器	深鉢			縄文LR						やや密	良	にふい黄橙	10YR7/3	
13	023-03	G21	F21	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸R	ナデ				密 砂粒含	良	灰黄楊	10YR4/2	
14	010-01	G21	F20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	指圧痕 ナデ	燃糸L	指圧痕 ナデ		やや密、微砂粒含	良	にふい黄橙 灰黄楊	10YR6/3 10YR6/2	
15	018-06	G21	F20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にふい黄橙	10YR7/6	
16	027-05	G21	F21	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	ナデ				やや密、砂粒含	良	にふい黄橙	10YR7/3	
17	065-08	G21	G20	SZ1 I d1	縄文土器	深鉢				燃糸L	ナデ				やや密 砂粒含	良	にふい黄橙	10YR7/3	
18	030-08	G21	F19	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸R	ナデ				密、砂粒含	良	灰黄楊	10YR5/2	
19	062-02	G21	G20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰楊	7.5YR4/2	
20	062-01	G21	G20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい黄橙	10YR6/3	
21	040-04	G21	F20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にふい楊	7.5YR6/3	
22	050-04	G21	G20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR5/3	
23	088-01	G21	G20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸R	刺離				密 微砂粒含	良	にふい黄橙	10YR6/3	
24	027-01	G21	F20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	ナデ				やや密、微砂粒含	良	灰黄楊	10YR6/2	
25	052-06	G21	G20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸R	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい黄橙 灰黄楊	10YR6/3 10YR5/2	
26	062-03	G21	G20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい黄楊	10YR5/3	
27	038-03	G21	F20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	ナデ				やや密、砂粒含	良	にふい楊 灰楊	7.5YR6/4 7.5YR5/2	
28	041-04	G21	G20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	ナデ				密 砂粒含	良	にふい黄楊	10YR5/3	
29	022-03	G21	F20	SZ1 I d2	縄文土器	深鉢				燃糸L	ナデ				やや密	良	灰黄褐色	10YR6/2	

第IV-2表 土器等観察表1

報告番号	測点番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頭部	内、頭部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
30	017-07	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	ナデ				やや密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR1/2
31	035-06	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	灰黄褐	10YR4/2
32	057-03	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	指圧痕 ナデ				密、砂粒多含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
33	012-04	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	指圧痕 ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
34	017-08	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR5/3
35	030-07	G21	F19	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/4
36	077-04	G21	B17	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸LR	ナデ				密、微砂粒含	良	灰黄褐	10YR6/2
37	048-04	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR7/4
38	035-05	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/4
39	067-01	G21	G21	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	ナデ				やや密、微砂粒含	良	黒褐	7.5YR2/2
40	019-04	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	ナデ				やや密、砂粒含	良	暗褐	7.5YR3/2
41	009-01	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	指圧痕 ナデ				やや粗、砂粒含	良	にぶい赤褐	5YR5/4
42	010-05	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	指圧痕 ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/3, 7.5YR4/2, 10YR5/2
43	073-07	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸無節	ナデ				やや密、砂粒含	良	黒	2.5YR6/6
44	017-02	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR7/3
45	010-03	G21	F19	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	指圧痕 ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい橙	5YR6/4
46	071-08	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	ナデ				やや密	良	黒褐	7.5YR3/2
47	012-01	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR7/4
48	046-08	G21	F19	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	指圧痕 ナデ				密、砂粒多含	良	褐灰	7.5YR1/1
49	078-05	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	灰黄褐	10YR5/2
50	032-06	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	ナデ				密、砂粒多含	良	にぶい橙	7.5YR7/3
51	037-06	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	7.5YR5/2
52	037-05	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR5/3
53	013-04	G21	G21	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄褐	10YR5/4
54	023-02	G21	F21	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい橙	5YR6/4
55	014-05	G21	G21	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	ナデ				密、砂粒含	良	褐灰	5YR4/1
56	043-08	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	ナデ				密、砂粒含	良	黒褐	7.5YR3/1
57	025-03	G21	F21	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸L	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/3
58	076-05	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						燃糸R	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR7/2
																	密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10YR6/4
																	密、砂粒含	良	黒	10YR2/1

第IV-3表 土器等観察表2

報告番号	測測番号	大地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	内、頸部	外、頸部	内、腹部	外、腹部	内、底部	底、口徑 (cm)	胎土	焼成	色調	備考	
59	073-05	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						ナデ	ナデ			やや密	良	にぶい橙 黒褐色	7.5YR7/4 7.5YR5/2	
60	047-01	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						ナデ	ナデ			やや密	良	10YR4/1 5YR6/6		
61	062-04	G21	G20	SZ1	I-d2	縄文土器						ナデ	ナデ			密 砂粒含	良	灰褐色 にぶい褐	7.5YR4/2 7.5YR6/3	
62	032-05	G21	F20	SZ1	I-d2	縄文土器						ナデ	ナデ			やや密、微 砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
63	036-02	G21	F20	SZ1	I-e1	縄文土器								剥離		密、砂粒含	良	10YR6/3		
64	007-06	G21	E19	SZ1	II-a1	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや粗、砂 粒含	良	灰褐色 灰黄褐色	5YR4/2 10YR6/2	側面圧痕縄文L
65	054-03	G21	G20	SZ1	II-a2	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや粗 砂 粒含	良	灰黄褐色 灰灰	10YR6/2 2.5Y4/1	
66	011-05	G21	G20	SZ1	II-a1	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密、小石、 砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐色	10YR6/3, 10YR6/2 7.5YR5/2	側面圧痕縄文L
67	007-03	G21	G20	SZ1	II-a1	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密、微 砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐色	10YR6/3 10YR4/2	側面圧痕縄文L
68	056-05	G21	G20	SZ1	II-a1	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ		2/12 18.0	密 砂粒多 含	良	10YR6/2 7.5YR5/1		側面圧痕縄文L
69	038-01	G21	F20	SZ1	II-a1	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密、微 砂粒含	良	10YR7/3 10YR5/1		側面圧痕縄文L
70	020-05	G21	F20	SZ1	II-a1	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密	良	にぶい橙 黒褐色	7.5YR7/4 7.5YR3/2	側面圧痕縄文L
71	008-03	G21	F19	SZ1	II-a1	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密、微砂粒 含	良	にぶい褐 灰灰	7.5YR6/3 10YR5/1	側面圧痕縄文L
72	023-05	G21	F21	SZ1	II-a2	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密	良	7.5YR3/1		側面圧痕縄文L
73	078-03	G21	F19	SZ1	II-a2	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密 砂粒多 含	良	10YR6/3		側面圧痕縄文L
74	043-03	G21	F20	SZ1	II-a2	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密 砂粒含	良	7.5YR4/2		側面圧痕縄文L
75	032-04	G21	F20	SZ1	II-a2	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	剥離	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密、微 砂粒含	良	7.5YR3/1 10YR5/1		側面圧痕縄文L
76	039-01	G21	F20	SZ1	II-a2	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	剥離	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密、砂 粒含	良	7.5YR6/3 10YR4/1		側面圧痕縄文L
77	074-02	G21	F20	SZ1	II-a2	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密 砂粒含	良	7.5YR4/2		側面圧痕縄文L
78	004-02	G21	F20	SZ1	II-b1	縄文土器	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ		2/12, 23.6	密、砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐色	10YR7/2, 6/3 10YR4/2	側面圧痕縄文L
79	008-01	G21	F19	SZ1	II-b1	縄文土器	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密、砂 粒含	良	にぶい橙 暗灰 黄褐色	7.5YR7/3 N3/0 10YR8/3	側面圧痕縄文L
80	026-08	G21	F20	SZ1	II-b2	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密	良	5YR4/1 10YR5/1		側面圧痕縄文L
81	030-06	G21	F19	SZ1	II-b2	縄文土器	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密、砂粒含	良	7.5YR4/2		側面圧痕縄文L
82	034-06	G21	F20	SZ1	II-c1	縄文土器	ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密、砂粒含 粒含	良	5YR3/1 10YR7/2		側面圧痕縄文L
83	033-05	G21	F19	SZ1	II-d1	縄文土器				指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密	良	10YR6/3 7.5YR4/2		側面圧痕縄文L
84	044-02	G21	F20	SZ1	II-d1	縄文土器				指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密 砂粒多 含	良	灰黄褐色 にぶい黄橙	10YR5/2 10YR6/3	側面圧痕縄文L
85	026-05	G21	F20	SZ1	II-d1	縄文土器				指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密、砂 粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3	側面圧痕縄文L
86	028-02	G21	F21	SZ1	II-d1	縄文土器	縄文L	縄文L	縄文L	指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			やや密、砂 粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3	側面圧痕縄文L
87	045-02	G21	F20	SZ1	II-e1	縄文土器				指圧痕 ナデ	縄文L	指圧痕 ナデ	指圧痕 ナデ			密	良	灰灰 灰黄褐色	7.5YR6/1 10YR5/2	側面圧痕縄文L

第IV-4表 土器等観察表3

報告番号	測定番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、肩部	内、肩部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
88	037-04	G21	F19	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR5/3	
89	038-07	G21	F20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや密、微砂粒含	良	にぶい橙 7.5YR7/3 褐灰 7.5YR4/1	
90	045-08	G21	F19	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、微砂粒含	良	黒褐 7.5YR3/2 10YR5/2	
91	038-04	G21	F20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや粗、砂粒含	良	黒褐 7.5YR3/2 10YR7/1	
92	011-04	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文R	ナデ				密、砂粒含	良	黒褐 7.5YR3/2 10YR6/2	
93	015-03	G21	G21	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR4/3	
94	016-02	G21	E19	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	灰褐 7.5YR6/2	
95	013-05	G21	G21	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	指圧痕 ナデ				密、微砂粒含	良	灰黄褐 10YR6/2 10YR5/1	
96	012-03	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	10YR7/3 10YR6/2	
97	016-03	G21	E19	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR6/4 10YR4/3	
98	049-07	G21	F19	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや密、微砂粒含	良	10YR6/2 5YR2/1	
99	016-06	G21	F19	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	灰黄褐 10YR4/2	
100	075-01	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2, 4/2	
101	021-01	G21	F20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや密、微砂粒含	良	10YR6/2 10YR5/2	
102	030-02	G21	F19	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙 10YR5/3 10YR4/2	
103	048-05	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや密	良	黒褐 7.5YR3/2 10YR6/2	
104	049-08	G21	F19	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや粗、微砂粒含	良	褐灰 7.5YR4/1 10YR6/2	
105	043-01	G21	F20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	指圧痕 ナデ				密、砂粒多含	良	にぶい黄橙 10YR4/3 10YR4/3, 5/3	
106	039-06	G21	F20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや密	良	にぶい橙 7.5YR4/2	
107	039-05	G21	F20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや粗、砂粒含	良	灰褐 7.5YR4/2 7.5YR5/3	
108	029-02	G21	F21	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	10YR6/3 7.5YR4/2	
109	053-03	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	
110	039-03	G21	F20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや密	良	灰黄褐 10YR5/2	
111	027-06	G21	F21	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				やや密、砂粒含	良	7.5YR4/1 7.5YR6/1	
112	043-05	G21	F20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒多含	良	にぶい黄橙 10YR4/3 7.5YR5/3	
113	042-06	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄 7.5YR5/4	
114	041-03	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄 7.5YR6/3	
115	074-04	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	ナデ				密、砂粒含	良	10YR3/2	
116	075-03	G21	G20	SZ1	IIe1	縄文土器 深鉢						縄文LRL	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	灰黄 7.5YR5/2, 6/2	

第IV-5表 土器等観察表4

報告番号	寒測番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考		
146	004-01	G21	F19	SZ1	II f6	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR、枝回転文	指圧痕 ナデ			3/12、20.6	密、砂粒含	良	灰黄褐	10R6/2	側面圧痕縄文LR	
147	058-01	G21	G20	SZ1	II f6	深鉢	縄文RL	縄文RL	指圧痕 ナデ	縄文RL	指圧痕 ナデ	縄文RL、枝回転文	指圧痕 ナデ			3/12 24.3	密、砂粒多含	良	にぶい黄橙 褐灰	10R6/3 10R6/1	側面圧痕縄文RL	
148	002-01	G21	F19	SZ1	II f6	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR、枝回転文	指圧痕 ナデ			1/12、21.4	やや粗、砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2	側面圧痕縄文	
149	012-09	G21	G20	SZ1	II g1	深鉢				縄文LR	指圧痕 ナデ	枝回転文	指圧痕 ナデ				密、微砂粒含	良	にぶい褐 灰黄褐	7.5YR6/3, 5/3 10R6/2		
150	071-01	G21	G20	SZ1	II g2	深鉢						枝回転文	指圧痕 ナデ				やや密、微砂粒含	良	灰褐、黒褐 褐灰	7.5YR5/2, 3/1 7.5YR4/1		
151	003-02	G21	F20	SZ1	II g1	深鉢				縄文RL	指圧痕 ナデ	枝回転文	指圧痕 ナデ				やや粗、小石含	良	褐灰 にぶい黄橙	7.5YR4/1 10R6/3		
152	002-02	G21	F20	SZ1	II g2	深鉢						枝回転文	指圧痕 ナデ				やや粗、砂粒含	良	にぶい褐黄橙	10R7/3		
153	002-03	G21	F20	SZ1	II g2	深鉢						枝回転文	指圧痕 ナデ				やや粗、小石含	良	にぶい黄橙 にぶい褐	10R7/3 7.5YR5/3		
154	018-04	G21	F20	SZ1	II g2	深鉢						枝回転文	指圧痕 ナデ				やや密、砂粒含	良	明視灰	7.5YR7/2		
155	003-01	G21	F20	SZ1	II g2	深鉢						枝回転文	指圧痕 ナデ				やや粗、小石含	良	にぶい黄橙	10R6/3		
156	003-04	G21	F20	SZ1	II g1	深鉢				縄文RL	指圧痕 ナデ	枝回転文	指圧痕 ナデ				やや密、砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄橙 黒褐	7.5YR6/3 10R7/3 7.5YR3/2		
157	003-03	G21	F20	SZ1	II g2	深鉢						枝回転文	指圧痕 ナデ				やや粗、小石含	良	にぶい黄橙	10R6/3		
158	077-05	G21	F19	SZ1	III a1	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR	指圧痕 ナデ						密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR5/2	側面圧痕縄文LR	
159	049-05	G21	F19	SZ1	III a1	深鉢	縄文LR	縄文LR	ナデ								やや密、砂粒含	良	灰黄褐	10R6/2	側面圧痕縄文LR	
160	055-04	G21	G20	SZ1	III a4	深鉢	縄文RL	縄文RL	剝離	縄文RL	剝離						やや密	良	灰褐	5YR4/2		
161	041-02	G21	G20	SZ1	III a2	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR	指圧痕 ナデ	枝回転文	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	褐灰	7.5YR4/1		
162	031-04	G21	F19	SZ1	III a4	深鉢	縄文LR	縄文LR	剝離								密、砂粒含	良	褐灰	7.5YR4/1		
163	007-04	G21	G20	SZ1	III a2	深鉢	縄文RL	縄文RL	指圧痕 ナデ	縄文RL	指圧痕 ナデ						やや密、砂粒含	良	灰褐 褐灰	5YR4/2 10R6/1		
164	035-02	G21	F20	SZ1	III a2	深鉢	縄文RL	縄文RL	ナデ								密、砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4		
165	054-01	G21	G20	SZ1	III a2	深鉢	縄文LR	縄文LR、LR押	指圧痕 ナデ	縄文RL	指圧痕 ナデ						1/12 31.4	やや密、砂粒含	良	灰褐 にぶい黄橙	7.5YR4/2 10R7/3	
166	057-05	G21	G20	SZ1	III a2	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ	剝離	指圧痕 ナデ						密、砂粒多含	良	灰褐 にぶい橙	7.5YR5/2 10R7/3		
167	077-06	G21	F19	SZ1	III a4	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ								密、砂粒含	良	灰褐 7.5YR5/2 7.5YR5/1	7.5YR5/2 7.5YR5/1		
168	055-05	G21	G20	SZ1	III a2	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ	剝離	指圧痕 ナデ						やや密、微砂粒含	良	灰褐 にぶい黄褐	7.5YR4/2 10R7/3		
169	011-06	G21	G20	SZ1	III a4	深鉢	縄文RL	縄文RL	ナデ								密、微砂粒含	良	褐灰 灰黄褐	7.5YR4/1 10R6/2		
170	057-06	G21	G20	SZ1	III a2	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ	剝離	指圧痕 ナデ						密、砂粒含	良	灰褐 にぶい黄橙	7.5YR5/2 10R6/3		
171	052-01	G21	G21	SZ1	III a3	深鉢	縄文RL	縄文RL	ナデ	縄文RL	剝離						密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10R6/3		
172	052-05	G21	G20	SZ1	III a4	深鉢	縄文RL	縄文RL	ナデ	枝回転文	剝離						密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/2		
173	078-01	G21	G20	SZ1	III a5	深鉢	ナデ	枝回転文	ナデ								密、砂粒含	良	灰黄褐 褐灰	10R6/2 10R6/1		
174	005-01	G21	F20	SZ1	III a6	深鉢	縄文LR	枝回転文	指圧痕 ナデ	枝回転文	指圧痕 ナデ	枝回転文	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3		

第IV-7表 土器等観察表6

報告番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
175	009-01	G21	F19	SZ1	IIIa6	縄文土器	深鉢	縄文LR	枝回転文	指圧痕 ナデ	枝回転文	指圧痕 ナデ	枝回転文	指圧痕 ナデ	やや密、砂粒含	良	浅黄褐色にふい	7.5YR8/4 7.5YR7/4	
176	072-01	G20	SZ1	IIIa1	縄文土器	深鉢	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR、枝回転文	指圧痕 ナデ	縄文LR、枝回転文	指圧痕 ナデ	縄文LR、枝回転文	指圧痕 ナデ	やや密、砂粒含	良	暗赤褐色	5YR3/2	側面圧痕縄文LR
177	085-02	G20	SZ1	IIIa1	縄文土器	深鉢	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR	指圧痕 ナデ	やや密、砂粒含	良	灰褐色	10YR5/1, 7.5YR3/1, 10YR6/2	側面圧痕縄文LR
178	072-05	G20	SZ1	IIIa7	縄文土器	深鉢	縄文LR	指圧痕 ナデ	縄文LR、押、枝回転文	指圧痕 ナデ	縄文LR、押、枝回転文	指圧痕 ナデ	縄文LR	指圧痕 ナデ	やや密	良	にふい	7.5YR6/4	側面圧痕縄文LR
179	084-05	G20	SZ1	IIIa7	縄文土器	深鉢	縄文LR	指圧痕 ナデ	ナデ	指圧痕 ナデ		指圧痕 ナデ		指圧痕 ナデ	やや密、砂粒含	良	灰褐色	7.5YR5/2 7.5YR6/3	側面圧痕縄文LR
180	027-04	G21	F20	SZ1	IIIa8	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR、押、ナデ	指圧痕 ナデ		指圧痕 ナデ		指圧痕 ナデ	やや密	良	にふい	7.5YR5/3	
181	012-05	G20	SZ1	IIIa4	縄文土器	深鉢	縄文LR	ナデ	縄文LR	ナデ					密	良	黒褐色	10YR3/1 10YR6/1	
182	045-05	G21	F19	SZ1	IIIa4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	ナデ					密	良	黒褐色	10YR3/1	
183	026-06	G21	F20	SZ1	IIIa6	縄文土器	深鉢	枝回転文	枝回転文	指圧痕 ナデ		指圧痕 ナデ			やや密	良	黒褐色	5YR3/1	
184	028-08	G21	F21	SZ1	IIIa4	縄文土器	深鉢	縄文LR	縄文LR	指圧痕 ナデ		指圧痕 ナデ			やや密、砂粒含	良	灰褐色	10YR5/1 7.5YR5/3	
185	016-04	G21	E19	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	指圧痕 ナデ			密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR6/3
186	029-05	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	指圧痕 ナデ			密、砂粒、小石粒含	良	灰褐色	10YR4/2	
187	006-03	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR6/3
188	010-02	G21	F19	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			やや密、砂粒、小石含	良	にふい	7.5YR7/4 7.5YR6/3	
189	038-06	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			やや密、砂粒含	良	にふい	7.5YR6/3	
190	013-07	G21	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢			枝回転文		枝回転文	指圧痕 ナデ			密、微砂粒含	良	灰褐色	10YR5/2 10YR5/1	
191	017-01	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			やや密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR6/3
192	014-06	G21	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢			枝回転文		枝回転文	指圧痕 ナデ			密	良	にふい	黄褐色	10YR6/3 10YR4/3
193	028-01	G21	F21	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			やや密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR7/3 7.5YR4/1
194	015-01	G21	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢			枝回転文		枝回転文	ナデ			密、砂粒含	良	にふい	7.5YR5/4	
195	019-01	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	工具ナデ?			やや密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR6/3 7.5YR4/2
196	036-06	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナサエ			密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR5/3
197	029-08	G21	F21	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			密、砂粒含	良	灰褐色	7.5YR5/2	
198	022-06	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文?		枝回転文?	ナデ			やや密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR7/3
199	022-07	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文?		枝回転文?	ナデ			やや密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR7/3 10YR5/1
200	031-06	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			密、砂粒含	良	にふい	黄褐色	10YR5/3
201	034-01	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			やや密	良	灰褐色	7.5YR5/2 5YR7/6	
202	038-05	G21	F20	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文?		枝回転文?	ナデ			やや密、砂粒含	良	黒褐色	7.5YR3/1	
203	040-07	G21	E19	SZ1	IIIb1	縄文土器	深鉢		枝回転文		枝回転文	ナデ			やや密、微砂粒含	良	浅黄褐色	7.5YR8/4	

表IV-8表 土器等観察表7

報告番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
262	056-02	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 微砂粒含	良	にふい楊	7.5YR5/3
263	056-03	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 小石、砂粒含	良	にふい楊	7.5YR6/3
264	055-03	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 やや密	良	にふい楊	7.5YR5/3 7.5YR6/3
265	050-05	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰黄楊	10R4/2 10R5/2
266	064-02	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR4/2 7.5YR5/3
267	023-08	G21	F21	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密、砂粒含	良	にふい黄楊	10R4/3 7.5YR6/3
268	070-07	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 微砂粒含	良	にふい黄橙	10R7/3
269	066-07	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 やや密 砂粒含	良	灰楊	5YR4/2 5YR5/3
270	061-05	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰楊	7.5YR4/2 10R5/3
271	076-01	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒多含	良	にふい楊	7.5YR6/4 10R5/2
272	064-06	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい黄橙	10R5/3,4/3
273	063-05	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR5/3
274	063-08	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰楊	7.5YR4/2 7.5YR5/3
275	051-08	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR5/3
276	052-07	G21	G21	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	にふい黄橙	10R6/4
277	014-07	G21	G21	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密	良	にふい黄橙	10R6/3
278	051-01	G21	G20	SZ1	IIIe1	縄文土器	深鉢				市松文	指圧痕 ナデ				密 砂粒含	良	灰黄楊	10R4/2
279	050-07	G21	G20	SZ1	IVa1	縄文土器	深鉢	縄文LR	刺突	ホサエ ナデ						密 砂粒含	良		5YR6/6
280	074-01	G21	F20	SZ1	IVa2	縄文土器	深鉢	縄文LR	刺突	ホサエ ナデ						密 砂粒含	良	灰黄楊、楊灰	10R5/2,5/1
281	054-04	G21	G21	SZ1	IVa3	縄文土器	深鉢	キザミ	刺突	ホサエ ナデ						密 やや密 砂粒含	良	楊灰	7.5YR4/1
282	060-04	G21	G20	SZ1	IVa2	縄文土器	深鉢	キザミ								密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR6/4
283	021-08	G21	F20	SZ1	IVa2	縄文土器	深鉢	キザミ	刺突	ホサエ ナデ						密 やや密、砂粒含	良	楊	5YR7/6
284	057-01	G21	G20	SZ1	IVa4	縄文土器	深鉢	キザミ	刺突	ホサエ ナデ						密 微砂粒含	良	にふい黄橙	10R7/4
285	042-01	G21	F19	SZ1	IVa4	縄文土器	深鉢	キザミ	刺突	ホサエ ナデ						密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR5/4
286	028-07	G21	F21	SZ1	IVb1	縄文土器	深鉢	縄文LR	刺突	ホサエ ナデ						密 やや密	良	灰楊	7.5YR5/2 10R4/1
287	027-03	G21	F20	SZ1	IVb1	縄文土器	深鉢	市松文	刺突	ホサエ ナデ						密 やや密	良	にふい黄橙	10R7/4 10R4/1
288	017-05	G21	F20	SZ1	IVb1	縄文土器	深鉢	市松文	刺突	ホサエ ナデ						密 やや密、微砂粒含	良	黒楊	7.5YR3/2 7.5YR6/4
289	041-01	G21	F20	SZ1	IVb2	縄文土器	深鉢	格子日文	刺突	ホサエ ナデ						密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR5/4
290	018-07	G21	F20	SZ1	IVb4	縄文土器	深鉢		刺突	ホサエ ナデ						密 やや密	良	楊	5YR7/6

表IV-11表 土器等観察表10

報告番号	測 定 番 号	大 中 地 区	小 地 区	遺 構 分 類	種 類	器 種	口 唇 部	外、口縁部	内、口縁部	外、頸部	内、頸部	外、体部	内、体部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	備 考
291	046-06	G21	F19	SZ1	IVb4	縄文土器				刺突	ナデ	市松文	ナデ				密 砂粒含	良	にふい、橙 10R6/3	
292	048-01	G21	G21	SZ1	IVb3	縄文土器				刺突	ナデ	山形文	ナデ				やや密 砂 粒含	良	褐灰 にふい、橙 10R7/3	
293	079-01	G21	F20	SZ1	IVb4	縄文土器				刺突	ナデ	市松文	ナデ				密 微砂粒 含	良	褐灰 7.5YR4/1	
294	075-06	G21	G20	SZ1	IVb4	縄文土器				刺突	ナデ	市松文?	ナデ				密 砂粒含	良	にふい、橙 5R6/4	
295	070-08	G21	G20	SZ1	IVb5	縄文土器				市松文	ナデ	市松文	ナデ				密 砂粒含	良	にふい、褐 7.5YR6/4 にふい、黄橙 7.5YR7/3	
296	032-02	G21	F19	SZ1	IVb5	縄文土器				市松文	ナデ	市松文	ナデ				やや密	良	灰黄褐 10R6/2	
297	042-05	G21	G20	SZ1	IVb4	縄文土器				刺突	ナデ	市松文	ナデ				密 砂粒含	良	にふい、黄褐 10R6/3	
298	014-02	G21	G21	SZ1	IVb5	縄文土器						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	にふい、黄橙 10R6/2	
299	012-02	G21	G20	SZ1	IVb5	縄文土器						市松文	ナデ				密、小石、 砂粒含	良	灰黄褐 10R6/2	
300	068-06	G21	G20	SZ1	IVb5	縄文土器						市松文	ナデ				密 微砂粒 含	良	にふい、褐 7.5YR5/3 灰黄褐 10R4/2	
301	035-03	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密、微砂粒 含	良	にふい、橙 7.5YR6/4	
302	034-02	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				やや密	良	灰褐 5YR4/2 5R7/6	
303	046-03	G21	F19	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密	良	にふい、黄橙 10R6/3	
304	057-02	G21	G20	SZ1	IVc3	縄文土器						格子目文	ナデ				密	良	灰黄褐 10R6/2	
305	045-01	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密 微砂粒 多含	良	にふい、赤褐 2.5YR5/4 10R4/1	
306	064-01	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密 砂粒含	良	灰黄褐 10R4/2 にふい、褐 7.5YR5/3	
307	051-03	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密 砂粒含	良	にふい、黄橙 10R6/4	
308	013-01	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密、微砂粒 含	良	灰黄褐 10R6/2 にふい、黄橙 10R7/3	
309	070-06	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密 微砂粒 含	良	7.5YR5/2 10R6/2 灰褐	
310	019-03	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				やや密	良	にふい、黄橙 10R6/3	
311	031-07	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	にふい、褐 7.5YR6/3 7.5YR5/3 にふい、褐	
312	061-07	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密 砂粒含	良	にふい、褐 7.5YR5/4	
313	030-04	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	にふい、橙 7.5YR6/4	
314	030-03	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	にふい、黄橙 10R6/4	
315	017-03	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				やや密、微 砂粒含	良	灰褐 7.5YR4/2 にふい、褐 7.5YR6/4	
316	023-06	G21	F21	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	にふい、橙 7.5YR6/3 褐灰 7.5YR4/1	
317	036-05	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				密、砂粒含	良	にふい、橙 7.5YR7/4 灰褐 7.5YR5/2	
318	047-07	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				やや密	良	にふい、橙 7.5YR7/3	
319	053-08	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器						市松文	ナデ				やや密 砂 粒含	良	にふい、黄橙 10R6/3	

第IV-12表 土器等観察表11

報告 番号	大中 地区	小 地区	遺構 分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	内、体部	外、体部	内、底部	外、底部	胎土	焼成	色調	備考	
320	012-06	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、微砂粒 含	良	にふい、 灰褐	7.5YR6/4 7.5YR6/2	
321	053-01	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密 砂粒含	良	にふい、 褐	7.5YR6/3	
322	028-04	G21	F21	SZ1	IVc3	縄文土器	深鉢			格子目文	ナデ		やや密	良	褐灰 にふい、黄橙	7.5YR4/1 10YR7/3	
323	069-08	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、微砂粒 含	良	にふい、 灰褐	10YR6/3 10YR6/2	
324	046-07	G21	F19	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密	良	にふい、 褐灰	10YR6/3 10YR4/1	
325	070-04	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、微砂粒 含	良	にふい、 黄橙	10YR6/3	
326	066-04	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	黒褐 にふい、 橙	7.5YR3/1 7.5YR7/3	
327	073-02	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	灰黄褐	10YR5/2	
328	044-07	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、微砂粒 含	良	にふい、 橙	7.5YR5/2 10YR6/4	
329	073-06	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	にふい、 橙、黒 褐	7.5YR7/3, 3/1 10YR4/1	
330	069-06	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、微砂粒 含	良	にふい、 橙	5YR6/4 10YR6/3	
331	049-02	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	黒褐	7.5YR3/1 5YR6/6	
332	032-01	G21	F19	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	暗赤褐	5YR3/2	
333	045-03	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密	良	にふい、 褐	7.5YR6/3 7.5YR5/2	
334	064-03	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、砂粒含	良	にふい、 褐灰	7.5YR7/4 7.5YR4/1	
335	028-03	G21	F21	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密、砂 粒含	良	黒褐 褐灰	7.5YR3/1 10YR5/1	
336	074-06	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、砂粒含	良	灰褐	7.5YR5/2	
337	071-05	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密、砂 粒含	良	灰黄褐 にふい、 黄橙	10YR5/2 10YR6/3	
338	070-02	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密	良	灰黄褐 褐灰	10YR5/2 10YR5/1	
339	050-06	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、砂粒含	良	にふい、 黄褐	10YR5/3	
340	041-07	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、砂粒含	良	にふい、 褐	7.5YR6/3 7.5YR3/1	
341	035-01	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	10YR6/2 10YR4/2	
342	064-04	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、砂粒含	良	にふい、 黄橙	10YR6/3	
343	068-03	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、微砂粒 含	良	灰黄褐 褐灰	10YR4/2 10YR4/1	
344	072-04	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	褐灰 灰黄褐	7.5YR4/1 10YR5/2	
345	033-02	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	灰白 にふい、 黄橙	10YR8/2 10YR7/3	
346	033-07	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	灰褐	7.5YR4/2	
347	034-03	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		やや密	良	にふい、 橙	7.5YR6/4 10YR6/3	
348	069-04	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器	深鉢			市松文	ナデ		密、微砂粒 含	良	褐灰 にふい、 黄橙	7.5YR4/1 10YR5/3	

第IV-13表 土器等観察表12

報告番号	測定番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	内、肩部	外、肩部	内、底部	外、底部	胎土	焼成	色調	備考	
349	079-07	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器								密 微砂粒 含	良	にふい楊 灰褐	7.5YR6/3 7.5YR6/2	
350	045-07	G21	F19	SZ1	IVc3	縄文土器								密 微砂粒 含	良	にふい黄橙	10YR7/2	
351	065-04	G21	G20	SZ1	IVc1	縄文土器								密 微 砂粒含	良	灰黄褐 にふい黄橙	10YR6/2 10YR6/3	
352	043-07	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器								密 砂粒含	良	にふい黄橙	10YR5/3	
353	036-01	G21	F20	SZ1	IVc1	縄文土器								密、砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	10YR6/2 10YR4/2	
354	015-04	G21	E19	SZ1	IVc5	縄文土器								密、砂粒含	良	にふい黄橙	10YR6/3	
355	016-05	G21	E19	SZ1	IVc5	縄文土器								密、砂粒含	良	灰褐 灰黄褐	7.5YR5/2 10YR6/2.5/2	
356	066-06	G21	G20	SZ1	IVc2	縄文土器								やや密	良	にふい橙	7.5YR7/4	
357	017-04	G21	F20	SZ1	IVc2	縄文土器								やや密、微 砂粒含	良	にふい橙	7.5YR6/3	
358	027-07	G21	F20	SZ1	IVc2	縄文土器								やや密、砂 粒含	良	灰褐	7.5YR4/2	
359	053-04	G21	G20	SZ1	IVc2	縄文土器								やや密	良	灰褐 にふい楊	5YR4/2 7.5YR5/4	
360	068-05	G21	G20	SZ1	IVc2	縄文土器								密	良	灰黄褐 にふい橙	10YR5/2 7.5YR6/4	
361	051-07	G21	G20	SZ1	IVc2	縄文土器								密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR5/3	
362	064-07	G21	G20	SZ1	IVc4	縄文土器								密 砂粒含	良	にふい楊	7.5YR6/3	
363	015-02	G21	G21	SZ1	IVc2	縄文土器								密、砂粒含	良	灰褐 灰褐	7.5YR6/2 7.5YR4/2	
364	046-01	G21	F19	SZ1	IVc2	縄文土器								密 微砂粒 含	良	褐灰	7.5YR5/1	
365	070-05	G21	G20	SZ1	IVc4	縄文土器								密 砂粒多 含	良	にふい黄橙	10YR6/3	
366	069-05	G21	G20	SZ1	IVc4	縄文土器								密 微砂粒 含	良	灰褐	7.5YR6/2	
367	066-01	G21	G20	SZ1	IVc4	縄文土器								やや密	良	にふい橙 にふい赤褐	5YR5/4 5YR5/4	
368	042-04	G21	F19	SZ1	IVc4	縄文土器								密 砂粒含	良	灰褐 にふい楊	7.5YR4/2 7.5YR5/3	
369	016-07	G21	F20	SZ1	IVc4	縄文土器								密、砂粒含	良	にふい黄橙	10YR7/2	
370	024-04	G21	F21	SZ1	IVc4	縄文土器								密、砂粒含	良	灰黄褐	10YR6/2.5/2	
371	021-04	G21	F20	SZ1	IVc4	縄文土器								やや密	良	褐灰	7.5YR4/1	
372	029-06	G21	F20	SZ1	IVc4	縄文土器								密、砂粒含	良	にふい黄褐	10YR5/3	
373	034-08	G21	F20	SZ1	IVc4	縄文土器								やや密、微 砂粒含	良	にふい橙 灰黄褐	7.5YR6/3 10YR5/2	
374	025-02	G21	F21	SZ1	IVc4	縄文土器								密、砂粒含	良	にふい黄橙	10YR7/2	
375	063-07	G21	G20	SZ1	IVc4	縄文土器								密 砂粒含	良	にふい楊 褐灰	7.5YR6/4 7.5YR5/1	
376	022-05	G21	F20	SZ1	IVc4	縄文土器								やや密、微 砂粒含	良	灰褐	7.5YR4/1	
377	077-07	G21	F19	SZ1	IVc4	縄文土器								密 砂粒含	良	灰黄褐	10YR6/2	

第IV-14表 土器等観察表13

報告番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	内、肩部	外、肩部	内、底部	外、底部	胎土	焼成	色調	備考	
378	073-04	G21	SZ1	IVc4	縄文土器	深鉢					ナデ	格子目文	やや密	良	5R6/4 7.5R4/1	にふい 楊灰	
379	013-06	G21	SZ1	IVc4	縄文土器	深鉢					ナデ	格子目文	密、微砂粒 含	良	7.5R7/3 10R4/1	にふい 楊灰	
380	046-02	G21	F19	IVc6	縄文土器	深鉢					ナデ	刺突	密	良	10R6/3 10R5/3	にふい 黄燧 にふい 黄燧	
381	005-04	G21	F20	IVd1	縄文土器	深鉢	市松文	ナデ		市松文			密、砂粒含	良	10R5/3	にふい 黄燧	
382	069-01	G21	SZ1	IVd1	縄文土器	深鉢	市松文	ナデ					密、微砂粒 含	良	10R6/2	灰黄燧	
383	048-02	G21	F20	IVd2	縄文土器	深鉢	斜格子目文	ナデ					やや密	良	7.5R5/4	にふい 燧	
384	009-03	G21	SZ1	IVd3	縄文土器	深鉢	格子目文	ナデ		格子目文			やや密、砂 粒含	良	7.5R6/3 5R6/4	にふい 燧 にふい 燧	
385	007-01	G21	SZ1	IVd4	縄文土器	深鉢	刺突、楕円文	ナデ		楕円文			やや密、微 砂粒含	良	7.5R6/4	にふい 燧	
386	074-07	G21	SZ1	IVd4	縄文土器	深鉢	刺突、楕円文	ナデ					密、砂粒含	良	10R6/4	にふい 黄燧	
387	019-06	G21	SZ1	IVd4	縄文土器	深鉢	刺突、楕円文	ナデ					やや密	良	7.5R7/4	にふい 燧	
388	063-01	G21	SZ1	IVe1	縄文土器	深鉢				市松文	ナデ		密、砂粒含	良	7.5R6/3	にふい 燧	
389	063-04	G21	SZ1	IVe1	縄文土器	深鉢				市松文	ナデ		密、砂粒含	良	7.5R5/2	灰燧	
390	062-07	G21	SZ1	IVe1	縄文土器	深鉢				市松文	ナデ		密、砂粒含	良	7.5R5/3	にふい 燧	
391	070-01	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密	良	7.5R7/4 7.5R6/2	にふい 燧 灰燧	
392	067-02	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		やや密	良	5R6/4	にふい 燧	
393	072-02	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		やや密	良	7.5R7/2 7.5R2/1	明燧 灰燧	
394	071-02	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		やや密	良	7.5R5/3 7.5R4/1	黄燧 楊灰	
395	061-06	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密、砂粒含	良	7.5R6/4	にふい 燧	
396	068-02	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密	良	7.5R6/3 10R6/3	にふい 燧 にふい 黄燧	
397	076-03	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密、砂粒含	良	10R5/2,4/2	灰黄燧	
398	065-01	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ	押型文	やや密	良	10R7/3	にふい 黄燧	
399	065-05	G21	SZ1	IVe2	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		やや密	良	7.5R5/3	にふい 燧	
400	079-06	G21	F20	IVe3	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密、微砂粒 含	良	10R6/2	灰黄燧	
401	075-02	G21	SZ1	IVe3	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密、砂粒含	良	10R5/3 10R3/2	にふい 黄燧 無燧	
402	036-08	G21	F20	IVe3	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密、砂粒含	良	7.5R5/3 7.5R3/3	にふい 燧	
403	032-08	G21	F20	IVe3	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		やや密、砂 粒含	良	7.5R6/3 7.5R3/1	にふい 燧 無燧	
404	063-02	G21	SZ1	IVe3	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密、砂粒含	良	7.5R4/2 10R6/2	灰燧 灰黄燧	
405	062-06	G21	SZ1	IVe3	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密、砂粒含	良	7.5R5/3	にふい 燧	
406	044-06	G21	F20	IVe3	縄文土器	深鉢				格子目文	ナデ		密、微砂粒 含	良	7.5R5/2 10R6/2	灰燧 灰黄燧	

第IV-15表 土器等観察表14

報告 番号	測定 番号	大中 地区	小 地区	遺 構	分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	内、底部	外、底部	内、体部	外、体部	胎土	焼成	色調	備考
407	029-01	G21	F21	SZ1	IVc3	縄文土器	深鉢						ナデ	格子目文	密、砂粒含	良	褐灰	
408	051-06	G21	G20	SZ1	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ	ナデ	楕円文			密、砂粒含	良	にぶい褐 灰黄褐	
409	007-02	G21	G20	SZ1	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ	ナデ	楕円文	ナデ	押型文	やや密、微 砂粒含	良	7.5YR6/4 10YR5/1	
410	021-07	G21	F20	SZ1	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ					やや密、微 砂粒含	良	5YR5/4	
411	004-03	G21	F20	SZ1	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ					密、砂粒含	良	7.5YR5/2	
412	064-05	G21	G20	SZ1	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ					密、砂粒含	良	7.5YR5/3	
413	061-08	G21	G20	SZ1	Va1	縄文土器	深鉢	キザミ	山形文	ナデ					密、砂粒含	良	7.5YR4/2 7.5YR5/3	
414	066-05	G21	G21	SZ1	Va2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ					やや密、砂 粒含	良	10YR7/2 7.5YR7/3	
415	052-02	G21	G21	SZ1	Va3	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ					密、砂粒含	良	10YR6/3	
416	026-04	G21	F20	SZ1	Vb2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ					やや密	良	明赤褐 7.5YR6/3	
417	067-03	G21	G21	SZ1	Vb1	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ					やや密	良	7.5YR6/4	
418	019-05	G21	F20	SZ1	Vb1	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ					やや密	良	7.5YR7/4 10YR4/1	
419	048-06	G21	F20	SZ1	Vb1	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ					やや密	良	7.5YR6/3 7.5YR7/4	
420	021-03	G21	F20	SZ1	Vb2	縄文土器	深鉢	キザミ	楕円文	ナデ					やや密	良	7.5YR6/3	
421	025-01	G21	F20	SZ1	Vb2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ					密、砂粒含	良	7.5YR5/3	
422	050-03	G21	G20	SZ1	Vb2	縄文土器	深鉢	ナデ	楕円文	ナデ					密、砂粒含	良	10YR6/3	
423	024-06	G21	F20	SZ1	Vb3	縄文土器	深鉢	ヨコナデ	斜格子目文	ナデ					密、砂粒含	良	7.5YR6/3	
424	029-03	G21	F21	SZ1	Vc1	縄文土器	深鉢						ナデ	山形文	密、砂粒含	良	7.5YR4/3	
425	031-05	G21	F20	SZ1	Vc1	縄文土器	深鉢							山形文、楕円文	密、砂粒含	良	7.5YR6/3	
426	020-03	G21	F20	SZ1	Vc1	縄文土器	深鉢						ナデ	山形文、楕円文	やや密	良	7.5YR3/2 7.5YR5/3	
427	025-04	G21	F20	SZ1	Vc1	縄文土器	深鉢						ナデ	山形文、楕円文	密、砂粒含	良	10YR6/3	
428	021-06	G21	F20	SZ1	Vc1	縄文土器	深鉢						ナデ	山形文、楕円文	やや密	良	7.5YR4/2	
429	046-04	G21	F19	SZ1	Vc2	縄文土器	深鉢						ナデ	直線文、楕円文	密	良	10YR6/3 2.5Y5/1	
430	071-03	G21	G20	SZ1	Vc3	縄文土器	深鉢						ナデ	山形文	やや密	良	7.5YR5/3	
431	067-04	G21	G21	SZ1	Vc4	縄文土器	深鉢						ナデ	楕円文	やや密	良	7.5YR6/3	
432	075-05	G21	G20	SZ1	Vc4	縄文土器	深鉢						ナデ	楕円文	密、微砂粒 含	良	7.5YR5/3 7.5YR6/4	
433	042-08	G21	G20	SZ1	Vc4	縄文土器	深鉢						ナデ	楕円文	密、砂粒含	良	7.5YR6/4	
434	014-08	G21	G21	SZ1	Vc4	縄文土器	深鉢						ナデ	楕円文	密、砂粒含	良	7.5YR6/6	
435	012-07	G21	G20	SZ1	Vc4	縄文土器	深鉢						ナデ	楕円文	密、微砂粒 含	良	7.5YR6/4 10YR6/2	

第IV-16表 土器等観察表15

報告番号	測定番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考	
436	052-04	G21	F20	SZ1	V c5	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	黒褐	7.5YR3/1	
437	018-02	G21	F20	SZ1	V c5	縄文土器					ナデ		やや密、微砂粒含	良	にふい橙	5YR6/4	
438	012-08	G21	G20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		密、微砂粒含	良	灰黄褐 褐灰	10YR6/2 10YR4/1	
439	021-05	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	にふい赤褐	5YR5/4	
440	026-02	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	褐灰 にふい褐	7.5YR4/1 7.5YR5/3	
441	063-06	G21	G20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	灰褐 にふい橙	7.5YR4/2 7.5YR6/4	
442	020-01	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	黒褐	5YR3/1	
443	022-02	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	にふい橙	5YR6/4	
444	020-04	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	にふい橙	7.5YR6/4	
445	036-07	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		密、砂粒含	良	にふい橙	7.5YR5/3	
446	026-03	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	にふい橙	7.5YR6/4	
447	026-01	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	にふい橙	7.5YR6/4	
448	018-03	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密、砂粒含	良	灰褐 灰黄褐	7.5YR4/2 10YR6/2	
449	030-01	G21	F19	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		密、砂粒含	良	にふい黄褐	10YR5/3	
450	034-04	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	灰褐 にふい橙	7.5YR4/2 7.5YR7/4	
451	019-02	G21	F20	SZ1	V c6	縄文土器					ナデ		やや密	良	にふい橙	7.5YR6/4	
452	061-04	G21	G20	SZ1	V c7	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	にふい褐	7.5YR5/4	
453	022-01	G21	F20	SZ1	V c7	縄文土器					ナデ		やや密、砂粒含	良	にふい褐 黒 にふい橙	7.5YR6/3 N2/0 7.5YR7/4	
454	034-05	G21	F20	SZ1	V c8	縄文土器					ナデ		やや密	良	橙	2.5YR6/6	
455	033-06	G21	F20	SZ1	V c8	縄文土器					ナデ		やや密、微砂粒含	良	にふい橙	5YR6/4	
456	041-05	G21	F19	SZ1	V c8	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	にふい橙	7.5YR6/4	
457	038-08	G21	F20	SZ1	V c8	縄文土器					ナデ		やや密、微砂粒含	良	にふい橙	5YR6/4	
458	056-01	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器					ナデ		密 微砂粒含	良	にふい黄橙 にふい橙	10YR6/4 7.5YR6/4	
459	060-01	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	にふい橙	7.5YR6/4	
460	059-04	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	にふい橙	7.5YR6/4	
461	061-01	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器					ナデ		密 微砂粒含	良	にふい褐	7.5YR6/3	
462	059-03	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	にふい褐	7.5YR5/3	
463	059-05	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	にふい橙	7.5YR6/4	
464	060-08	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器					ナデ		密 砂粒含	良	にふい橙	7.5YR6/4	

第IV-17表 土器等観察表16

報告 番号	大中 地区	小 地区	遺構 分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、底部	内、底部	残存、 口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考	
465	059-06	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR6/4	
466	060-03	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR6/4	
467	060-02	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい褐	7.5YR6/3	
468	060-06	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR6/4	
469	059-07	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR6/4	
470	059-01	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR6/4	
471	013-03	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい褐	7.5YR6/3	
472	075-08	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		灰褐 褐灰 にふい褐	7.5YR5/2, 4/1 7.5YR6/3	
473	013-02	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		灰褐 にふい橙	7.5YR5/2 7.5YR6/4	
474	014-04	G21	G21	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい褐	7.5YR5/3 7.5YR6/4	
475	076-02	G21	G20	SZ1	V d1	縄文土器	深鉢					ナデ		明褐 にふい橙	7.5YR5/6 7.5YR6/4	
476	018-05	G21	F20	SZ1	V d2	縄文土器	深鉢					ナデ		灰褐	7.5YR4/2	
477	038-02	G21	F20	SZ1	V d2	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい褐 暗灰 灰	7.5YR6/3 N3/0 N4/0	
478	048-08	G21	F20	SZ1	V d2	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR6/4	
479	033-04	G21	F20	SZ1	V d2	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい褐 にふい橙	7.5YR5/3 7.5YR6/3	
480	028-05	G21	F21	SZ1	V d2	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR7/4	
481	062-05	G21	G20	SZ1	V d2	縄文土器	深鉢					ナデ		黒褐	7.5YR3/2	
482	014-03	G21	G21	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい黄橙	10YR4/3	
483	023-07	G21	F21	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい褐	7.5YR6/3	
484	043-06	G21	F20	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい黄褐	10YR5/3	
485	032-03	G21	F19	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR7/4	
486	065-06	G21	G20	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		灰褐	7.5YR4/2	
487	079-04	G21	F20	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		灰黄褐 灰黄褐	10YR5/2 10YR6/2	
488	021-02	G21	F20	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		灰褐	5YR4/2	
489	018-08	G21	F20	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい褐	7.5YR6/3	
490	039-02	G21	F20	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		黒褐 にふい橙	7.5YR2/1 7.5YR7/4	
491	042-02	G21	F19	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		黒褐 にふい褐	10YR3/2 7.5YR5/4	
492	047-03	G21	G20	SZ1	V d3	縄文土器	深鉢					ナデ		にふい橙	7.5YR6/4	

表IV-18表 土器等観察表17

報告番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	外、底部	内、底部	残存、口径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考	
493	033-01	G21	F20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					密	良	にぶい橙	5R6/4	
494	059-02	G21	G20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					密 砂粒含	良	にぶい黄橙	10R6/4	
495	048-09	G21	F20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					やや密 砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい橙	5R5/4 7.5YR6/4	
496	053-06	G21	G20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					やや密	良	にぶい橙	5R6/4	
497	065-07	G21	G20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					やや密 微砂粒含	良	にぶい橙	5R6/4	
498	078-02	G21	G20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					密	良	にぶい褐 灰黄褐	7.5YR6/3 10R6/2	
499	048-07	G21	F20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					やや密	良	にぶい橙	7.5YR6/4 5R6/6	
500	072-06	G21	G20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					やや密	良	灰褐 にぶい橙	7.5YR5/2 7.5YR7/4	
501	031-08	G21	F20	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢					密、砂粒含	良	にぶい橙	7.5YR6/4	
502	045-04	G21	F20	SZ1	Vd1a	縄文土器	深鉢	楕円文				密	良	にぶい黄橙	10R7/3	
503	079-03	G21	F20	SZ1	Vd2	縄文土器	深鉢	楕円文				密 微砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	10R6/2 10R7/2	
504	053-02	G21	G20	SZ1	Vd1a	縄文土器	深鉢	楕円文	新羅			やや密 微砂粒含	良	にぶい橙 褐灰	7.5YR7/4 7.5YR5/1	
505	059-08	G21	G20	SZ1	Vb1	縄文土器	深鉢					密 砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/4	
506	068-07	G21	G20	SZ1	Vb2	縄文土器	深鉢					密	良	にぶい黄橙 黒褐	10R7/2 2.5YR3/1	
507	067-05	G21	G20	SZ1	Vb2	縄文土器	深鉢					やや密	良	灰褐	7.5YR4/2	
508	053-05	G21	F20	SZ1	Vb2	縄文土器	深鉢					やや密	良	灰褐	7.5YR4/2 7.5YR3/1	
509	031-01	G21	F20	SZ1	Vb2	縄文土器	深鉢					密、砂粒含	良	にぶい黄褐	10R5/3	
510	026-07	G21	F20	SZ1	Ixa1	縄文土器	深鉢					やや密	良	にぶい橙 褐灰 褐灰	7.5YR7/4 10R5/1 10R4/1	
511	044-08	G21	F20	SZ1	Ixa1	縄文土器	深鉢					密 砂粒多含	良	褐灰	10R5/1.4/1	
512	035-08	G21	F20	SZ1	Ixa1	縄文土器	深鉢					密、砂粒含	良	にぶい黄褐	10R5/3	
513	020-02	G21	F20	SZ1	Ixa1	縄文土器	深鉢					やや密	良	にぶい褐色 黒褐	7.5YR5/3 10R3/1	
514	071-07	G21	G20	SZ1	Vd1a	縄文土器	深鉢	ナデ				やや密 微砂粒含	良	灰黄褐	10R6/2	
515	024-03	G21	F21	SZ1	Vb1	縄文土器	深鉢					密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3	
516	024-01	G21	F21	SZ1	Vd2	縄文土器	深鉢	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい黄橙	10R6/3	
517	024-05	G21	F21	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR5/3	
518	024-02	G21	F21	SZ1	Vd3	縄文土器	深鉢	ナデ				密、砂粒含	良	にぶい褐	7.5YR6/3.5/3	
519	010-04	G21	G21	SZ1	Vd1a	縄文土器	深鉢					やや粗、砂粒、小石含	良	明赤褐	2.5YR5/6	
520	023-01	G21	F21	SZ1	Vd1a	縄文土器	深鉢					密、砂粒含	良	にぶい赤褐 褐	5R5/4 7.5YR4/3	
521	014-09	G21	G21	SZ1	Vd1a	縄文土器	深鉢					密、砂粒含	良	にぶい褐 灰褐	7.5YR5/4 7.5YR5/2	

表IV-19 土器等観察表18

報告番号	実測番号	大中地区	小地区	遺構分類	種類	器種	口唇部	外、口縁部	内、口縁部	内、腹部	外、腹部	内、底部	底径 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
522	047-04	G21	F20	SZ1	縄文土器	深鉢				ナデ				やや密粒含	良	明赤褐 2.5YR5/6	
523	067-07	G21	G21	SZ1	縄文土器	深鉢				ナデ				やや密粒含	良	明赤褐 5YR4/2	
524	067-08	G21	G21	SZ1	縄文土器	深鉢				ナデ				やや密粒含	良	橙 5YR6/6	
525	069-02	G21	G20	SZ1	縄文土器	深鉢				ナデ				密粒含	良	橙 2.5YR6/2	
526	077-01	G21	H23	SZ1	縄文土器	深鉢				ナデ				密粒含	良	灰褐 7.5YR6/3	
527	077-02	G21	F21	SZ1	縄文土器	深鉢				ナデ				密粒含	良	にぶい橙 5YR6/4	
528	040-08	G21	F20	SZ1	縄文土器	深鉢					木葉痕	ナデ		やや粗、小石含	良	橙 5YR6/6	
529	006-04	G21	G20	SZ1	縄文土器	深鉢					ナデ			密、砂粒含	良	灰黄褐 10YR5/2	
530	074-05			排土	土製品	土匜?								密	良	橙 7.5YR6/6	
531	083-04	G22	R7	攪乱	土師器	竈								密	良	褐灰 7.5YR5/1	
532	084-03	G11	Y17	包	瓦器	椀								密	良	にぶい黄橙 7.5YR6/4	
533	084-06	G21	G21	包	陶器	椀				暗文				密	良	灰白 2.5YR8/1	
534	083-02	G22	S8	攪乱	陶器	皿					ロクロナデ、糸切痕			密	良	灰黄 2.5YR6/2	
535	082-05	G22	M4	攪乱	陶器	皿					施軸、ロクロケズリ			密	良	素)にぶい黄 軸)にぶい黄 2.5YR6/3	
536	082-01	G22	O5	攪乱	磁器	鉢付碗					ロクロケズリ			密	良	素)灰白 軸)にぶい黄 2.5YR6/3	
537	081-01	G22	R7	攪乱	磁器	鉢付碗					施軸			密	良	素)白 軸)灰黄 2.5Y7/2	
538	081-02			攪乱	磁器	鉢付碗					施軸			密	良	素)灰白 軸)灰白 N8/0	
539	083-01	G22	R7	包	陶器	鍋					施軸			密	良	素)灰白 軸)灰白 N8/0	
540	083-03	G22	S7	攪乱	陶器	壺								密	良	素)灰黄 軸)灰黄褐 10YR6/2	
541	080-01			攪乱	施軸陶器	甕					工具ナデ			密	良	素)にぶい黄 軸)暗赤褐 5YR3/2	
542	085-01	G21	G21	表探	五輪塔	水輪					工具ナデ			密	良	素)灰白 軸)にぶい赤 2.5YR6/4	

第IV-20表 土器等観察表19

報告 番号	実測 番号	器種	分類	地区名	出土 遺構	石質	残存状態	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	その他
543	508-01	尖頭器		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	中央部から基部	4.9	3.4	1.45	28.15	
544	508-02	尖頭器未製品		2区G21-E19	SZ1	サヌカイト	中央部	5.5	2.75	0.95	17.25	
545	501-01	石鏃	1a	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	1.9	0.9	0.3	0.56	
546	501-05	石鏃	1a	2区	SZ1排土	サヌカイト	完形	2.2	1.3	0.19	0.43	
547	501-03	石鏃	1a	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	1.9	1.0	0.3	0.49	
548	501-04	石鏃	1a	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	1.7	1.1	0.35	0.49	
549	501-06	石鏃	1a	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.0	1.1	0.19	0.38	
550	503-01	石鏃	1a	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.8	1.7	0.3	1.12	
551	501-07	石鏃	1a	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.0	1.5	0.33	0.78	
552	501-02	石鏃	1a	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト	完形	1.6	1.0	0.25	0.31	
553	502-05	石鏃	1a	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	側縁新欠あり	1.6	1.3	0.22	0.46	
554	502-02	石鏃	1a	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト	完形	1.7	1.3	0.25	0.38	
555	502-01	石鏃	1a	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト	完形	1.95	1.0	0.25	0.31	
556	504-03	石鏃	1a	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.3	1.4	0.34	0.99	
557	504-04	石鏃	1a	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.0	1.3	0.4	1.18	
558	505-02	石鏃	1a	2区G21-G21	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	1.6	1.2	0.3	0.41	
559	502-04	石鏃	1b	2区	SZ1排土	サヌカイト	完形	1.4	1.3	0.23	0.35	
560	504-01	石鏃	1b	2区G21-G21	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.7	2.2	0.34	1.47	
561	503-03	石鏃	1c	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	2.3	1.7	0.23	0.72	
562	502-03	石鏃	1c	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	1.8	1.4	0.31	0.76	
563	504-02	石鏃	1c	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	片脚端部欠失	2.3	1.7	0.3	0.93	
564	503-05	石鏃	1c	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	2.3	1.7	0.28	1.06	
565	505-04	石鏃	1c	2区	SZ1排土	サヌカイト	片脚端部欠失	1.75	1.2	2.0	0.44	
566	501-08	石鏃	1d	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.3	2.1	0.25	0.74	
567	504-05	石鏃	1d	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	片脚部欠失	2.3	1.9	0.35	1.04	
568	503-04	石鏃	1e	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト	完形	1.4	1.1	0.2	0.22	
569	503-02	石鏃	1e	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	3.7	1.7	0.48	2.86	
570	504-06	石鏃		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト	先端部欠失	0.9	1.4	0.25	0.29	
571	505-01	石鏃		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	下部1/3残存	1.7	2.4	3.2	0.79	
572	505-03	石鏃		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	先端部、 片脚端部欠失	0.8	1.8	0.28	0.3	
573	507-01	石鏃	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	1.8	1.4	0.3	0.41	

第IV-21表 石器及び石製品観察表1

報告 番号	実測 番号	器種	分類	地区名	出土 遺構	石質	残存状態	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	その他
574	507-03	石鏃未製品		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		1.6	1.0	0.3	0.39	
575	506-04	石鏃未製品		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.3	1.6	4.0	1.05	
576	506-02	石鏃未製品		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		3.6	1.8	7.5	4.24	
577	505-05	石鏃未製品		2区G21-F21	SZ1	チャート		2.8	2.3	0.8	3.99	
578	506-03	石鏃未製品		2区	SZ1排土	サヌカイト		1.8	1.3	0.3	0.47	
579	505-06	石鏃未製品		2区G21-G21	SZ1	サヌカイト		1.9	1.6	0.3	0.87	
580	507-04	石鏃未製品		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.1	1.2	0.4	0.8	
581	507-02	石鏃未製品		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		1.85	1.3	0.3	0.24	
582	506-01	石鏃		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	3.5	2.1	0.5	2.76	香川県金山産
583	506-05	石鏃		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト	完形	1.7	1.9	2.5	0.51	
584	507-05	石鏃		2区	SZ1排土	サヌカイト	完形	1.6	1.2	3.5	0.44	
585	511-01	削器	1	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		8.8	6.2	1.4	60.4	
586	513-01	削器	1	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		8.2	5.1	1.1	38.9	
587	510-01	削器	1	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		6.5	3.5	0.8	21.8	
588	512-01	削器	1	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		6.4	4.7	1.05	35.0	
589	510-02	削器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		6.3	2.7	0.7	11.2	
590	519-02	削器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		5.3	3.6	0.7	6.7	
591	515-02	削器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		5.5	2.5	0.6	5.9	
592	521-01	削器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		5.3	2.6	0.6	5.3	
593	518-02	削器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.9	1.7	0.5	3.0	
594	513-02	削器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		6.0	2.0	0.6	6.5	
595	515-01	削器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		6.9	3.6	0.8	14.2	
596	512-02	削器	2	2区G21-F21	SZ1	サヌカイト		5.0	3.6	1.1	9.6	
597	517-01	削器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.7	2.8	0.7	10.9	
598	516-02	削器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.9	2.8	0.6	5.4	
599	519-01	削器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.2	3.1	0.4	5.4	
600	517-02	削器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.4	1.6	0.5	2.8	
601	514-02	削器	3	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		3.9	2.6	0.6	4.2	
602	520-01	削器	3	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.7	2.2	0.8	5.6	
603	516-01	削器	3	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.6	3.3	0.4	4.8	
604	514-01	削器	4	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		4.4	6.6	0.7	17.1	

第IV-22表 石器及び石製品観察表2

報告 番号	実測 番号	器種	分類	地区名	出土 遺構	石質	残存状態	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	その他
605	520-02	削器	4	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.8	4.9	0.6	7.7	
606	518-01	削器	4	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.5	4.5	0.5	6.0	
607	509-01	RF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		5.9	2.8	0.8	11.47	
608	532-01	RF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		3.7	3.5	0.6	9.6	
609	531-02	RF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.6	1.4	0.5	1.9	
610	533-03	RF		2区G21-G21	SZ1	サヌカイト		3.5	1.3	0.7	2.7	
611	533-02	RF		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.3	2.4	0.4	1.8	
612	531-04	RF		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.2	1.6	0.5	1.3	
613	533-01	RF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		2.8	1.5	0.5	1.5	
614	532-04	RF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		1.3	1.9	0.4	0.9	
615	532-02	RF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		1.6	1.3	0.2	0.5	
616	532-03	RF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		1.7	1.8	0.4	1.0	
617	531-01	RF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		1.6	1.5	0.3	0.6	
618	531-03	RF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		2.0	1.6	0.5	1.25	
619	537-02	UF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.4	7.3	1.1	23.7	
620	537-01	UF		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		5.3	4.9	0.4	9.3	
621	536-03	UF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.3	3.9	0.5	6.1	
622	536-04	UF		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.2	4.2	0.7	4.8	
623	536-02	UF		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		4.5	4.1	0.8	11.0	
624	535-04	UF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		3.5	3.5	1.5	16.1	
625	534-04	UF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.3	4.1	0.5	6.1	
626	534-02	UF		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		3.6	4.5	0.4	6.2	
627	535-03	UF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		3.1	3.4	0.7	7.3	
628	521-02	UF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.4	2.9	0.4	2.3	
629	536-01	UF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.4	3.0	0.5	3.8	
630	534-03	UF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		2.4	2.2	0.6	2.0	
631	535-01	UF		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		1.8	3.2	0.5	2.9	
632	534-01	UF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.5	3.3	0.5	3.3	
633	533-04	UF		2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		5.5	2.6	0.7	8.9	
634	535-02	UF		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.4	2.2	0.2	1.1	
635	522-02	楔形石器	1	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.6	2.7	0.8	5.8	

第IV-23表 石器及び石製品観察表3

報告 番号	実測 番号	器種	分類	地区名	出土 遺構	石質	残存状態	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	その他
636	528-01	楔形石器	1	2区	SZ1排土	サヌカイト		2.8	3.3	0.5	4.77	
637	530-04	楔形石器	1	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.55	3.05	0.87	5.65	
638	529-06	楔形石器	1	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		1.18	3.18	0.9	4.05	
639	530-02	楔形石器	1	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		1.82	3.6	0.5	2.25	
640	526-02	楔形石器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		4.4	1.3	0.8	5.6	
641	527-02	楔形石器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.9	1.2	0.7	2.8	
642	525-01	楔形石器	2	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		2.6	1.2	0.6	1.7	
643	522-01	楔形石器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.3	1.5	0.6	2.1	
644	523-01	楔形石器	2	2区G21-F21	SZ1	サヌカイト		3.6	2.3	1.0	7.0	
645	530-03	楔形石器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.5	2.9	0.9	8.5	
646	524-01	楔形石器	2	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		2.5	2.0	0.9	4.9	
647	525-04	楔形石器	2	2区G21-G21	SZ1	サヌカイト		2.7	2.4	1.0	7.5	
648	529-02	楔形石器	2	2区	SZ1排土	サヌカイト		3.5	2.8	0.9	7.85	
649	526-01	楔形石器	2	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		2.0	2.3	0.9	4.9	
650	525-03	楔形石器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.0	2.6	0.9	3.8	
651	526-03	楔形石器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.4	2.9	0.9	6.7	
652	522-03	楔形石器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.6	4.0	0.9	8.9	
653	530-01	楔形石器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.4	4.5	1.25	10.9	
654	526-04	楔形石器	2	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.7	4.3	1.3	23.4	
655	525-02	楔形石器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.5	2.8	0.6	3.9	
656	523-04	楔形石器	2	2区G21-F21	SZ1	サヌカイト		2.5	3.7	0.6	5.4	
657	523-03	楔形石器	2	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.0	2.5	0.6	2.8	
658	524-03	楔形石器	3	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		3.2	1.8	1.3	7.2	
659	527-04	楔形石器	3	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		3.3	2.0	0.8	4.8	
660	528-04	楔形石器	3	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.5	1.7	0.8	4.5	
661	529-01	楔形石器	3	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		2.4	1.45	0.88	2.92	
662	529-05	楔形石器	3	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		2.4	1.47	4.5	2.25	
663	529-03	楔形石器	3	2区G21-F20	SZ1	チャート		1.65	1.7	0.45	1.32	
664	529-04	楔形石器	3	2区G21-G21	SZ1	サヌカイト		3.55	3.2	7.2	9.69	
665	523-02	楔形石器	3	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		3.1	3.2	1.1	12.1	
666	527-03	楔形石器	3	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.0	1.9	0.5	2.4	

第IV-24表 石器及び石製品観察表4

報告 番号	実測 番号	器種	分類	地区名	出土 遺構	石質	残存状態	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	その他
667	522-04	楔形石器	3	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		1.9	2.2	1.0	4.2	
668	528-03	楔形石器	3	2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		1.7	2.2	0.4	2.21	
669	524-02	楔形石器	3	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		1.9	2.0	0.9	3.6	
670	527-01	楔形石器	3	2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		1.6	2.8	0.7	4.3	
671	528-02	楔形石器	3	2区G21-F20	SZ1	サヌカイト		2.5	3.65	0.5	4.34	
672	524-04	楔形石器	4	2区G21-E19	SZ1	サヌカイト		2.4	4.7	0.9	11.0	
673	538-01	石核		2区G21-G20	SZ1	サヌカイト		4.7	3.8	1.1	23.0	
674	538-02	石核		2区G21-F19	SZ1	サヌカイト		2.8	2.4	1.1	9.7	
675	540-01	打製石斧		2区G21-G21	SZ1	泥質片岩	刃部1/2欠失	10.3	5.3	2.1	111.9	
676	541-01	礫器		2区	SZ1排土	斑レイ岩		13.9	10.6	5.0	1144.0	
677	542-02	礫器		2区G21-G20	SZ1	斑レイ岩		9.7	7.0	3.1	309.6	
678	543-02	礫器		2区	SZ1排土	斑レイ岩		9.5	6.1	2.8	207.1	
679	544-01	礫器		2区G21-G21	SZ1	斑レイ岩		10.8	11.9	6.4	944.0	
680	542-01	礫器		2区G21-F20	SZ1	斑レイ岩		9.7	12.3	5.8	756.0	
681	543-01	礫器		2区G21-F19	SZ1	斑レイ岩		8.3	11.6	4.6	438.0	
682	541-02	礫器		2区G21-G20	SZ1	斑レイ岩		8.4	10.2	3.4	310.3	
683	540-02	削器		2区G21-F20	SZ1	斑レイ岩		8.3	5.4	1.5	62.1	礫素材
684	540-04	削器		2区G21-F20	SZ1	斑レイ岩		9.9	6.0	1.6	108.3	礫素材
685	540-03	楔形石器		2区G21-G20	SZ1	斑レイ岩		5.6	7.9	1.1	56.2	礫素材
686	545-01	磨石		2区G21-F20	SZ1	砂岩	完形	12.7	9.4	6.1	1097	
687	549-01	磨石		2区G21-G20	SZ1	砂岩	完形	10.7	7.7	4.6	559	
688	546-03	磨石		2区G21-F19	SZ1	砂岩	約2/3	8.9	8.4	4.3	445	
689	549-02	磨石		2区	SZ1排土	砂岩	約1/2	7.8	8.0	4.6	438	
690	546-04	磨石		2区G21-F20	SZ1	砂岩	約1/4	4.7	5.9	4.6	141	
691	546-02	磨石		2区G21-F19	SZ1	砂岩	約1/2	7.0	7.0	3.7	283	
692	550-01	磨石		2区G21-G20	SZ1	砂岩	約1/2	7.3	8.5	4.3	370	
693	547-04	磨石		2区	SZ1排土	砂岩	約1/3	8.0	6.3	3.0	176	
694	550-03	磨石		2区	SZ1排土	砂岩	約1/2	4.8	8.5	3.5	194	
695	548-01	磨石		2区G21-F20	SZ1	砂岩	約1/3	9.1	8.0	5.3	336	
696	551-01	磨石		2区G21-F20	SZ1	花崗岩	約1/4	7.1	6.3	6.2	365	
697	550-04	磨石		2区G21-G20	SZ1	砂岩	片面約1/2	10.7	6.8	2.7	245	

第IV-25表 石器及び石製品観察表5

報告 番号	実測 番号	器種	分類	地区名	出土 遺構	石質	残存状態	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	その他
698	550-02	磨石		2区G21-G20	SZ1	砂岩	約1/2	6.5	8.2	6.0	460	
699	547-02	磨石		2区G21-F20	SZ1	砂岩	一部欠失	11.1	9.2	7.0	1025	
700	553-02	磨石		2区G21-G20	SZ1	砂岩	完形	11.5	10.2	4.3	710	
701	547-03	磨石		2区G21-F20	SZ1	砂岩	約1/2	6.8	9.8	4.1	387	
702	545-02	磨石		2区G21-F19	SZ1	砂岩	約1/2	5.2	7.5	4.6	236	
703	547-01	磨石		2区G21-F20	SZ1	砂岩	約1/3	9.1	4.4	4.7	173	
704	551-02	磨石		2区G21-F20	SZ1	砂岩	片面一部	6.2	6.8	1.8	68	
705	546-01	磨石		2区G21-F19	SZ1	花崗岩	完形	8.6	7.0	5.5	446	
706	552-02	磨石		2区G21-F20	SZ1	斑レイ岩	一部	9.8	5.0	5.3	363	
707	554-02	敲石		2区G21-F20	SZ1	緑泥片岩	約2/3	14.9	4.4	2.1	216	
708	553-01	敲石		2区G21-G20	SZ1	斑レイ岩	完形	11.8	6.4	4.5	510	
709	548-02	敲石		2区G21-G20	SZ1	斑レイ岩	完形	7.3	9.1	6.6	738	
710	554-01	敲石		2区G21-F20	SZ1	花崗岩	約1/2	7.8	6.8	5.9	447	
711	551-03	石皿		2区G21-G20	SZ1	斑レイ岩	一部	13.6	8.6	6.1	1011	
712	552-01	石皿		2区G21-G21	SZ1	斑レイ岩	一部	13.8	12.5	5.7	1318	
713	555-01	石皿		2区G21-G20	SZ1	斑レイ岩	約1/2	13.7	14.5	6.6	1981	
714	556-01	台石		2区G21-F20	SZ1	斑レイ岩	完形	37.8	28.5	9.7	14400	
715	557-01	台石		2区G21-F19	SZ1	斑レイ岩	完形	35.6	31.4	11.5	17000	
716	539-01	石製品		2区G21-G20	SZ1	砂岩	完形	3.3	2.7	0.4	6.2	垂飾

第IV-26表 石器及び石製品観察表 6

V 自然科学分析

1 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定

(1) はじめに

三重県津市の多気北畠氏遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

(2) 試料と方法

試料は、土器付着炭化物6点である。試料No. 1（遺物No. A : PLD-46986, 報155）、試料No. 2（遺物No. C : PLD-46987, 報151）、試料No. 3（遺物No. E : PLD-46988, 報146）、試料No. 5（遺物No. H : PLD-46990, 報64）、試料No. 4（遺物No. G : PLD-46989, 報45）、試料No. 6（遺物No. 5-15 : PLD-46991, 報136）はSZ1から出土した土器の付着炭化物で、試料No. 1とNo. 2は胴部外面、試料No. 3とNo. 6は口縁部外面、試料No. 4とNo. 5は胴上半部外面から採取した。

測定試料の情報、調製データは第V-1表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS : NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

(3) 結果

第V-2表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、第V-2図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-46986 報155	試料No. 1 調査区 : 2区 位置 : G21-F20 層位 : SZ1 遺物No. A	種類 : 土器付着物 (胴部外面) 状態 : dry ガス化重量 : 5.68mg 炭素含有率 : 55.78%	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L) 処理備考 : 状態悪い?
PLD-46987 報151	試料No. 2 調査区 : 2区 位置 : G21-F20 層位 : SZ1 遺物No. C	種類 : 土器付着物 (胴部外面) 状態 : dry ガス化重量 : 5.38mg 炭素含有率 : 59.57%	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-46988 報146	試料No. 3 調査区 : 2区 位置 : G21-F19 層位 : SZ1 遺物No. E	種類 : 土器付着物 (口縁部外面) 状態 : dry ガス化重量 : 4.58mg 炭素含有率 : 44.81%	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-46989 報64	試料No. 4 調査区 : 2区 位置 : G21-E19 層位 : SZ1 遺物No. G	種類 : 土器付着物 (胴上半部外面) 状態 : dry ガス化重量 : 4.20mg 炭素含有率 : 20.71%	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-46990 報45	試料No. 5 調査区 : 2区 位置 : G21-F19 層位 : SZ1 遺物No. H	種類 : 土器付着物 (胴上半部外面) 状態 : dry ガス化重量 : 4.85mg 炭素含有率 : 38.76%	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)
PLD-46991 報136	試料No. 6 調査区 : 2区 位置 : G21-E19 層位 : SZ1 遺物No. 5-15	種類 : 土器付着物 (口縁部外面) 状態 : dry ガス化重量 : 4.08mg 炭素含有率 : 10.17%	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム : 1.0 mol/L, 塩酸 : 1.2 mol/L)

第V-1表 測定試料および処理

動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を校正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年校正には0xCal4.4 (校正曲線データ :

IntCal20) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、0xCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲で



写真1 試料No. 1 (遺物No. A)採取箇所



写真2 試料No. 2 (遺物No. C)採取箇所



写真3 試料No. 3 (遺物No. E)採取箇所



写真4 試料No. 4 (遺物No. G)採取箇所



写真5 試料No. 5 (遺物No. H)採取箇所



写真6 試料No. 6 (遺物No. 5-15)採取箇所

第V-1図 試料No. 1~6 (1は155、2は151、3は146、4は64、5は45、6は136)

ある。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

(4) 考察

放射性炭素年代測定の結果について、¹⁴C年代と2σ 暦年代範囲（確率95.45%）に着目して整理する。試料No.1（遺物No.A : PLD-46986）は、¹⁴C年代が9585±30 ¹⁴C BPで、2σ 暦年代範囲が9187-9179 cal BC (0.61%)および9160-8802 cal BC (94.84%)を示した。試料No.2（遺物No.C : PLD-46987）は、¹⁴C年代が9545±30 ¹⁴C BPで、2σ 暦年代範囲が9126-8975 cal BC (48.93%)および8932-8759 cal BC (46.52%)を示した。試料No.3（遺物No.E : PLD-46988）は、¹⁴C年代が9565±30 ¹⁴C BPで、2σ 暦年代範囲が9141-8957 cal BC (50.64%)および8954-8784 cal BC (44.81%)を示した。試料No.4（遺物No.G : PLD-46989）は、¹⁴C年代が9520±30 ¹⁴C BPで、2σ 暦年代範囲が9123-8995 cal BC (42.82%)および8927-8739 cal BC

(52.63%)を示した。試料No.5（遺物No.H : PLD-46990）は、¹⁴C年代が9505±30 ¹⁴C BPで、2σ 暦年代範囲が9120-9071 cal BC (13.80%)、9066-9003 cal BC (19.52%)、8922-8898 cal BC (2.98%)、8868-8707 cal BC (57.84%)、8668-8652 cal BC (1.31%)を示した。試料No.6（遺物No.5-15 : PLD-46991）は、¹⁴C年代が9340±35 ¹⁴C BPで、2σ 暦年代範囲が8728-8725 cal BC (0.24%)、8712-8539 cal BC (87.71%)、8513-8478 cal BC (7.51%)を示した。

縄文時代の土器型式と暦年代の関係について小林（2017）を参照すると、試料No.1～No.5の¹⁴C年代は9500 ¹⁴C BP 台、試料No.6は9300 ¹⁴C BP 台で、いずれも縄文時代早期前葉に相当する。

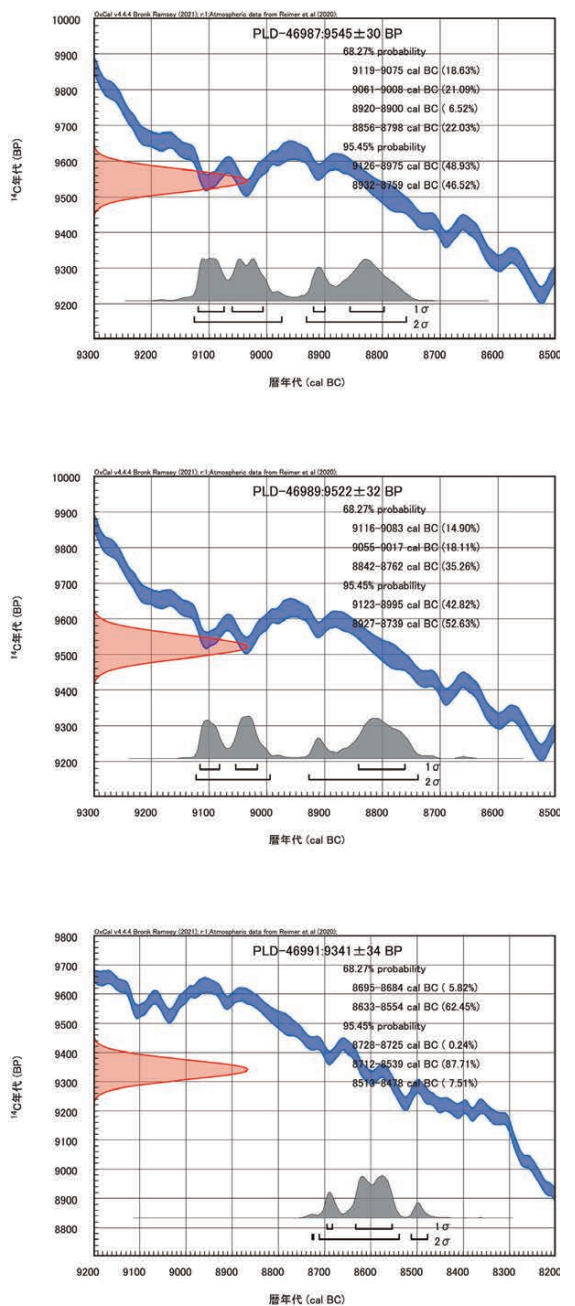
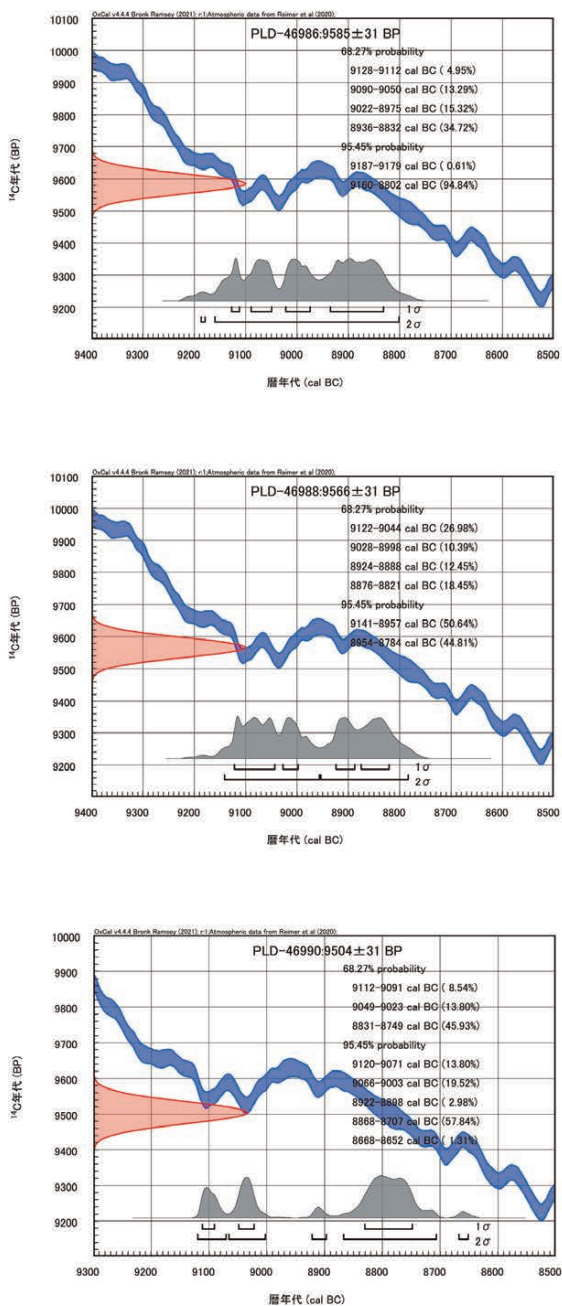
土器付着炭化物の場合、土器内面に付着する炭化物は主に煮炊きされた食物に由来し、土器外面に付着する炭化物は、口縁部であれば主に内容物の吹きこぼれ、胴部から底部であれば主に燃料材の煤に由来する可能性が高い。特に、煮炊きした内容物が海産物を主としていた場合、海洋リザーバー効果によつ

測定番号	δ ¹³ C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	¹⁴ C年代 (yrBP±1σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-46986 試料No.1 遺物No.A 報155	-27.47±0.13	9585±31	9585±30	9128-9112 cal BC (4.95%) 9090-9050 cal BC (13.29%) 9022-8975 cal BC (15.32%) 8936-8832 cal BC (34.72%)	9187-9179 cal BC (0.61%) 9160-8802 cal BC (94.84%)
PLD-46987 試料No.2 遺物No.C 報151	-25.11±0.16	9545±30	9545±30	9119-9075 cal BC (18.63%) 9061-9008 cal BC (21.09%) 8920-8900 cal BC (6.52%) 8856-8798 cal BC (22.03%)	9126-8975 cal BC (48.93%) 8932-8759 cal BC (46.52%)
PLD-46988 試料No.3 遺物No.E 報146	-26.27±0.20	9566±31	9565±30	9122-9044 cal BC (26.98%) 9028-8998 cal BC (10.39%) 8924-8888 cal BC (12.45%) 8876-8821 cal BC (18.45%)	9141-8957 cal BC (50.64%) 8954-8784 cal BC (44.81%)
PLD-46989 試料No.4 遺物No.G 報64	-26.67±0.18	9522±32	9520±30	9116-9083 cal BC (14.90%) 9055-9017 cal BC (18.11%) 8842-8762 cal BC (35.26%)	9123-8995 cal BC (42.82%) 8927-8739 cal BC (52.63%)
PLD-46990 試料No.5 遺物No.H 報45	-26.93±0.13	9504±31	9505±30	9112-9091 cal BC (8.54%) 9049-9023 cal BC (13.80%) 8831-8749 cal BC (45.93%)	9120-9071 cal BC (13.80%) 9066-9003 cal BC (19.52%) 8922-8898 cal BC (2.98%) 8868-8707 cal BC (57.84%) 8668-8652 cal BC (1.31%)
PLD-46991 試料No.6 遺物No.5-15 報136	-32.52±0.15	9341±34	9340±35	8695-8684 cal BC (5.82%) 8633-8554 cal BC (62.45%)	8728-8725 cal BC (0.24%) 8712-8539 cal BC (87.71%) 8513-8478 cal BC (7.51%)

第V-2表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

て、測定結果が実際よりも古い年代を示す可能性がある。今回の試料の炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$) は-32~-25‰で (第V-2表)、陸生の値を示しており (吉田, 2012)、測定結果は海洋リザーバー効果の影響は受けていないと考えられる。ただし、 $\delta^{13}\text{C}$ の値は、正確には同位体比質量分析計 (IRMS) の測定値で検討する必要がある。今回の試料は、加速器質量分析計 (AMS) の測定値であるため、参考に留めておく必要がある。

また、試料の炭素含有率をみると、試料No. 1およびNo. 2では50%を超えているのに対し、試料No. 3~No. 6では50%を下回っている (第V-1表)。土器付着炭化物の通常の炭素含有率は50~60%とされ (小林, 2017)、炭素含有量が低い試料については、土器胎土や埋没土壌に含まれる鉱物に由来する起源の古い微量の炭素の影響を受け、数百 ^{14}C 年程度、相対的に古い年代値を示す場合がある (小林, 2017)。したがって、特に炭素含有量が40%より低い試料の年



第V-2図 暦年較正結果

代値の評価には、注意を要する。

(パレオ・ラボAMS年代測定グループ 伊藤茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・三谷智広)

2 土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析

(1) はじめに

三重県津市の多気北畠氏遺跡から出土した土器より採取した付着炭化物の起源物質を推定するために、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、炭素含有量と窒素含有量を測定して試料のC/N比を求めた。

(2) 試料および方法

試料は、遺物No. 8-9(報516)の口縁部内面から採取した付着炭化物、遺物No. N(報14)の胴部内面から採取した付着炭化物の、計2点である。

試料の情報は、第V-3表のとおりである。測定を実施するにあたり、試料に対して、超音波洗浄、アセトン洗浄および酸・アルカリ・酸洗浄を施して試料以外の不純物を除去した。炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA1112（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ ）および窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ ）の測定には、質量分析計DELTA V（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比にはIAEA Sucrose（ANU）、窒素安定同位体比にはIAEA N1を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に、EA内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。次に還元

カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムで CO_2 と N_2 を分離し、TCDでそれぞれ検出・定量を行う。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度 1000°C 、還元炉温度 680°C 、分離カラム温度 35°C である。分離した CO_2 および N_2 はそのままHeキャリアガスと共にインターフェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定した。得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいてC/N比を算出した。

(3) 結果

第V-3表に、炭素安定同位体比、窒素安定同位体比、炭素含有量、窒素含有量、C/N比を示す。なお、遺物No. Nの窒素安定同位体比については、検出できた窒素含有量が少なく、適正出力が得られなかったため、同出力での安定同位体比既知のスタンダード試料にて補正を行っており、通常よりもバラツキが大きくなっていると予想される。第V-4図に炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係、第V-5図に炭素安定同位体比とC/N比の関係を示した。

第V-4図において、遺物No. 8-9の土器付着炭化物は C_3 植物・草食動物付近のやや炭素・窒素安定同位体比が高い位置に、遺物No. Nの土器付着炭化物は C_3 植物・草食動物の位置にプロットされた。

第V-5図において、遺物No. 8-9の土器付着炭化物は C_3 植物・草食動物の位置に、遺物No. Nの土器付着炭化物は C_3 植物・草食動物付近のややC/N比が低い位置にプロットされた。

(4) 考察

遺物No. 8-9の土器付着炭化物は、第V-4図で C_3 植物・草食動物付近のやや炭素・窒素安定同位体比が高い位置、第V-5図で C_3 植物・草食動物の位置にプロットされ、概ね C_3 植物・草食動物に由来する炭化物と推定される。遺物No. Nの土器付着炭化物は、第V-4図で C_3 植物・草食動物の位置、第V-5図で C_3 植

試料番号	試料情報	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	$\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ (‰)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N比 (モル比)
遺物No. 8-9 報516	種類：土器付着炭化物 採取箇所：口縁部内面	-22.8	7.34	33.1	3.97	9.72
遺物No. N 報14	種類：土器付着炭化物 採取箇所：胴部内面	-24.4	2.96	1.24	0.299	4.84

第V-3表 試料情報および結果一覧表



写真1 遺物No. N 採取箇所



写真2 遺物No. 8-9 採取箇所

第V-3図 試料採取箇所

物・草食動物付近のややC/N比が低い位置にプロットされ、C₃植物・草食動物に由来する炭化物と推定される。

(パレオ・ラボ 山形秀樹・三谷智広)

引用・参考文献

1 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.

小林謙一 (2017) 縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—. 263p, 同成社.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P. J., Austin, W. E. N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kromer, B., Manning, S. W., Muscheler, R., Palmer, J. G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Turney, C. S. M., Wacker, L., Adolphi, F., Buntgen, U., Capano, M., Fahrni, S. M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Kohler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

吉田邦夫 (2012) 古食性分析〈縄文人の食卓〉. 吉田邦夫編「アルケオメトリア: 考古遺物と美術工芸品を科学の眼で透かし見る」: 44-55, 東京大学総合博物館.

2 土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析

赤澤 威・南川雅男 (1989) 炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元. 田中 琢・佐原 真編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」: 132-143, クバプロ.

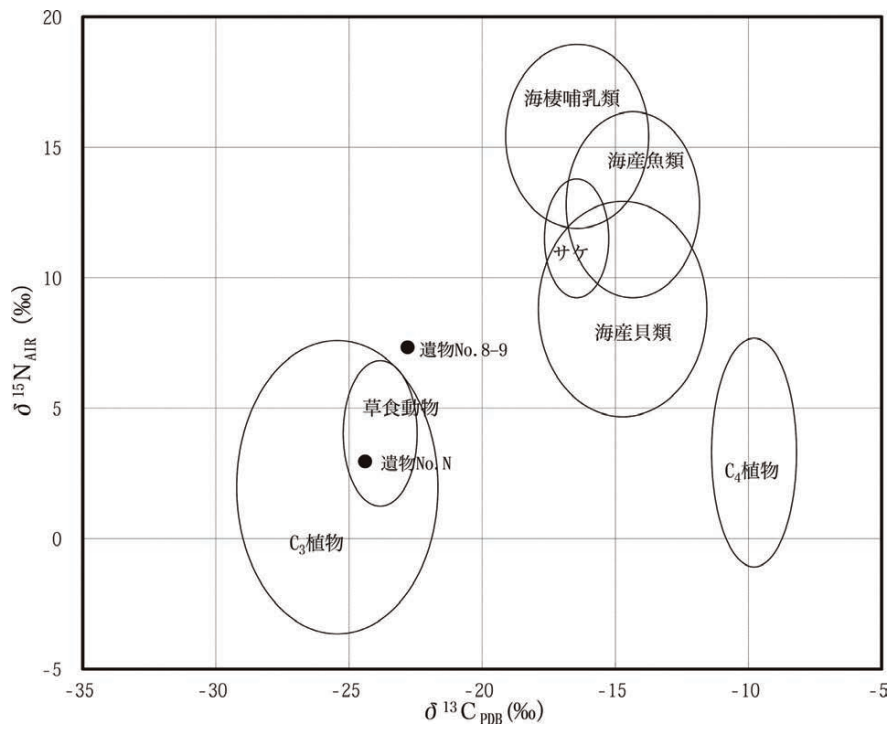
坂本 稔 (2007) 安定同位体比に基づく土器付着物の分析. 国立歴史民俗博物館研究報告, 137, 305-315.

米田 穰 (2008) 丸根遺跡出土土器付着炭化物の同位体分析. 豊田市郷土資料館編「丸根遺跡・丸根城跡」: 261-263, 豊田市教育委員会.

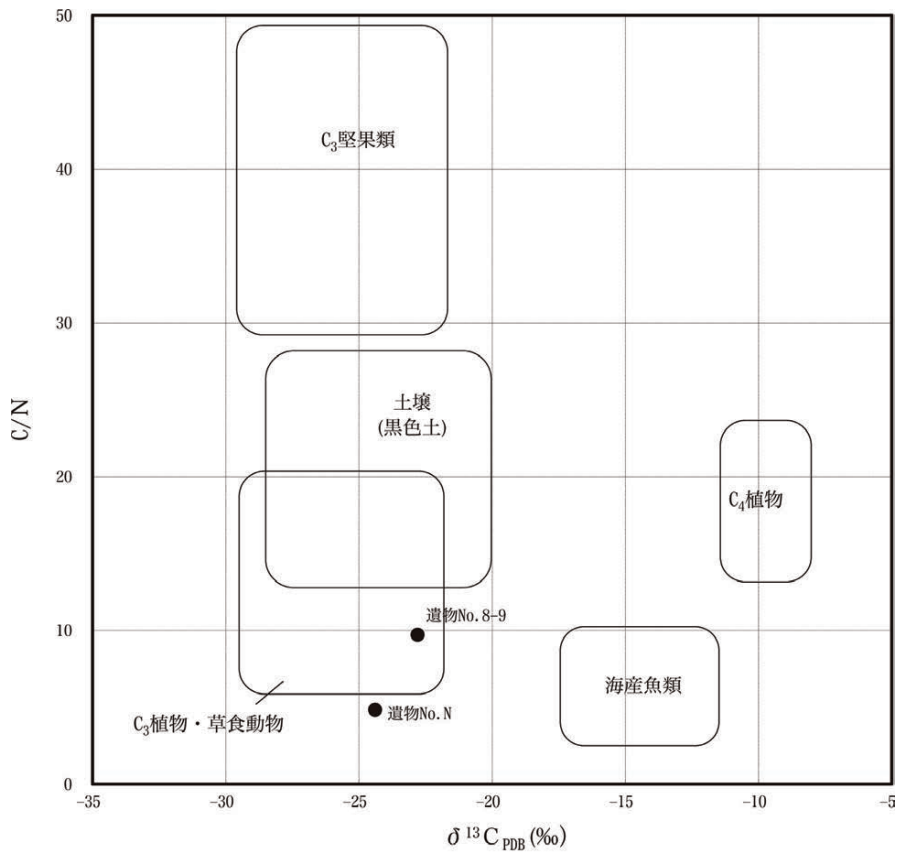
Yoneda, M., Hirota, M., Uchida, M., Tanaka, A., Shibata, Y., Morita, M. and Akazawa, T. (2002) Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. *Radiocarbon*, 44(2), 549-557.

吉田邦夫・宮崎ゆみ子 (2007) 煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究. 平成16-18年度科学研究補助金基礎研究B (課題番号16300290) 研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」, 85-95.

吉田邦夫・西田泰民 (2009) 考古科学が探る火炎土器. 新潟県立歴史博物館編「火炎土器の国 新潟」: 87-99, 新潟日報事業社.



第V-4図 炭素・窒素安定同位体比 (吉田・西田(2009)に基づいて作製)



第V-5図 炭素安定同位体比とC/N比の関係 (吉田・西田(2009)に基づいて作製)

VI 結 語

多気北畠氏遺跡第39次・小田地区第6次（以後、「多気北畠氏39次」と表記する。）の発掘調査では、調査区内の範囲であるが、北畠氏が活動していた時期に関連する遺構は確認していない。また、縄文時代の遺構についてもSZ1（落ち込み）を確認するにとどまっている。そのため、遺構に関する検討は略したいと思う。ここでは、縄文時代の出土土器群及び石器群等について検討を進め、結語としたい。

1 出土縄文土器群の検討

ここでは、押型文前半期より以前と押型文前半期の土器群を対象としていく。多気北畠氏39次出土資料を、I類:撚糸文系土器期、II類:縄文系土器期、押型文系土器をIII類:大鼻式期、IV類:大川式期、V類:神宮寺式期、VI類:神並上層式期に分別し、検討を進めていきたいと思う。

(1) 統計結果

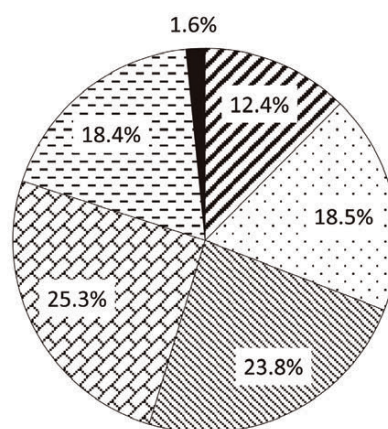
a 土器分類

多気北畠氏39次出土の縄文土器を、I類からIX類まで分類した。各類を、施文や調整、器形、口縁部・頸部から体部・底部の部位により細分している。

各類が占める比率は、I類は11.9%(63点)、II類は17.8%(94点)、III類は22.9%(121点)、IV類は24.4%(129点)、V類は17.8%(94点)、VI類は1.5%(8点)、VII類は0.9%(5点)、VIII類は2.1%(11点)、IX類は0.7%(4点)であった。最も多かったのは、IV類、次いでIII類、II類とV類となる。

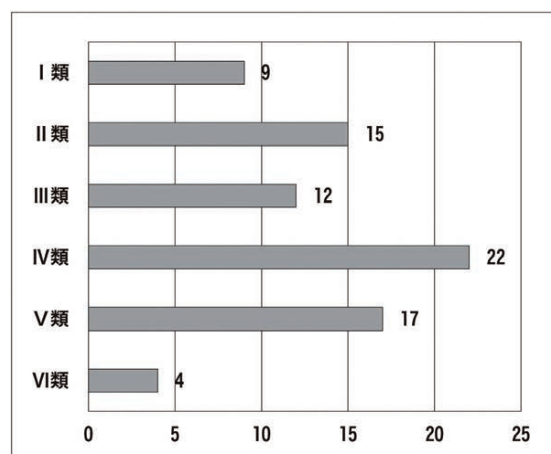
また、撚糸文系土器と縄文系土器、押型文前半期の型式がわかるものに限定すると、I類は12.4%(63点)、II類は18.5%(94点)、III類は23.8%(121点)、IV類は25.3%(129点)、V類は18.4%(94点)、VI類は1.6%(8点)であった。全体の傾向から、突出して多くなる分類は、ないことがわかる。VI類は極端に少ないが、当該地域で確認された出土例も県内では少ない時期でもある。(第VI-1図参照)

次に、分類数の状況について概観したいと思う。縄文時代早期前半の押型文系土器までの、I類からVI類までを対象とした。各分類について、I類は9(11.4%)に、II類は15(19.0%)に、III類は12(15.2%)

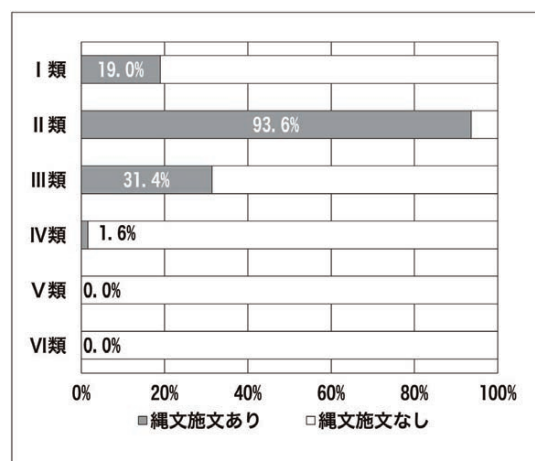


■ I類 □ II類 ▨ III類 ▩ IV類 □ V類 ■ VI類

第VI-1図 I～VI類の割合



第VI-2図 I～VI類の分類数



第VI-3図 分類別の縄文施文の割合

に、IV類は22(27.8%)に、V類は17(21.5%)に、VI類は4(5.1%)に分類している。III類とIV類を比較すると、分類数の増加がみてとれる。V類は、IV類と比較すると減少する状況が読み取れるが、I類からIII類までと比較すれば分類数が多いことも読み取れる。これらのことを踏まえると、III類とIV類の間に、器形や文様構成等の多様性が出現するという1つの画期があることを読み取れるのではないだろうか。なお、VI類は分類数が非常に少なくなっているが、これは先にも述べたように、出土量が他の分類と比較して少ないことが影響していると考えられる。(第VI-2図参照)

b 縄文施文

まず、縄文施文の有無、について述べる。I類は分類した全部の63点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が19.0%(12点)、「縄文施文なし」が81.0%(51点)である。II類は分類した全部の94点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が93.6%(88点)、「縄文施文なし」が6.4%(6点)である。III類は分類した全部の121点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が31.4%(38点)、「縄文施文なし」が68.6%(83点)である。IV類は分類した全部の129点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が1.6%(2点)、「縄文施文なし」が98.4%(127点)である。V類は分類した全部の94点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が0.0%(0点)、「縄文施文なし」が100.0%(94点)である。VI類は分類した全部の8点を統計の対象としている。「縄文施文あり」が0.0%(0点)、「縄文施文なし」が100.0%(8点)である。(第VI-3図参照)

次に、口唇部から体部までの部位別の縄文施文の状況について述べたい。対象としては、I類からVI類までとしたい。(第VI-4図参照)

口唇部 I類では「縄文施文あり」41.7%(5点)、「縄文施文なし」58.3%(7点)、II類では「縄文施文あり」97.1%(34点)、「縄文施文なし」2.9%(1点)、III類では「縄文施文あり」97.3%(36点)、「縄文施文なし」2.7%(1点)、IV類では「縄文施文あり」7.1%(1点)、「縄文施文なし」92.9%(13点)、V類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(16)点、VI類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、

「縄文施文なし」100.0%(3点)という傾向がみられる。

口唇部の傾向について述べる。II類とIII類は、口唇部への「縄文施文あり」の割合が非常に高くなっている。また、I類では縄文施文の有無は割格的には拮抗しているが、「縄文施文なし」がやや優勢となっている。なお、IV類において、口唇部への縄文施文がごく少量残るようである。基本的には、キザミが主となるのでこのような傾向となるのだろう。III類とIV類の間に縄文施文に関する画期があることが読み取れよう。

口縁部 外面の状況について、I類では「縄文施文あり」25.0%(3点)、「縄文施文なし」75.0%(9点)、II類では「縄文施文あり」94.4%(34点)、「縄文施文なし」5.6%(2点)、III類では「縄文施文あり」55.3%(21点)、「縄文施文なし」44.7%(17点)、IV類では「縄文施文あり」11.1%(2点)、「縄文施文なし」88.9%(16点)、V類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(16)点、VI類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(3点)という傾向がみられる。

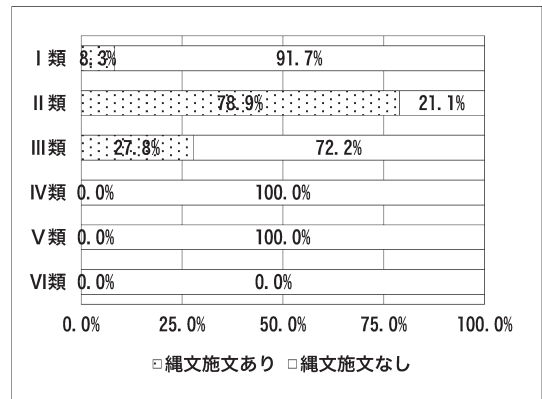
口縁部外面の傾向について述べる。II類は、口縁部外面への「縄文施文あり」の割合が非常に高くなっている。III類は、「縄文施文あり」がやや優勢となっているが、「縄文施文なし」と拮抗している。また、I類では縄文施文なしが優勢となっている。なお、IV類において、口縁部外面への縄文施文がごく少量残るようである。基本的には、押型文が主となるのでこのような傾向になるのだろう。口唇部の状況と同様に、III類とIV類の間には縄文施文に関する画期があることが読み取れよう。

内面の状況について、I類では「縄文施文あり」33.3%(4点)、「縄文施文なし」66.7%(8点)、II類では「縄文施文あり」80.6%(29点)、「縄文施文なし」19.4%(7点)、III類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(38点)、IV類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(18点)、V類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(16)点、VI類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(3点)という傾向がみられる。

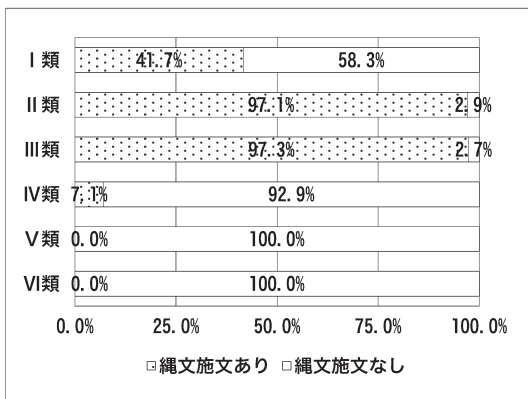
部位別の有無

	口唇部	口縁部 外面	口縁部 内面	頸部 外面	頸部 内面	体部 外面	体部 内面
I類	○	○	○	○			
II類	○	○	○	○		○	
III類	○	○		○			
IV類	○	○					
V類							
VI類							

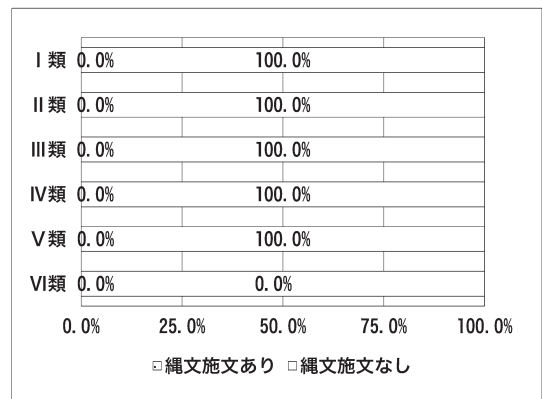
頸部外面



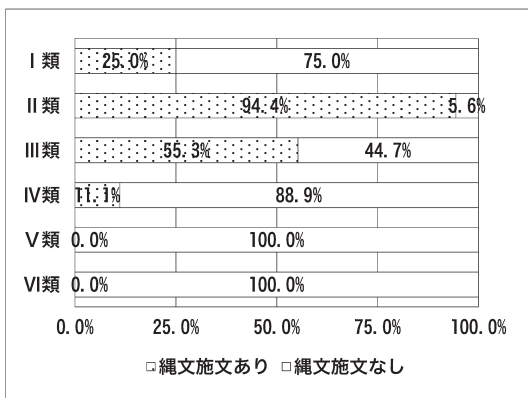
口唇部



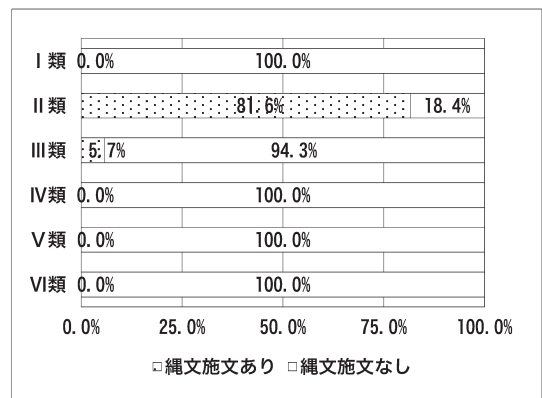
頸部内面



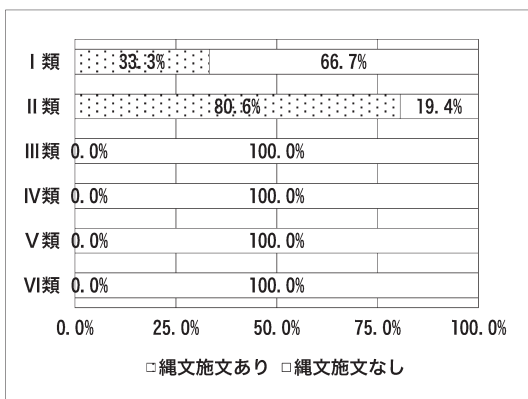
口唇部外面



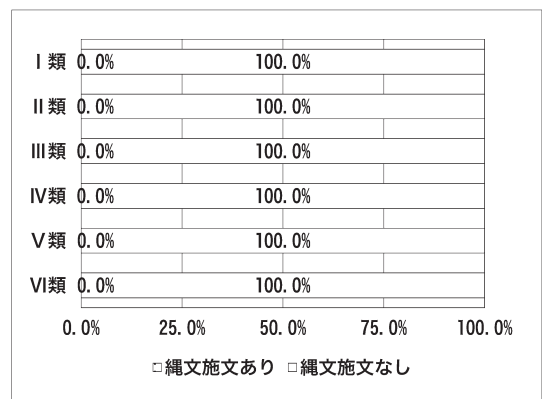
体部外面



口縁部内面



体部内面



第VI-4図 部位別の縄文施文の有無と割合

口唇部

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
I 類	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
II 類	0	0.0%	0	0.0%	11	32.4%	20	58.8%	3	8.8%	0	0.0%	34	100.0%
III 類	0	0.0%	0	0.0%	23	63.9%	13	36.1%	0	0.0%	0	0.0%	36	100.0%
IV 類	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
V 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
VI 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

口縁部外

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
I 類	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%
II 類	0	0.0%	0	0.0%	11	32.4%	19	55.8%	4	11.8%	0	0.0%	34	100.0%
III 類	0	0.0%	0	0.0%	14	66.7%	7	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	21	100.0%
IV 類	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
V 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
VI 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

口縁部内

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
I 類	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
II 類	0	0.0%	0	0.0%	8	27.6%	21	72.4%	0	0.0%	0	0.0%	29	100.0%
III 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
IV 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
V 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
VI 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

頸部外

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
I 類	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
II 類	0	0.0%	0	0.0%	10	33.3%	15	50.0%	5	16.7%	0	0.0%	30	100.0%
III 類	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
IV 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
V 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
VI 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

頸部内

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
I 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
II 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
III 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
IV 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
V 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
VI 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

体部外

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
I 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
II 類	0	0.0%	5	8.1%	30	48.4%	17	27.4%	8	12.9%	2	3.2%	62	100.0%
III 類	0	0.0%	0	0.0%	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
IV 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
V 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
VI 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

体部内

	L		R		LR		RL		LRL		RLR		計	
I 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
II 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
III 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
IV 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
V 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
VI 類	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

* 左は点数、右は比率

燃糸文

	L	R	無?	LR	RL	単?	LRL	RLR	複?	計		
口唇部	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	3	100.0%
口縁部外	2	25.0%	3	37.5%	2	25.0%	0	0.0%	1	12.5%	8	100.0%
口縁部内	2	40.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	5	100.0%
頸部外	2	20.0%	5	50.0%	2	20.0%	1	10.0%	0	0.0%	10	100.0%
頸部内	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
体部外	24	43.7%	25	45.5%	2	3.6%	2	3.6%	0	0.0%	55	100.0%
体部内	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

* 左は点数、右は比率

第VI-1表 部位別の縄文と燃糸文の縄の方向

口縁部内面の傾向について述べる。Ⅱ類は、口縁部内面への「縄文施文あり」の割合が非常に高くなっている。また、Ⅰ類では「縄文施文なし」が優勢となっている。なお、Ⅲ類・Ⅳ類・Ⅴ類・Ⅵ類は、口縁部内面への縄文施文がない状況となっている。基本的には、押型文が主となるのでこのような傾向になるのだろう。口縁部外面の状況と同様に、Ⅲ類とⅣ類の間には縄文施文に関する画期があることが読み取れよう。

頸部 外面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」8.3%(1点)、「縄文施文なし」91.7%(11点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」78.9%(30点)、「縄文施文なし」21.1%(1点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」27.8%(5点)、「縄文施文なし」72.2%(13点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(14点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(5点)、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」0.0%(0点)という傾向がみられる。

頸部外面の傾向について述べる。Ⅱ類の「縄文施文あり」の割合が、他に比べ突出している。また、Ⅲ類は「縄文施文なし」が優勢となっているが、一部縄文が残る様相がみられる。Ⅰ類は、「縄文施文なし」の割合が非常に高くなり、Ⅳ類・Ⅴ類・Ⅵ類は、「縄文施文なし」が全てという状況となる。

内面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(12点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(31点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(18点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(14点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(5点)、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」0.0%(0点)という傾向がみられる。

頸部内面の傾向について述べる。ⅠからⅥ類まで、「縄文施文なし」が全てという状況となる。

体部 外面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(56点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」81.6%(62点)、「縄文施文なし」18.4%(14点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」5.7

%(5点)、「縄文施文なし」94.3%(83点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(111点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(79)点、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(5点)という傾向がみられる。

体部外面の傾向について述べる。Ⅱ類は、「縄文施文あり」の割合が非常に高い。また、Ⅲ類は「縄文施文なし」がほとんどであるが、ごく一部に「縄文施文あり」が残るようである。なお、Ⅰ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類は、縄文による施文がなされなくなる。

内面の状況について、Ⅰ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(56点)、Ⅱ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(76点)、Ⅲ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(88点)、Ⅳ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(111点)、Ⅴ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(79)点、Ⅵ類では「縄文施文あり」0.0%(0点)、「縄文施文なし」100.0%(5点)という傾向がみられる。

体部内面の傾向について述べる。Ⅰ類からⅥ類の全てで、縄文による施文がない。

全体を概観してみたい。Ⅱ類とⅢ類を比較すると、縄文施文がほぼ1/3に減少していることがわかる。ここで、縄文施文が減少傾向となるという1つの画期がみてとれる。また、Ⅲ類からⅣ類についても、同様に縄文施文が消失するという1つの画期があることも見いだせる。縄文施文の有無の状況から、画期が見いだせるようである。なお、体部内面に縄文施文がなされないことは、この傾向からも明らかである。岐阜県椛ノ湖遺跡出土の底部付近まで表裏に縄文が施されるもの¹⁾とは、多気北畠氏39次他の表裏縄文土器とは差違を感じる。多気北畠氏39次他のものは、多縄文系土器に連なることがいえるが、この時期に至るその間に、未発見・未抽出の資料が複数段階入ることになるのではないだろうか²⁾。

つづいて、縄文の撚りの方向の傾向について述べる。方向が不明なものは除いている。(第Ⅵ-1表参照)

口唇部 Ⅰ類では、単節縄文LRが80.0%(4点)、単

節縄文RL20.0%(1点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅱ類では、単節縄文LRが32.4%(11点)、単節縄文RLが58.8%(20点)、複節縄文LRLが8.8%(3点)を確認した。無節は確認できなかった。Ⅲ類では、単節縄文LRが63.9%(23点)、単節縄文RLが36.1%(13点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅳ類では、単節縄文LRが1点確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅴ類、Ⅵ類については、縄文施文が確認できなかった。

口唇部の傾向を述べる。Ⅰ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類は単節縄文RLがやや優勢で複節縄文が少数みられる。Ⅲ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類とⅢ類の間には、縄文施文でありながらも1つの画期があるようである。

口縁部 外面の状況について、Ⅰ類では、単節縄文LRが66.7%(2点)、単節縄文RLが33.3%(1点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅱ類では、単節縄文LRが32.4%(11点)、単節縄文RLが55.8%(19点)、複節縄文がLRL11.8%(4点)を確認した。無節は確認できなかった。Ⅲ類では、単節縄文LRが66.7%(14点)、単節縄文RLが33.3%(7点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅳ類では、単節縄文LRを2点確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅴ類、Ⅵ類については、縄文施文が確認できなかった。

口縁部外面の傾向を述べる。Ⅰ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類は単節縄文RLがやや優勢で複節縄文が少数みられる。Ⅲ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅳ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類とⅢ類の間には、縄文施文がありながらも1つの画期があるようである。

内面の状況について、Ⅰ類では、単節縄文LRが50.0%(2点)、単節縄文RLが50.0%(2点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅱ類では、単節縄文LRが27.6%(8点)、単節縄文RLが72.4%(21点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅲ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類では縄文施文を確認できなかった。

口縁部内面の傾向を述べる。Ⅰ類は単節縄文LRとRLが拮抗している。Ⅱ類は単節縄文RLがやや優勢で

複節縄文が少数みられる。

頸部 外面の状況について、Ⅰ類では、単節縄文LRを1点確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅱ類では、単節縄文LRが33.3%(10点)、単節縄文RLが50.0%(15点)、複節縄文LRLが16.7%(5点)を確認した。無節は確認できなかった。Ⅲ類では、単節縄文LRを2点確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類は縄文施文を確認できなかった。

頸部外面の傾向を述べる。Ⅰ類は単節縄文LRが優勢となる。Ⅱ類は単節縄文RLがやや優勢で複節縄文が少数みられる。

内面の状況について、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類では縄文施文を確認できなかった。

体部 外面の状況について、Ⅱ類では、無節縄文LRが8.1%(5点)、単節縄文LRが48.4%(30点)、単節縄文RLが27.4%(17点)、複節縄文がLRL12.9%(8点)、複節縄文がRLR3.2%(2点)を確認した。Ⅲ類では、単節縄文LRが60.0%(3点)、単節縄文RLが40.0%(2点)を確認した。無節及び複節縄文は確認できなかった。Ⅰ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類は縄文施文を確認できなかった。

体部外面の傾向を述べる。Ⅱ類は単節縄文LRがやや優勢で単節及び複節縄文が少数みられる。Ⅲ類は単節縄文LRが優勢となる。

内面の状況について、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類、Ⅳ類、Ⅴ類、Ⅵ類では縄文施文を確認できなかった。

全体を概観してみたい。Ⅱ類とⅢ類を比較すると、口唇部と口縁部外面へ施された縄文の撚りの方向は、単節縄文RL優勢から単節縄文LR優勢に変化していることがわかる。縄文の撚りの方向から1つの画期が見いだせるようである。

続いて、Ⅰ類における撚糸文の縄の方向についても概観したい。全体の状況としては、無節縄文がほとんどであり、一部に単節縄文がみられる。土器部位別の状況に目をむけたい。(第VI-1表参照)

口唇部 無節縄文(方向不明)が66.7%(2点)、単節縄文LRが33.3%(1点)を確認した。

口縁部 外面の状況について、無節縄文Lが25.0%(2点)、無節縄文Rが37.5%(3点)、無節縄文(方向不明)が25.0%(2点)、単節縄文RLが12.5%(1点)を

確認した。内面に状況について、無節縄文Lが40.0%(2点)、無節縄文(方向不明)が40.0%(2点)、単節縄文RLが20.0%(1点)を確認した。

頸部 外面の状況について、無節縄文Lが20.0%(2点)、無節縄文Rが50.0%(5点)、無節縄文(方向不明)が20.0%(2点)、単節縄文LRが10.0%(1点)を確認した。内面の状況について、無節縄文(方向不明)を1点確認した。

体部 外面の状況について、無節縄文Lが43.7%(24点)、無節縄文Rが45.5%(25点)、無節縄文(方向不明)が3.6%(2点)、単節縄文LRが3.6%(2点)、単節縄文RLが3.6%(2点)を確認した。内面の状況については、撚糸文の施文はみられない。

(2) 土器型式への対応と変遷

当該期の土器型式を概観するとともに、多気北畠氏39次出土資料の各型式への対応と変遷について概観していきたい。

a 研究の動向

これまでの研究により、三重県を含む近畿地方における押型文前半期の土器型式は、大鼻式、大川式、神宮寺式、神並上層式という変遷が一般化しているといえよう³⁾。各型式の細分や型式名の呼称については、今も研究が進展している状況である。また、大鼻式以前の型式については、現段階でもよくわからない状況であるといわれてきている。このことは、撚糸文系土器、表裏縄文土器と呼称されるものも含めた縄文系土器、押型文系土器との併行関係、大鼻式の直接の先行型式の未確認といった課題があることによる⁴⁾と考えている。

b 土器型式への対応と変遷

多気北畠氏39次出土資料(I類・II類・III類・IV類・V類・VI類)の各型式への対応と変遷について述べたい。なお、型式への対応については、矢野健一氏の先行研究に拠っている⁵⁾。(第VI-2表参照)

撚糸文系土器期(I類:1~63)

撚糸文系土器として把握したものである。器形は、少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、ゆるやかな曲線を描く体部、尖底の底部となるものである。当該地域においては、型式が明らかとなっていないので撚糸文系土器期としている。県内及び周辺地域と比較しても、質、量とも多気北畠氏39次出土資料は

特異な状況といえよう。出土資料の状況を述べる。

口縁部付近のものとしては、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するような下向きの剣先状の側面圧痕、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文(I a1類:1)、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に縄文と撚糸文の重なり、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文(I a2類:2,3)、口唇部に縄文、口縁部以下の外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に縄文(I a3類:4,5)が施されたものがみられる。撚糸文ではなく、縄文施文が口縁部内外面にみられる。口縁部付近のものとしてさらに、口唇部に撚糸文、口縁部外面に撚糸文、口縁部と頸部を区画するような横方向2段の側面圧痕、体部外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に撚糸文(I b1類:6)、口唇部に撚糸文、口縁部以下の外面に撚糸文、口縁部内面の最上部に撚糸文(I b2類:7,8,9)が施されたものもみられる。まさに、表裏縄文ならぬ表裏撚糸文土器といえるものである。口縁部内面の最上部に施文があることから、表裏縄文土器、ひいては多気北畠氏39次出土の縄文系土器との関連性は否定できないものといえよう。これら以外に、口縁部以下の外面に撚糸文が施されたもの(I c1類:10,11)がみられる。体部片については、外面に縄文、撚糸文(I d1類:12,17)、外面に撚糸文(I d2類:13~16,18~62)が施されたものがみられる。縄文施文が一部にみられることも、前述にある縄文系土器との関連性を窺わせる。

撚糸文系土器は、先述の滋賀県栗津湖底遺跡において大鼻式との関連と大鼻式直前の型式の可能性があり、縄文系土器も含めてのものであった⁶⁾。これらは、層位的に分離することはできなかった⁷⁾とも述べられている。また、多気北畠氏39次出土資料も滋賀県栗津湖底遺跡と同様に層位的な分離はできていない。以上のことを踏まえ、大鼻式以前の段階のものと考えたい。ただ、大鼻式と共時性がある可能性も否定できる状況でない⁸⁾。

縄文系土器期(II類:64~157)

大鼻式期においては、縄文が多用されている。これは、多縄文系土器の系統をひくものといわれており、多縄文系土器の末期の尖底土器が変化したものであることはほぼ確実と指摘されている⁹⁾。ただ、

擦糸文系土器の位置づけや、直接大鼻式に先行する土器の実態が判然としていない。現状としては、大鼻式の先行型式が未発見、未抽出の状態といえる¹⁰⁾。

多気北畠氏39次出土資料では、口縁部内面の最上部に縄文が施された表裏縄文土器と呼称されるものも含めた縄文系土器が多く出土している。土器外面に、口縁部から体部にかけて全部に縄文が施されたものである。おそらく、底部に至るまで縄文が施されていたのではないだろうか。器形は、少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となるものであろう。土器内面の口縁部最上部には、縄文が施されたものもみられる。その部分に限定されるといっても過言ではなく、広く縄文が施文される例はみられない。

当該期に属する土器群の詳細な状況について述べていく。

いわゆる表裏縄文土器は、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような横位の複数段の側面圧痕、体部外面に縄文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱa1類:64, 66~71)や口唇部に縄文、口縁部以下の外面に縄文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱa2類:65, 72~77)があげられる。これらと土器外面は同様の文様構成で、土器内面の口縁部最上部への縄文施文がないもの(Ⅱb1類:78, 79、Ⅱb2類:80, 81)もある。

また、前述の文様構成や器形を踏襲するように、表裏縄文土器は、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような複数段の側面圧痕、体部外面に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱf1類:132, 133)や口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁部と頸部を区画するかのような下向きの剣先状の側面圧痕、体部に枝回転文が施されると考えられ、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱf2類:134)、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部付近に複数段の側面圧痕、側面圧痕直下の体部外面まで縄文、以下に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(Ⅱf3類:135~138, 141)、口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部以下に枝回転文、口縁部内面の最上部に縄文が施されたもの(f4類:139, 142~145)、口唇部に縄文、口縁部以下の外面に枝回転文、口縁部内面の最上部

に縄文が施されたもの(Ⅱf5類:140)がみられる。これらと土器外面については同様の文様構成で、土器内面の口縁部最上部に施文がないもの(Ⅱf6類:146~148)もある。つまり、頸部下部から下の外面には、枝回転文が施されるものとなる。あわせて、口縁部の傾きが少し外反するようになっていく。

大鼻式期は、大きく外反し肥厚する口縁部や縄文施文が多用される時期であることと、前述の多気北畠氏39次出土資料の状況と考え合わせると、この縄文系土器期の器形や文様構成が大鼻式期に連なっていくのではないだろうか。

大鼻式期(Ⅲ類:158~278)

広義の押型文系土器である。大鼻式は、三重県亀山市大鼻遺跡が標識遺跡となっている¹¹⁾。口縁部が強く外反する器形である。口唇部が肥厚し、面的に平らとなっている。口唇部や口縁部外面に縄文が施文されることや、絡条体による圧痕文が多いとされている¹²⁾。

多気北畠氏39次においても、肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、口縁下部から頸部にかけて複数段の側面圧痕(Ⅲa1類:158, 159, 176, 177)や肥厚する口唇部に縄文、口縁部から頸部にかけて複数段の側面圧痕(Ⅲa7類:178, 179)の施されたものがみられる。これに加えて、肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文、羽状の押圧縄文(Ⅲa2類:161, 163~166, 168, 170)や肥厚する口唇部に縄文、口縁部から頸部にかけて斜めの押圧縄文(Ⅲa8類:180)のように縄文原体による押圧縄文が施されているものがみられる。また、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文(Ⅲa3類:171)や肥厚する口唇部に縄文、口縁部外面から頸部にかけての外面に縄文(Ⅲa4類:160, 162, 167, 169, 172, 181, 182, 184)、肥厚する口唇部に縄文(Ⅲa6類:174, 175, 183)が施されたものもみられる。なお、肥厚する口唇部に縄文、口縁部以下の外面にネガティブな市松文が施されたもの(Ⅲd1類:242~251)のように、縄文が口唇部に集約されるものも存在する。体部に目を転じてみると、枝回転文(Ⅲb1類:185~239)と大振りの市松文(Ⅲe1類:252~278)が施されたものがみられる。このように、市松文と格子目文の施文が主な点となるのは次段階の大川式と共通するものといえ

る。大川式の文様構成と比して変化に乏しい段階といえよう¹³⁾。口唇部から頸部に至る長さが比較的短くなるようである¹⁴⁾。古と新の2段階に細分でき¹⁵⁾、古段階では枝回転文が存在し(158~241)、新段階は市松文を主とする押型文の存在が確認されている(242~278)。なお、土器内面の施文はなく、前段階に多くみられる指圧痕も非常に少なくなる。

大川式期(Ⅳ類:279~407)

押型文系土器である。大川式は、口縁部が外反する器形である。頸部に屈曲する部分が下降し、屈曲が緩やかになるといわれている。施文については、棒状工具を使うこととなる。口唇部に棒状工具によるキザミ、口縁部には棒状工具の押型文が施され、頸部の刺突も同様に棒状工具で施文される。当該期は、縄文施文が急減することになり、市松文やネガティブな楕円文、格子目文、山形文等の押型文が多用される段階となる。一部には、口唇部への縄文施文や、口縁部外面への縄文による側面圧痕が施されたものも存在する。

多気北島氏39次の当該期の状況を述べる。口唇部に縄文、口縁部外面に縄文、頸部に刺突文、体部には市松文が施されるであろうもの(Ⅳa1類:279)がある。頸部から体部のもので、外面に縄文・市松文以下に刺突文が施されたものある(Ⅳb1類:286~288)。前段階の縄文施文が残ったものである。前述の当該期の特徴にそう口唇部にキザミ、口縁部外面に市松文、頸部に刺突文、体部には市松文(Ⅳa2類:280, 282, 283)、口唇部にキザミ、口縁部外面に山形文、頸部に刺突文、体部には市松文(Ⅳa3類:281)、口唇部にキザミ、口縁部外面に刺突文、頸部以下に市松文(Ⅳa4類:284, 285)がみられる。頸部から体部にかけての破片は、外面に格子目文、以下に刺突文(Ⅳb2類:289)、外面に刺突文、以下に山形文(Ⅳb3類:292)、外面に刺突文、以下に市松文(Ⅳb4類:290, 291, 293, 294, 297)、外面に市松文(Ⅳb5類:295, 296, 298~300)、外面にネガティブな市松文(Ⅳc1類:301~303, 305~321, 323~349, 351~353)、外面にネガティブなひとつの文様が小さい市松文(Ⅳc2類:356~361, 363, 364)、外面にネガティブな格子目文(Ⅳc3類:304, 322, 350)、外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文(Ⅳc4類:362, 365~379)、外面に刺突文(Ⅳc5類:354,

355)、外面に植物を使った刺突文(Ⅳc6類:380)が施されたものがみられる。Ⅳc6類(380)は特異な例ではないだろうか。

また、口唇部にキザミ、少し外反する口縁部外面に市松文(Ⅳd1類:381, 382)、口唇部にキザミ、少し外反する口縁部外面に格子目文(Ⅳd2類:383)、口唇部にキザミ、やや外反する口縁部以下の外面に楕円状の格子目文(Ⅳd3類:384)、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部以下の外面に、上から浅い刺突、ネガティブな楕円文(Ⅳd4類:385~387)が施されたものもみられる。体部の破片には、外面にネガティブな楕円に近い市松文(Ⅳe1類:388~390)、外面にネガティブな楕円状の押型文(Ⅳe2類:391~399)、外面にネガティブなひとつの文様が小さい格子目文(Ⅳe3類:400~407)が施されたものがある。これらは、器厚は少し薄くなる傾向がある。これらについては、前述のものより時期が下るものと考えている。

大川式は古段階と新段階に細分できるといえよう¹⁶⁾。古段階は、頸部で外反し口唇部が少し肥厚し、キザミが施される。口縁部や頸部外面に刺突を多用する。外面には大振りの山形文が施されたものもみられる(279~380)。この段階には、大鼻式にはなかった地域差が存在するといわれている。新段階は、口縁部が緩やかに外反し、頸部における屈曲が緩やかになる。口唇部から体部まで器厚は薄くなる。文様は、斜傾するネガティブな楕円文や格子目文がみられるようになる(381~407)。古段階の地域差より型式差といえるほど拡大するといわれている¹⁷⁾。

神宮寺式期(Ⅴ類:408~501)

押型文系土器である。神宮寺式は、前段階に比べ口縁部への屈曲がやや緩やかになり、直線的な外に開かない器形となる。口唇部(とは言い難くなる)にキザミがみられ、外面から削ぐような感じでの施文となる。文様構成は前段階と共通するが、頸部には刺突が施されなくなる。文様は、ネガティブな楕円文と格子目文が主体になる。これらの中には斜傾するものがみられる。このような特徴を示すものとして、多気北島氏39次においては、以下のものがあげられよう。口縁部付近では、口唇部にキザミ、少し外傾する口縁部外面に、上から山形文、疎らにネガティブな楕円文(Ⅴa1類:408~413)、直線的に外

傾する口縁部外面に、ネガティブな細い楕円文(Va2類:414)、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文(Va3類:415)が施されたものがみられる。また、体部片では、外面にネガティブな山形文・楕円文(Vc1類:424~428)、外面にネガティブな横位の直線文・楕円文(Vc2類:429)、外面にネガティブな山形文(Vc3類:430)、外面にネガティブな楕円文(Vc4類:431~435)、外面にネガティブな斜傾する格子目文(Vc5類:436, 437)、外面にネガティブな楕円文が施され、文様の間隔も狭く斜格子に近いもの(Vc6類:438~451)、外面にネガティブな浅い楕円文(Vc7類:452, 453)、外面に浅いネガティブなより細長い楕円文(Vc8類:454~457)の施されたものがみられる。これらの器厚は一樣に薄い。

また、ネガティブな楕円文が長大化した文様や矩形ないし楕円文の文様がみられるようになる。器形はより直線的になり外側に開かないものとなる。このような特徴を示すものとして、多気北畠氏39次においては、以下のものがあげられよう。口縁部付近のものとして、口唇部にキザミ、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文(Vb1類:417~419)、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな細い楕円文(Vb2類:416, 420~422)、直線的に外傾する口縁部外面にネガティブな斜傾する格子目文(Vb3類:423)が施されたものがみられる。体部片については、外面に浅いネガティブな少し細長くなった楕円文、文様の間隔が疎らに(Vd1類:458~475)、外面にネガティブな細長くなった格子目文(Vd2類:476~481)、外面にネガティブなより細長くなった直線的な格子目文(Vd3類:482~501)の施されたものがみられる。これらは、一樣に器厚がより薄くなる。

当該期は古段階と新段階に分別することができる¹⁸⁾。古段階は、文様構成は前段階と共通だが、頸部への刺突がなくなり、文様はネガティブな楕円文と格子目文が主となり、文様の斜傾化がみられるようになる(408~415、424~457)。新段階では、ネガティブな楕円文が長大化や矩形ないし楕円文がみられるようになる。器形は直線的で外側に開かないものとなる(416~423、458~501)。

神並上層式期(VI類:502~509)

押型文系土器である。量的に多くはない。神並上層式は、前段階より直線的になり少し外に開く器形となる。口縁部では横位の施文がみられるようになる。ネガティブな楕円文がなくなり、小ぶりの山形文が多くみられるようになる。口縁部における横位の施文の幅がたいそう広くなる。口縁部の形状として、波状口縁が多くみられるようになり、文様は小ぶりの山形文が主となり密接な施文をする。このような特徴を示すものとして、多気北畠氏39次出土資料としては以下のものがある。口縁部付近のものとしては、口唇部にキザミがみられ、口縁部に前段階より細長い楕円文(VIa1類:502, 504)、口縁部に矢羽根状の前段階より細長い楕円文(VIa2類:503)の施されたものがある。体部片については、外面に山形文、矢羽根状にネガティブな斜傾した楕円文(VIb1類:505)、外面に、細かな山形文(VIb2類:506~509)の施されたものがみられる。これらは、一樣に器厚がより薄くなる。神並上層式は、古段階と新段階に分別が可能である¹⁹⁾が、量的に少ないこともあり、ここでは分別は行わない。

(3) 大鼻式以前の段階に関する予察

大鼻式期では、縄文が多用されている²⁰⁾。前述したが、多縄文系土器の系統をひくものといわれており、多縄文系土器の末期の尖底土器が変化したものであることはほぼ確実と指摘されている²¹⁾。ただ、撚糸文系土器の位置づけや、直接大鼻式に先行する土器の実態が判然としていない。現状としては、大鼻式の先行型式が未発見、未抽出の状態といえる。また、多気北畠氏39次の発掘調査地点は、地理的に見て奈良県鶴山遺跡²²⁾・桐山和田遺跡²³⁾といった大和高原の遺跡に近く、それらの影響を受けていることも考えあわせるべきであろう。

ここでは、縄文系土器期(II類:64~157)の土器群について考えてみたい。多気北畠氏39次出土資料では、口縁部内面の最上部に縄文が施された表裏縄文土器と呼ばれるものも含めた縄文系土器が多く出土している。土器外面に、口縁部から底部にかけて全部に縄文が施されたものといえよう。器形は、少し外傾する口縁部、少し括れる頸部、直線に近い曲線を描くような体部、尖底の底部となる。土器内面の

口縁部最上部には、縄文が施されたものもみられる。その部分に限定されるといっても過言ではなく、土器内面に全部に縄文が施文される例はない。

当該期の口縁部形態については、少し厚みのある口唇部を持つ口縁部が、外反までとはいえないものの少し外傾するものといえる。これらのなかには、直線的に外傾する口縁部(64, 68, 78)と、少し外反するといってもいいような短めの口縁部片(132, 135, 146, 147, 148)が存在している。これは、前者から後者へ口縁部形態の変化、時期差として捉えることができよう。あわせて、前者の頸部以下には縄文が、後者の頸部以下には枝回転文が施されていることについても、口縁部と同様に変化、時期差としてとらえることができよう。また、大鼻式期の大きく外反し肥厚する口縁部へと連なっていくものとしても捉えることができるのではないだろうか。(第VI-5図参照)

当該期の土器外面や内面への縄文施文については、他の土器群と比較しても、93.6%と突出して多い。縄文施文が多用される大鼻式期(Ⅲ類)の31.4%と比較しても、3倍程度となっている。この差は、縄文施文が多用される時期としての1つの画期を示しているものといえよう。なお、大川式期(Ⅳ類)以降は、縄文施文がごく稀なものとなり、当該期と大鼻式期に集中していることがわかる。

各部位への「縄文施文あり」については、口唇部では当該期と大鼻式期は97.1%、97.3%と割合が拮抗しているものの、口縁部外面では94.4%、55.3%、頸部外面では78.9%、27.8%、体部外面では81.6%、5.7%と割合に大きな差がみとれる。口縁部内面に至っては、当該期80.6%、大鼻式期0.0%となっている。この差も、縄文施文が多用される時期としての1つの画期を示しているものといえよう。(第VI-4図参照)

また、各部位に施文された縄文の撚りについては、当該期に無節・単節・複節縄文がみられるのに対し、大鼻式期は単節縄文となる。口唇部や口縁部外面に施文された縄文の撚りの方向は、当該期が単節縄文RL優勢になるのに対し、大鼻式期が単節縄文LR優勢となる。撚糸文系土器期は大鼻式期と同様に単節縄文LR優勢となっており、何らかの関連性を想起させ

分類	報告番号	所属時期
I a1	1	撚糸文系土器期
I a2	2, 3	撚糸文系土器期
I a3	4, 5	撚糸文系土器期
I b1	6	撚糸文系土器期
I b2	7, 8, 9	撚糸文系土器期
I c1	10, 11	撚糸文系土器期
I d1	12, 17	撚糸文系土器期
I d2	13~16, 18~62	撚糸文系土器期
I e1	63	撚糸文系土器期
II a1	64~71	「多気北畠氏39次段階」古
II a2	65, 72~77	「多気北畠氏39次段階」古
II b1	78, 79	「多気北畠氏39次段階」古
II b2	80, 81	「多気北畠氏39次段階」古
II c1	82	「多気北畠氏39次段階」古
II d1	83~86	「多気北畠氏39次段階」古
II e1	87~131	「多気北畠氏39次段階」古
II f1	132, 133	「多気北畠氏39次段階」新
II f2	134	「多気北畠氏39次段階」新
II f3	135~138, 141	「多気北畠氏39次段階」新
II f4	139, 142~145	「多気北畠氏39次段階」新
II f5	140	「多気北畠氏39次段階」新
II f6	146~148	「多気北畠氏39次段階」新
II g1	149, 151, 156	「多気北畠氏39次段階」新
II g2	150, 152~155, 157	「多気北畠氏39次段階」新
III a1	158, 159, 176, 177	大鼻式古段階
III a2	161, 163~166, 168, 170	大鼻式古段階
III a3	171	大鼻式古段階
III a4	160, 162, 167, 169, 172, 181, 182, 184	大鼻式古段階
III a5	173	大鼻式古段階
III a6	174, 175, 183	大鼻式古段階
III a7	178, 179	大鼻式古段階
III a8	180	大鼻式古段階
III b1	185~239	大鼻式古段階
III c1	240, 241	大鼻式古段階
III d1	242~251	大鼻式新段階
III e1	252~278	大鼻式新段階
IV a1	279	大川式古段階
IV a2	280, 282, 283	大川式古段階
IV a3	281	大川式古段階
IV a4	284, 285	大川式古段階
IV b1	286~288	大川式古段階
IV b2	289	大川式古段階
IV b3	292	大川式古段階
IV b4	290, 291, 293, 294, 297	大川式古段階
IV b5	295, 296, 298~300	大川式古段階
IV c1	301~303, 305~321, 323~349, 351~353	大川式古段階
IV c2	356~361, 363, 364	大川式古段階
IV c3	304, 322, 350	大川式古段階
IV c4	362, 365~379	大川式古段階
IV c5	354, 355	大川式古段階
IV c6	380	大川式古段階
IV d1	381, 382	大川式新段階
IV d2	383	大川式新段階
IV d3	384	大川式新段階
IV d4	385~387	大川式新段階
IV e1	388~390	大川式新段階
IV e2	391~399	大川式新段階
IV e3	400~407	大川式新段階
V a1	408~413	神宮寺式古段階
V a2	414	神宮寺式古段階
V a3	415	神宮寺式古段階
V b1	417~419	神宮寺式新段階
V b2	416, 420~422	神宮寺式新段階
V b3	423	神宮寺式新段階
V c1	424~428	神宮寺式古段階
V c2	429	神宮寺式古段階
V c3	430	神宮寺式古段階
V c4	431~435	神宮寺式古段階
V c5	436, 437	神宮寺式古段階
V c6	438~451	神宮寺式古段階
V c7	452, 453	神宮寺式古段階
V c8	454~457	神宮寺式古段階
V d1	458~475	神宮寺式新段階
V d2	476~481	神宮寺式新段階
V d3	482~501	神宮寺式新段階
VI a1	502, 504	神並上層式
VI a2	503	神並上層式
VI b1	505	神並上層式
VI b2	506~509	神並上層式
VII a1	514	押型文期
VII a2	516	押型文期
VII a3	517, 518	押型文期
VII b1	515	押型文期
VIII a1	519~524	高山寺式
VIII a2	525~527	高山寺式
VIII b1	528, 529	高山寺式
IX a1	510~513	押型文期

第VI-2表 分類の土器型式への対応

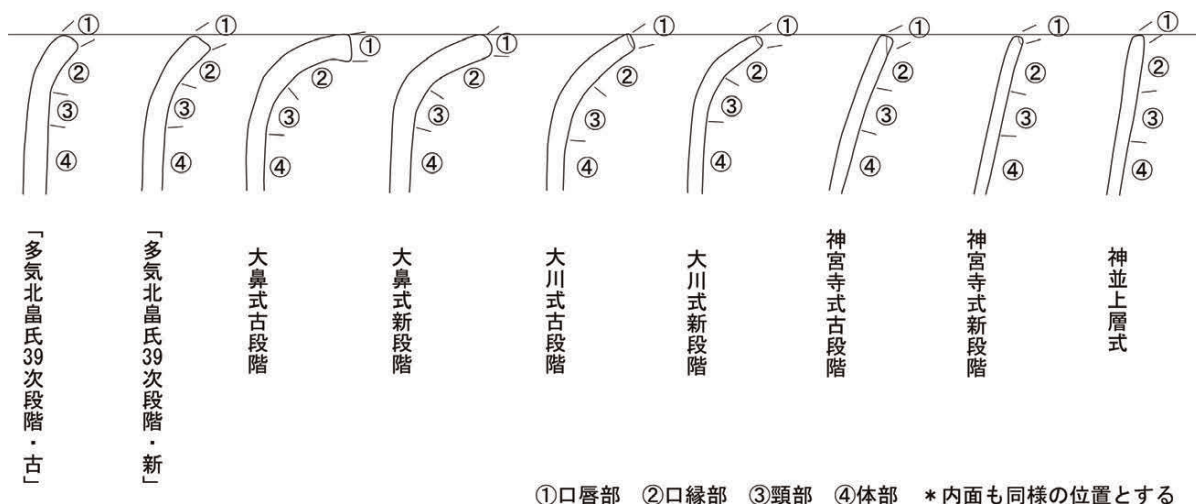
る。このような差も、縄文施文が多用される時期としての1つの画期を示しているものといえよう。(第VI-1表参照)

大鼻式期は、大きく外反し肥厚する口縁部や縄文施文が多用される時期であることと、前述の多気北畠氏39次出土資料の状況と考え合わせると、この縄文系土器期(Ⅱ類:64~157)の器形や文様構成が大鼻式期に連なっていく可能性を指摘できよう。当該期については、大鼻式の直前段階として「多気北畠氏39次段階」を新たに提示したい。また、当該階は、口縁部から頸部にかけての縄文施文や側面圧痕といった文様構成の差はそれほどないが、体部への縄文と枝回転文の施文を画期と捉え「多気北畠氏39次段階・古」(64~131)と「多気北畠氏39次段階・新」(132~157)に、ここでは分別することとしたい。なお、口縁部への縄文の表裏施文の有無は、型式学上、時期差として捉えるのが妥当といえるが、表裏施文の出現と消失の繰り返しが不自然と考えたため、ここでは分別はしていない。

次に、縄文系土器期、「多気北畠氏39次段階」の縄文時代における時期区分の位置について、考えてみたい。いわゆる表裏縄文土器を、どこに位置づけるについては、草創期末に位置づける考えと、早期に位置づける考えとに分かれる。ただ、撚糸文系土器期の資料(45)や「多気北畠氏39次段階・古」(64)の資料、「多気北畠氏39次段階・新」(136, 146, 151, 155)の資料については、放射性炭素年代測定(¹⁴C)を

実施したところ、草創期まで遡らない9500 ¹⁴C BP台から9300 ¹⁴C BP台までという結果であった。この結果は、これまでの縄文時代の土器型式と暦年代の関係についての研究を参照すると、縄文時代早期前葉に相当することとなる。また、撚糸文系土器期と「多気北畠氏39次段階」の時期差についてもそれほど差がないことも判明した。これらのことを踏まえれば、位置づけは縄文時代早期前葉と考えるのが妥当といえる。しかしながら、これまでの土器編年研究をふまえると少し違和感をおぼえる。現状としては、放射性炭素年代測定の結果は結果として受け入れるものの、「多気北畠氏39次段階」は縄文時代草創期最終末から早期初頭の位置に置くこととしたい。ただ、多気北畠氏39次のような出土例は少なく、勢い多気北畠氏39次の例を中心に論を進めていることや、同時期の出土例との比較検討が十分とは言えない状況であることが課題といえる。

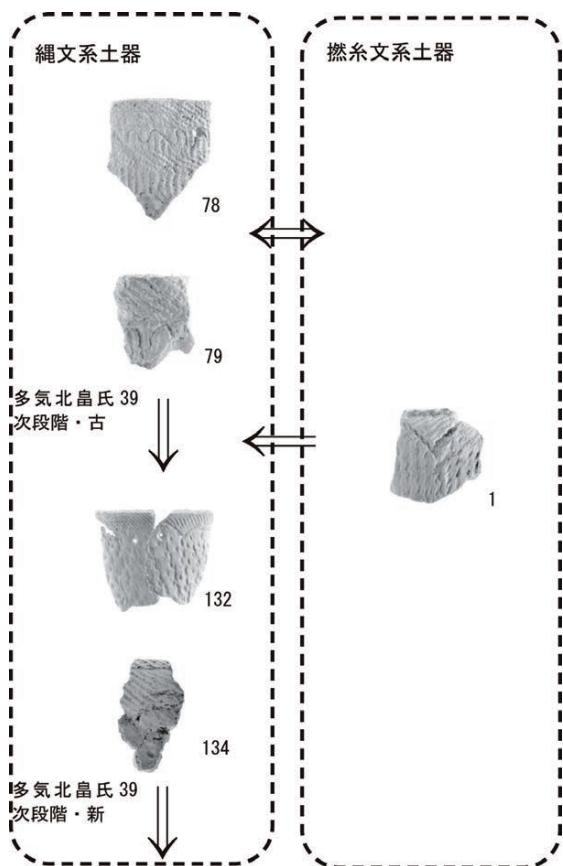
さらに、撚糸文系土器期の位置づけと「多気北畠氏39次段階」との関連性についても考えてみたい。これまでの当該地域の遺跡を概観しても、撚糸文系土器の出土については、大鼻式が出土する遺跡で少量の出土が確認される場合がほとんどである。三重県亀山市大鼻遺跡²⁴⁾・多気町坂倉遺跡²⁵⁾の出土例がそれである。この状況と一線を画する状況を呈するのが滋賀県粟津湖底遺跡ではないだろうか。これらと比較しても、多気北畠氏39次の状況は特異な状況といわざるをえない。当該地域において撚糸文系土



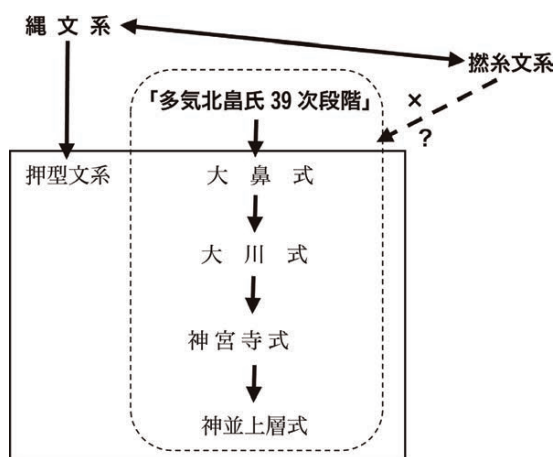
第VI-5図 口縁部形態の変遷と各部位の名称

器の存在する時期があることをあらためて示したものとしよう。

撚糸文系土器について、前述の滋賀県栗津湖底遺跡においては、大鼻式との関連と大鼻式直前の型式の可能性のあるものとして指摘されている²⁶⁾。これは、縄文系土器も含めてのものであり、また層位的に分離することはできなかつたとも述べられている



第VI-6図 撚糸文系土器と縄文系土器の関連性



第VI-7図 土器群の変遷概念図

る²⁷⁾。多気北畠氏39次出土資料には、少し外傾する口縁部や頸部に縄文と上から一部に半弧状の圧痕が合流し垂下する剣先状になる側面圧痕がみられる撚糸文系土器(I a1類:1)の口縁部片がある。その文様は、おそらく2単位ないし4単位のものと思われる。その文様構成と同様のものが「多気北畠氏39段階・古」(78, 79)1と「多気北畠氏39段階・新」(132, 134)の口縁部片に存在する。大鼻式において側面圧痕が施されたものがあるものが、このような文様構成は現状確認できていない。三重県多気町坂倉遺跡には側面圧痕が施された撚糸文系土器があり²⁸⁾、大鼻式以前に撚糸文系土器群が存在した可能性があるのではないだろうか。また、表裏施文も口縁部最上部に限定され、土器内面に広くは施文しておらず、縄文系土器である「多気北畠氏39次段階」との関連性を窺わせるものの、現状として撚糸文系土器は、「多気北畠氏39次段階」、大鼻式期とは別系統のものとして捉えている。なお、多気北畠氏39次出土資料も滋賀県栗津湖底遺跡と同様に層位的な分離はできていない²⁹⁾。これらのことから、撚糸文系土器は、現状として大鼻式以前の段階のものと考えたい。ただ、大鼻式との共時性がある可能性も否定できる状況ではないことも事実である。(第VI-6, 7図参照)

以上のことを踏まえ、多気北畠氏39次出土資料の撚糸文系土器期、縄文系土器期、押型文系土器期の変遷については、縄文系土器期(II類)→大鼻式期(III類)→大川式期(IV類)→神宮寺式期(V類)→神並上層式期(VI類)ということがいえるのではないだろうか。なお、撚糸文系土器期(I類)は、大鼻式期より以前で、縄文系土器期とは同時期か少し時期が下る可能性があるだろう。(第VI-8, 9図参照、第VI-8図はP. 154、第VI-9図はP. 155に掲載)

(小濱 学)

2 出土縄文石器・石製品の検討

(1) 石器各器種

多気北畠氏39次出土の主だった器種について、押型文系土器前半期が出土した県内遺跡(大鼻遺跡、鴻ノ木遺跡、西出遺跡、野添大辻遺跡)、および近隣の県外遺跡(奈良県大川遺跡、奈良県鶴山遺跡)の出土石器の類例と比較しながら所見を述べたい。今回

の調査で出土した石器は先述のとおり、剥片石器は、尖頭器・石鏃・石錐・削器・RF・UF・楔形石器そして石核があり、礫石器は打製石斧・礫器・礫素材の削器や楔形石器・磨石・敲石・石皿・台石がある。

尖頭器 2点出土した。いずれも完形品ではなく全体形は不明である。543は先端部を欠き、茎をもたない基部が残存する。基部形状は外側に丸みを帯び厚みがある。類似する個体はない。544は中央部のみ残存する。平面形は左右非対称であり、細身の半月形を呈した可能性が考えられる。類例として鴻ノ木遺跡2009がある。押型文土器前半期に伴う尖頭器において、県下および近隣県を概観してみると、木葉形尖頭器など整った形状のものが一定数みられる一方で、左右非対称の尖頭器が特徴的に伴うことが指摘されている³⁰⁾。

石鏃 未製品を含め37点出土した。その中で形態が判別できる26点を6種に分類した。1a類の五角形鏃は早期前半の大鼻式・大川式期に特有な形状であり、14点出土した。概ね全形が小ぶりて基部の挟りが浅く、表裏面に一次調整面をとどめるものが多い傾向にある。石鏃の中での割合は53.8%と最も高く、本遺跡において主体となる石鏃形態である。大鼻遺跡10点、鴻ノ木遺跡31点、西出遺跡2点、鶴山遺跡20点など各遺跡での出土例がある。これら五角形鏃のうち、細身で両側縁の凹みが顕著で「魚形」の様相を示すものを第VI-10図に示した。1b類は、側縁が内側に浅く弯曲するもので、草創期から早期大川式期に盛行する三角鏃に近い形状であり、2点出土した。割合は7.7%である。大鼻遺跡6点、鴻ノ木遺跡7点などの類例をみる。1c類は5点出土した。割合は19.2%で、1a類の次に高い。1d類は鋏形鏃と呼称されるもので2点出土した。割合は7.7%である。主に中部地方の遺跡で注目されてきた形態で、長野県諏訪市細久保遺跡や長野県岡谷市樋沢遺跡などのものが知られる。県内では足ヶ瀬遺跡1点、大原堀遺跡1点、勝地大坪遺跡2点、上ノ垣外遺跡10点、近隣の県外では鶴山遺跡3点の類例がある。また、鋏形鏃の出現期は明確ではなく、目立つようになるのは押型文後半期とみられる³¹⁾。1e類は2点出土し、割合は7.7%である。2類は1点のみの出土で、割合は3.9%と最も低い。

石錐 3点出土したが、機能部とつまみ部の作りが明瞭なものは1点(582)のみである。582の石材は香川県金山産のサヌカイトと考えられ、この1点を除くサヌカイトは全て二上山産のものと思われる。金山産サヌカイトの使用は鶴山遺跡の石鏃や石核にも数点見られるが客体的であることは相違ない。

削器 22点出土した。4つの形態に大別される。

1類 素材剥片が厚く、刃部の角度が比較的急なもの。22点中4点(18.2%)

2類 素材剥片が薄く、平面形は概ね細長く、側縁は窄まり交点が尖るもの。刃部の角度は比較的緩やかで鋭い。このうち589～594の6点はドリルとして併用された可能性がある。22点中12点(54.6%)

3類 楔形石器を素材とするもの。22点中3点(13.6%)

4類 その他、横長剥片等を素材とするもの。22点中3点(13.6%)

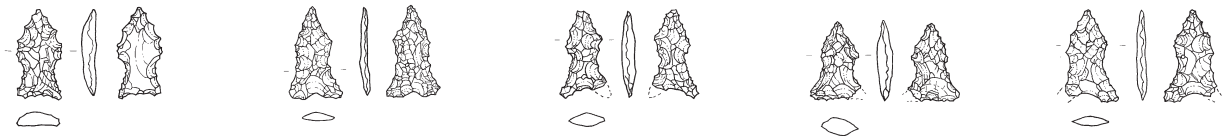
1～4類のいずれも法量や形態に規格性をもたないことから、簡単な剥離調整を施すことで削器となる形状の剥片を素材として使用したと想定する。その中でも2類の細長い形態が高い割合であることは本遺跡の特徴と言えよう。大鼻遺跡や鴻ノ木遺跡など他の遺跡でも削器の形態はさまざまである。

楔形石器 38点検出し、剪断面の数により4種に分類した。1類の剪断面が認められないものが38点中5点(13.2%)、2類の1面のものが18点(47.4%)で高い割合を示し、3類の2面のものが14点(36.8%)、4類の3面のものが1点(2.6%)となる。剪断面の有無については1～3面と有する方が86.8%となり優勢である。石材については、最小規模の法量である663がチャート製でその他はサヌカイト製である。比較対象の他遺跡でも楔形石器はみられるが、形態等に差異は見られない。

礫核石器(礫器) 7点出土し、いずれも自然石を素材とする。676は斧状の形態で鶴山遺跡339に類例がある。典型的な680や681は鴻ノ木遺跡や野添大辻遺跡に多くの類例をみる。礫素材の削器や楔形石器も合わせると10点を数え、全て斑レイ岩製である。SZ1埋土から出土した多くの礫の中には、礫器の素材となるものも含まれていたと思われる。

磨石 21点と多く出土した。素材の大半が砂岩とな

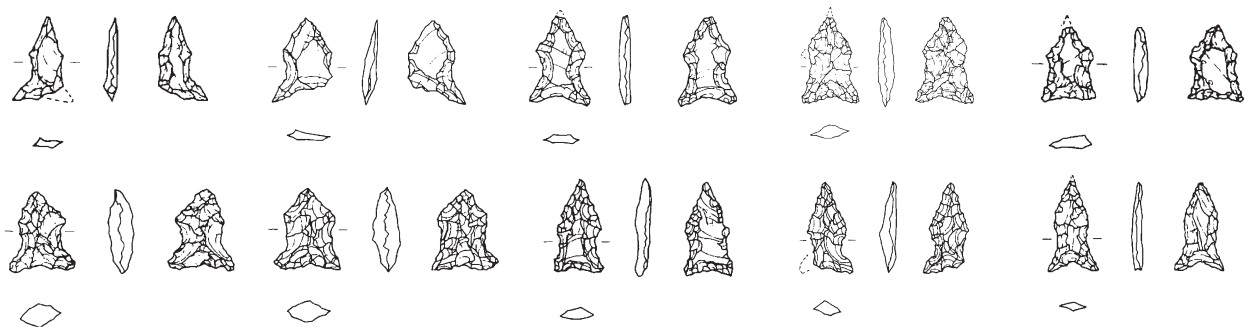
多気北畠氏遺跡第39次



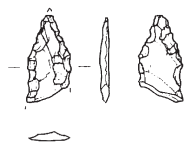
大鼻遺跡



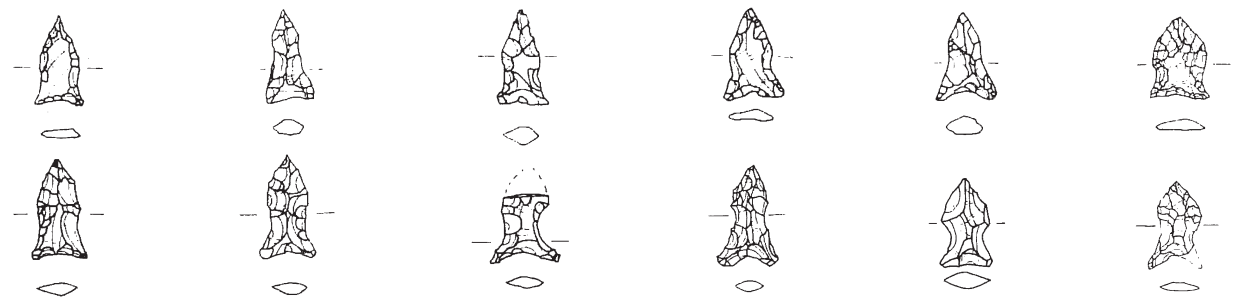
鴻ノ木遺跡



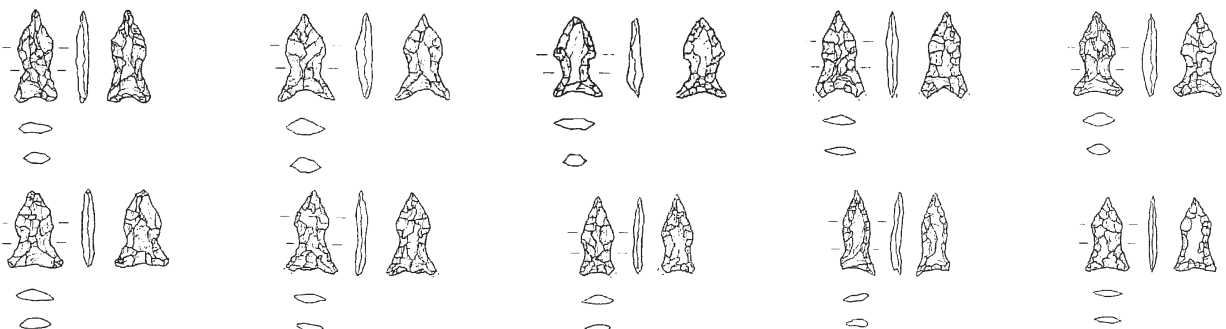
西出遺跡



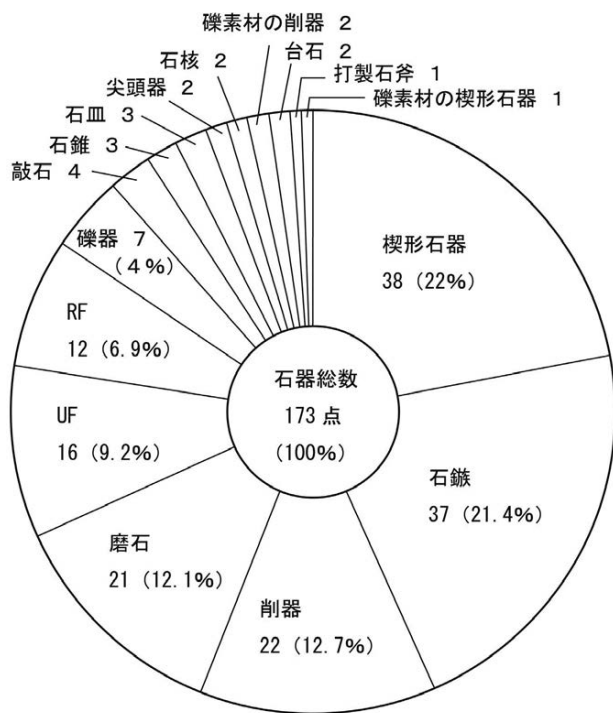
大川遺跡



鶉山遺跡



第VI-10図 縄文時代早期前半の魚形鏃



第VI-11図 石器の組成

る。掘削時に砂岩が出土すると注意深く観察した。その結果、ほとんどが磨石であった。特筆すべきは磨石21点中、「石鱗形」が13点(61.9%)と高い割合を示すことである。鴻ノ木遺跡で22点、鶺山遺跡9点などの類例があり、早期前半に見られる磨石のひとつの形態として注目される。また、完形は5点のみで、大半が欠失している。その点においては鴻ノ木遺跡などの様相と類似する。

台石 2点出土した。いずれも扁平な斑レイ岩を素材としている。これら製品の他に、明瞭な磨痕跡をもたないものの、法量が近く扁平な斑レイ岩が幾つも出土した。その中には台石の素材となるものも含まれていたであろう。

(2) 石器の組成

全173点に対する各器種の割合を第VI-11図に示した³²⁾。高い割合を示すのは楔形石器22.0% (38点)、次いで石鏃21.4% (37点)、削器12.7% (22点)、磨石12.1% (21点) となる。楔形石器が石鏃とともに高い割合を示すことは一つの特徴と言えよう。機能別にみても、狩猟具の石鏃の割合は21.4%、加工具の削器の割合は12.7%、そして堅果類加工具の磨石類(磨石21点のほか敲石4点、石皿3点、台石2点含む)は17.3%である。このことから、狩猟や堅

果類などの植物採集のいずれかに偏ることはなく、多様な生業活動であったことが考えられる。完新世初頭の気候の温暖化に伴い、堅果類採取の割合も高くなってきたことを示そう。この生業活動の多様性は、同時代遺跡である鴻ノ木遺跡や鶺山遺跡の様相と近い。

(3) 石材と石材調達

剥片石器と礫石器では石材利用や調達方法が異なる。まず、剥片石器132点の石材は楔形石器1点および、石鏃未製品1点がチャート製³³⁾で、その他130点はサヌカイト製である。また、報告者の肉眼観察による限り、サヌカイトは石鏃1点が金山産で、その他は全て二上山産である。多気地から直線距離にしておよそ西北西に56km離れた二上山から調達したサヌカイトを使用し、地元のチャートはほとんど使用していないことになる。また、本遺跡においては剥片・砕片が多く認められ石鏃未製品や石核もあることから、サヌカイトを素材とする石器製作が行われていたことは疑いない。他遺跡の石器石材の様相をみると、大鼻遺跡では、石鏃など小型品の大部分には遠隔地のサヌカイトを使用し、相対的に大型品のスクレーパーなどには地元のチャートを使用している。また、鴻ノ木遺跡では、剥片石器に使用するチャートの割合が本遺跡の割合より高く様相を異にする。

次に、礫石器の石材および石材調達は其の全てを遺跡周辺で採取可能な自然石を使用していることがわかった。礫核石器や礫素材の削器および楔形石器は全て斑レイ岩を素材とする。また、磨石は大半を占める砂岩の他、一部に花崗岩や斑レイ岩を石材に選び、敲石は緑泥片岩や花崗岩、斑レイ岩を使用する。また石皿や台石は全て斑レイ岩を使用する。いずれも遺跡周辺で採取可能な石材である³⁴⁾が、磨石の中でも石鱗形磨石に使用された砂岩は全て肌理が細かなものであり、厳選していることが窺える。この石材厳選のあり様は、鴻ノ木遺跡と同様である。

(4) 石器の所属時期

押型文土器前半期の他遺跡との比較検討を行ったが、石鏃や磨石など押型文前半期に見られる特徴的な形態のものが存在することなど、類する点が幾つか見られた。最も古いものは、石鏃の五角形鏃や魚

形鎌で大鼻式～大川式期にあたる。また同時期に盛行する石鹼形磨石も多くみられた。五角形鎌や石鹼形磨石は、それぞれの器種形態に対する割合が高く主体的であると言える。そのことから、所属時期の中心は当該期の可能性が高いと言えよう。さらに草創期まで遡る可能性を考えると、有茎尖頭器や長脚鎌が伴わないことや、椀ノ湖遺跡に見られる石器形態³⁵⁾や矢柄研磨器などを含む石器群の様相とは異なることなどから草創期まで遡ることは考えにくいだろう³⁶⁾。また大川式新段階から神宮寺式期頃にみられる特殊磨石が1点も含まれないことを一つの要因とすると、所属時期の中心は当該期まで下らない可能性がある。ただし、五角形鎌や尖頭器が組成する時期の下限は概ね神宮寺式期とされることから、所属時期は下っても神宮寺式期までと捉えることができよう。

(5) 石製品

県内遺跡における石製品で、縄文時代早期前半の垂飾は今のところ確認されていない。縄文時代の石製垂飾(垂飾として不確定なものを除く)を概観すると、四日市市小牧南遺跡で中期後半の滑石製のものや、松阪市山添遺跡では前期後半で蛇紋岩製の小型磨製石斧の転用と思われるもの、度会郡度会町の森添遺跡で後期後葉～晩期初頭の頁岩製のものや、鳥羽市贄遺跡で後・晩期の蛇紋岩製のものなど、総数12点が確認されている。型式類例の乏しい垂飾の時期判断は難しいが、早期前半の押型文土器を中心とする遺物に含まれることから、この垂飾も早期前半の可能性が高いと想定する。しかし異なる時期の可能性も否定できないのが現状である。今後、さらなる類例の増加に期待したい。(中村法道)

3 総括

ここまで、多気北畠氏39次の出土遺物を中心に検討を進めてきた。それらを踏まえ、多気北畠氏39次の発掘調査によりえた情報を整理し、以下に列記して総括としたい。

- ①縄文土器については、縄文時代草創期最終末から早期後半までのほとんどのものが、SZ1から出土した。
- ②SZ1出土資料をI類からIX類に分類し、I類から

VI類の出土資料から当該期の土器の変遷を辿ることが可能となった。

- ③I類は撚糸文系土器期、II類は縄文系土器期、III類は大鼻式期、IV類は大川式期、V類は神宮寺式期、VI類は神並上層式期とし、既存の土器型式との対応を検討した。
- ④II類の出土資料について、器形、縄文施文、文様構成等を検討した結果、未抽出等であった大鼻式の直前型式として「多気北畠氏39次段階」を提示し、さらに当該階を古と新に分別をした。
- ⑤この段階設定については、周辺地域の出土資料との詳細な分析・比較検討には至っておらず、本遺跡と近隣遺跡との比較に終始している。そのため、別の機会にあらためて、型式設定の可能性等を含め様々な観点から論じてみたい。
- ⑥I類の撚糸文系土器については、所属時期や「多気北畠氏39次段階」と大鼻式の関連性について、周辺地域(汎日本的)との詳細な比較検討が必要といえる。
- ⑦III類からVI類の土器群についても、周辺地域とのより詳細な比較検討が必要といえる。
- ⑧以上のことから、多気北畠氏39次の出土土器群は、当該期の指標となりうる一群といえよう。
- ⑨また、多気北畠氏39次の出土石器・石製品群についても、当該期の指標となりうる一群といえよう。
- ⑩今回の発掘調査により、当該地域の歴史を紐解く貴重な新情報を得ることができた。

(小濱 学)

註

- 1) 坂下町教育委員会 1974 『椈の湖遺跡調査報告書 岐阜県恵那郡坂下町』において、椈の湖Ⅱ式として把握がなされたものを指す。
- 2) アムプロモーション 2008 『総覧 縄文土器』に添付の土器編年表には、多縄文系土器の次段階に「尖底回転縄文土器」の表記がみられる。この段階に属するかどうかは別にして、現状としての認識を述べた。
- 3) 山田猛氏、矢野健一氏の先行研究によるものが大きい。以下の文献において、一連の研究が詳細に述べられている。
山田猛 2023 「近畿・中部地方における前半期の押型土器」『平等と定住の縄文社会』同成社
矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社
- 4) 大鼻式期の土器が出土する遺跡で、少量の出土があることが多く、その時期や併行関係が明らかになっていない現状といえる。註3)の矢野文献に述べられている。
- 5) これまでの一連の研究について以下の文献に収められている。
矢野健一 2016 『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社
- 6) 以下の文献にて述べられており、首肯できよう。
矢野健一 1999 「出土土器に関する考察」『粟津湖底遺跡自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ)』滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会
- 7) 註4)と同じ。
- 8) 註4)と同じ。
- 9) 矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社 において指摘されている。
- 10) 矢野健一氏をはじめ、同様の認識を持たれているのではないだろうか。
- 11) 以下の文献に詳細が述べられている。
矢野健一 2016 「第2部 第3章 前半期押型土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社
- 12) 以下の文献に詳細が述べられている。この文献より後年に、研究を深化させているが、本報告ではこの文献を基にして考察をしている。
山田 猛 1988 「押型土器の型式学的再検討-三重県下の前半期を中心として」『三重県史研究4』三重県
- 13) 註9)と同じ。
- 14) 多気北畠氏39次におけるⅢ類の分類の状況による。また、註7)の矢野文献でも同様のことが指摘されている。
- 15) 多気北畠氏39次におけるⅡ類やⅢ類の観察による。また、註7)の矢野文献でも同様のことが指摘されている。

- 16) 註9)の文献において矢野氏も指摘しており、口唇部や口縁部外面に縄文が施されるとともに、枝回転文と市松文が施されたものの差で時期差と捉えたことは、首肯できよう。
- 17) 註9)文献の編年を支持する。多気北畠氏39次出土資料の状況からもその変遷で把握ができる。
- 18) 註9)文献において、一連の研究とあわせて指摘されている。
- 19) 註9)文献において、一連の研究とあわせて指摘されている。
- 20) 註9)文献において、一連の研究とあわせて詳細に述べられている。
- 21) 註9)文献において、一連の研究とあわせて詳細に述べられている。
- 22) 大鼻式期以降の縄文時代早期前半期の押型文系土器の詳細な分析が以下の文献でなされている。
奈良県立橿原考古学研究所 2006 『鶴山遺跡：縄文時代早期遺跡の発掘調査報告』
- 23) 近畿地方押型土器前半期における横位密接施文の展開と地域差についての詳細な分析が以下の文献でなされている。
奈良県立橿原考古学研究所 2002 『桐山和田遺跡』
- 24) 三重県埋蔵文化財センター 1994 『大鼻遺跡 一本文編一』
- 25) 坂倉遺跡の炉穴を含む遺構群や大鼻式期の押型土器について詳細な研究が以下の文献においてなされている。
山田 猛 2022 『坂倉遺跡-縄文・弥生時代編-』研究紀要第26号 三重県埋蔵文化財センター
- 26) 註6) 文献と同じ。
- 27) 註6) 文献と同じ。
- 28) 註25)文献と同じ。
- 29) Ⅲで述べたとおりである。層位により出土遺物の時期差を捉えることができれば理想であるが、困難も伴う。
- 30) 三重県埋蔵文化財センター 1998 『鴻ノ木遺跡(下層編)』に拠る。
- 31) 註30)文献と同じ。
- 32) SZ1排土のものも含む。
- 33) チャート製の剥片を15点検出している。(図化はしていない)
- 34) 松田順一郎氏のご教授による。
- 35) 五角形鏃について、本遺跡では「魚」「ロケット」形を中心としているのに対して、椈ノ湖遺跡のものは「将棋駒」形であり、双方に形態的差異が大きいことから同時期のものとは考えにくい。
- 36) 関西縄文文化研究会三重例会2022にて田部剛士氏(鈴鹿市考古博物館)による石器所属時期についての要旨を参考にした。

引用・参考文献

坂下町教育委員会 1974『椀の湖遺跡調査報告書 岐阜県恵那郡坂下町』 *刊行当時

松阪市史編さん委員会 1978「大原堀遺跡」『松阪市史 第2巻 資料編 考古』

松阪市教育委員会 1980『射原垣内遺跡発掘調査概報』

富士宮市教育委員会 1983『若宮遺跡 西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2』

三重県埋蔵文化財センター 1994『大鼻遺跡 -本文編-』

飯南町史編さん委員会 1984「足ヶ瀬遺跡」『飯南町史』

山田 猛 1988「押型文土器の型式学的再検討-三重県下の前半期を中心として」『三重県史研究4』三重県

山添村教育委員会 1989『奈良県山辺郡山添村 大川遺跡 縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター 1990『西出遺跡・井之広遺跡』

立教学院三の原遺跡調査団 1991『静岡県伊東市 三の原遺跡』

三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1992「Ⅷ 勝地大坪遺跡・勝地大坪古墳群」『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊』

二上山博物館 1992『よみがえる二上山の3つの石』

松澤 修「粟津遺跡の縄文早期の土器について」 1993『研究紀要2』三重県埋蔵文化財センター

矢野健一 1993「押型文土器の起源と変遷に関する新視点」『研究紀要2』三重県埋蔵文化財センター

山田 猛 1993「大鼻式・大川式の再検討」『研究紀要2』三重県埋蔵文化財センター

三重県埋蔵文化財センター 1993『多気遺跡群発掘調査報告』

三重県埋蔵文化財センター 1994『大鼻遺跡 -本文編-』

宮崎朝雄・金子直行 1995「回転文様系土器群の研究 -表裏縄文系・撚糸文系・室谷上層系・押型文系土器群の関係-」『日本考古学 第2号』 日本考古学協会

上松町教育委員会・木曾郡町村会 1995『お宮の森裏遺跡 一般国道19号上松バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター 1998『鴻ノ木遺跡 (下層編)』

縄文時代文化研究会 1999『縄文時代 10』

矢野健一 1999「出土土器に関する考察」『粟津湖底遺跡自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ)』滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会)

滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会 1999『粟津湖底遺跡自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ)』

三重県埋蔵文化財センター 2002『研究紀要 第11号 -特集 三重の縄文時代-』

奈良県立橿原考古学研究所 2002『桐山和田遺跡』

三重県 2005『三重県史 資料編 考古1』

奈良県教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所 2006『鶴山遺跡 -縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書』

原田昌幸 2008「撚糸文系土器」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

宮崎朝雄 2008「尖底回転縄文土器(室谷上層系・表裏縄文系土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

谷口康浩 2008「多縄文系土器」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

矢野健一 2008「押型文系土器(大川式・神宮寺式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

中島 宏 2008「押型文系土器(沢式・樋沢式・細久保式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

兵頭 勲 2008「押型文系土器(黄島式土器)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

矢野健一 2008「押型文系土器(高山寺式・穂谷式)」『総覧 縄文土器』 アムプロモーション

津市教育委員会 2009『史跡多気北畠氏城館跡保存管理計画』

三重県埋蔵文化財センター 2014『野添大辻遺跡(第1次)発掘調査報告』

岡田憲一 2014「大鼻式成立覚書」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題 発表要旨集・研究論文集』 東海縄文研究会

守屋豊人 2014「大川式土器に見られる主要類型の展開とその理解」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題 発表要旨集・研究論文集』 東海縄文研究会

村上 昇 2014「愛知県を中心とする草創期末から早期前葉にかけての土器編年」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』東海縄文研究会

山田猛 2014「大川式について」『第10回東海縄文研究会 研究会 東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』東海縄文研究会

関西縄文文化研究会 2015『第16回関西縄文文化研究会研究集会 縄文研究と美術・縄文時代の装身具 発表要旨・資料集』

矢野健一 2016「第2部 第3章 前半期押型文土器の編年」『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

岡本東三 2017『縄紋時代早期 押型紋土器広域編年研究』 雄山閣

三重県埋蔵文化財センター 2021『小牧南遺跡(第2・3次)発掘調査報告 本文編』

山田 猛 2022『坂倉遺跡 -縄文・弥生時代編-』 三重県埋蔵文化財センター

中村法道 2022「I 多気北畠氏遺跡第39次調査の概要」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

小濱学 2022「II 多気北畠氏遺跡第39次調査の縄文土器」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

田部剛士 2022「III 大鼻式前後の石器群」『関西縄文研究会三重県例会2022資料』

縄文時代文化研究会 2023『縄文時代 34』

山田猛 2023『平等と定住の縄文社会』同成社



1区調査前状況（南から）



1区調査前状況（北から）

写真図版 2



2・3区調査前状況（南から）



2・3区調査前状況（北から）



1区調査区全景（北から）



1区調査区中央全景（南から）

写真図版 4



1区調査区南全景（北から）



2・3区調査区北全景（南から）



2・3区調査区南全景（北から）



SZ1全体（南から）

写真図版 6



SZ1掘削状況（北から）



SZ1掘削状況（南から）



1外



1内



13



2外



2内



14



3外



3内



17



4外



4内



19



5外



5内



21

出土遺物 1

写真図版 8



6外



6内



23



7外



7内



26



38



39



31



42



44



41



47



48



45



51



54



49

出土遺物 2



64外



64内



79



80



66外



66内



81



67外



67内



82



85



68外



68内



92



69外



69内



95



70外



70内



96

写真図版10



71外



71内



98



73外



73内



74外



74内



101



76外



76内



102



78外



78内



104



106



107



112



113



116



117

出土遺物 4



119



125



128



129



132外



132内



133外



133内



134外



134内



135外



135内



136外



136内



137外



137内

出土遺物 5



138外



138内



139外



139内



140外



140内



141外



141内



144外



144内



146外



146内



148外



148内



151



153



155



156



157



158



161



163



164



167



172



173



174



175



176

出土遺物 7

写真図版14



178



179



180



183



184



187



188



189



195



198



202



203



210



213



217



218



226



228

出土遺物 8



237



245外



245内



242



248



249



251



252



253



254



256



257



259



261



264



265



266



269

写真図版16



271



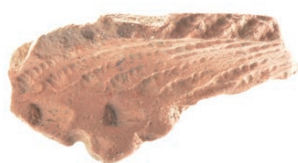
272



276



278



279



280



285外



285内



286



288



292



295



297



309



310



316



318



319

出土遺物10



320



321



322



323



325



326



329



330



331



349



354



357



358



362



364



365



366



367

出土遺物11



370



371



375



380



384



385



386



387



388



389



400



405



409



411



412



413



416



420



423



426



427



429



444



452



456



460



470



472



475



476



480



448



488



498



501



506

出土遺物13



507



509



516



518外



518内



519



524



526



527



530



531



532



533



535



536



537



538



542



543



544



545



546



547



548



549



550



551



552



553



554



555



556



557



558



559



560



561



562



563



564



565



566



567



568



569



573



577



582



583



584

出土遺物15



585



586



587



588



589



590



591



592



593



594



595



596



597



598



599



600



601



602



603



604



606



607



608

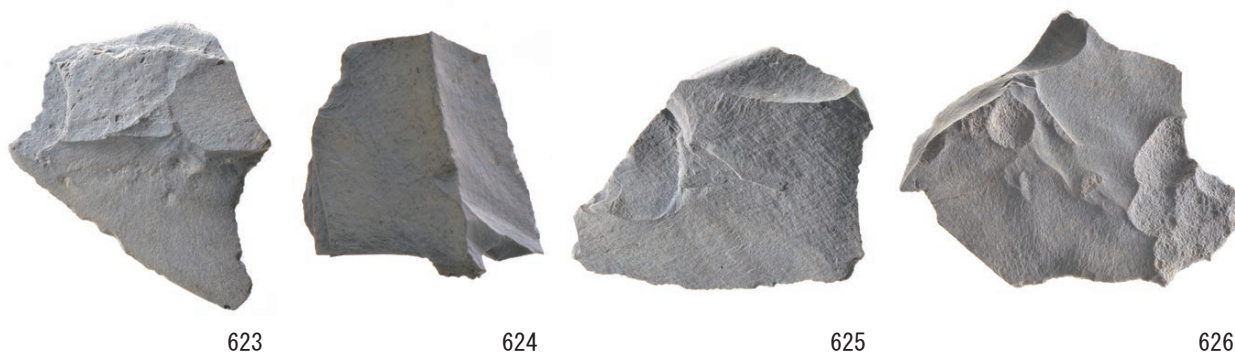


609



610

出土遺物17





635



636



637



638



639



640



641



642



643



644



645



646



647



648



649



650



651



652



653



654

出土遺物19



655



656



657



658



659



660



661



662



663



664



665



666



667



668



669



670



672



673



674



675



676



677



678



679



680



681



683



684



682



685

出土遺物21

写真図版28



686



687



688



689



691



692



693



696



697



698



699



700



701



702



705

出土遺物22



706



707



708



709



710



711



712



713



714



715



716 表面



716 裏面

出土遺物23

草創期

(縄文系土器期)



「多気北畠氏 39 次段階・古」

(撚糸文系土器期)



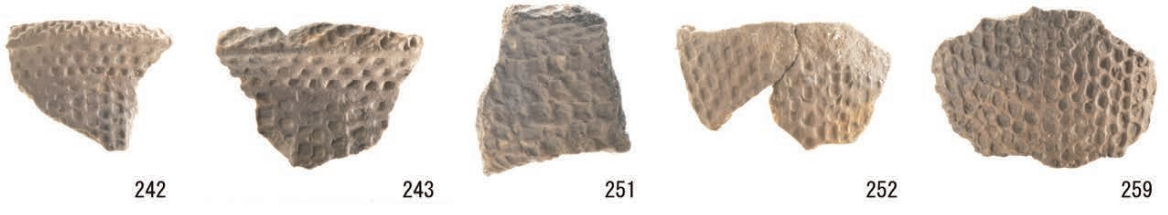
「多気北畠氏 39 次段階・新」

(押型文系土器期)

早期



大鼻式古段階



大鼻式新段階

※縮尺不同

第VI-8図 多気北畠氏39次出土土器の変遷(案)1



大川式古段階



大川式新段階



神宮寺式古段階



神宮寺式新段階



神並上層式期

※縮尺不同

第VI-9図 多気北畠氏39次出土土器の変遷(案)2

報告書抄録

ふりがな	たげきたばけしいせき(だいさんじゅうきゅうじ)おたちく(だいろくじ)はつくつちょうさほうこく							
書名	多気北畠氏遺跡(第39次)小田地区(第6次)発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	421							
編著者名	小濱 学・中村法道							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596 (52) 1732							
発行年月日	2024(令和6)年3月21日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たげきたばけしいせき 多気北畠氏遺跡 (第39次) おたちく(だいじ) 小田地区(第6次)	つしみさぎちょう 津市美杉町 しもたげ 下多気	24207	691	34度 31分 41秒	136度 18分 21秒	20210426～ 20210825	712㎡	通常砂防事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
多気北畠氏遺跡 (第39次) 小田地区(第6次)	遺跡	縄文 中世 近世	落ち込み	縄文土器(縄文系土器、撚糸文系土器、押型文系土器)、土師器類、瓦器類、陶器類、石器等				
要 約	遺跡は、津市美杉町下多気の小田地区内にある。遺跡内を八手俣川の支流が横断するように東流する。調査対象地は遺跡の北端部にあたり、標高約310～325mの谷及び山裾部に立地している。現況は山林及び荒蕪地となっている。令和3年度通常砂防事業に伴い、砂防堰堤に至るまでの工事用道路及び管理用道路となる部分で、発掘調査を実施した。調査対象地内において、調査区を上から3区、2区、1区とし、現地での調査を進めた。							
	発掘調査により、2・3区において、谷の侵食あるいは崩落によるものと思われる落ち込みSZ1を確認した。SZ1からは、縄文時代草創期末から早期にかけてが中心となる縄文土器群(縄文系土器、撚糸文系土器、押型文系土器)や石器群(石製品を含む)が多量に出土した。縄文土器の中には、大鼻式期前後の変遷を辿れると考えられる一群が存在しており、大鼻式直前段階について「多気北畠氏39次段階」を新たに提示した。当該期の土器編年や地域の歴史を考えるうえで一定の成果を得ることができた。1区では、後世の攪乱を広範囲に受けており、明確な遺構を確認することはできなかったものの、中世から近世にかけての土師器類や陶磁器片等が少量出土した。多気における北畠氏が活動していた時期に関連する遺構等については、今回の調査区内では確認に至らなかった。							

三重県埋蔵文化財調査報告 4 2 1

多気北畠氏遺跡(第39次) 小田地区(第6次)発掘調査報告 ～三重県津市美杉町下多気～

2024(令和6)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 共立印刷株式会社

